

役ニ創ヲ被リ、戰場ニ出ルコトヲ得サルヲ以テ、始終本營ニ詰メ居タリ、

問、西郷鐵彦ト云者アリ、隆盛ノナニ、アタルヤ、

答三人、是ハ親族ニアラス、全く別人ナリ、

問、最初兵ヲ編ム時、私學校徒ニアラサルモノハ入レサルカ、

答野村、然リ、大カタ私學校徒ナリ、

問、初メ兵ヲ聚メタル時、十五歳ヨリ六十歳迄ニ限りタルヤ、

答野村、然ラス、年配ノ限りハナカリシ、宮崎ニテ募リシ時ハアリシ由、

問、初出軍ノ時五日ニシテ大坂ヲ陥シ、五十二日ニシテ

東京ニ達スト云フコトアリヤ、

答野村、左様ノ言ヲ聞カス、

問、八代ナトニテ西郷カ宿札ヲ懸タルコトアリシヤ、

答三人、イツ方ニテモ、本營ト云札ヲ出シタルノミナリ、出張本營諸方ニアルヲ以テ大本營ト唱ヘリ、

問、西郷熊本ニ入ルタル都合如何、

答大野、川尻ニハ一泊モセス、直ニ熊本ノ向町長六橋ノ西屯所ノ前リナニ休息シ、夜ニナリテ仮橋長六ノ下流ヲ渡リ春日ニ着シタ

リ、春日ニ一週間計リ居リテ、二本木ニ移ル、二本木ニ行クノ後ハ復タ春日ニ来ラス大野ハ押佐ヨリ選ハレ、西郷カ營ニ居タル者ナリ、

問、西郷八代継宮ニ暫時休憩シ、夫ヨリ春日ニ到ルニアラサヤ、

答大野、其事ハ知ラス、

問、西郷二本木ニ在ル時、攻城ノ周圍及ヒ田原坂等ノ戰場ヲ巡見アリシヤ、

答大野、其事ナシ、始終斥候ヲ四方ニ出シタルノミナリ、

問、川尻ニテ官軍ノ斥候ト出逢フタル時、イツ方ヨリ始めニ発砲セシヤ、

答鮫島、官軍一中隊計リ来リテ、発砲シテ逃ケ去リタリ、味方二人死傷アリ、直ニ追駆ケ伍長以下六七名生捕リタリ、発砲ハセサリシナリ、

問、鹿児島ヲ発スル人数一万五千人トアリ、而シテ熊本

ヲ攻ルハ五千人トアリ、然ラハ一万ノ兵ハイツクニ居タリシヤ、

答三人、廣島台兵海上ヨリ来ルヲ聞キ、別府晋介十一小隊ヲ引テ百貫石ニ出張シ、其他高瀬口所々二分遣シタリ、

問、五大隊ノ長ハ何ノ方ヲ受持タリシヤ、

答三人、初ハ五大隊ノ長各自其隊ヲ率ヰタリシニ、攻城以後ハ互ニ単独ヲ応援ナドシテ彼是相交レリ、

問、西郷ハ陣中ニテ何事ヲナシ居タルヤ、

答大野、何ト定リタルコトナシ、時々新聞ナト観ルコトアリ、

問、詩歌・囲碁或ハ揮毫等ノ事ハナキヤ、

答大野、左様ノ事一切ナシ、三人、囲碁ヲナシタルコト平生モ聞及ハス、

問、新聞ハ何方ヨリ来リシヤ、

答大野、熊本在陣ノ時ハ、大坂新聞等始終来リシナリ、但其来ル道筋ハ之ヲ知ラス、僕等モ之ヲ見タリ、

野村、日向ニ居リシ時ハ商船持来レリ、

問、西郷ハ容易ニ人ニ逢ハスト云フハ実ナリヤ、

答大野、然ラス、誰ニデモ逢ヒタリ、

問、西郷陣中ニ如何ナル服ヲ着シ居タルヤ、

答三人、熊本陣中ハ昼夜戎服ニテアリシ、

問、西郷ハ一度モ戦ニ臨ミタルコトナキヤ、

答三人、度々自ラ出ントセシコトハアリタレトモ、皆之ヲ留メタリ、

問、御船(みふね)ノ戦ニモ出テサリシヤ、

答三人、然リ、且熊本ヨリ矢部ニ引キテ三舟(みふね)ニ行キタルコトナシ、

問、篠原力攻ノ策ハ何日頃ナリヤ、

答三人、二日攻テ明ル晚即チ二十四日ノ夜ナリ、

問、池邊吉十郎(熊本隊大隊長)・永田何某ヲ本營ニ遣シ、力攻ノ策ヲ立

タリト聞ク、尤本人口供ニハ此事ナシ、却テ神風党ノ力攻ノコトニ同意セサルコトアリト云フ、イカ、聞及ヒ居ルヤ、

答野村、池部カ誰カ力攻ノ事ヲ勸メタル者アリタリト

聞ク、神風党云々ハ聞カス、

問、篠原戦死ノ状ハ如何、

答三人、兵ノ進マサルユヘ抜刀シテ真先ニ出、丸ニ中リ即死セリ、

問、熊本ニテ城兵ノ死屍ヲ解剖シ、城中ハ何ヲ食フヤヲ

験シタリト云フハ実ナリヤ、

答三人、左様ノ事ナシ、

問、味方ノ死体ヲ、医学ノ為メニ解剖セシメタルコトアリシヤ、

答三人、其事亦ナシ、

問、田原坂ニテ官軍討死ノ屍ヲ重ネ、壘トナシタルト云

ヒ、又味方ノ死屍ヲ重ネ壘トシタルト云フコトアリ、
実ナリヤ、

答三人、其事ナシ、

問、戦死ヲ埋メテ、他人ノ墓石ヲ取テ之ニ立ルコトアリ
ヤ、

答三人、其事ナシ、

問、桐野山鹿ヲ引揚ケタルハ何日頃ナリヤ、

答野村、四日ニ篠原戦死シタル後ナリ、

問、桐野山鹿ヲ引揚ケタル後ハ、誰カ之ヲ総ヘタルヤ、

答野村、中隊長ニテ共同ニ持テタルナリ、其後野村ハ
(とりあ)
鳥栖ヨリ隈府迄受持居タリ、

問、鳥栖ハ広漠ノ地ナリ、守ルニ便ナリシヤ、

答野村、守ルニ不便ノ地ニシテ頗ル苦心セリ、

問、西郷熊本ヲ去ルハイツ頃ナリシヤ、

答大野、十三日ノ夜ノ十二時比ナリ、味甘村ノ方ニ方
リ、火ノ手揚ルユヘ斥候ヲ出ス、斥候帰リテ直ニ出発
ス、従兵ハ一中隊位、池ノ上・村田等同行ナリ、桐野
ハ跡ニ残ル、味甘村敗レタル時西郷曰、各々隊ヲ引テ
一大快戦セヨ、予ハ此一隊ニテ能シト云フ、桐野之ヲ

留メタリ、

問、西郷熊本ヲ去ル時ハ駕子ニ乗リシヤ、

答大野、駕子ハ鉤(か)ラセテ歩行ニテアリシナリ、

問、西郷人吉ニ赴ク道筋ハ如何、

答大野、矢部ニハ足ヲ留メス、川ノ口村ニ二日滞リ、
(熊、上益城郡)

夫ヨリ(宮、東臼杵郡)胡麻山ヲ越ヘ(熊、球磨郡)江代ニ出テ人吉ニ赴ケリ、

問、西郷人吉ニテ老農ノ犬ヲ借り兎鹿ヲ獵リ、獲物アレ

ハ毎ニ其老弱ニ肉ヲ分テリト云フハ実ナリヤ、

答三人、隊中十人計リモ連レテ時々兎ヲ狩リタリ、鹿

獵ハナシ、獵犬ハ(鹿、始良郡)加治木ヨリ取寄せタリ、老農ノ事ハ

聞カス、

問、西郷人吉ヲ去ルハ何日頃ナルヤ、

答大野、人吉ハ六月二日ニ陥ル、西郷ノ去ルハ一日前

即チ三十一日ノ夜十二時頃ナリ、而シテ宮崎ニ赴クニ

ハ湯尾(ユノオ)一泊、妻所(米良)一泊、村所(むらしよ)一泊、其間一泊名ヲ忘

レタリ、夫ヨリ佐土原旧城一泊シテ宮崎ニ赴キタリ、

問、鹿児島ノ敗レト云フハ、何ヲナシタル時ヲ指スカ、

答三人、川路ノ兵宮城シヒ山ヨリ旧城下ニ着ク時ヲ云
(釜尾)

フナリ、此時楯岡モ敗レタリ、

問、宮崎ニテ大快戦スヘキト云議アリタルヤ、

答野村、都ノ城敗ノ報アル時、廿五日ト覚ヘタリ、宮崎ニテ一大快戦スヘシト云議アリ、野村其時熊田ニ在リ、池上四郎ヨリ至急ニ来レトノ事ニ因リ夜通シニ参ルニ、池上曰、豊後ノ兵ヲ宮崎ニ会セヨト、野村曰、吾兵八十四五里ニ亘リ諸方ヲ守レリ、急ニ引揚クヘカラス、如カス、豊後ニ出テ美々津ヲ切り破ランニハト、池上同意ス、野村宮崎ニ行キ桐野ニ謀ル、桐野亦同意ス、因テ大快戦ハ休メ、宮崎ノ器械ヲ撤スル為メ二中隊ヲ出ス、其兵佐土原ニ到ル時宮崎敗レタリ、都ノ城敗ル、ヨリ六日目ト覚ヘタリ、

問、西郷宮崎ヲ去ルハ何日ナルヤ、

答三人、宮崎ノ敗ル、前日ナリ、宮崎ヲ去リ佐土原一泊、高鍋一泊、而シテ延岡ニ抵ル高鍋ヨリ延岡ハ十五里也、(呂、児湯郡)一日ニハアラサルヘ)

問、延岡ニテ死ヲ決シタル議アリヤ、

答野村、之ヲ聞カス、

問、西郷長井村ニテ布達シテ曰、諸子予ニ従フ已ニ半歳、

今日ニ到リ猶一層勉強セヨ云々ノ事アリシヤ、

答野村、夫ハ延岡ニ居ル時ノ事也、尤布達ニアラス、各

隊長ニ書面ニテ申来ルナリ、野村ハ其時美々津川ニアル時其手紙来レリト覚ヘリ、

問、西郷延岡ヲ去ルハ何日頃ナルヤ、

答三人、延岡敗ル、三日前ナリ、夫ヨリ熊田ニ移ル、(宮、奥白杵郡北川町)

熊田ニ三日滞留、夫ヨリ長井村ニ移ル、長井ニ居ルコ

ト四日ナリ熊田ハ長井ノ間、二里計ナリナリ、延岡打出ニ因リ野村豊後ノ兵

モ引揚ケタリ、夫ユヘ余程後レタリ、

問、可愛岳切抜ケノ時、オノ・マサカリヲ持チ、荆棒ヲ

斬リ啓キタルト云フハ実ナリヤ、

答三人、左様ノ物ナシ、銘ノ刀ヲ以テ斬掃ヒテ行キタ

リ、工兵モ其以前少ミハアリタレトモ、可愛岳ノ時ハ

ナキナリ、

問、可愛岳脱出ノ時兵ノ前後ハ如何、

答三人、可愛岳ヲ踰ヘ祝子川ニ到リ(はふり)人家少、人数ノキマ

リヲ附タリ、桐野先軍ヲ引テ行ク、河野列之ニ次ク、

西郷中軍ヲ引ク、中島・貴島等之ニ従フ、後軍ハ高城七

之丞等ナリ、七ツ山ヲ経御門ニテ戦ヒシ後、中軍ヲ先

軍トシ、先軍ヲ中軍トス、村所ニ出タル時又中軍ヲ先

軍トナシ、先軍ヲ後軍トナス、

問、西郷菊次郎降ルノ状ハ如何、

答三人、菊次郎ハ兵士ニテ出張、高瀬ノ役割ヲ被リタ

リ、長井出発ノ時僕永田熊吉附添ヒ、谷川ノ丸木橋ヲ

渡ル時橋下ニ墮チタリ、熊吉之ヲ負ヒ谷ヲ下リ長井ニ
歸リ、トテモ敵中ヲ通り過ルコトヲ得サルヲ凶リ、共
ニ出テ降レリ、菊次郎其時十七歳計ナリ、

問、四月六日桐野援兵ヲ西郷ニ乞フ、西郷冠ヲフリ云々、
ハアリシコトヤ、

答、聞カス、

問、西郷愛妾お杉ナルモノヲ延岡ニ招キ暇ヲ出セシトア
リヤ、

答、決テ之ナキコトナリ、

問、諸隊長ノ打扮ハ如何、

答、皆思ヒ々ナリ、然レトモ大概洋服仕立ナリ、

問、西郷酒ヲ飲ミシヤ、

答、一向用ヘス、

懲役人質問 第四

明治十三年四月廿六日、岡谷繁實・木下眞弘市ケ谷監
獄署内ニ於テ、懲役人野村忍介・鮫島敬助・大野義行
ヘ尋問ノ条々、

問、西郷隆盛鹿兒島ヲ斃シ熊本ニ至ルノ日程ハ如何、

答三人、二月十七日鹿兒島発足、加治木泊、十八日横川
泊、十九日吉田泊(宮、えびの市 横川ヨリ人吉、街道ニ入ル)、廿日人吉泊、廿一日未明

ニ人吉出發、船ニ乘リ玖磨川下リ八代着、夜半出發、
廿二日午時頃熊本ニ着ス、其時大砲隊モ一所ニ玖磨川

ヲ下リ、熊本ニ來レリ、但自分等ハ加治木・横川・大
口・佐敷ヲ経テ八代ニ出テ、同行ハ致サ、リシ、

問、三太郎越ナトニテハ大雪ニ逢タルニアラスヤ、

答三人、十五日頃ヨリ三日ノ間雪降続キ、山中ハ三尺

計リニ及ヒ、土人云フ、六十年以來此ノ如キ大雪ナシ
ト、自分等大口ヨリ水俣ニ踰ル時尤モ甚タシ、

問、隆盛熊本ヨリ人吉ニ到ルノ日程ハ如何、

答大野、隆盛二本木ヲ引揚ケ、十四日川原泊、十五日
(鹿、上益城郡)川ノ口村泊、十六日胡麻山泊、十七日桑弓野泊、十八

日風雨ニテ山ヲ踰ユル能ハス、又此処ニ泊ス、十九日
江代泊、二十日江代ヲ發シ、(鹿、球磨郡)岩野ヨリ川船ニ乘リ玖磨

川ヲ下リ人吉ニ着ス、

問、一タヒ途中マテ出テ風雨ニ逢ヒ引返シタルニアラス
ヤ、

答大野、然ラス、風雨ノ故ニ出發セス、

問、人吉ヲ去リ宮崎ニ至ルノ日程ハ如何、

答大野、五月三十一日人吉ヲ去リ湯ノ尾泊、湯尾ハ黒(鹿球磨那須重町)

肥地ト川ヲ隔テタル処ナリ、六月一日米良ト人吉ノ塚(球磨郡前町)

ナル猪鹿倉山(鹿球磨郡)ハノ陰ヲ踰ヘ妻所泊、二日米良ノ内村所(宮、児湯郡)

泊、三日小川泊、四日尾泊泊、五日宮崎着ナリ、(児湯郡)

問、宮崎ヲ去リ延岡ニ抵ルノ日程ハ如何、

答三人、七月二十九日宮崎出發佐土原泊、三十日同上、

三十一日高鍋泊、八月一日美々津泊、二日延岡ニ着ス、

此処二十日計リ滞陣、熊田ニ至リ、十一日ヨリ十三日

マテ此ニ居リ、十四日長井へ移ル、

問、可愛岳ヨリ鹿兒島ニ到ルノ日程ハ如何、

答三人、八月十六日ノ夜打出タレトモ又引返シ、十七

日夕方ヨリ夜ニ乗シ可愛岳ヲ切抜ケ、十八日山中ニ露

臥ス、十九日官兵ノ狙撃ニ遇フ、又山中ニ宿ス、二十日

朝祝子川ニ出鹿川村ニ泊、夜半出發、二十一日岩戸ヲ

踰(宮、西臼杵郡)夕方、廿二日ノ朝三田井ニ出ツ、午時頃三田井ヲ発

シ、夜嶮山ヲ踰ヘ廿三日曉方七ツ山ノ人家ニ到ル(終夜泊、東臼杵郡諸塚町)

神門ニ出テ午時頃ヨリ夕方迄戦フ、午後四時頃鬼神野(まじり)

ニ至リ、廿四日未明ヨリ鬼神野ヲ發シ、上渡川ヲ涉リ(南郷村)

銀鏡谷ニ泊(旧米良城、下ナリ)、二十五日妻所ニ泊、廿六日槻木ヲ

踰ヘ露臥、廿七日須木泊、廿八日馬関田泊、廿九日曉(鬼湯郡)

(宮、西諸原郡) (えひの市真幸旧名)

栗野ヲ通り横川ニ出、官軍ニ支エラレ転シテ踰ニ赴ク、(始良郡)

三十日踊ニ泊ス、三十一日溝部・山田ヲ經蒲生泊、九(始良郡)

月一日鹿兒島ニ入ル(此条再問、)

問、廿九日横川ニ出テ三十日踊ニ泊ス、廿九日ノ夜ハ如

何、

答三人、踊ニ出ル前夜ハ、夜通シニテアリタルト覚フ、

凡此行、夜ハ三時間モ休ミ直ニ出發シ、大抵昼夜ノ差

別ナキ程ナリ、

問、今聞ク所ハ河野主一郎申出ト日数合ハサル所アリ、

其時軍三ツニ分レ徑行シタルユヘ、或ハ日数ノ違ヒア

リタルカ、

答三人、然ラス、前中後ノ三ツニ分レタリト雖、日数

ハ同シコトナリ、大抵前軍出發スル頃中軍其所ニ着シ、

又中軍出發スル頃後軍其所ニ着スル位ノコトナリ、

問、河野申出ニ、長井ニテ一旦打出テ引返シタルヲ十七

日トシ、可愛岳ニ上リタルヲ十八日トス如何、

答三人、一旦打出テタルハ十六日ノ夜ナリ、十七日ハ

未明ニ延岡ノ方ニ打出ントシテ果サス、其夕方ヨリ可

愛岳ニ打出タルナリ、

問、同書ニ可愛岳ニテハ貴島清・相良五左衛門先鋒トア(振武隊監軍)

り、野村列申出ニハ桐野先鋒トアリ、異同如何、

答野村、桐野ハ先鋒ノ長ナリ、其時貴島・相良等従前ノ隊長ハ、皆兵トナリ押伍トナリテ、各隊ヲ率キタルニアラス、

問、其時邊見太郎(七)ハ如何、

答三人、邊見ハ一番高キ所ヨリ下リ撃ニ駆込ミタリ、其時中央左右ノ三方ニ分チ、左右ノ兵ヲ以テ尾撃ヲ防カシメ、夜ニ入ル迄一所ニ居ラシメ、中軍ヲ以テ敵ヲ突キ通リタリ、

問、路ノ險ナルノ状ハ如何、

答三人、非常ノ險難ナリ、自分等生レテ始メテ如此險阻ヲ踰ヘタリ、鹿川ヲ踰タル時ナトハ、上リ三里計リノ山ヲ二ツ踰ヘテ岩戸ニ出タリ、

問、山中ノ食ハ如何、

答三人、尤モ困メリ、可愛岳ニ打出、其翌十八日ハ終日一食ナシ、水ヲ飲テ行ク、十九日祝子川ニテ牛ヲ屠リ之ヲ食フ、米少許ヲ得水ノ如キ粥ヲ喰ヒタリ、

問、如此時、隆盛ハ食ヲ喰タリヤ、

答三人、然ラス、総テ兵卒ト異ナラス、

問、隆盛ハ恒ニ「ヒストール」ヲ所持シタルニアラスヤ、

答三人、然ラス、自分等終ニ之ヲ見ス、弟小兵衛十六連ノ銃ヲ所持セリ、小兵衛死後隆盛之ヲ其従者ニ持タセタリ、

問、隆盛ハ二刀ヲ佩ヒ居タリシヤ、

答三人、否一刀ナリ、彼人頗ル刀ヲ愛スル癖アリ、此役常ニ佩ル所ハ関兼定ノ二尺許リナル大身ノ刀ナリ、蓋シ余程ノ利刀ニテ其身ノ愛スル所ナリ、聞ク、大阪陣ノ時敵ノ兜ヲ併セテ斬リタルモノナリト、其レ故ナルカ、鐔モ縁頭・小尻・目貫ニ到ル迄、皆鉄地ニ兜ノ形ヲ鑄ミタリ、尤目貫ハ宗珉ノ作ト云、

問、桐野ノ佩刀ハ如何、

答三人、桐野ハ両刀ヲ佩ヒ居タリ、大小共拵ハ頭ヨリ小尻迄総テ銀張りニシテ、金ヲ以テ筋ヲ入レタリ、身ハ何ノ作ト云コトヲ知ラス、

問、桐野ハ始メ出軍ノ時青竹ヲ截テ之ヲ握シ、此竹ノ未

タ色ヲ変セサル内ニ東京ニ達セント云タリヤ、

答三人、一切聞カサル所ナリ、

問、邊見ハ兵ヲ指揮スルニ、退ク者ハ之ヲ斬リタルト云フハ実ナリヤ、

答三人、斬リタルコトナシ、棍ヲ以テ毆チ居タリ、

問、隆盛最後ノ状ヲ本日報知新聞ニ、青野泉介シヤクトアリ如何報知新聞二千、百六十七号、

答三人、一切聞カサル所ナリ、三人共其場ニハ居ラサレトモ、左様ノ事ニテハナカリシナルヘシ、且青野某ト云者ハ其時居タルコトナシ、若其者居タルナラハ誰ソ之ヲ知ル筈ナルニ、一人モ之ヲ知ル者ナシ、実説ニアラス、

問、隆盛其時輻ニ乗り居タルト云フモノアリ、如何、

答大野、然ラス、徒ニテ隊ヲ引テ出タリ、自分其時親シク其下知ヲ受ケテ外ニ出ツ、三人彼ノ人兼テ何事モ兵士同様ニス、兵士跣足ノ時ハ自身モ跣足ニテ指揮スル程ノ人ナリ、草鞋ヲ穿テハ草鞋ヲ穿ツト云フ様ナル人ナリ、夫ニテ人心ハ帰セシナリ、

問、谷口登太ハ一ニ伊集院トアリ、一ニ小山田士族トアリ、孰レカ実ナルヤ、

答野村、小山村、小山田ノ者ナリ、但自分等兼テ知りタルモノニアラス、

問、隆盛帰国ノ時一同帰国シタル者ハ、之ト生死ヲ共ニセント相約シタルコトナルカ、

答野村、屹ト相約シタルコトニハアラサレトモ、暗ニ

其心ニテアリタルナリ、後私学校ノ規則ニケ条ヲ立シ時モ、別段誓約ト云フニハアラサリシ、
(旧細川藩主、藩軍備總監、中津大四郎屠腹ノ状ハ如何、)

問、

答野村、少シ高キ社ノ中ニテ自殺ス、是ハ十八日熊本隊ノ降参スル翌日午時頃ナリ、其隊モ散シ、遂ニ事成スヘカラサルヲ以テ死シタルナルヘシ、其時大四郎自分ノ所ニ来リ、辞世ノ歌三首ヲ出シ、西郷ヘ見セ呉レヨト託シタリ、歌ハ覚ヘス、

懲役人質問 第五

明治十三年五月十一日、岡谷繁實・木下眞弘市ヶ谷監獄署内ニ於テ、懲役人大野義行・田中市右衛門・安藤源之丞ハ質問条々、野村忍介ニ問ハント欲シタルニ、四五日前特旨ヲ以テ隆盛ニ從ヒ人吉ヲ經テ肥後ニ入ル者、放免サレタリ、安藤ハ寺山開墾ノ事ヲ詳知シ、田中ハナリ、故ニ今日ハ此兩人ヲ加ヘタリ、

問、吉野村寺山ノ地開墾シタルハ何程ナルヤ、

答安藤、吉野ノ地ハ平原ヨリ杉山ニツ、キ二三里四方ヨリ広シ、其開キタル所ハ四五十町ニテ、粟種子・野稻・琉球芋薩摩芋ノコト也ナトヲ殖シタリ、元ト是レ壮士輩筋骨ヲ鍊フ為メニ起シタルモノ、予家其地ニ近シ、故ニ

始終従事シタリ、

問、其時隆盛其乗馬ニ糞桶ヲ負ハシメ、自ラ牽テ日々其地ニ到リ、荊棘ヲ剪伐シ、諸穀ヲ樹芸シタルト云フハ実ナリヤ、

答安藤、隆盛ハ時々馬ヲ牽キ来レリ、大根ナト野菜ヲ負ハシメ、諸人ノ汁菜ナトニ致シタリ、糞桶ノ事ハ見及ハス、然トモ夫等ノ事モ厭フ人ニテハナカリシ、其開キタル所ハ平原ノミニテ、未タ杉山迄ハ手ノ及ハサリシナリ、隆盛カ其地ニ来ルハ衆ヲ誘フノ主意ニテ、自ラ鋏ヲ把テ一二時間モ事ヲナシタルハ、兩三度モアリタル位ノ事ナリ、

問、隆盛ノ妻ハイツクヨリ参リタルヤ、

答三人、岩山氏ノ妹ナリ、

問、川村トハ如何ナルツ、キナルヤ、

(補養)

答三人、隆盛ノ叔父椎原與右衛門ノ娘、川村ノ妻ナリ、

問、隆盛ノ書翰等ニ皆吉之助トアリ、軍中ニテモ通称ヲ

用ヒシヤ、

答三人、然リ、隆盛ト称スルコトハ一度モ聞キタルコトナシ、

問、出軍ノ前或人紙幣局建築ノ写真ヲ隆盛ニ贈リ、大久

保居宅ナリト云テ之ヲ激セシメタリト云フハ実ナリヤ、

答三人、聞キタルコトナシ、紙幣局ノ建築モ隆盛ハ能ク知り居タルコトナレハ、虚説ナルヘシ、

問、東京ノ挙動ヲ一々電信ヲ以テ隆盛ニ報スル者アリ、一信ノ価十五円ナルニ到ル故ヲ以テ、隆盛東京ノ事ヲ知ルコト響ノ如シト、時ニ未タ鹿兒島迄ハ電線如何シタルコトニヤ、

答三人、其事亦聞カス、凡ソノ事電信ヲ以テ大坂迄報スレハ、大坂ヨリ鹿兒島迄ハ急使ヲ以テ通知スルコトニテアリタリ、

問、隆盛出軍ノ時ハ、如何ナル衣服ニテアリシヤ、

答田中、官服ニテアリタリ、安藤官服ニアラス、下ハホヅンノコト、白ニ黒ノ筋アルモノ、上ハコトヲ云フマンテルノ黒色ノ羅紗ニ

紫ノ小キ筋ノ入りタルモノヲ始終着シタリ、暑ニ赴ヒテハ単物ヲ服シタリ、

問、初ハ合戦スルツモリニテハナカリシト云フモノアリ、然ルヤ否、

答三人、初ヨリ合戦ノ覚悟ニテアリタリ、皆々銃ヲ携ヘ弾薬ヲ附ケテ出テタルニ、銃器・弾薬ヲ重キトハ思ハサリシナリ、田中、隆盛ニ從ヒ吉田ニ到ル頃、熊本鎮

台兵川尻ニテ遮ルト云フノ風説ヲ聞キタリ、
問、隆盛出軍ノ時雪ニ逢タルヤ、

答田中、大雪ノ降りシハ十五日尤モ甚シ、隆盛十七日
出立ノ時ハ雪降りタリ、人吉ニ至リシ時ハ雪ハ消タリ、
問、人吉ヨリ川下リノ模様ハ如何、

答田中、朝人吉ニテ船ニ乗ル、船數二十五艘ノ手配ナ
リ、後ニハ船數ヲ増シタル趣キナリ、予ハ隆盛同船ニ
アラス、此川急流ニテ処々岩石アリ、船ノ先キニ薄板
ヲ以テ梶ヲ作り、之ヲ鼻梶ト唱へ、左右岩石ノ間其梶
ヲ軋シテ下ルナリ、時ニ山雪漸ク消へ、河水増シタル
時ニテ、船ノ下ル尤モ早シ、夕方八代ニ至ル、

問、八代ニ泊シタルヤ、

答田中、然ラス、八代ニ休息シ、其夜半前ニ出発、舟
ニ乗シ松橋ニ着、宇土ニ來ルハ夜明頃ナリ、八代ニテ
舟ヲ発スル時初テ熊本ノ火ヲ望ミ見タリ、

問、隆盛ハ陣中ニテ脚氣病ニ罹リタルト云フハ実ナリヤ、

答田中、然ラス、出軍後ハ病氣ハナカリシナリ、
問、桐野ハ酒ヲ飲ミタル時ハ泣ク癖アルト云フハ実ナリ

ヤ、

答三人、知ラス、

問、向坂ノ戦ニ官軍ノ旂隊旗ヲ持チ居タル士官討死シタ
ル後、土民其旗ヲ拾ヒ、十余日ニシテ薩人ノ手ニ入り
タルト云説アリ如何、

答三人、然ラス、其時一士官ノ旂隊旗ヲ樹テタルヲ見、
其ノ方ニ向ヒ劇シク砲発シ、遂ニ之ヲ奪ヒタリ、時ニ
已ニ夜ニ入りタル頃ナリ、村田三介其旗ノ端ニ、村田
三介戰場ニテ分捕シタル趣ヲ書キタルト聞ク、決シテ
土民ノ拾ヒタルニアラス、安藤其旗ヲ花岡山ノ麓ニ建
テ、城中ニ示ス、城兵頻リニ大砲ヲ打懸ケタリ、予十
四日迄コ、ニアリシニ、夫迄ハ立テ、アリタルナリ、
問、先日問フ所、可愛岳打出ヨリノ路程猶不明瞭ナル所
アリ、猶詳カニ之ヲ聞ント欲ス、

答大野、予モ先日ノ答少シク遺漏アリタルヲ覺フ、三
人、十七日ノ夜可愛岳ヲ切抜ケ、廿日祝子川ニ出テ鹿川
ニ到リ、其夜半鹿川ヲ発シ廿一日昼山裏ニ休ミ、夕方
岩戸ニ至ル、廿二日朝三田井ニ出テ、午過三田井ヲ発
シ、廿三日夜半七ツ山ノ人家ニ到ル、廿四日神門ニ出
タルハ朝八時頃ナリ、廿五日鬼神野ニ戦ヒ銀鏡谷ニ泊
ス、此夜ヨリ大風雨ナリ、廿六日妻所ニ泊、夜半出發、
廿七日上槻木・下槻木ヲ經テ須木ノ内小川ニ泊ル、此

処ノコト先日ノ答ニ脱シタリ、廿八日(宮、小林市)小林ニ泊、廿九

日(えびの市)吉田ニ泊(馬關田ニツ、キタル所ナリ)、夜半出発、未明栗野ヲ過キ、弘

曉横川ニ到ル、

問、妻所ト云フ地名ハ地誌ニ見当ラス如何、

答三人、猪鹿倉ノ山ヲ踰テ三里計リノ処ナリ、人家十軒計リノ小村ナリ、又二里計リニテ上槻木村ニ到ルナリ、猪鹿倉ハ米良ト人吉ノ界ナリ、

問、河野主一郎申出タル道程ト日数合ハス如何、

答三人、三田井ノ戦ニ前軍・中軍ハ遙ニ過キタルニ、後軍官兵ノ為ニ遮キラレ遠ク隔タリタルユヘ、後軍ニアル者ト前中軍ニアルモノト日程合ハサルナルヘシ、隆盛ハ恒ニ中軍ニ在リ、前条述ル所ハ中軍ヲ主トシ答フルナリ、

問、河野主一郎申出ニ、廿六日(宮、児湯郡西米良村)村所泊トアルハ如何、

答三人、中軍ハ村所ニハ泊セス、妻所ニ泊シタルナリ、村所ハ米良ノ旧城下ナリ、妻所ハ宮崎ニ踰ル時モ泊シタル処ナリ、

問、湯尾ト云フ地名モ見ヘス如何、

答三人、(熊、球磨郡)湯前ナリ、黒比地ト相並ヒ僅ニ一川ヲ隔ツ所ナリ、

問、人吉ニアル時、久光公人ヲ遣シ説諭アリタルト云フ

ハ実ナリヤ、

答三人、其事ナシ、

問、熊本城連絡ノ後淵邊・別府・邊見等久光公ニ説キタ

ルコトアリ、之ヲ隆盛ニ報ス、隆盛其然ルヘカラサルヲ戒メタリト云フ説アリ如何、

答三人、其事ハ聞カス、

問、得能何某淵邊等カ為ニ殺サレタルコトアリヤ、

答三人、然リ、小倉本彦カ兄得能源七ト云フ者ナリ、此者兼テ彈藥製造ノ事ニ長ス、時ニ官軍ニ通スルノ聞ヘアリテ殺シタルト聞及ヘリ、

問、小倉處平ナル者屠腹シタルト云フハ実ナリヤ、

答三人、実ナリ、是ハ長倉認カ弟ナリ、十八日可愛岳

脱出ノ日ニ屠腹シタリ、

問、田原坂ノ戦ニ、牛ヲ放テ官軍ニ向ハシメタリト云フ

モノアリ、実ナリヤ、

答三人、其事ナシ、田原坂決戦ハ距離甚タ近ク、左様

ノコトハ行フヘカラス、(熊、細野)三舟ニテ一夜官兵ヲ襲ヒ之ヲ破リタルコトアリ、幾ナラスシテ村中ノ馬放ル、官兵夜討ト思ヒ大ニ騒キタルコトアリ、牛ノコトハ之ヲ誤

リ伝ヘタルカト察セララル、

問、鹿兒島ニテ婦人相集リ、大久保・川路ノ旧宅ヲ毀テ

タルト云フハ実ナリヤ、誰人ノカ頭トナリシヤ、

答三人、其事ハアリタル由、然シ誰カ頭ト云フコトハ

ナカリシナリ、所々ニアリタル由、

問、婦人ノ軍ニ出タルコトアリヤ、

答安藤、鹿兒島ニテ勲散官兵坂本村集成館ニ來襲ス、

時ニ少女二人、一八十七八、一八十五六、味方ノ兵ヲ

導テ敵軍ニ進ム、其十七八ナルモノハ、手ニ庖丁ヲ持

チ先導ス、味方之ニ從ヒ敵ト戦フ、後二女子ノ行ク所

ヲ知ラス、

問、甲突川ノ戦ニ夜中竹柵ヲ揺スル者アリ、官兵之ヲ銃

ス、明朝一婦人ノ子ヲ負フタルモノ、丸ニ中リ死スル

ヲ見ルト云フ説アリ如何、

答三人、其事ナカルヘシ、総テ婦人ヲ軍事ニ使ヒタル

コトハナキナリ、

一 鹿兒島探索方達示

発局 官報 第六一〇号 神戸局 二月九日 午十二時五

分 一〇六字

着局 第廿二号 長崎局 二月九日

届 (前内) コウチシヨキカシ

出 (北島秀朝、長崎県令) キタジマヒテトモ

(采)カハムラト、ハヤノ、タカヨマル、ニノリ、カゴノマヘ、ラテシカノ、テケム、ヘラリセエ、ヌトヲ、ラモムセタ、コキシガ、アンキイカガカ、ケンチヨウマテ、タンサククヨムラ、ワンヨロララ、ヤンフキレセハ、ヘンメユリ、ニサンニンダ、ベンコノギ、ケツスレバ、タタカリ、ヌメンヌンベミ、ダムモトヨ、ヤヒミウデ、ヘヘラエリ、ケンスルハズナリ、ドヲロハ、フサガリンユエ、ヤマヨコエテ、ンノビコムヨウ、トリハカロフヘン、ケセリモルハ、ムトゾモシキレ、ノヲテライヨタム、

(訳文の濁音文字にあたる略号には濁点あり)

二 乃木少佐下關出帆通知

発局 官報 第十九号 小倉局 二月十日 午二時十五

分 三十字

着局 第四十三号 長崎局 二月十日

届 コウチナヨカタ

出 コクラ、ノギシヨウサ

賊徒再挙書類

明治十年 丁丑 文書係

ヒロシママルニテ、ジウイチニチヨアケ、シモノセキシ
ユツパンスベシ、

三 長崎県下ニ於ケル臨時巡查募集ノ件

今般当県管内ニ於テ、人員千人限り臨時巡查募集致シ、
至急本営ヘ可差出旨、黒田參軍ヨリ之達ヲ以、安田權大
書記官出崎候処、是迄管内異状無之ハ、全ク貴官ノ鎮
撫方其宜ヲ得タルモノニテ、就中旧佐賀ノ如キハ、彼是
ノ抑揚始終其機ヲ失セザルヨリ、遂ニ今日迄ノ無事ヲ得
候次第ハ、小官次席ニ在リテ親シク承知候得ハ、右巡查
召集ノ儀ニ至リテハ、貴官是迄鎮撫方之旨趣ニ協ハザル
儀モ可有之カトハ存候得共、亦安田ノ示談スル所ニ仍レ
ハ、戦地ニ於テ且下至急ヲ要シ候云々、実ニ傍觀ニ堪ヘ
サル次第モ有之、且參軍ヨリ之達ニ付、聊カ猶予致シ難
キ儀ト存、山口議官ヘモ協議シ、前ニ非常御用等申出居
候武雄其他ノ士族ヲ、先ツ募集方着手致シ置候得共、右
全員整備之義、万無^(兼)覺策、然処安田ヨリハ、是非全數相
濟候様有之度旨切迫、且同管内ニテ彼地ノ士族ハ徵募シ、
此地ノ士族ハ不徵募等取計候テハ、或ハ又後日ノ不都合

トモ可相成カト掛念之義モ有之、旁左ノ箇所ヘ左ノ人員
募集ス事ニ協議候処、幸ヒ同地ヘハ貴官御出張中ニ付、
其旨趣ヲ以テ宜敷御取計相成度、仍之七等屬中村誠孝ヘ
委細申含差弁候条、尚同人ヨリモ可申上候也、

十年四月十六日

河内書記官

北島県令殿

四 西郷等可愛岳突出通知

発局 官報 第七十一号 クマモト局 八月十九日 午

コ三時二十分 五十三字

着局 第八六号 長崎分局 八月十九日

届 ナカサキケンレイ

出 クマモトケンゴンレイ

ホンジツ、ゾクノコンキヨ、マツタクヌク、サイゴウ、

キリノ、エノダゲノゼツヘキヲヨチ、ダツソウニツキ、

ビゲキチウノヨシナリ、

五 西郷等脱走ニ付警備方指示

発局 官報 第一七四号 日本バシ局 八月二十日 午

ゴ十二時三十五分 九十三字

着局 第六八号 長崎分局 八月二十日

届 北島長崎県令

出 東京ケイシキヨク川路大警視

サイゴウ、キリノイカ、セイヘイ、スヒヤクヲヒキヒ、
ダツトウセリト、ヨツテハ、ケイサツゼウ、モツトモ、
ゲンミツヲ、ヨウスルハ、ムロン、コトニ、リンキ、ジ
ウブンノ、テハイアリタシ、ミギ、ミサワ、セウケイブ
ヘモ、ヲタツシアリタシ、

六 谷少将ヨリ脱賊警備方依頼

電報写シ

(朱)此電信山形参軍ノ電報トハ少シク相違アリ

延岡攻撃以來降服人陸續、尚重岡口モ殆ント二千人余ニ
シテ、大概総滅ノ姿ニ有之、然ルニ戦死ト悟セシ者、
凡ソ三百人位ノ由ニテ、各処ニ突出候処、其後踪跡不相
分、自然山谷ヲ忍ヒ、熊本城ニ潜入候哉モ難計、併シ何

レニ出テ候テモ、差タル事ハ無之候得共、万一五人或ハ
十人ツ、散乱シテ、乱暴相働候哉モ難計候間、県官ト打
合セ、警察向発書着手アリタシト、重岡谷少将ヨリ昨日
之電報今日到着ス、

七 脱賊警備方山縣参軍達示

届

フンケンコウビ

ホヘイタイゴタイタイ

出

チンタイ

サイゴウイカ、スヒヤクニンノダツソク、ツイニワガダ
イニセン、ホウリガワヲモ、ウチャブリ、トンソウシタ
ルニツキ、ナヨイツソウチュウイヨクワヘ、ヨウヘンノ、
テアテアルヘシト、ヤマカタサンゲンヨリ、デンホウ、
アリシニツキ、コノムネアイタツス、

八月廿日

午後八時三十五分発シ

同十一時四十五分着ス

本紙拝読御返却仕候也、

八月廿一日

一等少警部

三澤潤二郎^印

長崎県令北島秀朝殿

八 脱賊警備方熊本権令通知

発局 官報 第四十三号 クマモト分局 八月廿一日

午後二時十五分 九十八字

着局 第七三号 長崎分局 八月廿一日

届 長崎県令キタジマヒデトモ

出 クマモトケン^(富岡)トミヨカゴンレイ

サイゴウイカ、スヒヤクニンノダツゾク、ワガダイニセ
ン、ホフリガワヨモウチャブリ、ソノギカタエトウコウ
シタルニツキ、イツソヨチユウイヨクワウベキムネ、ノ
ベヨカヤマガタサンゲンヨリホウチアリ、ヨツテコノム
ネツウチス、

九 高嶋旅団阿久根進出通知

発局 官報 第百二号 クマモト分局 八月卅一日 午

コ六時四十分 三十三字

着局 第百一号 長崎分局 八月卅一日

届 ナカサキ県令

出 クマモトゴンレイ

サシキ、アクネエハ、タカシマシヨウシヨウノリヨタン
ノハイ、クリタシニナル、

一〇 八月廿二日午後一時熊本警察所ヨリ長崎

警察所江電報

脱賊ハ其後各地ニ出没ノ報知アリ、又県下濱町警察所ヨ
リ今晚ノ電報ニ、^(富岡)昨午後二時三田井糧食課へ三十名計リ
切り込タリト、

一一 脱賊三田井突入内報

前略脱賊之踪跡如何ト焦慮致居候処、一昨日午後二時頃

三田井賊三十名計リ切り込タル由、自然昨夜（まみはら 熊本真阿蘇郡）馬見原へ襲
来モ難計之一報ヲ得申候、尤別働第一旅団一聯隊、明日
（熊本県下益城郡）松橋へ繰込候都合ニ有之候、此段入御内報候也、

八月廿二日

野田

北島君

河内君

一三 三田井突入残賊捕縛手配中

発局 官報 第二十三号 クマモト分局 八月廿二日

午前九時五十分 四十八号

着局 第三五号 長崎分局 八月廿二日

届 ナガサキケンレイ

出 クマモトケン

ザンゾクサンシユウメイ、サクジツゴゴニジ、ミタイエ
キタリタルヨシ、ホウチニツキ、ホバクテクバリチユウ
ナリ、

一三 巡查・兵隊警備手配書

過刻御達相成候巡查並兵隊警備向、別紙之通取調候ニ付、
書面進達仕候也、

但兵隊警備手配之儀ハ、当時人員等相違候廉モ可有之

候得共、今日長谷川大尉ヨリ口演之儘録上仕候条、

右御承了被成下度、此段副テ具状候也、

明治十年八月廿三日

近藤六等警部

河内大書記官殿

追テ諫早・矢上等ヨリ之間道ニ当ル西山口ハ、即今

人少ニテ、立番無之ニ付、人員繰合セ差出可申答ニ

有之候也、

長崎警察本所詰巡查

一百式拾人

内事務掛及出張帰省病氣等ヲ除キ

現員

七拾人

新地屯所詰巡查

一 式拾四人

内 病氣等ヲ除キ現員

式拾人

各分署詰巡査 但シ雇巡査

一 式百式拾六人

内 帰省病氣ヲ除キ現員

式百拾人

惣計

現員

三百人

内

五拾一人 茂木村警備 四拾人 日見矢上警備

式人 福田村取締 拾人 海上取締

式人 長崎市 伊良林郷立番 式人同 馬場郷立番

式人 茂木入口立番 式人 時津入口立番

式人 鉄橋立番 式人 丸山町立番

式人 廣馬場立番 式人大浦拾八番地立番

式人 大浦橋上立番 式人 警察所門立番

式人 出納局監守 式人 博覽會倉庫監守

式人 警察所物留所監守 式人 工作所監守

式人 小ヶ倉電線監守

合百三拾壹人

残

百六拾九人

但シ此内ヲ以テ巡回並ニ臨時之事ニ當ツ、

外ニ県庁警衛ノ為ニ近傍巡回 拾人

港取締所巡査

一拾六名

警視局巡査

一百名

内

三拾名 日見村警備 (長崎市) 三拾名 茂木村警備

拾名 樺島警備

七拾名

残三拾名 長崎屯在

遊撃第五大隊之内

一 式百名

但シ先月中之現員ニテ、当時増減アルベシ、

内

拾壹名 時津街道近傍警備

拾七名 陸軍運輸局警衛

式拾名 浪之平警備

ノ四拾八名

三田井エ襲来ノ賊、糧食ヲ岩戸ニ運ヒ、「ヲシカタ」ニ台場ヲ築テ割拠ス、馬見原ヨリ二里先キ宮田ニモ来ル、

一六 賊人吉へ敗走中

一四 別働第一旅団馬見原進軍通知

発局 官報 第四九号 クマモト分局 八月二十三日

午十二時四十分 八七字

着局 第六〇号 長崎分局 八月二十三日

届 キタジマケンレイ

出 トミヲカゴンレイ

ミタイノゾク、リヨウシヨクライワトニハコビ、ヲシカタニダイバヨツキ、カツキヨノウスナリトホウチアリ、サクジツヨリチンダイヘイヲヨビ、ベツドウタイイチリヨダンマミハラニムケシンゲンセリ、

発局 官報 第八十四号 クマモト分局 八月廿四日

午八時 九六字

着局 第百廿五号 長崎分局 八月廿四日

届 ナカサキケン

出 クマモトケン

ホンジツゴゼンクジサンジツブン、ヒユウガノクワンゲン、アソゲンマミワラエキニ、レンラクセリ、ゾクイワドニ、ササエズ、サカモト、ナナツヤマニムカイ、ヒトヨシサシテ、ワシル、ト、ホウチアリ、ヒトヨシワケイビスデニトトノウ、

一七 三田井ニテ戦闘中報告

一五 十年八月廿三日熊本警視出張所ヨリ長崎

在留三澤一等少警部工電報

佐賀警察出張所ヨリ、別紙之通電報有之候ニ付、書面進達仕候也、

明治十年八月廿四日

山川一等警部

北島長崎県令殿

届

ナガサキケイサツチヨ

出

サガケイサツチヨ

クマモトケン、ダイシクワヨリ、サノホウチアリ、サイ
ゴウイカ、ユクサキ、イマダ、ワカラズ、シカシヒウガ、
ミタイニ、ザンゾク、サンヒヤクメイ、バカリ、トンシ
ウシ、サクジュツ、ライ、ノベヲカヨリ、クワンゲン、
シユンゲキタタカイチウナリ、

一八 八月廿六日杉本検事ヨリ立川検事江ノ電

報

三田井ノ賊徒二百四拾名余(別麻山)駒山ヨリ、シイバ越ヲ急キ、
人吉道ノ裏へ行様子、駕籠六挺之レアルヨシ、余ハ跡ヨ
リ報知ス、

一九 西郷菊之助降伏通知

廿五日、(神門、ミカド)カミカド、(鬼神野、キツ)ヨニガミノ、ニテ西郷ノ子菊之助ニ
秘藏ノ僕源ハヲ付ケ降伏サセタリ、桐野モ亦シヨウヲ、
クダサセ、西郷・桐野・邊見等ハ切死ニト決セリ、又学
校党五十名降伏、残賊ハ四方ヨリ官軍ニタ重ニ取囲ム、
八月廿八日午後六時十分

熊本

立川検事補

長崎

杉本検事

二〇 鬼神野激戦通知

八月二十八日午後一時熊本警視出張所ヨリ電報
賊ハミカド・鬼神野ノ間ニアリ、官軍ニ重ニ環囲シ、二
十五日ヨリ頗ル激戦ノ報昨夕来ル、

二一 賊小林方面敗走通知

発局 官報 第七十六号 クマモト分局 八月廿九日

午四時五分 五十六字

着局 第百号 長崎分局 八月廿九日

届 キタシマケンレイ

出 トミヲカゴンレイ

サンゾク、ヒユウガノ、ミカドニ、ヤブレ、サツノ、コ

バヤシ、イイノ、カクトウニ、イダタルヨシ、ホウチア

リタリ、カイガン、コケイビアリタシ、

別紙電報相達御承知ト存候得共、不取敢及御回ニ候、猶

此外御承知之事モ有之候得ハ、御洩被下度候也、

八月廿九日

(殿様)
河野幹事

北島長崎県令殿

二二 賊吉田へ敗走通知

別紙之通熊本鎮台ヨリ電信到来候条、為御心得写及御回候也、

八月三十日

池田海軍少佐

北島長崎県令殿

八月三十日午前七時二十分着

(熊本懸)
濱町野津少将ヨリ左之通報知アリ、

唯今御通知ニ及ヒシ賊、阿久根・クシキノ海路長崎ニ出

ルトノ事、兼々賊魁ノ咄アリシ、依テ念ノ為メ海軍江モ

御通牒アリタシト、就テハ賊ハカクトウニ出テ、一昨日

ハ飯野ニ宿リ、昨日ハ吉田ニ向フノ報知アリ、依テ其地

方兵隊及ヒ後備一中隊江モ御通知ヲ乞フ、

八月三十日

熊本鎮台

樺山陸軍中佐

孟春艦長

笠間海軍少佐殿

二三 賊川内川ヲクダル旨報告

発局 官報 第三五号 クマモト分局 八月卅一日 午

十時十分 五十字

着局 第十七号 長崎分局 八月三十一日

届 ナカサキ県キタシマケンレイ

出　クマモトセントミヨカゴンレイ

ゾク、サツノ、ヨシダヘンヨリ、センダイガワヨクダリ、
アクネニムコウヨシ、ホウチアリ、ゴケンカイガンケイ
ビアリタシ、

候、

二四　九月一日井上警部ヨリ河内書記官宛電報

頃日薩賊潛出之義ニ就テハ、本署佐賀等ヨリ時々報知有
之、仍テ取締致注意、就中鹿島ヨリ島枝(糸敷カ)之海辺肝要之場
所故、已ニ右両所ヘハ巡查派駐為致置候得共、猶一層手
厚ク配置致度候間、即該地出張仕時機ニ依候テハ、当分
滞留致シ、柄崎ハ一等巡查ヘ代理セシメ置、双方往来致
候方可宜卜存候、尤佐賀詰警部ヘモ打合、彼是手配仕候
条、此段一応申上候也、

但委細之儀ハ原田種孝ヨリ御聞取奉願候、
十年九月一日

井上八等警部㊟

河内大書記官殿

追而唐津出張(所脱カ)ヘモ佐賀ヨリ之電報等時々急報ニ及、
該出張所モ夫々注意罷在候趣ニ而、此段モ添テ申上

二五　加治木ニテ開戦ノ通知

発局　官報　第五十二号　クマモト分局　九月一日 午
十二時五十分　八十一字
着局　第五十号　長崎分局　九月一日

届　ナガサキキタシマケンレイ
出　クマモトトミヨカゴンレイ

ゾク、サクジツ、サツノヨコガワキンポウニイデ、カジ
キノクワングント、カイセン、ビゲキノヘイ、ハサミウ
チヲナシ、コンチヨウマデ、ホウセイヤマヅ、クワング
ンリクゾク、クリダシノホウチアリ、

九月一日午後二時四十分熊本県ヨリノ電報
昨日上陸ノ官軍、横川ニテ開戦、人吉ヨリモ繰出シ、賊
ヲ挾ミ撃チセリト、

二六　佐賀ヨリ長崎県令宛二通

二六ノ一
発局 官報 第十一号 サカ分局 九月一日 午十二
時五十分 三十九号

着局 第四十二号 長崎分局 九月一日

届 ナガサキケンレイドノ

出 サガヨリ、カサハラタタイエ

ゴヨウアイスマ、サンボウチヨウトモニ、タタイマ、
サガ、シユツタツ、コノタンヲトドケス、
(由立)

二六ノ二
発局 官報 第廿一号 サカ分局 九月一日 午五時

百四十八号

着局 第九十二号 長崎分局 九月一日

届 長崎県令殿

出 佐賀、飯島

ゴトウゾク、ケン、ゴトウケイブ、サガシチヨウ、ザイ
キン、メイゼラレ、ハイシャウス、ミギハ、コレマテ、
サガケイサツチヨ、ザイキンノ、ギニツキ、ケイサツチ
ヨニハ、カンケイナキギト、アイココロヘ、シカルベキ
カ、マタハ、ケンキン、イタスベク、ギニモコレアルベキ
ヤ、ミギハ、ケイブノシヨクモ、ケンム、カツ、トウセツ
ガラニヨリ、ネンノタメ、デ、ウカガイマフシマス、

二七 横川ノ場所問合セ

横川地所且官軍上陸之場所、熊本県へ問合候処、左之通
回報有之候間、此段申上候也、

九月二日

山川一等警部 ㊦

九月二日五時熊本発

横川ハ八代ノ近傍ニ非ス、大隅国桑原郡ノ内ナリ、官軍
ハ加治木ヨリ上陸セリ、此段御報ニ及フ、

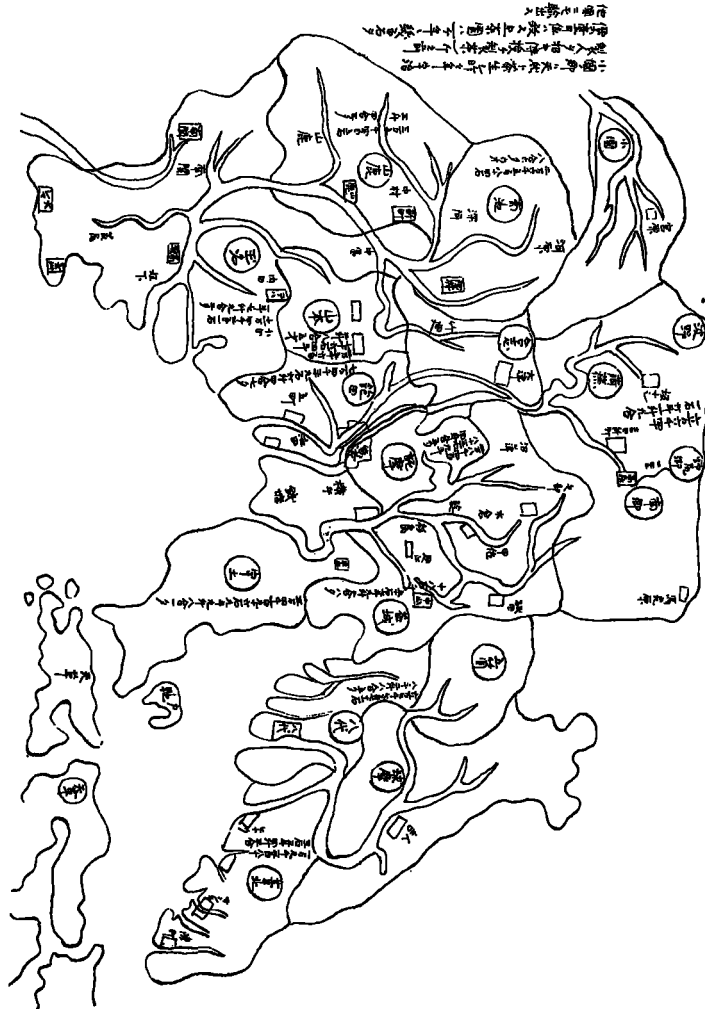
二八 賊鹿兒島乱入通知

発局 官報 第九十九号 クマモト分局 九月二日 午
一時五分 六十二号

着局 第七十号 長崎分局 九月二日

届 キタシマケンレイ

出 トミヲカゴンレイ
ソクワ、サクシツ、コセンユウイチシゴロ、ワガソナ
フシハ、ムシグコ、ツゼングイキチイグヅリ、ヘドフテ
エ、ナキチホウヨリ、カゴンマニ、ランニユウ、クウリ
エ、テウイヲキヤロ、トヅクタル、アンルイキ、クウリ
ニヒノチミユシ、チンダイニ、ホウチアリ
ルヒメクヨイニヤ、クイレマチル、ヨキイラロ



一、關東、關西、關中、關東、關西、關中
 二、關東、關西、關中、關東、關西、關中
 三、關東、關西、關中、關東、關西、關中
 四、關東、關西、關中、關東、關西、關中

一、關東、關西、關中、關東、關西、關中
 二、關東、關西、關中、關東、關西、關中
 三、關東、關西、關中、關東、關西、關中
 四、關東、關西、關中、關東、關西、關中

二九 賊鹿兒島乱入ニツキ問合せ

発局 官報 第十一号 山口分局 九月三日 午後一時

三十分 八十二字

着局 第一百六号 分局 九月三日

届 (朱)非常文書係ニ可留置 ナカサキケンレイシヨキクワンカキトメ

出 ヤマクチケンレイ

コンミツカゴホウチ、ソクカゴシマエ、ランニウノシツ
チウ、セウサイコツウチナリタシ、トウケンカン、スベ
テブジカ、ソノタヘインシン、サトウノシシタイト
モヲ、シラセコイライス、

三〇 長崎港警備ノタメ増援依頼

発局 官報 九月四日 午後十二時 二百五十四字

着局 (記事なし)

届 トヲケイ、ヨラクボナイムキヨウ

出 ナガサキケンレイ

(朱)ボシハヌユザフ ナフマフニヘエナテン、モダスレハ
ザンゾクヨボウ、トウコウケイビトシテ、カジツライ、
ムヌヌンユム、テヨスイハ、ロムテナマア、ハヌマンバ
リクダグンヨリ、シユツヘイ、アリシトコロ、ソクコンゾ

ヌチヘノマウミ、テユフニス、テモタルトレズ、マヌヂ
クセイスコブル、シヨウケツ、シカノミナラズ、コクジ
ソシタカタヤハヤハヤヌミケスヘン、トシナドキ
ハンノモノヲイヨイヨククミキタルニイテハ、ナンドキ
エデユフタイン、ナイガイヨリヨコルモハカリガタク、
ヒシヨウノヘン、ナイガイヨリヨコルモハカリガタク、
シモミケ、ケイビテウスナルヲモツテ、ハラニ、ヘイハ
シカルニ、ケイビテウスナルヲモツテ、ハラニ、ヘイハ
コハラノネン、テヨスデンタホンザフモンヒ、ネユフ
マサレタキダン、シユツジンノサンボウカンエ、キヨウ
ギ、セシニ、ドウカンニモ、ドウアンユエ、サンゲンエ、
ネ、セシニ、ドウカンニモ、ドウアンユエ、サンゲンエ、
ムノネ、ノイネトラナカ、ニフモヒノ、ンテノウスフ
リンギ、スベキナレドモ、ヒウガエハ、デンシンフツウ、
ネフハヌタ、ユヤケノセモノネナトナトリ、スヘイテハ、
ケウソクノ、ヨヤニタチガタキトコトナトリ、スヘイテハ、
ケイシキヨクヨリ、シキウ、シユツヘイ、セラレタシ、
マクナンチヘネフノ
コノダンセイキウス、

(訳文の附草文字にあたる箇所には漏点あり)

残賊予防、当港警備トシテ、過日来陸軍ヨリ出兵アリシ
処、即今賊勢頗ル猖厥、加之国事犯ノ者追々送り来ルニ
付テハ、何時非常ノ變内外ヨリ起ルモ凶リ難ク、然ルニ
警備手薄ナルヲ以テ、更ニ兵ヲ増サレ度段、出陣ノ参謀
官エ協議セシニ、同官ニ於テモ同按故、参軍へ稟議スベ
キナレドモ、日向へハ電信不通、且急速ノ用ニ立難キト
ノ事ナリ、就テハ警視局ヨリ至急出兵セラレタク、此段
請求ス、

三一 鹿兒島攻撃通知

別紙電報到来候処、別ニ異事モ無之候得共、鹿兒島在留之兵ニ連絡セシ趣申来候ニ付、此段御通報ニ及候也、

九月五日

第四旅団参謀長

(氏章)
品川陸軍中佐

北島長崎県令殿

賊一昨一日午前十一時、突然鹿兒島ニ襲来ス、我兵一時ハ苦戦スト雖モ、終ニ昨日田村少佐ノ一大隊、谷山辺ヨリ揚陸、鹿兒島ノ兵江連絡シ、賊ヲ追撃セリ、賊ハ人員三百余(二)「ニチ、シカクヲヨリ」(三)城山ヲ守ル、諸口ノ兵、鹿兒島ニ進入攻撃最中ナリト報知アリ、

九月五日 午後二時二十五分宛
同三時三十分着

右日向国細島ヨリノ電報、

三二 乃木中佐ヨリ品川中佐宛電報

九月六日癸同日午前第十時着、

熊本鎮台乃木中佐ヨリ長崎出張第四旅団参謀長品川

中佐ヘノ電報

左ノ通出水出張参謀部ヨリ報知、

探偵者ノ報知ニ依レハ、賊ハ多分鹿兒島ヲ固守スルニ相違無之、就テハ明五日十三聯隊及ヒ別働ノ一大隊ヲ、マ(入来)イソギ峠ニ繰込ム筈、時宜次第直ニ鹿兒島ニ繰込ム儀モ難計シト、昨夜宮ノ城樺山中佐ヨリ報知在リタリ、高島少將ハ阿久根迄進ミタルヨシナリ、

三三 鹿兒島市街戦闘状況

別紙電信到来候ニ付、為御心得写差進候也、

九月六日

海軍少佐池田貞賢

北島長崎県令殿

午後七時着、川崎監督ヨリ聞ク、米蔵之本営モ応援ヲ得、連絡ヲ取り防キ留タル由、二日諸道之進撃ニ因テ賊ヲ城山江追込ト云フ、三日後之報知ナシ、出水口ハ既ニ阿久根ニ出ツ、依テ我明日ヨリ、米ノ津ヨリ阿久根(羽島、串木野)等エ回艦ス、委細ハ跡ヨリ、

九月五日午後十時四十分

佐敷

鳳翔艦長

山崎海軍少佐

海軍事務局

池田海軍少佐殿

六日午前六時十分到達

三五 九月三日ノ鹿兒島戰鬪狀況

別紙電報到達ニ付、御心得迄ニ御回シ申候也、

九月八日

池田海軍少佐

北島長崎県令殿

三四 樺山中佐ノ部隊鹿兒島金藏占領

樺山中佐引卒ノ兵鹿兒島ニ入込ミ(西田橋カ) (ニシバ、シヨリヲグ

ロヤマ)以上元文ノ儘迄ノ哨線ヲ請持タリ、只今ノ哨線ハ官軍籠

城ノ時ノ賊線ニ異ナラス、独リ金庫(金藏、米藏と同場所)ヲ占領スルノミ、賊

ハ凡ソ千人糧米ハ百俵アルトノ説ナリ、毎日砲撃ノミニ

テ別ニ異状ナシト、鹿兒島ヨリ報知アリタリ、

九月九日午前七時四十分發

同 同 九時着

熊本鎮台

乃木中佐

品川中佐殿

去ル三日午前四時過着之処、官軍幸ヒ当日午前ヨリ諸口
大進撃之由、到着最モ都合宜シ、直ニ砲撃ヲ始ム、伊東・
仁禮ニハ新撰旅団及龍驤・春日之水兵ヲ率ヒ籠城中、賊

四方ヲ囲ミ最モ苦戦、同日午前七時過城内ニ連絡ヲ取り、
賊ハ学校ニ屯ス、午後官軍賊之四方ヲ囲ミ、昼夜攻撃、

同夜貴島清其他切込ミ隊三拾五六名ヲ打取り、官軍ニハ
死傷十名ニ過ス、最モ大勝利、昨今ハ官軍援兵充分ニ着

ス、四五日内ニハ必ス平定スルナラン、委細ハ跡ヨリ、

九月七日

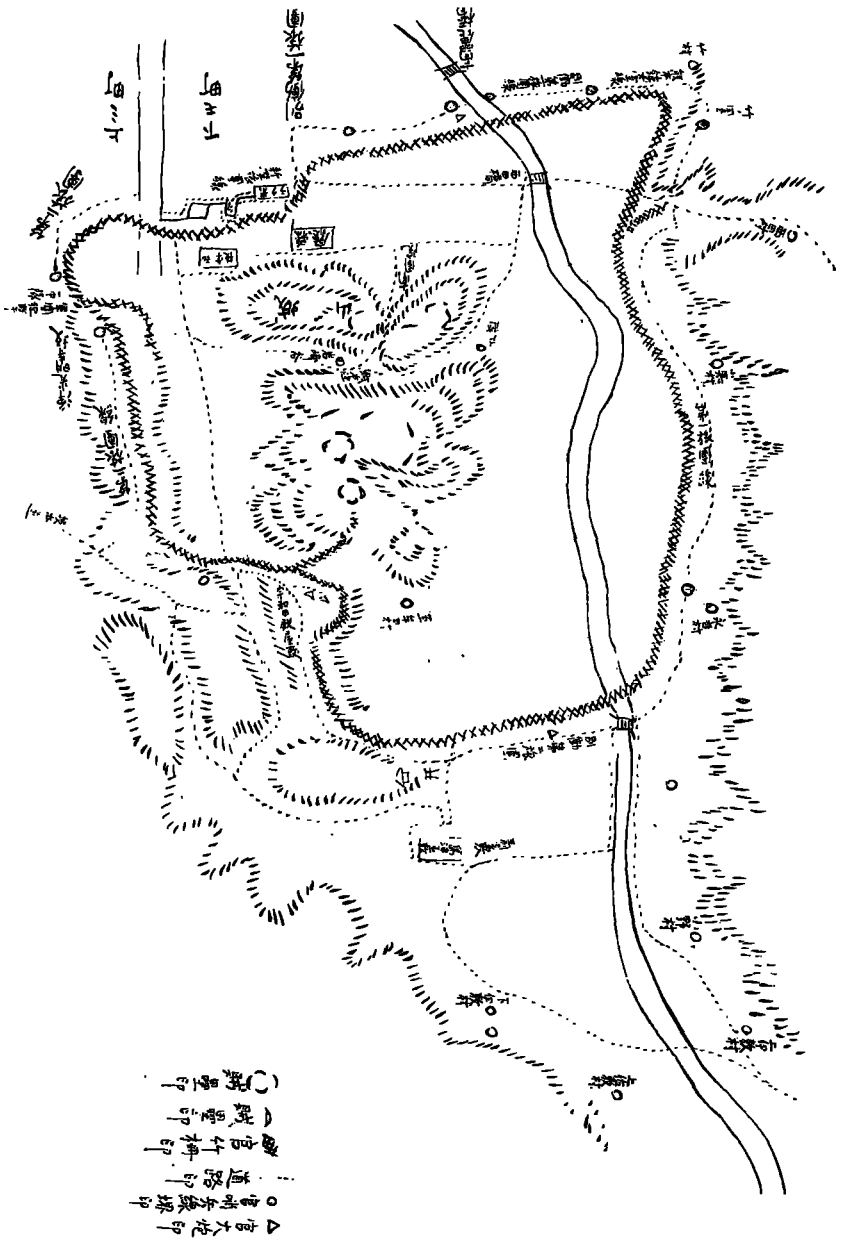
鹿兒島

孟春艦長

笠間少佐

池田少佐殿

田村五日八時十分發ス



- △ 官大宅印
- 官竹柵印
- - - 道路印
- 踏墨印

鹿兒島是孤島

..... 即：石燈籠堤，則十世島外五夜對公處

- 二 警察
- △ 二 裁判所
- 二 學校

—— 此即內城之界
外 二 總之官兵



午後九時三十分着ス

三六 九月四日鹿兒島戦闘結果

発局 官報 第七二号 クマモト分局 九月十日 午五

時二五分 三一〇字

着局 第一百十九号 長崎分局 九月十日

届 キタシマケンレイ

出 カゴシマシツチヨウカワナミケイブ

カゴシマヘゾ克蘭ニウコ、シロヤマニコモレリ、サル
ヨツカゴセンサンジ、ゼンソクト、ヒヤクゴジウメイバ
カリ、ヨソイキタリ、ソノウチサウグントカキトメシ、
ホンコウアンピヨウヘ、ナラビニ、シヨウタイチヨウカ
ツベタイシユウロウナルモノアレ、マタドウシキウテモ
ノクラヘモヨソイキタリ、トウシヨニテハ、コメイヲタ
ヲシ、イシトウロウトウリスジヘ、マトウクンコメイノ
(石燈籠、いずろ)
ウチ、ヨメイヲウチトリ、ソノウチ、キシマヲウチタヲ
シ、ヨツテ、ウチトリソウケイハ、サンシウイチタイナ
レドモ、フシヨシヤトウワタマウナラン、クワンゲンシ
シヨウジュウメイニ(符カ)ニノボラズ、シンニタイシヨウリ、

ソノコタイイツセン・タイニセン、フタエニトリマキ、
コゼリヤイノミ、(台地)タイバナラビニガンカンヨリ、タイホ
ウヲウチアゲ、(台夜)ニチャタエズ、
(田ノ池)(タノウラ八日発)

三七 九月十日鹿兒島表出立同十一月長崎着ノ

某氏咄

当時鹿兒島ニ屯集シタル城山・隼庁・私学校等周圍凡 賊ノ人数ハ
凡ソ七百人計、其内半分ハ純粹ノ私学校党ニシテ決死ノ
徒ナリ、残り半分ハ去ル一日同地ヘ乱入ノ後脅従シタル
徒ニテ、素ヨリ決死ト云ニハ非ザル由、其訳ハ既ニ乱入
ノ時ニハ難ヲ他ニ避ケントシテ、遂ニ果タザルヨリ止ム
ヲ得ス、賊ノ脅従ニ応シタルモノト云フ、
官軍ハ之ヲ三重程ニ取巻キ、警備最モ嚴重ニシテ、賊ハ
夜々斬リ出ントスルノ勢アリト、既ニ五日夜ハ貴島始メ
百二十三人計モ、石燈籠通り各地官軍哨兵線内ニ斬込ミ、
則チ貴島外三十余名即死、負傷者ハ最モ多カリシト、此
時官兵死傷僅カ二十名計、又八日夜モ、数十人斬込ント
スル勢アリシガ、早クモ官軍ノ哨兵ニ見留ラレシ故カ、

接戦ニ及ハズシテ散乱セリト云フ、想像スルニ、四方開

繞ノ官軍劇烈ニ攻撃スレハ、一挙ニ討チ殲スハ、軍謀上

理ノ最モ明ナレトモ、其為夥多ノ官兵ヲ、目前ニ傷フノ

恐レアルガ故ニ、敢テ劇烈ノ攻撃ヲバ見合セ、賊等兵糧

ノ尽ルニ随ヒ自ラ斬リ出ルヲ待チ、容易ニ討チ取ルノ見

込ナラン、然ルニ彼等ノ兵糧ハ、米數百俵及酒・鶏卵等

若干ヲ奪取リシ外ニハ、喰物ハナキ筈ニテ、兵器ノ如キ

モ亦、刀劍多ク銃炮ハ至テ少シ、尤モ乱入ノ際、鹿兎島

ニアル大砲三四門及彈藥若干ヲ奪ヒ取りシ由、

一島津公ハ再ヒ櫻島ニ避ケ、之ニ属スル輩モ更ラニ異状

ナシト云フ、

一同地ニハ山縣 河村兩參軍及三吉・大山 曾我・伊東諸將並綿貫少警視在陣、

且軍艦ハ四五艘碇泊砲撃ノ由、

一岩村氏(通使)ノ県地ヲ去ルニ、其前日陰カニ家族輩ヲバ乗船

セシメ、市街ノ人民ヘハ、翌日切迫ニ臨ミ、布達セシ

一等ハ、甚タ不仁ノ所為トカ云フ評判アリ、

三八 島原地方人夫ノ処置

発局 官報 第九号 サカ分局 九月十一日 午七時

卅分 百六十一号

着局 第三四号 長崎分局 九月十一日

届 ナカサキケンレイ

出 ナカヤマ

サクジツマツバラシヤエ、ニンブ、シヒヤクニンアマリ

アツマリキタルニヨリ、シユツチヨウ、リヨダンニ、ト

イアハセニ(脱カ)、ドウダンニハ、カンケイナシ、ヨツテ、ニ

ンブノ、チヨウヲ、トリタダスニ、トウチニ、ニンブ、

タクサン、ニウヨウト、キキ、シマバラスジノ、モノヲ

ツノリ、マイリタルモノニテ、カンチヨウヨリ、ツカワ

サレタルモノニコレナキ、ユエ、サクジツチウスベテ、

モロドミニムケカヘス

三九 熊本土族ノ動静ニ注意ヲ促ス

発局 九月十二日

届 富岡

出 (長崎県令)

（米）シタモカクブシ、ソママビブシルホホメニメ、ノレエン
クマモトシゾク、フタタビゾクニヨラズルノ、コケネン
ヌテウヨ、モクフメウムクラアヌ、カホイイルニムチル
ハナキヤ、モシソノキザシアラバ、トヨチニアルザイニ

ンモレエンテロ、ホオツオホクアセラケ、
ンモケネンナリ、ヨミコミヲシラセアレ、

(訳文の濁音文字にあたる暗号には濁点あり)

四〇 安藤中警視ヨリ巡查処置ニツキ依頼

拜啓、下官儀過ル十日着魔候処、賊徒四五百人城山辺へ
相纏リ居候ヲ、官軍四方ヨリ二重三重ニ取巻キ、其外面
海岸ハ勿論、諸方へ巡查ヲ配置シ、銃器携帯為致、嚴重
取締之都合致シ置候間、不日ニ鎮定相成候半、御安心有
之度候、

一御県下へ一時差残置候巡查、佐賀県へ派遣之儀、中川
大警部へ御談相成候由、右ハ不日賊徒鎮圧之上ハ、直
様当県へ引揚、県地之警察ニ振向ケ候都合ニ有之候、
就テハ目今御県下之警察ニ関与候儀ハ勿論ニ候得共、
前条佐賀県派遣之云々ハ同人共ニ至リ候テモ、甚迷惑
之儀、旁以御示談ニ応兼候間、可然様御亮察有之度候、
尚委細之儀ハ後便ヨリ可申入候也、

九月十二日

(前命)
安藤中警視

北島県令殿

四一 川村参事ヨリ鹿兒島守備状況通知

発局 官報 第九二号 熊本局 九月十二日 午セ三時

四五分 百五拾二字

着局 第百号 長崎分局 九月十二日

届 北島県令

出 カコシマ、カワムラサンゲン

ゾクワ、ヨウヤクゴヒヤクハカリニテ、シロヤマニヨリ、
リョウマイホトンドツキ、クワンハイ、ニマンユウヨニ
テ、ゾクノシウイニ、タケサクヨ、フタエ、ミエニモウ
ケ、ゲンジウニカコミ、ゾクダツスルノセイリヨク、ケ
ツシテナシ、ソノヲモテ、リンジサイバンシヨトウヨ、
ヨシヨニウツスコトナカレ、ナヲライイイモウシンス
ベクソロエトモ、コノムネクワイトウス、
(田ノ浦十二日午前十一時四十分発)

四二 人吉地方賊徒動靜

昨夜賊人吉ヨリ一里計リノ処ニテ、電信柱ニ障碍ヲナシ、
又今朝一時要地ニ出タル旨、只今報知有之ニ付、「カタシ
(壁志)

巴(不山)「ヲカワ」地方ハ御注意アリタシト、八代野津少将ヨ

リ報知アリタリ、

九月十二日午後四時五分発ス、

同六時四十五分着

熊本

乃木中佐

長崎

品川中佐宛

右之通報知有之候間、即チ写御回シ申進候也、

九月十二日

第四旅団参謀長

品川中佐

北島県令殿

四三 人吉地方賊徒出撃ノ報知

発局 官報 第一四一号 クマモト分局 九月十二日

午八時五分 一八九字

着局 第百六五号 長崎分局 九月十二日

届 長崎県令

出 熊本権令

出(卷)「イノサクシ」イライチ、ゾク、ヒアクロクンチウメイ、
チコムシグコ、チアチ、ブシ、ヒヨシリシグイキノチ、
バカリ、サノ、イイノカクトウヨリ、ヒトヨノニキタ
ズトロ、ムコメ、チチメトシカキヤロ、ヒカヤクルウマ
ルノ、イキヨイ、アリト、ホキイメカツロ、ムシヨ、ム
ニメ、チウホチ、ラロカ、フキイメカツロ、ムシヨ、ム
ンキト、ヒトヨシノアイダ、ナンンンヨ、セノダンヌ、
クウカ、ヒカヤクメラチゴ、ナンンンヨ、セノダンヌ、
ソノスエ、コンチヨウキ、ヒトヨシノサノホノアイダ、
フメスエ、ツンイヤキ、ヒカヤクカムクウメラチマ、チ
ツンヨウチムラエ、ゾクキタルニルコウ、スジレチゾ、グ
コクヤキイサアエ、ブシウマニルコウ、スジレチゾ、グ
チ(ニ)ンサニ、シチ(ニ)ウキヲモセ、クイゴイヤキセクサエ、
インムル、グイキウホモマセ、クイゴイヤキセクサエ、
ホウチアリ、ホ(ミ)ギソラ(シ)クマモトモノナルヨ、
ヨキイラロ、ヨヴブアヘ、シタモカメメテニヤク、ツ
レニテ、ケンカノヨウスワスイサノアレ」
ケルナ、レントメヤキスヘスチムコラケ」

(訳文の濁音文字にあたる暗号には漏点あり)

四四 人吉地方賊徒出撃ハ訛信

四四ノ一 発局 官報 第四六号 熊本局 九月十三日 午セ十

時二五分 一四三字

着局 第三十九号 長崎分局 九月十三日

届 ナカサキケンキタシマレイ

出 クマモトケントミヨカゴンレイ

サクシツ、ゾク、ヒトヨシノウチ、イツシヨウチエイツ

ルホウチニツキ、スグニ、ケイブ、シユツチヨウスルト
コロ、クワデン(船匠)ノムネホウチアリ、シカシ、ニシニ、
イツルトセイゴンシテ、ヒガシニ、イヅルモ、ハカラ
レズ、スデニ、サクジツ、ヒウガサカヒ、キウタイク、
ロクシヨウクエ、ゾクヨメイ、バツトウシテ、シユン
サニ、セマル、イマツイセキチユウナリ、

四四ノ二

昨日御報ニ及ヒ置タル飯野・加久藤辺へ相見ヘタル残
賊云々ノ義ハ、全ク当県警部ノ誤伝ニ出タル趣キ、県
官ヨリ通知アリ、此段不取敢御報ニ及ブ、

九月十三日午後四時四十分発ス、

同八時五分清

熊本鎮台

乃木中佐

品川中佐殿

右之通只今報知有之候間、不取敢此段及御通報候也、

九月十三日

第四旅団参謀長

品川陸軍中佐

北島長崎県令殿

四五 城山ニ抛ル賊ヲ官軍包圍

発局 官報 第三十六号 クマモト分局 九月十四日

午七時五十分 百二十一字

着局 第四五号 長崎分局 九月十四日

届 キタシマケンレイ

出 カゴシマ、ヨリタカイタクシヨシヨキカン

「九月十三日午前十一時五十分タノウラヲ発ス」

(脱離カ)

ゾクモトシロヤマトウニキヨイノシ、クワンゲンカクリ
ヨタンノヘイニテ、シウイヨツツミ、シユビモツトモゲ
ンナリ、チンテイフジツニアルベシ、マタカクチハ、ジ
ユンサハケントリシマリミツナリ、ヨツテトウチハウハ、
イササカケンネンナクヨマルル(原ハルル)、トリアエズグケンモウ
シシンス、

四六 香港ノイギリス人名問合セ

発局 官報 第五〇号 ツキシ分局 九月六日(ママ) 午後十

一時五十分 五五字

着局 第一号 長崎分局 九月六日(ママ)

届 ナカサキケンレイ

出 トウケイ、テラシマガイムキヨウ

(清田カ)

セイコクホンコンサイセウノ、エイジンナマエワワカリ

ヲルヤ、マタミギイツケンワ、イツレヨリワカリシヤ、

シキウゴヘンジアレ、

四七 深見休八ヲ甑島脱走ニツキ警戒ヲ促ス

四七ノ一

発局 官報 第二五号 カシキ分局 九月十九日 午

七十一時三〇分 百七十六字

着局 第六七号 長崎分局 九月十九日

届 ナカサキケンレイ・イシサワケイフ、フタリ

出 カコシマ、アントウチウケイフ

フカミキウハチ、ソノダヒゴサエモン、ホカジウニメ

イ、ホンゲツ、ジウヨツカ、(備島)コシキシマヲ、ダツシタ

ルセツ、トフキヤフ、イツトフ、ジウンサ、カワライ、

ナヲモリ、ニトウジウンサ、モクバヤシ、キヨシ、ホ

カジウサンメイノ、セイフクセイボウ、ヲヨビ、テチ

ヨウ、ヂレイシヨマデ、ウバイ、トリタルニツキ、シ

ゼン、ジウンサノテイニ、イツワリ、チャクスベキニ

ツキ、ヒキヤクセンハ、モチロン、ソレゾレ、ワケテ、
シキユウコチウエ、アルベシ、
(御興志(サ))

四七ノ二

賊徒脱走之義ニ付、別紙之通鹿兒島滞在安藤中警視ヨ

リ申来候間、御通知申進候、就テハ東京警視局巡查ト

称スル者、万一御隊兵ノ持場へ他ヨリ入込来候節ハ、

仮令如何様成証書ヲ持居候共差押へ、其近傍ニ在ル警

視局巡查之詰所へ、引渡相改見様致度、此旨御隊下其

筋々へ、可然御達置相成度、此段申進候也、

九月十九日

北島長崎県令

品川陸軍中佐殿

四七ノ三

発局 官報 第七九号 クマモト分局 九月十九日

午後七時三〇分 二一二字

着局 第百七十一号 長崎分局 九月十九日

届 ナカサキケンレイ

出 クマモトケンコンレイ

カゴシマケン、カジキジュツチヨウ、アントウチウケ

イシヨリ、サノデンホウアリタリ、フカミキウハチ、

ソノダヒコザエモンホカジウニメイ、ホンゲツジウヨツカ、ゴジキシマヲダツシタルセツ、トフキヨフイツトウジユンサカワライナヲモリ、ニトウジユンサモクハヤシキヨシ、ホカジウサンメイノ、セイフクセイボウ、ヲヨビ、テチヨウ、ジレイシヨマデ、ウバイトリタルニツキ、シゼン、シユンサノテイニイツワリ、チヤクスベキニツキ、ヒキヤクセンハモチロン、ソレンレ、ワケテ、シキユウコチウイアルヘシ、

四八 賊徒動静ノ通知方依頼及ビ回答

四八ノ一

鹿兒島県脱賊一兩名、過日天草地方江相渡候哉之趣、夫々派出之ヶ所へハ、一応三田尻警部ヨリ通知相成候半、右等之義ハ、曾テ御了承ニモ可有之ト被存候、然ル処当出張所並第七分署へハ、今以何等之御報知モ無之、右等各派出所へ尚通知之廉モ可有之義ニ付テハ、向後事之細大トナク、警察上ニ係ル事件、御聞込次第出張所並七分署へモ時々御達希へ候也、

九月廿三日

第七分署長

陸軍少尉兼二等少警部

馬渡貞禮印

長崎警視出張所詰

一等少警部三澤謹二郎印

長崎県令

北島秀朝殿

四八ノ二

鹿兒島脱賊一兩名、過日天草地方へ相渡り候趣、三田尻警部ヨリ、貴局各派出所へ及通知候旨ヲ以テ云々、御問合之次第致承知候、右ハ至急ヲ要シ、当警察吏員ヨリ疾ク御報知及置候儀ト存シ、其筋取調候処、別紙写之通申出、全ク貴官へ御通知落相成候ニ付、自後小官聞込ミ儀有之節ハ、直チニ小官ヨリ御通知可申、若シ当港警察所於テ、承知候儀モ有之節ハ、同所ヨリ直チニ御通知可申段、相達置候、此段宜御了承相成度候也、

九月廿五日

令

長崎警視出張所詰

一等少警部三澤謹二郎殿

第七分署長

陸軍少尉兼二等少警部馬渡貞禮殿

四九 上原警部ヨリ長崎県令宛回答

鹿兒島脱賊深見有常外一名、同県下(嶺摩郡)嶺島ニ於テ巡查ヲ捕縛シ、薩地江渡海、其後長島ヲ経(出水郡)、牛深辺江潜伏之聞エアルヲ以テ、専ラ探偵中之趣、港外取締三ヶ尻十等警部(田丸)天草地方ニ於テ、警視巡查ヨリ伝聞之次第、不取敢茂木(長崎県)出張之警視・警部江通知ニ及ヒ、其他網場・爲石・樺島等出張之警視・巡查江モ、即日報知シタル旨、本月廿一日同人ヨリ申越候、右ハ出張先ニ於テ探知シ、其最寄警備江夫々心得之為メ通知致シ候義ニ付、各本部へハ右出張之警部巡查ヨリ通知可相成義ト存シ、警視出張所江ハ別段通知不仕義ニ有之、右御下問ニ付、此段具陳仕候也、

明治十年九月廿五日

長崎県令北島秀朝殿

八等警部上原寛満印

五〇 鹿兒島平定通知

五〇ノ一(朱)「供御覽」
別紙大塚判事ヨリ之電報、御承知トハ存候へ共、不取敢御廻申候也、

十年九月廿四日

(敏達)
河野幹事

北島長崎県令殿

大塚判事

河野幹事

今朝ノ一撃ニ全ク滅亡セリ、西郷・桐野・別府其他數十人戦死セリト、只今鹿兒島林警部ヨリ報知有リ、此段御通知及フ、

十年九月午後十二時十五分加治木発

同日

五〇ノ二(朱)「供御覽」

鹿兒島平定之趣、最早御承知可有之ト存候得共、為念

別紙電報写御廻申候也、

九月廿四日

井上陸軍少佐

北島長崎県令殿

今曉ヨリ攻撃唯今平定ス、

九月廿四日午前九時三十分迄

鹿兒島砲廠

星山七等出仕

井上少佐(宛)当

五〇ノ三

九月廿日午後十時鹿兒島ヨリ電報

本日午前三時各大隊ヨリ二中隊宛、線外ニ出シ暫ク戦フ内、賊ノ巢窟ヲ痛ク衝キ、西郷・桐野・邊見・別府・桂等ノ巨魁残ラズ討取タリ、其外兵卒ハ残ラズ降伏、一人モ漏サズ全ク鎮定御安心アレ、

五〇ノ四
別紙電報供尊覽候也、

明治十年九月廿四日

九等警部志佐明誠㊦

県令北島秀朝殿

鹿兒島出張松崎二等巡查ヨリ電報

今廿四日、官軍四面ヨリ城山ヲ攻ム、午前四時開戦、同八時戦全治マル、賊魁西郷、桐野以下ヲ斃ス、賊数百或ハ死シ、或ハ降ル、此旨上申ス、猶此旨佐賀ヘモ御注進アリタシ、

五〇ノ五

鹿兒島景況、唯今別紙之通報知を得候間、此段及御報知候也、

九月廿四日

品川中佐

北島県令殿

昨夜ヨリ今朝ニ至リ大進撃、終ニ西郷・桐野以下数百人悉ク討取り、鹿兒島地方粗平定セリ、

九月廿四日

鹿兒島

福原大佐

井上少佐宛

五〇ノ六

発局 官報 第九十四号 クマモト分局 九月廿四日

午後五時四十五分 八十五字

着局 第九六号 長崎分局 九月廿四日

届一 ナカサキケンランチュウ(細申)

出 クマモトケン

(四志)

ホンジツ、コゼンサンジ、シロヤマシホヨリ、カクリヨダンシングキ、サイゴフ・キリノ・ヘンミ・ムラタイカ、センシ、ホカコフフク、ヨツテチンテイセリト、カゴシ

マヨリ、ホフアリタリ、コノダンゴホフニヨヨブ、

五〇ノ七

発局 官報 第五十一号 カジキ分局 九月廿四日

午後三時三十分 七十六字

着局 第百二十五号 長崎分局 九月廿四日

届 ナガサキケンレイ

出 カゴシマケンレイ

ホンジツ、クワンゲン、カゴシマシロヤマエコウゲキ、

ソククワイサイゴウタカモリ、キリノトシアキ、ソノ

タウノトリ、アルイハコウフクイタシソロ、コノダン

ゴツウチニヲヨビソロ、

五〇ノ八

発局 官報 第百二十四号 クマモト分局 九月廿四

日 午十一時 六十式字

着局 第百三十九号 長崎分局 九月廿四日

届 ナガサキケンレイ

出 クマモトケンゴンレイ

ホンジツゴゼンサンジ、シロヤマシホウヨリ、カクリ

ヨダンシンゲキ、サイゴウ、キリノ、ヘンミ、ムラタ

イカセンシ、ホカコウフクセシヨシ、ホウチアリ、

五〇ノ九

発局 官報 第九十一号 カジキ分局 九月廿四日

午後八時五十分 七十四字

着局 第一一号 長崎分局 九月廿五日

届 ナガサキケンレイ

出 タノウラ、アンドウチウケイシ

コンゴゼンサンジシンゲキ、ゴセンハチジサンジウフ

ン、タタチイヤム、サイコウ、キリノ、ムラタ、ヘン

ミ、ベツプ、カツテトウウチトリ、ソノタコウフクス、

メイアリ、ゴアンシンアレ、

五〇ノ一〇

過刻入御覽候電報ハ短文ニテ、不分有之候処、尚又福

原大佐ヨリ別紙之通報知有之候ニ付、最早御承知可有

之トハ存候得共、為念写シ御廻シ申候也、

九月廿四日

井上海軍少佐

北島長崎県令殿

昨夜ヨリ今朝ニ至リ、大進撃、終ニ西郷・桐野以下数

百人、悉ク討取り鹿兒島地方粗平定セリ、

九月廿四日

福原大佐

井上少佐^(宛)

五〇ノ二

カシキ分局 九月廿五日 午セ二時十分

出 カシキ、カコシマカリテウ

^(子)

ホンジツサフキヨウヨリ、クワンゲン、カゴシマシロ
ヤマヘ、コウゲキアイナリソロトコロ、ソククワイノ
サイゴウ、キリノ、ソノタウチトリ、アルイハコフフ
クイタシソロ、コノタンホウチオヨフ、

五〇ノ二

発局 官報 第四号 カシキ分局 九月廿五日 午二^(マ)

時二〇分 一〇〇字

着局 第十四号 長崎分局 九月廿五日

届 長崎県

出 カコシマケン

^(子)

ホンジツサフキヨフヨリ、クワンゲンカコシマシロヤ
マエコウゲキアイナリソロトコロ、ソククワイサイコ
ウタカモリ、キリノトシアキ、ソノタウチトリ、アル
イハコウフクイタシソロジャウ、コノダンヨココロエ
マデニ、ゴツウチヲヨブ、

五〇ノ二

発局 官報 第三十号 クマモト分局 九月廿五日

午前十時 九十五字

着局 第卅二号 長崎分局 九月廿五日

届 キタシマケンレイ

出 クマモトチンタイ

グンダンホンエイヨリ、サノトウリホウチアリ、サク
ジツクワンゲンシロヤマヲセメ、ハチヂタタカイヨサ
ム、サイコウ、キリノ、ムラタ、ヘンミ、ベツプ、イ
ケノウエ、イカキヨカイノモノ、コトゴトクシシ、ト
ウチマツタクヘイテイス、

五〇ノ二

発局 官報 第百八十二号 日本ハシ分局 九月廿五

日 午ゴ十一時三十分 八十三字

着局 第五三号 長崎分局 九月廿五日

届 ナカサケン

出 ヲラクボナイムキヤウ

サクニジウヨツカゴセンシジ、カゴシマゾクサウヨコ
ウゲキ、サイゴウ、キリノ、ムラタ、ソノホカウチト
リ、コウフクニンスメイ、ヨナジクハチジ、マツタク
ヘイテイノカクホウアリ、コノダンツウチス、

五一 甑島脱走深見休ハラ捕縛通知

五ノ一

去ル十四日甑島於テ、巡查之服帽等ヲ奪ヒ、脱走致シ候賊徒之内五名、別紙電報之通捕縛候段、只今鹿兒島安藤中警視ヨリ報知有之候ニ付、別紙相添申上置候也、

十年九月廿五日

警視局出張

二等中警部石澤謹吾[㊟]

長崎県令北島秀朝殿

電報写

甑島ヨリ脱走セシ深見久八・山下重太・原田始・大山善太・小川筑太、右五名捕縛ス、

九月廿五日前九時四十五分発

安藤中警視

石澤警部

五ノ二

明治 九月廿五日受同月同日稟
主任八等属
十年 九月廿五日決同月同日行
畑島徳次郎[㊟]

一令 書記官

(朱) 庶第百廿号

御通知並警察所御達按伺

在鹿兒島安藤中警視ヨリ脱走ノ賊五名捕縛ノ旨、別紙ノ通電報有之候ニ付、此段及御通知候也、

十年九月

北島長崎県令

第四旅団参謀長

品川陸軍中佐殿

別紙電報写ヲ添ル

警察所

在鹿兒島安藤中警視ヨリ、脱賊五名捕縛ノ旨、別紙ノ通電報有之候ニ付、為心得此旨相達候事、

十年九月

長崎県令北島秀朝

別紙電報写ヲ添ル、

五ノ三

発局 官報 第十一号 カシキ分局 九月廿五日 午
九時四五分 五十七字

着局 第三五号 長崎分局 九月廿五日

届 ナカサキケン

出 カコシマ、アントウチウケイシ

コジキシマヨリ、タツソウセシ、フカミキユウハチ、ヤマシタジユウダ、ハラダハシメ、ヨロヤコゼンダ、ヨガワチクタ、ミギコメイ、ホバクス、

タノウラ

午前八時

五二 池邊吉十郎捕縛通知

発局 官報 第三十七号 クマモト局 十月十七日 午

後十二時四十分 七十五字

着局 第六十二号 長崎局 十月十七日

届 コウチタイシヨキカン

出 クマモトトミヲカゴンレイ

(朱)「文書係ニ可留置、但シ非常電信袋ニ入レ置クベシ」
クマモトゾククワイイケベキチジュウロウ、カコシマケ

ンカコホリヤマゴウニヨイテ、ホバクノムネ、サクシウ
ロクニチ、アンドウチウケイシヨリ、ホウチアリ、コノ
ダンツウチス、

五三 西郷以下可愛岳突出通知

参謀部

砲兵分遣隊

遊撃第五大隊

両隊

秀朝

ホンジツ、サツゾクコンキヨ、マツタクスク、シカルニ、
サイゴウ・キリノイカセイヘイスウヒヤクヲヒキイ、エ
ノタケノゼツベキヲヨヂノボリ、ワガセウヘイセンヲヌ
キヤブリ、ニシニムカイダツソウ、タダイマビゲキチウ
ナリ、シカシマンイチソノチエ、トツシユツモハカラレ
ズ、ツイテハソノチケイビムキ、モツトモゲンジウニ、
シキウヘンニヨウズルノシユダンアルベシト、サンゲン
ヨリ、コンニチホウチアリ、ヨツテココロエノタメホウ
チス、

右熊本ヨリ本日午前十一時四分ハツ、
(月日記入なし、八月十九日カ)

五四 高見原出張会計官ヨリ熊本へ電報ノヨシ

昨日午後二時、三田井へ賊三拾名計リ切り込ミシ由シ、

今夜高見原へ襲来モ計ラレス、時宜ニヨリ高見原引揚ル
モ計ラレス、此段御報知ス、
右長谷川大尉ヨリ本日報知、
(月日記入なし、八月二十二日カ)

候処、奸民兵威ヲ恐レ、已ニ解散ノ色ヲ見候ニ付、此上
ハ速ニ魁首等ヲ搜索捕縛可及糺問候得共、不取敢此段及
御届候也、

明治十年四月六日

大分県権令香川眞一

長崎上等裁判所

検事御中

中津暴徒書類綴

一 大分県権令届書 四月六日

四月一日

午後九時十五分小倉水島ヨリ

中津支庁焼失、官員散乱シテ士民動揺甚敷ヨシ、

午後二時十五分小倉松田警部ヨリ

昨夜十二時中津士族百余名暴発シ、支庁等ヲ火、官吏ヲ

暴殺シタル旨、八屋ヨリ急報アリ、

午後三時五十分小倉支庁水島ヨリ

中津士族百名ハカリ暴発、昨夜十二時コロ支庁江放火シ、

支庁長其他官吏ヲ殺シ、資金ヲ奪ヒ、大分ノ方へ向ケ相

越シタル赴ニ付、

(以下抹消)

ヨリ薩賊ノ陣ニ投ス、猶本月二日中津支庁下宇佐郡一小
区ヨリ党民蜂起、用務所・学校・吏員之宅ヲ悉ク焼毀、
宇佐・下毛両郡ヨリ豊後国国東郡半面ニ波及スルヲ以テ、

四月二日午後八時十二分小倉支庁

警部・巡查、警視隊ト共ニ、昨五日同所へ為鎮撫致発向

中津暴徒ノ模様ハ、中津ノ士族僅三十名計少年輩而已、

後トハ他方ヨリ集マリタル者ナラントノコトニテ、人数ハ分ラネト、其挙動ハ何レ百人ニ近カラント思フ、其内ニ彦山ノ士族多シトノ説アリ、中津ハ警部巡查荅人モナシ、ヨリテ士民乱暴放火ノ恐レアルニ付、士族ハ顔ヲ立テ巡邏スレトモ、後トニ徒党ノ者残り居ルカノ様子ニテ安心セス、然レトモ之処分スル人ナク、且ツ大分本県モ何レ昨夜ハ事アリシナラント思フ、サスレハ本庁ヨリ官員出張モアルヘシ、頗ル困ルトノ事ニテ中津士族中ヨリ依頼トソ、只今一人見ヘタリ、サレト暴徒秋月ニ出テタルコトナレ、他ニ構フノ暇ナシ、ヨリテ辞リニ及フ、為念上申ス、

午前十時三十五分小倉支庁

中津暴徒未タ判然セズ、日田へ起シタルト云フ説アレトモ、多分大分ニ向キタルヘシ、巨魁ハ増田宗太郎・梅谷^(末)安五郎等ニテ人数ハ八十程ナイフ、

四月三日午後十時五十分

先刻宇佐・下毛土民暴起ノ事申上タル後、唯今中津区長ヨリ申出タルハ、其初宇佐郡ヨリ起リ、又山國谷ヨリ起リ、其勢頗ル烈シク、既ニ中津へ迫リタル由ニテ、鎮庄

方依頼アリ、依テ馬関へ出兵ヲ申起タリ、

四月四日午後七時小倉ヨリ

大分県宇佐・下毛土民暴動ハ、宇佐郡赤尾村辺ヨリ起リ、宇佐四日市村辺ノ区戸長其他富豪ノ宅ヲ毀チ、或ハ火ヲ放チ、下毛郡へ乱入シ、同数ヶ所へ火ヲ放チ、中津士族防キノ為メ八十名計繰出シ空砲ヲ放ツト雖モ、凡ソ二万計ノ人数ナレハ、退散ノ体ナシ、ヨツテ八十ノ銃ヲ発ス、彼レ忽チ散乱ス、然レトモ再来モ難計ト、又士族六十名ヲ繰出タリト、大分ニ出タル賊ハ豊後タテ石ニ止リ、同志ヲ募リ、一昨三日午後立石ヲ発シ、海陸二手ニ分レ大分ニ迫ル、県官ハ籠城シテ互ニ砲戦スルト云、日出、杵築ノ士族ハ更ニ賊ニ不応ヨシ、右中津区長ヨリ申起タリ、

五日午前十一時 小倉

中津暴徒ヲ大分本庁下ニテ追撃ノ模様ハ、先刻申上タル中津区長ノ報知ト変ラス、尤宇佐旧神官及ヒ豊後高田村辺ノ者多シ、即今賊徒ハ各処ニテハ決シテ同志ヲ募ル模様ナリ云々、下毛郡ノ土民ハ中津士族ノ出張シテ打払ヒタルユエ、最早鎮定ノ模様ナリト、只今大分エ探偵ニ行

キ者引取タリ、当管内六大区ハ氣遣ナシ、豊津士族モ異状ナシ、

午後九時

大分ニ出タル賊ハ、海軍三百計別府村へ上陸進撃シ、賊ハ朝見谷へ逃ケ往ク故、海軍八直ニ引揚タル由、依テ賊ハ由布院谷ヨリ内ノ牧ノ方へ向ケ赴タル由ニテ、警視隊ハ大分ヨリ竹田通り、坂梨へ引返シタル由、因テハ賊ハ(菊池郡)ブシニ(大津)出ルナラント中津ニテ風聞アル、

二 第二号 八日夜馬関ヨリ

本日当地着後、陸軍運輸局長田村副監督へ面会仕、同人ヨリ承リ候次第、乍聊本日午前第一号ヲ以申上置候後、尚又当地出張参謀部長ヨリ承リ候次第モ有之、仍テ不取敢以電報申上置候(八日午後七時頃 電信ヲ云フ)儀ニ有之、委詳ハ別紙ニテ御了承被下度、則供御覽候也、

一 今日ノ探訪ニ仍レハ、大分ノ遁賊ハ肥後国ニ重峠ニ拠リ、警視隊之ニ向フトノ手配リ云マト、参謀部ノ咄ニ御座候、

一 賊徒等ノ景況ヲ電信ニ托スルニハ、地方長官ノ検査ヲ

受ズデハ通信不致旨、当馬関電信局ヨリ申出候、是レハ何レモ同様之儀ニ候得者致方モ無之、漸ク此度ハ参謀部長ノ証印ニテ通信出来申候、尚此後モ当参謀へ依

願通信可申上ト存候、当参謀ハ長屋陸軍中佐ニ有之、諸事約束仕置候、此段御承知置被下度候、尤モ此後電信ニテ申上ル程ノ事ハ無之儀ニ推察仕候、○風波少ク平キ候間、明朝小倉渡海ノ上ハ尚見分可申上候也、

杉本檢事殿

河内書記官殿

笠原忠家

各侍史

(別紙)

大分県下暴挙之概略

十年三月卅一日午後十二時頃、中津支配下士族田舎新聞社長増田宗太郎・櫻井豊一郎・梅谷安良・大分郡淵村平民後藤準平等巨魁トシテ、其党類凡ソ五六十人、支庁井区裁判所・警察署其他官員ノ寓宅等一時ニ集襲シ、支庁長馬淵二等属始官員三名其為メニ横死シ、其他官員數輩賊ノ圍繞ヲ脱スルコトヲ得ル、賊公金ヲ掠奪シ、去ル同四月一日午後一時右脱出セシ巡查一名急ヲ報シ来ル、当支庁(大分)直チニ在来ノ巡查并旧藩士族等ヲ巡查ニ雇入レ、所々分配ス、此時賊猖獗ヲ極メ愈下ニ

迫ルノ景況アリ、之ヲ遠ク要所ニ防キ、賊ヲシテ一步モ庁下ニ入ラシメス、追撃捕拿スルノ善ナルニ如カズト雖トモ、銃器彈藥共ニ匱乏、之ヲ行フ能ワズ、幸ヒ県庁旧府内ノ城内ニ在リ、未タ要害一ニヲ存セリ、之ニ仍テ兼テ借入レ有ル処ノ銃器ヲ以テ城壁ニ掘テ固守シ、県庁ヲシテ賊ノ蹂躪ヲ受ケシメザルヲ守トシ、既ニ配布セシ高崎辺ノ要所ニ在ルノ兵モ彼レト小戦スルノ後、強テ彼ニ抗セス速ニ城ニ入り、哨兵数名ヲシテ彼レノ来ルベキ街口ニ散布シ、以テ之ヲ待ツ、是ヨリ先キ賊襲来ノ確報ヲ得ルヤ、市中老幼ノ者ヲシテ危難ヲ避ケシメ、此準備全ク終ルニ及テ、彼レ果シテ来リ、於此我哨兵忽チ発射シ、彼レノ乱入ヲ支へ、一ツハ守兵ニ其来襲ヲ報スルノ号砲ニ充ツ、砲戦數分時ニシテ賊近傍則舎ヲ焼テ、左辺ヨリ城ニ迫リ、内外砲戦一時ヨリ五時ニ至リ、彼レ抜ク可ラザルヲ覚知シ退散スルノ際、懲役場又市中三ヶ所ニ放火シ、午后六時退散ス、同三日朝肥後坂梨在陣ノ東京警視隊一小隊来県ス、此時賊別府村辺ニ在ルノ報アルヲ以テ、直チニ該地ニ向フ、当県巡查モ是ト共ニ発ス、尔後未タ賊ノ進退挙動ヲ詳カニセズト雖トモ、当庁ヲ攻撃セシノ挙動ヲ以テ、

彼レノ強弱概知スルニ足り、鎮定近キニ在ルベシ、庁下放火モ格別蔓延セズシテ鎮火シ、民情安穩、一時避難ノ者追々帰家スルニ至ル、

昨三日上申之通り午前五時頃警視隊着、直チニ本庁ヲ距ル^{三十分}濱ノ市ニ繰出シ、時ニ賊ノ哨兵一名来ルアリ、捕テ糾問シ、賊別府ニ在ルヲ詳カニシ、直ニ路ヲ本支両道ニ取り分撃^{本縣巡警モ隨行}、木道ノ兵午前八時過ヲ以テ濱脇村ニ達スレハ、賊既ニ南方嶮山ノ内ニ逃逸セリ、蓋シ是ヨリ先キ海面淺間艦ノ来ルヲ見テ狼狽、先ヲ争フテ逃レタリシナラン、少頃アリテ海浜及ヒ支道ノ兵モ亦来会シ、共ニ逃賊ヲ追跡シテ、南方ノ嶮山ヲ攻撃スレトモ、賊巧ニ嶮峰深林ヲ右旋左折シ、距離漸ク遠カリ、加ルニ警視兵ハ兼程遠路ヲ急行シ、疲勞セシヲ以テ遠ク偵者ヲ放テ午后二時頃惣兵別府ニ引揚、海兵直ニ乗艦、午後四時抜錨ス、尔後各方ヨリノ報知ニ依レハ、賊ハ速見郡東山村・大分郡時松ヲ經テ小狭間村ニ至リ、馬數頭ヲ強奪シ、速見郡川上村ノ内字嶽本ニ出テ、又馬足三十頭計、人夫多人数ヲ強募シ、同郡谷水村ノ内字湯ノ平ニ投宿、四日午前第八時頃発程、玖珠郡湯坪

村ニ泊シタリト云フ、其伺フ処ハ、肥后国宮ノ原ヲ經テ隈府ノ賊ニ投セントスルナルベシ、彼レ過ル所沿道ノ用務所及富戸ノ金ヲ掠奪シ、横行実ニ甚シ、

一豊前国宇佐郡以西土民蜂起、各所横逆至ラザルナク、

漸ク東行去ルノ警報三日午後八時着、直ニ鎮撫ノ手下サント欲スレトモ、時ニ賊跡未タ確詳ナラズ、且大分郡庄内谷水村土民蜂起ノ慮リアリ

庄内谷ハ巨魁、
津平ノ郷甲也

民左右ニ起ラハ、僅カノ現員ニテ警備上隔靴搔痒ノ嘆

不少ニ付、先ツ防禦ヲ縮メ、要衝ヲ固守シ遊兵ヲ以テ

進ミ、降ルヲ撫テ反ヲ討チ、速カニ良民ノ疾苦ヲ極ハ

メント警視兵エ協議手配リ中、終ニ豊后国東郡ニ連

及シ、既ニ高田村ヨリ杳掛村ノ間村々里正・富戸・学

校等ヲ打壞シ、又ハ焼燼シ、為ニ杵築村ニ及バントシ、

勢ヒ最モ熾ナル旨連綿報知アルニ付、四日午前別府滯

陣ノ警視兵二手ニ分チ、一手ハ本道中津ニ向ケ、本県

巡查三十名及支庁詰県官六名之ニ從ヒ、一手ハ支道杵

築ヨリ高田ニ向ヒ、本県巡查二十名之ニ隨ヒ進発セリ、

仍テ忽チ平定ニ歸スベシト思ハル、尚委細ハ后報ニ讓

ル、

一前記庄内谷ノ内、第三大区廿五小区人民百五十名計リ、

用務所ニ集合、貢金割戻シヲ強請ス、区戸長百端説諭スレトモ服セサル旨、管理ノ分署ヘ急報アリ、仍テ直チニ巡查出張セシガ、到底暴挙難計ト、四日午前第四時急報アルヲ以テ、直ニ巡查二十四名ヲシテ帶劍携銃セシメ、警部之ヲ引卒派遣セシガ、未タ至ラズシテ既ニ説諭ニ服シ退散セリ、

一賊ヨリ諸方ニ掲記セシ檄文アリ、左ニ臚記ス、

(頭誌)此文ニハ騰芳ノ緊談ヲナキヲ採ノ難ト云フ
今我神州ノ大勢ヲ視ルニ、魯國ハ欲ヲ北海道ニ逞フシ、

英國ハ涎ヲ大平海ニ流シ、亜國モ亦人ニ与フルヲ欲セ

サル者ノ如シ、加之討台ノ役ヨリ怨ヲ近接ノ清國ニ結

ヒ、四方皆ナ敵國、勢ノ危キ累卵甞ナラス、此時ニ際

シ宜シク外勢ヲ張テ内情ヲ鎖スベシ、而却テ政府ニシ

テ大吏 天皇陛下ノ聖明ヲ壅閉シ、妄リニ敕旨ヲ矯メ、

内國ヲ虐使シ外夷ニ阿順シ、苟且偷安國權ヲ失墜シ、

私意專横民權ヲ削滅シ、卑屈極リナク顔之厚シ、之ニ

次クニ金貨濫出国債年々加ハリ、我 皇祖二千五百卅

余年来金匱不欠ノ独立 帝國ニシテ、遂ニ外夷ノ制御

ヲ受ケシメントス、嗚乎人心アル者天之ヲ何トカ云ハ

ンヤ、曩キニ前參議江藤・前原氏ノ如キ、國權民權ノ

不立ヲ慨歎シ、挽回ヲ謀ル者ヲ目スルニ賊ヲ以テシ、毫モ大義名分ノ在ル所ヲ問ハス、之ヲ刑戮シ殺滅シ、又陸軍大將正三位西郷隆盛公ヲ始メ、少将篠原・桐野等ノ忠臣ヲ刺客ノ刃ニ斃サントノ大逆無道、天地モ共ニ容レズ神人同シク憤ル所、之ヲ倒シ之ヲ覆シ、以テ国基ヲ確定シ後來ノ安全ヲ堅固ナラシムルハ、臣子ノ職分人民ノ義務尽サザルベカラズ、今頃聞ク、西郷公 闕下ニ至ラズ、而シテ賊吏私人之ヲ妨ルト、余輩亦 神州ノ一民之ヲ傍觀坐視スルニ忍ビズ、投袂奮起シ賊ヲ南豊ニ討セント欲ス、凡ソ我同志国民ノ義、臣子ノ分ヲ尽サント欲セハ、速カニ馳セ会シ共ニ俱ニ賊吏ヲ討シ、之ヲ鑿シ忠臣義士ノ進路ヲ開キ、直ニ旌旗ヲ東シ、元惡ノ首級ヲ断チ、速カニ寰宇清澄ノ功ヲ奏シ、上ハ歴世 皇恩ノ万一ニ報答シ、下ハ人民天賦ノ民権ヲ回復シ、国威海外万国ニ拡張シ、以テ独立帝国ノ面目ヲ改新センコトヲ希望ス、唯其正邪ノ分善惡ノ別、大義名分ノ在ル所ニ至テハ、天鑑上ニ在リ、夫レ誰カ之ヲ誣ン、

明治十年三月三十一日

新政党

三 第三号 四月九日便報

三ノ一

昨八日馬関ヨリ第一号・二号以郵便呈送仕置候後、今朝当小倉へ渡海、直ニ支庁長水島殿へ面会承り候ニ、

大分其他ノ景況即今大略左之通ニ御座候趣、

一中津ノ賊徒ハ大分ヲ去ルノ後踪跡分ラズ、察スルニ肥後地ニ入込候云々、

一同賊ノ内松本某元代官ト云フ中津ニ残りタル同志ヲ募ル為メ

ニ、其者ノ郷里高田國東郡迄歸り來ルニ、戸長ノ策ニ陥リ、

土人ノ為メニ屠殺セラル、ト云フ、然ルニ同夜頃果シ

テ中津ヨリ廿人計モ内上族ハ名位ト云フ同地迄集來ル処、是者土人

ノ為メニ捕縛セラレシト云フ、実ニ他ノ乱暴ノ土民ニ

比スレハ、其智愚雲泥ノ違ヒ有之候、

一昨日中上置候三郡ノ土寇ハ実ニ慘毒ヲ極メ、区戸長ノ

宅・用務所・学校・富戸等ノ如キハ、到ル処焼キ立候

趣、尤モ即今最早平定、中津土族モ申合セ土寇ヲ鎮圧

ニ尽力候云々此ハ脱走外ノ純良ナ、ル土族ニ可有之ト云

一彦山ニ福岡ノ残賊入込タル云々ハ、初ヨリ齒牙ニ懸ケ

候程之事ニハ無之、日々所々ニテ就縛有之候趣ニ候、

右小倉ニ而承知之次第勿々申上候也、

杉本檢事殿

河内書記官殿

一中津へハ大分県小原書記官出張有之趣、尤鎮撫之為メ
巡査引連レ、日田地方ヨリ押来候由、其地内務書記官
モ一名出張致候趣ニ有之候、

再伸、本日直ニ走車、中津へ罷越候間、乱暴人・潜
候土寇巨魁等之名前ハ委詳聞調可申上候也、

三二

去ル二日払曉、賊徒八十名大分県庁江迫リ、県官不殘
籠城防禦致候由、阿蘇郡出張之警視隊来抗ス、賊城ノ
難拔ヲ測候哉、速見郡由布院溪之方へ逃散シ、折節淺
間艦入港、全隊上陸致候由、昨今右賊阿蘇郡宮之原町
へ繰込、二重峠ノ賊ト合併致候趣ニ相聞申候、其他相
変候義無之候、此段及御回答候也、

十年四月七日

桑原七等出仕

野田権少檢事殿

四 第四号 四月十日中津ヨリ

昨九日小倉ヨリ第三号郵呈後、本日中午着、見聞之景
況大略左之通御座候、

一中津暴発之徒ハ去ル四日湯ノ原ヲ発シ、千町無田通、
(大分県大分郡)
(玖珠郡)

田野ノ中村、嶽ノ湯ヲ經テ、午后八時宮ノ原ヲ通行ス、
(熊本県阿蘇郡)

然ルニ坂梨口警視三番隊ノ斥候ハ、賊ノ通行シタル後
五日午前七時宮ノ原ニ到着ス、賊徒ハ宮ノ原ヨリ二重
(阿蘇郡)

嶽ニ向ヒ走リタル処、同所滞陣ノ薩賊容易ニ之ヲ入レ
(熊本郡)

ズ、終ニ砲発ニ及ブヨシ、此方ノ賊并人夫等近傍へ散
乱シ、警視見張所ニテ指押へ、五日夜十二時迄宮ノ原

警視ノ本営ニ拘引スル者百余名ニ及ブ云々、支庁ニテ
之咄ニ有之候、

一土寇ハ最早全ク平定、本日迄ニ捕縛スル者百余名ニ及
ブト云フ、

一土寇ノ巨魁ハ別ニ無之趣、察スルニ左ノ書面ヨリ煽動
セラレタルモノ欵、

方今官吏ノ徒、上ハ

皇上ノ宸襟ヲ惱シ、下ハ人民
ノ苦情ヲ顧ズ、私意ヲ逞シ収額ヲ極メ、殘忍苛刻至
ラサル所ナシ、我輩憤激ニ堪ヘズ、之ヲ掃除セント
欲ス、各県モ亦同論ニ出テ、本月廿六日佐賀、同廿
七日福岡、同卅日秋月、皆共ニ義兵ヲ挙ケ鎮台巡查

セラレタルモノ欵、

方今官吏ノ徒、上ハ

皇上ノ宸襟ヲ惱シ、下ハ人民
ノ苦情ヲ顧ズ、私意ヲ逞シ収額ヲ極メ、殘忍苛刻至
ラサル所ナシ、我輩憤激ニ堪ヘズ、之ヲ掃除セント
欲ス、各県モ亦同論ニ出テ、本月廿六日佐賀、同廿
七日福岡、同卅日秋月、皆共ニ義兵ヲ挙ケ鎮台巡查

セラレタルモノ欵、

方今官吏ノ徒、上ハ

皇上ノ宸襟ヲ惱シ、下ハ人民
ノ苦情ヲ顧ズ、私意ヲ逞シ収額ヲ極メ、殘忍苛刻至
ラサル所ナシ、我輩憤激ニ堪ヘズ、之ヲ掃除セント
欲ス、各県モ亦同論ニ出テ、本月廿六日佐賀、同廿
七日福岡、同卅日秋月、皆共ニ義兵ヲ挙ケ鎮台巡查

セラレタルモノ欵、

方今官吏ノ徒、上ハ

皇上ノ宸襟ヲ惱シ、下ハ人民
ノ苦情ヲ顧ズ、私意ヲ逞シ収額ヲ極メ、殘忍苛刻至
ラサル所ナシ、我輩憤激ニ堪ヘズ、之ヲ掃除セント
欲ス、各県モ亦同論ニ出テ、本月廿六日佐賀、同廿
七日福岡、同卅日秋月、皆共ニ義兵ヲ挙ケ鎮台巡查

ヲ鑿ニセリ、我輩亦時機ニ後レズ本日事ヲ挙ケ、賊吏ヲ誅戮シ、上ハ 皇上ノ御慮ヲ安シ、下ハ人民ノ艱苦ヲ救ハント欲ス、諺ニ謂、上ニ習フ下ト、区戸長等モ亦官威ヲ仮リテ人民ヲ苦メ、無用ノ民費ヲ増シ私慾ヲ謀ル等、不埒ノ所業少カラズ、依テ人民方モ此時ヲ失ハス各申合セ、右等ノ義詳細探索ヲ遂ケ申出候ニ於テハ、乍チ捕縛シテ吟味ノ上処分ニ及ブ可シ、尤モ罪明白ナル者ハ直ニ召捕差出候テモ不苦候事、

明治十年三月

新政党軍議所

両豊人民衆中

一 右ノ寇ノ為メ火災ニ懼リタル区戸長其他ノ家邸等、最モ夥敷キ数ニ有之趣ニテ、当時専ラ調査中ナリト云、

一 暴徒十餘ノ強奪シタル金高凡ソ二千七百円余ニシテ、其内二百円ハ官金之内、

一 第三号ニ申上置候中津ヨリ第二回目夜四日ニ脱走シタル十九人、高田ニテ就縛云々ハ実事ニテ、其姓名モ亦判然、田舎新聞ニ相見候、

一 当中津ニ去ル七日小原大分県並書記官属官数名出張、仮庁ヲ開

キ専ラ民政尽力中ニ有之候、尤台兵モ渡邊大尉ノ率タル兵百廿五名計屯在有之候趣ニ御座候、

一 前文ノ陳述ノ二重獄辺ニテ拘引ノ賊中ニ、巨魁増田其他ノ者ハ無之趣、遂ニ薩賊ノ中ニ入込シモノカトモ被察候云々ノ評ニ有之候、

一 豊後旧各藩ノ士族ハ這回方向ヲ失ヒシ者ハ無之趣、尤高田元高原藩ノ士族少々加リ候ト云フ、

右之概況ニテ別ニ変事モ無之候様相見候間、直ニ発足帰崎之心算ニ御座候、尚御用も有之候ハ、本月十四五日ノ内馬関外トハマ浜町川崎屋ヘ向ケ電信ニテ被仰越度、同所ニテ十六日下リ汽船ヲ相待居申候、此段匆々申上置候也、

十年四月十日

忠家

杉本様
各侍史
河内様

追テ河内様へ別紙ヲ呈セザル趣

五 大分県権令照会 四月十一日

本月八日附ヨリ及御届候通、当県管下豊前国宇佐郡一小区ヨリ嶺民蜂起、用務所・学校・吏員之宅等ヲ焼毀横逆

至ラサルナク、漸ク宇佐・下毛兩郡ヨリ豊後国国東郡ニ波及スルヲ以、警部・巡查、警視隊ト共ニ為鎮撫、各所江発向候処、至ル処卓假始ト鎮靜ニ及ヒ候ニ付、魁首始メ党類ヲ搜索、連々逮捕、警部ニ於テ一応糾問可及候得共、追々多数之人員ニ相及ヒ候ニ付、御所より御出張ニも可相成義ニ候ハ、速ニ御出向有之度、此段及御照會候也、

明治十年四月十一日

大分県権令香川眞一

長崎上等裁判所

検事局御中

九等出仕三浦芳介萩地進撃始末書

(広島裁判所書類所収)

判事補三浦芳介

明治十年五月二十九日午後四時、萩区裁判所長判事補松原佐久ヨリ、書ヲ以テ萩地ノ暴挙ヲ山口ニ報ス、即刻鳥居判事ノ命ニ依リ其書ヲ携ヘ県庁ニ出テ、事故ヲ県令ニ告ケ事ヲ議ス、三十日午前五時林検事ヨリ、只今検事局ヘ出頭可致段達シアルニ付、直チニ出頭致シタル処、暫

時検事局雇ニテ警部巡查ヲ率ヒ、萩地鎮撫ノ為メ出張ヲ命セラル、ニ付、午前十時斥候トシテ八等警部高橋英一、県庁雇人森勝英等ヲシテ巡查十五名ヲ引率シ、先ツ佐々並駅ニ至ラシム、是ヨリ先キ賊ノ斥候該駅ニ至リ、正午ナルヲ以テ兵狼ヲ旅店ニ認ム、高橋等頓ニ之ヲ偵知シ急ニ賊ヲ襲フ、賊狼狼兵器ヲ取ルニ暇ナク、四方ニ散乱スルヲ以テ、小銃六七挺・彈藥若干ヲ分捕ス、午後一時林検事ニ随ヒ県庁ヲ発ス、八等属秋良貞臣・富田國輔・九等警部宮原貞亮・十等属山田春三等ニ各巡查十名ヲ引率セシメ、芳介ハ検事ノ命ニ依リ、宮原・富田ノ兩隊ヲ率ヒ直チニ板橋ニ進ム、秋良・山田ノ兩隊ハ県庁ヲ距ル一里ノ所ニ備ヘテ前隊ノ報ヲ待ツ、林検事之カ指揮ヲ為シ、以テ前後ノ緩急ニ応セントス、午後四時山田・秋良ノ兩隊ヨリ死士五名ヲ拔擢シ、篠口ヨリ板橋ニ向ケテ出発シ、林検事ハ本道ヨリ山田・秋良等ヲ率ヒテ薄暮板橋ニ着、日將ニ没セントスルヲ以テ根拠ヲ板橋ニ占メ、兵ヲ三手ニ分カチ、一隊ヲ佐々並峠ニ進メ、一隊ヲ板橋峠ニ置キ、路傍ニ罌ヲ築キ之ヲ守リ、一隊ヲ板橋ニ留メ、土人ヲ募テ所々ノ要所ニ配賦シ敵情ヲ候ハシム、林検事板橋ニ在テ總隊ヲ指揮シ、芳介墨ニ在テ諸隊ヲ巡視ス、午

後十時山田ノ隊ヲ佐々並嶮ニ出シ、高橋・大森ノ隊ト交代セシム、午前三時又富田ノ隊ヲシテ山田ノ隊ト交代セシム、時ニ鷄鳴曉ヲ報スト雖トモ、朝霧深フシテ咫尺ヲ弁スルコト能ハス、賊之レニ乗シ急ニ佐々並嶮ヲ襲フ、富田等応戦、警報板橋ニ至ル、是ニ於テ検事ノ命ニ依リ一隊ヲ板橋ニ残シ、芳介ハ諸隊ヲ率ヒ佐々並嶮ニ至リ、富田等ノ隊ト合シ賊ニ当タル、賊退テ山林ニ潜伏シ吾隊ヲ狙撃ス、依テ諸隊ヲ三手ニ分ケ進ンテ之ニ迫ル、賊敗レテ新旧両道ニ遁ル、即チ隊伍ヲ整エ餐ヲ伝フ、時ニ林検事佐々並嶮ニ着、是ニ於テ富田・高橋・宮原・大森等ノ隊ヲ佐々並嶮ニ根拠トナシ、林検事之レヲ指揮ス、芳介ハ山田・秋良ノ隊ヲ率ヒ、佐々並嶮ヲ発シテ進行ス、山田ノ隊ハ古道ヨリシ、秋良ノ隊ハ新道ヨリス、賊ノ斥候古道ニ在リ山田ノ隊之ニ会フ、時ニ該隊僅カ十名ニ不滿、賊吾兵ノ寡キヲ侮リ、要所ニ拠リ之レヲ拒ク、山田等奮戦撃テ之ヲ退ケ、追フテ手斧切村ニ至ル、賊櫻ノ茶屋ヲ以テ屯所トス、兵員凡四十余名、時ニ新道ノ兵モ賊ノ屯所ニ突入ス、賊本道及ヒ間道ヨリ遁ル、因テ隊ヲ纏メ進ンテ一升谷ノ半腹ニ至リ、翌ヲ築テ守ラント、議

未タ決セス、賊七十人ハカリ間ヲ窺ヒ深谷ヨリ潛進シ、突然来リテ抜刀相迫ル、秋良ノ隊路右ノ山ニ在リテ拒戦、山田ノ隊本路ニ当リテ又之レヲ拒ク、賊魁町田梅之進自ラ姓名ヲ唱へ、刀ヲ拔キ叱咤先登シテ我隊ヲ衝ク、忽チ砲丸ノ為メ斃ル、賊等首魁ヲ失ヒ支フヘカラサルヲ知り町田ヲ捨テ、散走ス、我兵之ニ乗ス、芳介、町田ノ遺骸ヲ検スルニ、「ミネール」ノ銃丸左ノ頭腦ヨリ右ノ頭後ヲ貫ク、「ピストール」ノ銃丸モ又左ノ面部ヲ貫ク是レ秋良カ、打ノ所ナリ、検シ了ツテ之レヲ刎ネ、首級ヲ在佐々並嶮林検事ニ贈リ捷ヲ報ス、検事之ヲ県庁ニ送付スト、于時五月三十一日午後四時二十分ナリ、我兵寡ク且勞ル、ヲ以テ敢テ深入セス、一タヒ一升谷ノ坂頂ニ退キ、土壘二ヶ所ヲ築キ之レヲ守リ、援ヲ林検事ニ乞ヒ、以テ進撃ヲ謀ラントス、検事即チ富田・高橋・宮原等ノ隊ヲ率ヒ、午後五時三十分一升谷ノ壘ニ至ル、相議シテ兵ヲ分チ秋良・山田ノ隊ヲ間道ニ出シ「古戦場越へ」、其余ノ諸隊ヲ率ヒ検事ト共ニ明木駅ニ進ム、賊ノ残兵間道ヨリ一升谷ノ壘ニ迫ル、秋良・山田等会戦シテ一撃、之レヲ掃ヒ尚進ンテ黄昏明木ニ至ル、兵器其他捕獲スル所多シ、既ニシテ賊又繪堂口ヨリ明木ニ迫ル、番兵撃テ之レヲ退ク、午後十時全隊

進ンテ伴ヶ坂ニ至リ、罌ヲ築ヒテ之ヲ守ル、六月一日午前二時月ノ上ルヲ待テ、曉ニ乘シテ諸隊ヲ率ヒ直ニ萩地ニ進ム、鶯谷濁淵ノ賊風驟、皆銃器ヲ捨テ、遁ル、進路残賊ヲ捕縛シ、午前五時萩地ニ入り、准門寺ニ屯シテ萩地鎮定ノ事ヲ山口ニ報ス、是ニ於テ萩地全ク平定セリ、

明治十一年三月二十九日 三浦芳介

東京曙新聞社説 明治十年

一 西郷蹶起ノ風聞 二月一日

浮説流言ハ決シテ之ヲ信用スヘキニ非サル也、其ノ之ヲ信用スヘキニ非サルモ、浮説流言ノ紛々トシテ群起シ、之カ爲ニ天下ノ人士ヲシテ或ハ蹶起セシメ、或ハ疑懼セシメ、遂ニ恟々ノ勢ヲ發生シ來ルモノハ、必ラス其ノ原因スル所ナキニ非サル可シ、世人ハ昨今人心ノ恟々トシテ穩妥ナラス、風声鶴哭猶ホ心胆ヲ寒カラシムルカ如キノ景況ヲ望ミ、果シテ何等ノ想像ヲ下シ來レル乎、今日ハ浮説流言モ少シク熾焉ニ歸シタルカ如クナレ、昨

日迄ノ景況ヲ觀察スレハ、三人市虎ノ訛伝ハ人ヲシテ其真タルヲ疑ハシメ、市ニ人ヲ殺スノ浮言ハ、曾母モ爲ニ機ヲ下ラントスルカ如クナリキ、其ノ浮説流言ノ斯ク迄ニ人心ヲ恟々タラシムルノ根源ヲ尋ヌレハ、尽ク鹿児島ヨリ原因スルニ非サルハナク、其ノ鹿児島ニ属目スルノ此ノ如ク甚タシキハ、西郷君カ該地ニ高蹈シテ、一世ノ名望ヲ総攬スルヨリ胚胎セシニ非サルハナシ、然ルニ今日ニ至リテハ、彼ノ世上ニ喋々タリシ各種ノ風説ノ如キハ、全ク無根ノ流言ニ過キサリシヲ明カニスルニ足ル者アリト雖モ、巷談街説ノ人心ヲ動搖セシムルコト彼カ如ク盛ンナリシハ、自ラ人心ヲ動搖セシムルノ原因アリテ之ヲ致セシ者ナルヘシ、若シ將タ然ラスンハ、仮令如何ニ流言ノ紛々タルモ、安ンソ其ノ人心ニ感染スルノ此ノ如キニ至ルヘケンヤ、

曩ニ道路ノ説ク所ニ拠レハ、西郷君ハ三条ノ所見ヲ抱テ政府ニ質問スルノ心組アリシトモ言イ、又タ昨冬歲晚比ハ己ニ上京ヲ決セラレタリトモ言イ、又タ一説ニハ熊本騒動ノ後チ無根ノ流言鹿児島ニ伝播シ、東京ハ大變亂ニテ、勅奏ノ貴官ハ跡ヲ政府ニ止メサル程ノ瓦解ナリ扨ト、跡方モナキコトヲ言触セシニヨリ、西郷氏モ之ヲ馬耳風

シ聞ニ忍ヒス、万一ノ用意位イハセラレタルカ如シトモ云フ、而シテ政府ノ貴官中某々ノ諸公ノ如キハ、西郷君ノ上京ヲ聞キ、頗ル苦心焦慮スル所アリテ、已ニ云々ノ議ヲ発セラレタリ杯ト巷間ニ唱道スト雖モ、是等ハ蓋シ無根ノ流伝ニ相違ナカル可シ、何トナレハ西郷氏ハ漫リニ兵旗ヲ忽卒ニ飄ヘシ、志念ヲ干戈ニ達セントスルカ如キノ小丈夫ニ非サルハ、世人ノ堅ク信認スル所ナレハ、仮令所見ヲ国事ニ抱キ、足ヲ鹿兎鳥ニ挙テ東京ニ臨マル、コトアル共、豈妄リニ謂レナキ疎暴過激ノ処為ニ出ルコトアルヘケンヤ、然ラハ則チ氏カ上京ノ故ヲ以テ、政府ノ諸公ハ宜ク忌疑ヲ抱キ畏懼ヲ生シ、為ニ苦心焦慮スル所アルカ如キノ謂レアルヘカラス、故ニ斯ノ如キノ街説ハ、固ヨリ齒牙ニ挾ムニモ足ラサレ共、何レニ致セ今度ノ形跡ニ於テ、西郷氏ハ己ニ丘園ニ高臥シ田圃ニ長嘯セラル、モ、敢テ國家ノ為ニ憂念ヲ去ルコトナク、一大事ト見ルコトアレハ、直チニ袂ヲ撃テ蹶起セラル、ニ相違ナキヲ明カニスルニ至リタルカ如ク也、

回顧スルニ、曩ニ日報記者カ西郷氏ヲ評スルニ、功成リ名遂テ身退キ、静ニ田園ノ閑日月ヲ樂ムノ外ニ望ミナキヲ以テスルヤ、我輩ハ頗ル其論評ノ奇ナルヲ怪ミ、為ニ西

郷氏カ進退ノ実況ヲ概記シ、功成リ名遂テ身ヲ故山ニ退隱セラレタルニ非サルカ如キヲ陳シ、併セテ内事トナク外事トナク、我邦ノ一大事トモ云フヘキ場合ニ臨ンテハ、其ノ必ラス決然トシテ鹿兎城ヲ出ツヘキヲ想像セリ（昨年十一月廿一日ノ曙新聞ヲ見ヨ）、而シテ今日ノ事タルヤ、氏ノ所見ハ果シテ巷説ノ如ク、政府ニ質問スル所アラントセシカ、將タ無根ノ訛言ノ為ニ万一ノ用意ヲセラレタルニ止マリシカハ、未タ我輩ノ確知シ能ハサル所ナリト雖モ、其ノ國家ノ安危ヲ憂フルニ切ニシテ、匪躬ノ節ヲ守ルニ堅キハ復タ疑フヘカラサル所ニシテ、彼ノ田園ノ閑日月ヲ樂ムノ外ニ望ミナキノ論評ノ如キハ、己ニ世人ノ信用ヲ保ツコト能ハサルニ至レリト云フ可シ、西郷氏ニシテ国事ヲ憂フルニ、切ニ万一二致スノ志念ヲ抱カル、ヲ感セシムルノ此ノ如クナルヤ、其ノ影響ハ自然ニ裨益ヲ人民ニ及ホス者アルヲ知ル可シ、今夫レ政府ニシテ、万一二タモ其政ヲ失ヒ、容易ナラサル關係ヲ生スルニ至レハ、氏ハ決シテ之ヲ傍觀坐視スルコトナカルヘシ、若シ袂ヲ奮ツテ蹶起スルニ至レハ、是レ氏ヲシテ閑地ヲ田園ニ樂ムコトヲ得サラシムル也、是レ豈我カ政府ノ諸公カ欲スル所ナランヤ、然ラハ則チ諸公カ、國家

ノ安危蒼生ノ休戚ヲ將來ニ計畫スル所以ニ於テ、更ニ一層ノ注意ヲ尽サレンコトハ、敢テ言フ俟タサル所ニシテ、取モ直サス國家ノ洪福ナリ、億兆ノ大幸ナリト言ハサルヘカラス、嗚呼西郷氏ハ其レ亦タ一世ノ英傑ナル哉、

二 世人何ニヨリ西郷氏ヲ推戴スルヤ 二月二日

我輩カ昨日ノ紙上ニ開陳セシカ如ク、西郷氏カ一タヒ足ヲ鹿兒島ニ挙ントスルカ如キノ風評ヲ、世上ニ伝播スルヤ、世人ハ大率其ノ巷説ニ感染セラレ、道ニ聽キ途ニ説テ、尽ク鹿兒城ヲ視目スルニ非サルハナク、或ハ西郷公ハ何クヘカ姿ヲ隱サレ、桐野氏ハ士族ヲ引率シテ東京ニ上ラル、ト言イ、或ハ西郷・桐野ノ両氏ハ政府ニ出願ノ筋アリテ彼地ヲ出帆サレタリト言イ、甚タシキハ薩船七艘已ニ房州立山辺ニ出沒スルニ至レリト言イ、又ハ横濱・品川ヘ来着ノ郵船ニ乗組ノ人数ハ大概薩人ニテ、上陸ノ後ハ小梅辺ニ止宿スルカ如シト迄喋々スルニ至レリ、知ラス、識者ハ世人カ斯ノ如ク薩州ノ挙動ニ属目スルヲ望ミ、果シテ何等ノ感触ヲ生シ来レル乎、
我輩ノ感触ヲ此ニ發露セントスルニ臨ミ、先ツ一言ヲ要

スル所ナカルヘカラス、蓋シ世人カ斯克迄ニ西郷氏ニ属目シ、未タ其ノ所見ノ如何ヲ問ハス、挙動ノ如何ヲモ明カニセスシテ万人一同觀望ヲ一途ニ注キ、敢々呶々トシテ其ノ動靜ヲ議シ、遂ニ人心ヲ恟々タラシムルニ至ルハ、西郷氏ノ德望能ク一世ノ人心ヲ收攬スルニ足リ、其ノ進退能ク天下ノ輕重ヲ為スニ足ル者アルカ為ニシテ、其ノ一代ノ英傑タルハ復タ喋々ノ弁ヲ要スルヲ待タサル可シ、西郷氏ハ此ノ德望アルカ為ニ此ノ瞻仰ヲ得ル者ニシテ、即チ指ヲ当世ノ豪傑ニ屈スレハ、衆口一同首トシテ西郷氏ヲ推ス所以ナリト雖トモ、我輩ハ此ノ如ク西郷氏ヲ推戴スル者ニ向ツテ、其ノ之ヲ推戴スルハ果シテ何等ノ実拠ニ出ルカヲ問ハサルヲ得ス、蓋シ君等カ西郷氏ヲ推戴スルハ則チ可ナリト雖トモ、其ノ之ヲ推戴スルヤ尽ク氏カ所見ヲ詳悉シテ、其ノ政略ハ何等ノ目的ニ在ルヲ確知スルノ後ニ出テタル乎、將タ又タ其ノ政略ヲ實施セハ、日本帝國ニ至大ノ幸福ヲ与フルニ相違ナキヲ信認スル所アルカ為メナル乎、若シ其ノ政略ノ如何ヲ確知シテ氏ノ目的ヲ実行スルニ非サレハ、我カ帝國ノ幸福ヲ經營スルニ足サルヲ知ルノ後ニ在ラシメハ、其ノ之ヲ推戴スルモ決シテ無理トハナスヘカラスト雖トモ、未タ之ヲ信認

スルノ実拠ヲモ得ルコト能ハスシテ妄リニ之ヲ尊奉シ、其ノ之ヲ尊奉スル所以ヲ問ヘハ、公ノ心事ハ日月ト共ニ皎々タル者ナリ、公ハ至誠憂國ノ君子ナリト言フニ過キサルカ如キハ、実ニ浮躁ノ甚タシキ者ニシテ、如何ソ之ヲ目シテ確乎タル政党ト言フ可ケンヤ、

然リト雖モ已ニ蓋世ノ功業ヲ致シテ天下ノ重望ヲ負ヒ、加フルニ志操制行ノ一世ニ信認ヲ与フルニ足ル者アレハ、仮令其ノ所見ノ如何ヲ詳悉セス、政略ノ如何ヲ確知セサルモ、嗚然トシテ其ノ出処進退ヲ仰望シ、附驥攀竜ノ志念ヲ生スルニ至ルハ、蓋シ亦タ已ムヲ得サル所アルヲ以テ、暫ク世人カ容易ニ西郷氏ヲ推戴スルヲ咎メサルヘシト雖モ、我輩ハ窃ニ二世ヲ挙テ一人ノ出処行蔵ニ属目シ、従ツテ恟々ノ勢ヲ生スルヲ見レハ、実ニ慨然トシテ楽ムコトヲ得サル者ナキニ非ス、見ヨ、西郷氏ハ良シヤ何程ノ英雄ナルニモセヨ、何程ノ豪傑ナルニモセヨ、条理上ヨリ之ヲ言ヘハ、陸軍大将ノ職務ヲ除クノ外、敢テ吾人ノ福否ニ關係ヲ与フルノ地位ヲ有スル所ナキニ非スヤ、而シテ其ノ出処行蔵ヲ以テ天下ヲ軽重スルニ足ルカ如ク、世人モ亦タ其ノ一挙一動ヲ回視シテ、瞻ヲ張り目ヲ仄ムルニ至ルハ、豈其レ日本ノ国安ハ一豪傑ノ手ヲ以テ、之

ヲ揺撼スルニ難カラサルノ国体ナルカ為メナラスヤ、然ラハ則チ我輩カ、已ニ西郷氏ハ一世ノ英傑タルヲ欽スルモ、世人カ其ノ出処ヲ指目シテ之ヲ胸懷ニ措クコト能ハス、訛伝謬説ハ猶ホ人心ヲ騒然タラシムルヲ見テ、為ニ慨然タルヲ免カレサルモ、政体ノ完全タランコトヲ冀望スルヨリハ、亦タ已ヲ得サル所アリト言フ可シ、

若シ將タ已ニ人民ト共ニ、国家ヲ負担スルノ治体ヲ確定スルノ後ニ在テ、代議士ノ首領タル者ノ進退或ハ更迭等ニ就テ事故ヲ生スルコトアレハ、其ノ關係タルヤ直チニ人民ノ福否ニ密渉スル者アルニヨリ、全国ヲ挙テ之ヲ指目シ、或ハ為ニ恟々ノ勢ヲ生スルコトアルモ、固ヨリ怪ムニ足ラスト雖トモ、今ヤ我国ノ人士カ一人ノ出処ニ属目シ、為ニ不穩ノ勢ヲ生スルハ、全ク此類ニ非サルヲ見レハ、窃ニ治体ノ未タ完全ナラサル者アルヲ嘆シ、併セテ國民ト共ニ国家ヲ經營スルノ政体ヲ確乎タラシメ、一人ノ隻手ヲ以テ国安ニ關係ヲ及ホスカ如キノ勢ナカラシムコトヲ冀望スルモ、豈已ヲ得ルニ出ル者ナランヤ、

三 私学校徒ヲ暴徒視スルハ早計 二月十三日

鹿兒島ノ士族ニシテ破裂決潰政府ニ抵抗スルニ至レハ、
實ニ天下ノ一大事變ナリト言ハサル可ラス、故ニ我輩ハ
驅勉トシテ其ノ実況ヲ探知シ、從ツテ其ノ所見ヲ開陳セ
ンコトヲ欲セサルニ非スト雖モ、種々ノ浮説ハ世上ニ伝
播シ、其ノ実況サヘモ未タ正シク之ヲ確知スルコト能ハ
ス、況ンヤ其ノ所見ヲ開陳シ、輿論ノ目的ヲ確定センコ
トヲ試ムルニ於テヨヤ、是レ我輩カ敢テ其ノ職務ニ怠慢
ナルニ非ス、彼ノ取り留メサル風説ヲ容易ニ紙上ニ明記
シテ、人心ヲ恟々タラシムルノ媒介ヲナスト、妄リニ其
ノ事跡ヲ隱蔽シテ臭ヲ掩フニ蓋ヲ以テスルカ如キノ説ヲ
信用スルト俱ニ、記者ノ職分ニ非サルヲ回顧スレハ、筆
ヲ此間ニ執リ以テ其ノ耳目タルノ務メヲ怠ラサルハ、蓋
シ亦タ難カラスヤ、
兼テ世上ニ明カナルカ如ク、私学校ノ青年書生カ去ル一
日ニ於テ彈藥ノ積込ヲ障礙シ、陸軍士官ヲシテ大坂鎮台
ノ命令ヲ全フスルコトヲ得セシメサリシハ、正シク確実
ノ報告タルニ相違ナシト雖モ、其ノ実況ニ於テハ未タ細
密ノ情ヲ極ムル能ハサル也、然ルヲ世人カ遽カニ認メテ
暴徒トナシ、逆徒トナスカ如キハ、寧ろ太早計ニ渉ルコ
トナカラシヤ、若シ世人ノ伝説スルカ如ク、士族カ運搬

ノ彈藥ヲ奪取り、陸軍士官ヲ驅逐スル程ノ所行ニ及ハシ
メハ、直チニ目シテ暴徒トナスモ敢テ不可ナカルヘシト
雖モ、我輩カ昨日ニ報道セシカ如ク、彈藥ヲ積出スニ付
キ火ヲ照シテ深夜之ヲ市街ニ運搬セシヨリ、其ノ不注意
ヲ咎メテ之ヲ抑止スルノ末、言語偶々疎暴ニ涉リタルニ
止マラシメハ、未タ遽ニ暴徒タリ逆徒タリト速了スルコ
トヲ得ヘカラス、且ツ我輩ハ聞知スル所ニ抛レハ、元來
私学校ノ規則ニ於テハ、疋署ヲ屠リ吏員ヲ殺シ、官物ヲ
奪ヒ、民家ヲ焚ク等ノ所行アレハ、之ヲ嚴罰スヘキノ条
規タリト、是ニ由テ之ヲ觀レハ、今度ノ事件ヲシテ一種
別派ノ黨類ニ出テシメハイザ知ラス、聞クカ如ク、私学
校ナル青年生徒ノ所為ニ出テシメハ、マサカニ奪掠ノ所
業ニモ及フマシキカト思ハル、
然ルニ赤龍丸カ彈藥積込ヲ終スシテ遽ニ発艦シタルヲ見
レハ、良シヤ其ノ不注意ヲ咎メタルニ止マルニセヨ、必
ラス穩当ノ所業ナリシニハ非サルヘシト雖モ、赤龍丸モ
亦タ一時脅迫ノ処為ニ渉ルノ余、遽ニ拔錨セシカ如キノ
事情ナシトモ云フヘカラス、ソレハ兎モアレ角モアレ、
私学校ノ生徒カ紛紜ヲ唱フルハ一朝一夕ノコトナラス、
且ツ西郷氏ニ迫リテ同意ヲ促カセシハ、正シク確報タル

ニ相違ナキヲ見レハ、其ノ深夜ニ彈藥ヲ運搬スルノ不注意タルヲ口実トシテ、積込ヲ障害セシナリト見做サル、モ、情勢ノ已ヲ得サル所アリト言ハサルヘカラス、且ツ世上ニ喋々スル各種ノ風説ニ抛レハ、已ニ顯然トシテ反形ヲ露ハシタルカ如シト雖トモ、我輩カ聞知スル所ニテハ、未タ斯迄ノ甚タシキニハ至ラサルヘキカト思ハル、者ナキニモ非サルヲ以テ、更ニ一層ノ確報ヲ得ル迄ハ、未タ充分ニ其ノ是非曲直ヲ開陳シテ、目的ヲ確定センコトヲ與人ニ謀ルコト能ハサル也、

蓋シ鹿児島県ノ青年書生カ、斯迄ニ紛紜ヲ極ムルハ、元來各種ノ誤聞ヨリ一層ノ物議ヲ生シタルカ如ク、其ノ最モ甚タシキニ及ンデハ、政府カ九州ノ土地ヲ抵当トシテ金ヲ外国ヨリ借り入レタリト言イ、或ハ琉球ノ事件ニ付キ支那政府ヨリ詰問ノ次第アリテ、政府ハ甚シキ困却失体ヲ極メタリ杯ト、喋々スルニ至レリト聞ク、此ノ如キノ誤聞ヨリ間違イヲ生シ、傍觀坐視スルニ忍ヒサルノ念慮ヲ起シ、遂ニ紛紜ヲ生シタルナラン乎、(補遺)河村海軍大輔ニシテ、兼テノ目的ノ如ク鹿児島ニ入国シ、今日ノ事情ヲ詳悉シテ説諭鎮撫ノ術ヲ尽シ、破裂ニ至ラシメサルヲ得ハ、独リ国家ノ幸福ノミナラス、亦タ鹿児島ノ為メニ

モ賀スヘケレ共、事件ノ如何ニ終ルヘキカハ、我輩ノ今日ニ推知シ得ル所ニ非サル也、

仮令緩帖平穩ニ終ルコト能ハスシテ、破裂決潰ノ不幸ヲ現スルモ、(國幣)島津公・西郷氏ノ此徒ト共ニ事ヲ謀ラレサルハ論ナク、(新)篠原・村田等ノ諸氏ノ如キモ、敢テ桐野氏ノ下風ニ立ツノ人物ニ非スト聞ケハ(桐野氏ハ此派ノ魁首タルカ如シト云フニ拠リ)、必ラス其挙ニ一致スルニ至ラサルヘシ、然ラハ則チ薩州ヲ挙テ政府ニ抗敵スル者トハ為スヘカラスト雖トモ、若シ不幸ニシテ無事ノ結果ヲ保ツコト能ハス、有功ノ鹿児島ヲシテ政府ト相闘カシムルニ至ラハ、蓋シ亦タ悲シカラスヤ、

四 鹿児島變動ノ遠因 二月十四日

巷説紛々人心恟々與人ノ指目スル所ハ、挙テ鹿児島ニ非サルハナク、道路ノ伝話スル所モ、総テ鹿児島ニ非サルハナシ、然ルニ其ノ變動以來已ニ数日ニ渉ルト雖モ、電信ハ未タ鹿児島ニ架スルニ至ラサルヲ以テ、長崎・熊本ノ電報タリトモ、猶ホ充分ノ確信ヲ置クニ難ク、況シテ其ノ電報サヘモ、容易ニ局外人士ノ耳聞ニ達セサルカ故

ニ、訛伝百出流言紛起、実ニ其ノ適従スル所ヲ知ルニ苦マサルヲ得ス、我輩新聞記者ト雖モ、其ノ紙上ニ明記シテ以テ世人ニ報道スル所ハ、聊カ信拠スヘシト思ハル、者ヲ登録掲載スルニ止マリ、中ニ其ノ確説タルヲ保証スルコト能ハス、自ラ謂フ、此ノ如キモ実ニ已ムヲ得サルニ出ル者アリト、然ルニ昨日ニ至リテハ、所謂巷説モ一層騒然トシ、或ハ何或ハ何ト言フニ至ル、知ラス、世人ハ鹿児島県士族カ變動ヲ今日ニ生スルヲ望ミ、果シテ何等ノ想像ヲ下シ来レル乎、仮令其ノ變動ハ今日ニ発裂スルモ、審カニ禍機ノ胚胎スル所以ヲ尋ヌレハ、其ノ発スルノ日ニ起ルニ非スシテ、夙ニ宿昔ニ包蔵スル者アルヲ知ルニ難カラサル可シ、

庚午ノ冬 朝廷辱クモ前途ノ事容易ナラサルヲ以テ、依頼ノ 詔勅ヲ島津久光公ニ賜ハリ、併セテ西郷氏ヲ聘セラル、ヤ、久光公ハ病アルヲ以テ直チニ其命ニ就カル、コト能ハサリシト雖モ、西郷氏ハ速カニ其徴ニ応シ、辛未ノ春ヲ以テ出京セラレシカ、是時薩兵モ亦タ徵募ヲ辱フシテ近衛兵ニ補セラレタリ、然ルニ当時ノ形勢タルヤ、若シ大改革ヲ行ハントセハ、或ハ干戈ヲ内国ニ動かスニ至ランモ計リ難カリシヲ以テ、薩士ノ故郷ヲ出ルニ当テ

ハ、士官モ頗ル隊士ヲ奨励シ、隊士モ亦タ真ニ決死ノ意アリシト聞ク、而シテ是時ニ当リ、天下有志ノ士カ鹿児島ニ属望スルコト雲ノ如ク、或ハ薩州ニ赴キ、或ハ府下ニ在テ各々有為ノ志ヲ抱クニ非サルハナク、殊ニ当時西郷氏ノ詩作ハ時ニ一死国ニ致スカ如キノ意ヲ含有スルヲ以テ、愈々氏カ非常ノ大策ヲ決セラレンコトヲ想像シ、風雲ニ際会シテ竜鱗ヲ攀ルノ念ヲ淬励スル者ハ、殆ント府下ニ充滿セリ、然ルニ其ノ成跡ニ於テハ、平素ノ冀望ト背馳スルノミナラス、薩藩置県ノ大変革モ無事ノ結果ニ終リシヲ以テ、鹿児島ノ壮士モ其ノ腕力ヲ試ムルニ由ナク、天下悲歌ノ士モ亦タ其ノ冀望ヲ失墜スルニ至レリ、蓋シ此ノ如ク、薩ノ壮士ハ論ナク悲歌激昂ノ士カ、蹶起奮躍シテ、事アレカシト冀望セシ所以ヲ尋ヌレハ、豈其レ戊辰ノ創痍未タ癒ス、腕頭ニ痒キヲ覺ユルカ為ニ非サルヲ得ンヤ、

尔来鹿児島ノ壮士カ扼腕劍シテ功ヲ北門ニ望ムノ志念ハ、曾テ間断ナキカ如ク、無事ニ苦ンテ髀肉ノ肥ルヲ嘆スル者モ、天下幾人ナルヲ知ラス、此ノ如キハ最モ鎮西ニ盛ンナリ、而シテ征韓ノ議ハ夙ニ廟堂ニ行ハレス、支那ノ葛藤ハ平和ノ談判ニ終リ、江華ノ炮撃モ亦タ修好条

規ニ結局セシカ故ニ、如何ニ慷慨ニ鬱勃シ悲歌ニ激昂スルノ徒タリトモ、亦タ其ノ冀望ヲ試ムルニ由ナキヨリハ、如何ソ久フシテ破裂決潰ノ變ナキヲ保ツベケンヤ、殊更鹿兒島ノ如キハ、父トモ兄トモ特ミタル西郷氏・桐野君ノ如キハ、早く去テ國ニ退居シ、壮士モ亦タ其際ヲ以テ兵職ヲ辭シ去リ、共ニ私學校ニ会シ相論談スル所アルヨリハ、西郷氏ノ如キハ固ヨリ、壮士ヲ聳動スルカ如キノ説ヲ為スコトナカル可シト雖モ、其ノ以下ノ人望ヲ有スル者ニシテ、或ハ激烈悲壯ノ談ヲ為シ、更ニ壮士ノ鬱勃ヲ助長スルコトナキニモ非サリシナル可シ、況ンヤ飛語流言ヲ鹿兒島ニ伝フルノ猾智者流アリテ、現ニ壮士ヲ訛伝謬説ニ陥レ、其ノ紛紜ヲ媒介スルノ徒ナキニ非サルニ於テヨヤ、然ラハ則チ薩ノ壮士カ變動ヲ今日ニ生スルモ、敢テ怪ムニ足ラサル者アリト云フヘシ、而シテ熊本・佐賀ノ如キハ已ニ前日ニ暴発シ、久留米・柳川ノ如キモ兼テヨリ扼腕者流ニ富ムノ間ヘアレハ、此ノ事件ニ就テ變乱ヲ生スヘキノ甚説ヲ起スモ、勢ノ宜ク然ルヘキ所ナリ、斯ノ如ク見做シ来レハ、今回ノ變動ヲ以テ遽ニ青天霹靂ノ看ヲナスニモ足ラス、其ノ目的ノ如何ノ間ニ注クモ、自ラ之ヲ推想スルニ容易ナルベケレハ、更ニ喋々ノ弁ヲ

費スヲ要セズト雖モ、唯其レ世人カ巷談街説ニ誤マラレ、從テ疑懼ヲ生スルコト此ノ如キヲ見レハ、我輩ハ尙ニ電報ノ世上ニ公発シテ、障礙ナキ者ハ、政府ヨリ之ヲ新聞紙上ニ登録スルコトヲ許スノ挙アランコトヲ希ハサルヲ得ズ、此ノ如クセバ却テ世人カ謂レナキ疑懼ヲ防遏スルニ足ルベクシテ、即チ前日熊本・萩ノ騒乱ニ当リ、輿論ノ已ニ冀望ヲ此ニ注キタル所ナラスヤ、

五 政府ハ戰報ヲ公表セヨ 二月十五日

鹿兒島ノ變動タルヤ、二三日前ニ在テハ、猶ホ未タ其ノ反狀ノ明白ナルヲ、天下ニ較著ナラシムルニ至ラス、甲語リ乙伝フル所各々其説ヲ異ニシ、更ニ信認ヲ與人ニ与フルコト能ハサリシト雖モ、今日ニ至リテハ前日ニ訛伝ト認メタル者モ確實ノ説トナリ、其ノ虚謬タラント想像セシ者モ、敢テ虚謬ニ非サルカ如キノミナラス、紛紜ノ説ハ一層又タ一歩ヲ進メ、如何ニ之ヲ隱蔽セントスルモ、與人ハ最早其ノ反狀ノ明白ナルヲ認ムルカ如キニ至レリ、去レハトテ、變動ノ徵効ヲ本年一月ノ夜ニ発シタルノ後ハ、全ク其ノ通信ヲ絶シ、国内ノ情況ハ更ニ世上ニ明カ

ナラサルニヨリ、假令電信ノ報道タリトモ充分ノ確信ヲ置クニ難ク、其ノ電信サヘモ皆ナ暗号ニシテ、假令官吏タリトモ、重要ノ職ニ非サルヨリハ何等ノ報道タルヲ確知シ得サルヘク、況シテ外人ノ国事ニ關係ナキ者ノ如キハ、猶更以テ其ノ報告ヲ得ルニ由ナキカ故ニ、千里眼順風耳ヲ具セサルカラニハ、更ニ確乎タル情況ヲ得ルノ道ナシト雖モ、士族カ已ニ四境ノ通路ヲ鎖シテ明カニ抵抗ノ勢ヲ示スハ、絶テ疑フヘキ所ニ非ス、已ニ四境ヲ鎖シテ抵抗ノ勢ヲ示スヨリハ、世上ニ喋々タル風説ノ真否如何ヲ差措キ、自國ニ抛テ背叛ノ状ヲ示スハ一日瞭然タル者ニシテ、如何ソ反形已ニ天下ニ明白ナリト言ハサル可ケンヤ、

然ルニ其ノ動靜ノ確實ナルコトハ、固ヨリ得テ知ルヘカラサルモ、巷談街説ノ我輩カ耳聞ニ達スル者ハ、愈々一層ノ甚タシキヲ極ムルニ至レリ、若シ政府ヨリ貴トキ御沙汰ナカツセハ、^(リ)宜ク其ノ確實ニ近キ者ヲ採摘シテ、一々之ヲ登録スルコトヲ怠ラサル可シト雖モ、昨日ノ紙上ニ報道スルカ如ク、檢事課ヨリ一昨日ヲ以テ嚴重ノ御沙汰アリシカ故ニ、我輩ハ応ニ恭シク其命ヲ奉シ、巷談風説ニ渉ルノ類ハ、謹ンテ之ヲ登録公布スルコトヲ憚カル

可シ、然ルニ世人ハ檢事課ヨリ此ノ御沙汰アリシヲ見テ、謂レナキ見解ヲ下ス者アランモ計ラレサルニ付キ、須ラク一言ヲ此間ニ下サ、ル可ラス、夫レ國家ニ取リテ重要ナル關係ヲ与フルノ變亂アレハ、其ノ事件ヲ新聞紙上ニ掲載スルコトヲ禁スルハ、各國ニモ儘アル習イニテ、決シテ怪シムヘキノコトナラス、已ニ日耳曼公使^(びるまん)ノ如キハ前日熊本・萩ノ變亂ニ臨ミ、政府カ其ノ事件ノ掲載ヲ新聞各社ニ禁セサルヲ見テ、規模ノ濶大ナルヲ美トシ、其ノ本國ニ望ムヘカラサルヲ賞賛セシト聞ク、而シテ有名ナル普國ノ宰相ビスマーク氏カ「加特力」^(かとりつ)教ノ僧徒ヲ追フニ当リ、其ノ事件ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁止セシ時、或ハ其禁ヲ緩ムルノ説ヲ首唱セシニ、ビスマーク氏ハ頭ヲ掉ツテ其非ナルヲ弁シ、一紙ノ記事ハ百万ノ生靈ヲ殘害スルノ變ナキニ非スト語リシト云フ、普國ノ如キモ已ニ此ノ如シ、而シテ檢事課ヨリ沙汰セラレタル次第ハ、敢テ其ノ登録ヲ禁セラレタルニハ非ス、唯々訛伝謬説ヲ記載シ、人心ヲ恟々タラシムルノ愚ヲ予防スルニ在レハ、決シテ之ヲ異事トナスヘカラス、其ノ熊本・萩ノ叛亂ニハ、何等ノ御沙汰アルコトナクシテ、今日ノ變亂ニ此命ヲ聞クハ、則チ關係ノ大小ト政府ノ都合トニ由ル

者ナルヘクシテ、是レ亦固ヨリ怪ムニ足ラス、

検事課ノ御沙汰ハ此ノ如ク至当ニシテ、特ニ我輩記者ノ注意ヲ要スルニ止ルカ故ニ、敢テ喋々ヲ要スルノ理アルコトナシト雖トモ、鹿兒島ノ状況正ニ彼カ如ク、兼テ世人ノ注目セシ河村海軍大輔モ、已ニ神戸ニ帰着セラレタレトモ、其ノ變動ノ模様ヲ伝話スルハ、愈々一層ノ甚タシキヲ加ヘ、殊ニ大久保内務卿カ至急ニ上京セラレタルヨリ、更ニ益々巷談街説ヲ構造シ、最早不日ニ、御親征ヲモ仰セ出サル、ニ至ランカト、想像スルカ如キヲ見レハ、仮令我輩記者カ深重ノ上ニモ丁寧ヲ加ヘ、人心ヲ恟ミタラシメサラント務ムルモ、秘スレハ益々求メ隠セハ愈々探ルハ人情ノ已ヲ得サル所ニシテ、更ニ無根ノ浮説ヲ相伝ヘ、一層騒然ノ勢ヲ助長スルコトナシトモ保証スヘカラサル者アルニ似タリ、

仮令検事課ノ御沙汰ナキモ、我輩記者ハ宜ク探訪ノ及ハシ限リヲ極メ、世人ヲ迷離ニ陥レサル所以ヲ務メサルヘカラス、況ヤ此ノ命令アル以上ハ、固ヨリ更ニ一層ノ注意ヲ要スヘシト雖モ、寸分モ間違ナキ確説トテハ、恐ラクハ之ヲ得ルニ至難ナル可シ、出所儘カナル確説ナラテハ、決シテ之ヲ記載セストセン乎、今度ノ變動ニ就テハ

殆ント記載シ得ルノ事件ナキニ至ルヘシ、去ハトテ全然記載ヲ廢スレハ、愈々訛言ヲ生シ浮説ヲ伝フルハ必然ナリ、然ラハ則チ検事課ヨリ已ニ此ノ御沙汰ヲ發セラル、ヤ、之ニ代フルニ電報ヲ公發スルノ挙ヲ以テセラル、ニ非サレハ、世人ヲシテ浮説訛伝ニ誤ラル、ノ患ヲ脱セシムルハ、殆ント至難ナル者アルヘシ、故ニ我輩ハ今度政府ヨリ電報ヲ公發セラルノ挙アランコトヲ信スルノミナラス、併セテ深ク此ニ回顧セラレンコトヲ望マサルヲ得サル也、

六 鹿兒島討伐ノ迅速ナルヲ期待ス 二月十六日

鹿兒島暴徒ノ反状ハ已ニ天下ニ明カナリ、此ノ反状ノ昭然明白ニシテ、復々疑フベカラザルヲ世上ニ確認セシムルヤ、我輩僑々與人カ指目スル所ヲ察スルニ、政府ノ処分ハ果シテ何等ノ目的ニ出ルト、鹿兒島暴徒ノ挙動ハ、果シテ何等ノ運用ニ出ルトヲ、注視スルニ非ザルナキカ如シ、蓋シ該暴徒ノ反形一たび天下ニ明カニシテ、世人カ此ノ如ク其ノ變動ニ属目シ、政府ト鹿兒島トヲ相對視シテ、其ノ方略ノ如何ニ出ルヲ望ミ、以テ憂喜ヲ託ス

ルカ如キハ、我輩カ今更喋々スル迄モナク、若シ鹿兒島ヲ挙テ叛乱ノ挙ニ出ルアレバ、其兵ノ夥多ニシテ慄悍ナル器械ノ整頓シテ欠乏ナキ、復タ前日佐賀・熊本・萩ノ變動ニ於ルカ如キニ非ザルノミナラズ、一世ノ名望ヲ有スルノ傑士ハ、往々此間ニ退居シテ其意常ニ測ラレズ、天下不平ノ徒ハ常ニ該県ノ挙動ヲ注目シ、以テ一身ノ進退ヲ決セントスルカ為メニシテ、実ニ情勢ノ然ラシムル所ナリト云フ可シ、

斯ノ如キノ情勢ナルカ故ニ、此ノ變動ヲ殆スルニ臨ミ、世人カ彼我ノ方略如何ニ出ルヲ望ミ、以テ憂喜ヲ寓スルモ固ヨリ怪ムベキ所ニ非ザレトモ、此ニ世人カ指目スル所ヲ概言シ、併セテ一片ノ所見ヲ開陳セザルベカラズ、試ニ世人カ此ノ變動ニ属目スル所ヲ挙ンニ、輿論ノ政府ニ冀望スル所ハ、迅速ニ討伐ノ挙ニ出テラレンコトヲ仰クニ非ザルハナク、其ノ鹿兒島暴徒ニ憂慮スル所ハ、一挙シテ長崎ニ臨ミ熊本ヲ圧シ、或ハ鎮西山陽ヲ風靡スルニ至ランヲ、畏ル、ニ非ザルナキカ如シ、

我輩カ所見ヲ以テスルモ、実ニ世人ノ属目スルカ如ク、暫ク鹿兒島ヲ挙テ背叛ノ意ヲ抱ク者トシ、彼カ今日ニ至リテ猶ホ独立ノ体面ヲ具シ、陽ニ兵隊ヲ解散スルモ陰ニ

結合ノ姿ヲ備ヘ、兵器ハ猶ホ藩内ニ貯蔵シテ尽ク之ヲ政府ニ上納セズ、事サヘアレバ忽チ起リテ之ニ応ズルニ充分ナルベシトスルモ、其ノ未タ境外ヲ震圧スルニ遑マアラザルニ際シ、政府ノ決策ハ風雷ヨリモ疾ク、速ニ陸軍ヲ驅テ其ノ四境ニ迫リ、又タ海軍ヲ馳テ海湾ノ諸港ヲ衝キ、鹿兒島ヲシテ其ノ手足ヲ展スヲ得セシメズ、併セテ奔命ニ疲レシムルニ至レハ、其ノ困難タル、特ニ豊公ノ攻伐ヲ受クルノ比ニ止マラズ、如何ニ薩兵ノ慄悍驍雄ニシテ戦闘ニ熟スルモ、兵數ノ夥多ニシテ兵器ニ乏シカラザルモ、恐ラクハ久シキヲ持スルニ堪ヘ難キ者アル可シ、況ンヤ今日ハ未タ薩ノ全国ヲ挙テ一致協合セシ者トモ確認スベカラズ、内未タ固カラザルニ際シ、外其時ニ乗ズルアラバ、或ハ分離反覆ノ變ナシトモ言フベカラズ、情勢此ノ如クナレバ、輿論ヲ挙テ討伐ノ迅速ニ出デンコトヲ冀望スルモ、蓋シ亦タ宜ナラズヤ、

若シ夫レ政府カ追討ノ策ヲ決スルニ遷延シ、未ダ充分ノ方略ヲ運ラスニ及ハズシテ、薩士ノ挙動ハ颯風疾雷ノ如ク、兵ヲ驅テ境外ニ臨ミ、万一ニダモ熊本鎮台ハ之カ為ニ攻陥セラレ、長崎モ之カ擁抱スル所トナルカ如キノ事變ヲ現スルニ至ラン乎、肥前・肥後ハ不平士族ノ巢窟ト

言フモ可ナリ、久留米・柳川ハ政府ニ睚眦スルノ聞ヘアル者ナリ、其他豊・筑ノ士族モ、今日ニ於テ未タ測リ難キノ情勢ナシトスベカラズ、安ゾ是等ノ党類ハ靡然トシテ之ニ響應シ、九州一円ノ騒乱ヲ醸スコトナキヲ必スベケンヤ、変乱ノ甚ダシキ此ノ如クナレバ、山陽・四国ニ於テモ、或ハ如何ナル不逞ヲ企ツル者アラシモ未タ測知シ得ベカラズ、勢イ斯ニ至レバ、精銳ナル陸軍モ容易ニ平定ノ功ヲ奏スルニ難ク、海軍モ殆ント其ノ技量ヲ露ハスニ苦ム者ナキヲ保チ難シ、況ンヤ連戦未タ勝敗ヲ決セズ、相持スルノ久シキニ及ンデハ、各所ノ士族モ亦タ或ハ連衡ヲ謀ル者ナキヲ保ツベカラザルニ於テヨヤ、又

(論題)

タ況ンヤ莊内ノ如キハ、久シク薩ト声息ヲ相通スルノ疑フベカラザルニ於テヨヤ、故ニ今日ノ變動ヲ制スルハ、宜ク迅速ヲ貴ンテ遅緩ヲ忌ムベキハ、識者ヲ俟ザルモ一日之ヲ了解スヘキ所ナリ、去バコソ輿人カ薩士ノ運用ヲ畏ル、ニ、颯風疾雷ノ拳ニ出ンコトヲ以テスルモ、実ニ憂慮ノ適當ナル所ニゾアル、

雖然、我カ政府カ機ニ臨ンテ変ヲ制スルハ、從來常ニ間髪ヲ容レザル者アルカ如シ、今日ノ變動ノ如キモ已ニ其ノ反状ノ明白ナルニ至レバ、必ズ禍毒ノ充滿スルニ至ラ

ズシテ、迅速ノ決策ニ出デラレンコトハ、絶テ疑フベキ所ニ非ズ、而シテ我輩カ此稿ヲ草シ終ラントスルニ臨ミ、忽チ聞ク、大久保内務卿ハ昨夜ヲ以テ神戸ニ着シ、直チニ汽車ニ駕シテ西京ニ赴カレシカ、蓋シ御親征ノ議ヲ翼賛セララル、ニ在ルベシト、其ノ真偽如何ハ我輩ノ確知スル所ニ非ザレトモ、今日ノ情勢此ノ如クナレバ、必ラズ追討ノ大策ヲ迅速ニ決セラレ、輿人ニ安着ヲ与フルノ挙アルベシト信ズル也、

七 鹿兒島士族ハ尽ク一和セルカ 二月十七日

(論題)

我輩之ヲ子輿氏ニ聞ク、天之時不如地之利、地之利不如人之和、ト至レル哉、言ヤ今夫レ禍乱紛起シテ人心恟々トシ、妖氣地ヲ捲テ將ニ戰鬪ヲ開カントスルカ如キノ時ニ当リテハ、其ノ最モ必須緊要トスル所ハ他ニ非ス、即チ簡短ナル一和ノ二字ニ在リト言フ可シ、然ラサルモ天下ノ勢騒然トシテ穩妥ナラス、紛紜ノ機ヲ徵シ禍乱ノ形ヲ現スルニ至レハ、人心互ニ危疑ヲ抱クヲ免カレサルハ情勢ノ然ラシムル所ナリ、人心互ニ危疑ヲ抱キ易キノ時ニ際シ、此ノ緊切ナル一和ノ要点ヲ保ツコト能ハス、議

論相分レ、党類相軋ルカ如キノ不幸ヲ極ムルアレハ、争
テカ其ノ危機ニ堪ルコトヲ得ヘケンヤ、故ニ曰ク、三軍
之敗起于狐疑ト、

鹿兒島暴徒ノ變動一タヒ天下ニ明白ナリシヨリ、與人ヲ
挙テ其ノ情況ノ如何ナルヲ注目スルニ非サルハナシ、夫
レ鹿兒島ハ天下ノ強県ニシテ、平素ニ在テモ世人カ猶ホ
之ヲ顧眄セシ所ナリ、而シテ今ヤ卒然学校党カ此ノ變動
ヲ生スルヨリハ、世ヲ挙テ其ノ情況如何ニ注目スルハ、
敢テ怪ムニ足ラサル所ナリト雖モ、我輩ノ所見ヲ以テス
レハ、此ノ如ク鹿兒島ノ情況ヲ注目スルニ就テハ、宜ク
先ツ該県ノ士族ハ、尽ク一和シテ今日ノ挙動ニ従事シタ
ルカ、将タ又タ此ノ變動ヲ起シタル種族ハ、鹿兒島中一
箇ノ党類ニ止マルカヲ問ハサルヘカラス、精細ノ事情ハ
更ニ我輩ノ耳聞ニ達セサルニヨリ、固ヨリ得テ之ヲ確知
スルニ由ナシト雖モ、側カニ巷説ニ伝フル所ニ拠レハ、今
日ノ變動ヲ起シタル者ハ特ニ学校派ノ党類ニ止マリ、鹿
兒島ヲ挙テ尽ク此ノ事件ニ一和セシニモ非サルカ如シ、
已ニ鹿兒島ヲ挙テ一和セシ者ニ非サル可シトセン乎、或
ハ議論相分レ党類相軋シ、未タ戦ヲ開カスシテ、国内先
ツ軋ルカ如キノ患ナキヲ保ツヘカラス、斯ル危機ノ勢ア

ルニ乗シ、政府ハ大兵ヲ驅リテ国境ニ迫リ、海軍ハ海港
ヲ衝クニ至レハ、著名ナル薩兵モ内自ラ相乱レ、必ラス
防禦ニ苦ム者アルヲ免カレサル可シ、去レハ巷説ニ伝フ
ルカ如ク、今日ノ情況ニ於テハ、未タ薩ノ一國ヲシテ一
和ヲ凝結スルニ至ラシメサレハ、政府ニ於テモ甚タ之ヲ
制スルニ難カラサル可シト思ハル、也、

更ニ其ノ形跡ニ就テ其ノ情況ヲ察スルニ、若シ鹿兒島ヲ
挙テ一和スルニ至ラハ、薩士ノ慄慄ニシテ進ムニ鋭ナル、
必ラス自國ニ躊躇シテ曠日弥久セス、一挙シテ境外ニ臨
ムニ至ル可シ、然ルニ事變以後已ニ半月ニ涉リ、未タ其
ノ羽翼ヲ展スノ此ニ至ラサルカ如キヲ見レハ、或ハ巷説
ノ如ク党派相分レ、充分ノ挙動ヲ逞フスルニ難キ者アル
ヲ知ルヘカラス、然ラハ則チ鹿兒島ハ今日ニ在テ、已ニ
一和ヲ失フニ似タリト言フモ亦タ可ナルカ如クナリト雖
モ、知ラス、我カ政府ノ情況ハ果シテ如何ナルヘキ乎、
鹿兒島ハ無比ノ強県ニシテ、今日ノ變動ヲ生スルニ至レ
ハ、假令其ノ種類ハ学校党ニ止ルトスルモ、其ノ強敵タ
ルヤ、前日佐賀・熊本・萩ノ比ニ非ルニヨリ、政府ト雖
モ必ラス深ク之ヲ憂慮セラル所ナキニ非サルヘシ、苟モ
之ヲ憂慮セラルレハ、要路ノ諸公ハ共ニ一和ヲ保チ、只

管国安ヲ保全シ、億兆ヲ綏定スルノ方略ヲ議シ、決シテ互ニ危疑ヲ抱キ猜嫌ヲ挾ムカ如キコトナカル可シト雖モ、

一和ノ事變ニ緊要ナル、実ニ病客ノ良医ヲ欠クヘカラサルカ如キノ關係ヲ有スルヲ見レハ、如何ソ益々一和ヲ失

ハサランコトヲ政府ノ諸公ニ望マサルニ忍ヒンヤ、

(共に唐氏武將、安史の乱を平定す)
郭子儀・李光弼ノ名將ヲ以テスラ、猶ホ九節度ノ兵□ニ

潰ユルノ變アルヲ免カレサリシハ、即チ諸將カ互ニ危疑

ヲ抱キ猜嫌ヲ挾ミ、各自ノ一和ヲ失ヒシカ為メナラスヤ、

嗚呼一和ハ平素ニ在テモ固ヨリ之ヲ貴重スヘシト雖モ、

其ノ事變ニ緊要ナルハ更ニ益々甚矣、我輩カ説ヲ此ニ及

フモ、恐ラクハ無用ノ贅言ニ非サルヘキ也、

八 鹿兒島ヲ挙ゲテ叛徒ナラバ征討令ヲ出セ

二月十九日

誰カ鹿兒島ノ事件ニ就テ所見ヲ開陳センコトヲ我輩ニ要

求スルヤ、我輩ハ今日ニ當リ、殆ント冥霧ノ間ニ座シテ

水山ヲ望ムカ如キノ状アルヲ免カレサル也、已ニ疑惑ノ

為ニ困メラレテ、胸裏ノ明鏡ハ、將ニ其光ヲ失ハントス

ルヨリハ、他人ニ向ツテ疑義ヲ質問スルモ亦タ斯ニ遑マ

アラサラントス、争テカ他人ノ為ニ其ノ所見ヲ開陳スル
コトヲ得ヘケンヤ、

世人モ亦タ我輩ト共ニ之ヲ回視セヨ、鹿兒島暴徒カ反状

ノ明白ナルハ、輿論ノ絶テ疑ヲ容レサル所ニシテ、我輩

モ亦タ数々其然ルヲ紙上ニ開陳セリト雖モ、彼ノ彈藥ノ

積込ヲ抑留シ、海軍省所轄ノ小銃彈藥ヲ奪ヒ取り、太平

丸ヲ拘留セシカ如キノ暴挙ハ、果シテ所謂學校党ノ所行

ニ止マル乎、將タ又タ鹿兒島県ヲ挙テ此ノ挙動ニ及ヒタ

ル乎、世上ニ伝播スル所ノ説ニ從ヘハ、學校党カ其ノ暴

行ヲ働ラキタルハ明々白々ニシテ、毫モ疑ヲ挾ムヘカラ

スト雖モ、鹿兒島ヲ挙テ此ノ挙動ニ及ヒタルト否トハ、

未タ世人ノ確知セサル所ナリ、

雖然、退イテ我カ政府ノ模様如何ヲ見レハ、要路ノ諸公

ヨリ著名ノ紳士ニ至ル迄、足ヲ挙テ西南ニ奔走シ、數大

隊ノ兵隊ヲ大坂或ハ九州ニ派遣セラレ、専ラ軍陣ノ用意

ニ及ミタルカ如キニ非スヤ、若シ鹿兒島ノ事件ヲシテ、

一種ノ暴徒ニ止マラシメハ、斯迄ノ大兵ヲ繰リ出サ、ル

ニ至ラス、鹿兒島県庁ニ命シテ之ヲ捕縛セシムルカ、或

ハ巡查ヲ遣ハシ之ヲ逮捕セシメテ可ナルヘシト雖モ、政

府ノ戒心ハ中々此ニ止マラス、此ノ大兵ヲ動かサル、ヨ

見レハ、其ノ形跡ハ隠然トシテ鹿兒島全県ニ臨マル、カ
如キ者アルニ似タリ、

此ノ大兵ヲ動かスニ就テノ入費ハ、其數殆ント今日ニ計
ラレサルヘシ、入費ハ則チ人民ノ租稅ヨリ出ル者ナラス
ヤ、膏血ヨリ出ル所ノ租稅ヲ兵馬ノ用ニ散スルハ、国安
ヲ保全シ億兆ヲ安寧ナラシムルカ為メニシテ、決シテ謂
レナク之ヲ費用スルノ理アルヘカラス、而シテ政府カ其
ノ入費ヲ今日ニ惜マスシテ、此ノ如ク大兵ヲ動かサル、
ヲ見レハ、豈ニ其レ鹿兒島ヲ挙テ明カニ反状ヲ顯ハセシ
者アル乎、反状已ニ顯然タレハ、宜ク追討ノ命ヲ公布シ
テ、薩ノ罪状ヲ天下ニ明カニセラル、ニ至ルヘシ、然ル
ニ今日ニ至ル迄未ダ追討ノ命アルヲ聞カスシテ、唯々大
兵ヲ派遣セラル、ヲ見レハ、世人カ其ノ事情ヲ察スルニ
苦ムモ、亦タ其理ナシト云フヘカラス、若シ將タ鹿兒島
ヲ挙テ反状ヲ顯ハスニ至ラサルモ、學校党ノ多勢ニシテ
剛強ナル、此ノ大兵ヲ用ユルニ非サレハ之ヲ討滅シ能ハ
ストスルモ、亦タ追討ノ命ヲ公發シテ輿論ノ方向ヲ確定
セラルヘキノ筈ナリ、然ルヲ未ダ追討ノ公布ヲ發セラレ
サルハ、知ラズ、果シテ如何ナル御都合ナルヘキ乎、
若シ薩ノ反状ハ未ダ明白ナラサルモ、聖上カ西京ニ御

駐軍遊ハサル、カ故ニ、万一ノ不慮ニ備ヘラル、ナリト
セン乎、大坂ニハ鎮台ノ本營アリ、加フルニ 行幸ノ際
已ニ警備ノ嚴ナルヲ以テス、不慮ノ備ヘモ亦タ已ニ至レ
ルカ如シ、若シ猶ホ足ラズトセハ、特ニ近衛兵ヲ出張セ
シメテ可ナルニ似タリ、然ルニ出張ノ兵ハ近衛兵ニ止マ
ラズ、已ニ鎮台兵數大隊ヲ繰リ出シテ、併モ九州ニ赴カ
シムルノ説アルヲ見レハ、誰カ薩ニ臨ムカ為メナリトセ
サランヤ、其ノ大兵ヲ動かサル、コト此ノ如クナレハ、
薩ノ反状ハ已ニ確乎タル者アルカ為メナルヘシ、而シテ
今日ニ至リテ未ダ追討ノ命ヲ仰セ出サレザルカラニハ、
我輩ガ感フモ強チニ其理ナシト云フヘカラス、

薩州一國ノ反状ハ未ダ明白ナラサレ共、如何ナル變動ヲ
生シ出サンモ測リ難キニ付キ、此ノ大兵ヲ派遣シ以テ未
然ノ事變ニ備ヘラル、ナリトセン乎、鹿兒島ノ隠然トシ
テ西南ノ隅ニ拠リ、虎ノ嶋ヲ負フカ如キノ勢アルハ、敢
テ今日ニ始マリシニ非サルカ故ニ、政府ハ預メ其ノ注意
ナカリシニ非サル可シ、然ラハ則チ此ノ如ク大兵ヲ派出
シ、手配ノ容易ナラサルハ、今回ノ事變ヨリ起ルニ非ス
ト言フモ、争テカ之ヲ信認スル者アランヤ、
將タ又タ鹿兒島全県ノ反状ハ、假令今日ニ明白ナラサル

モ、彼カ久シク画一ノ政途ニ恭順ナラス、兵器ヲ県内ニ貯蔵シ、民費ノ精算ヲ明カニセサルカ如キノ事實アリテ、之ヲ不問ニ附スヘカラサルカ故ニ、此ノ大兵ヲ動カシ以テ之ヲ破壊セラル、ナリトセン乎、此ノ如キモ亦タ其ノ理由ヲ明カニシテ討伐ノ已ヲ得サルヲ公告シ、以テ人心ヲ一定セラルヘキノ理ナリ、而シテ我カ政府ハ大兵ヲ今日ニ動かサル、モ、未タ追討ノ命ナキヲ以テ、我輩モ亦タ聊カ此ニ惑ハサルヲ得サル者アリト雖トモ、若シ已ニ追討ノ命ヲ発セラル、カ、或ハ戦争ニ至ラスシテ兵ヲ掃サル、ノ両端ヲ決スルニ至ラハ、応ニ充分ノ意見ヲ詳悉シテ、其ノ職分ヲ尽ス所アルヘキ也、

九 鹿兒島追討令下ル 二月二十一日

我輩カ謹ンテ昨日ノ紙上ニ登錄セシカ如ク、我カ政府ハ断然鹿兒島県下暴徒ノ追討ヲ仰セ出サレタリ、蓋シ此ノ暴徒カ變動ノ状ヲ露ハセシヨリ已ニ二旬ノ時日ニ涉リ、世人ハ其ノ反形ノ瞭然トシテ疑フヘカラサルヲ喋々スト雖モ、政府ハ未タ追討ノ命ヲ下サレサルヨリ、其ノ如何ノ情況タルヲ察知スルニ由ナク、或ハ各種ノ想像ヲ起ス

ニ至リシカ、今日ヨリ之ヲ觀レハ、政府カ容易ニ討伐ノ命ヲ布レサリシモ、暴徒ノ愈々寛恕スヘカラサルノ罪跡アルニ非サレハ、遽ニ手ヲ下サレサリシカ如ク、其ノ臣民ヲ処スル所以ニ於テ宜ク体裁ノ然ルヘキ者ナル可シ、已ニ追討ノ命ヲ下サル、ヤ、朝廷迅速ニ有栖川親王ニ節刀ヲ授ケラレ、征討ノ総督ヲ命シ玉フタリ、事變ノ切迫スルコト此ノ如クナレハ、我輩記者モ、宜ク預メ其ノ模様ヲ世人ニ報道センコトヲ怠ルヘカラサルカ如シト雖モ、今日ノ事ハ政府トテモ精細ノ情況ヲ得ルニ難キ者ナキニ非サリシトノコトニテ、巷説ニ拠レハ、已ニ一旦ハ有栖川親王ヲ勅使トシテ鹿兒島ニ臨マシメラルノ御詮議アリシト聞ク、若シ其ノ聞ク所ヲシテ確實ナラシメハ、政府ニ於テモ暴徒カ銃器ヲ携ヘテ熊本県下ニ乱入スルノ挙アルニ及ヒ、愈々征討ノ命ヲ確定セラレタルカ如シ、然ラハ則チ我輩記者カ今日迄精細ノ事情ヲ得ルニ苦ミシモ、絶テ怪ムヘキニ非サル也、

然リト雖モ我カ政府カ今日ノ變動ヲ処セントスルニハ、到底兵力ヲ用ユルニ非サレハ、之ヲ鎮撫スヘカラサルノ所見ヲ預定セラレタルニ似タルハ、決シテ疑フヘカラサル所ナリキ、世人或ハ未タ追討ノ命ヲ発セラレスシテ、

兵隊ヲ連日ニ繰り出サル、ヲ望ミ、又タ鹿兒島ノ模様モ變動ノ甚タシキニ至ラサルカ如キヲ聞キ、頗ル不審ヲ此間ニ挾ム者ナキニ非サリシト雖トモ、想フニ政府ハ必ラス用兵ノ已ムヘカラサルヲ確知シ、預メ充分ノ手配ヲ尽サレタル者ナルヘシ、而シテ其ノ手配ハ、今日愈々兵力ヲ要セサルヘカラサルノ徴ヲ現スルニ及ヒ、始メテ無用ノ憂慮ニ出ルニ非サリシヲ明カニスルニ至レリ、

若シ政府ノ嚴戒ヲシテ充分ノ整頓ニ至ラシメス、賊徒ヲシテ卒然進取ノ方略ニ出テシメハ、或ハ憂慮ノ勢ナキニ非スト雖モ、今日ハ政府ノ嚴戒モ已ニ全ク充備セシカ如ク、各港ニ備ヘタル戦艦ハ警報ト共ニ運轉スルコトヲ自在ナラシメ、陸軍ノ用意ハ特ニ熊本鎮台ニ嚴密ナルノミナラス、繼ニ廣島・大坂ノ鎮台ヲ以テシ、且ツ東京ヨリ出張ノ兵ハ、或ハ九州ニ臨ミ、或ハ大坂ニ止マリ、電信ノ一報ト共ニ數大隊ノ兵士ヲ動カスニ充分ナルヲ見レハ、政府力嚴戒ノ周密ナル、配賦ノ整頓セル、恰モ軍牙相接シ、星羅相列ナルカ如クニシテ、其ノ鹿兒島ヲ縮圧スルノ勢ヲ皇張スルハ論ナク、万一匪徒ノ中間ニ起リテ暴徒ニ応スル者アルモ、復タ憂フルニ足ラサルカ如キノ形ヲ備ヘラレタリト言フヘシ、

更ニ鹿兒島暴徒ノ形勢ヲ見ルニ、若シ政府ノ嚴戒此ノ如ク周密ナラサルニ乗シ、所謂疾雷不及掩耳ノ勢ヲ以テ迅速ニ境外ニ臨ミ、已ニ熊本鎮台ヲ破リ各処要勝ノ地ヲ擁扼シテ、鎮西ヲ風靡スルカ如キノ勢哉ヲ現ハスニ至ラシメハ、實ニ之ヲ制スル難キ者アルヘシト雖モ、政府カ夙ニ充分ノ用意ヲ尽サレタルノ後ニ當リ、始メテ進取ノ策ニ出ルヲ見レハ、其ノ境外ニ臨ムヤ已ニ遅ク、遂ニ其勢ヲ縮退スルニ至ルヲ免カレサルノ形アルカ如シ、

一勝一敗ハ兵家ノ常道ニシテ、固ヨリ毎戦必ラス其勝ヲ算スヘキニ非スト雖モ、今回ノ事變ニ就テ其ノ孰レカ先ンシ、孰レカ後レ、孰レカ大計ヲ得、孰レカ長策ヲ失フヲ論スレハ、政府ハ已ニ大計ヲ得テ其ノ謀ル所ハ彼カ為ス所ニ先ンシ、彼ハ長策ヲ失フテ、其ノ為ス所ハ政府ノ謀ル所ニ後レタルカ如シ、然ラハ則チ將來ノ輸贏モ、予メ之ヲ今日ニ推知スヘキカ如シト雖モ、鹿兒島ハ三藩ノ首位ニ列シ、其兵ハ剛強ニシテ器械モ亦タ略ホ備ハリ、海港ニ船隻ノ恐ルヘキナキモ、陸地ニ山阪ノ險阻アリ、豈之ヲ輕視シテ可ナランヤ、

一〇 鹿兒島變亂ノ發生ハ封建ノ余毒ナリ

二月二十二日

誰カ干戈ヲ内困ニ動かスヲ喜フ者アラシヤ、干戈ヲ内困ニ動かスハ不祥ノ最モ甚タシキ者ナリ、然ルニ時勢ノ轉換スル所、人事ノ變更スル所、時アリテ内訌ヲ釀シ紛亂ヲ生スルモ、亦タ情況ノ已ムヲ得サルニ出ル者アリ、此ノ如キハ古今内外ヲ問ハス往々避クヘカラサルノ患者ニシテ、假令一旦變亂ノ潰裂スルニ至ルモ變然トシテ驚キ、茫然トシテ訝ルヘキニ非サル也、

鹿兒島暴徒ノ變動ハ、到底文事ヲ以テ之ヲ鎮制スヘキニ非ス、已ニ追討ヲ仰セ出サレタルカラニハ、今日ニ在テ干戈ヲ内困ニ動かスノ騒亂ヲ現出セシ者ニシテ、如何ソ之ヲ明治ノ昭代ニ昂セサルコトヲ得ヘケンヤ、然ルニ熟々其ノ變亂ノ發生スル所以ヲ尋ヌレハ、何ク迄モ封建ノ余毒ニ出ルヲ免カレサル者ニシテ、即チ時勢人事ノ轉變ニ取テ実ニ已ヲ得サル者アリト云フ可シ、之ヲ人体ニ譬フルニ、凡ソ瘍疽ノ腹背ニ罹ルヤ、其膿ノ決潰四出スルニ非サレハ、決シテ其ノ全癒ヲ求ムヘカラス、未タ破裂決潰ニ至ラサルヲ以テ身体ヲ無事ナリト言フモ、豈扁鵲・

倉公ノ之ヲ許容スル所ナランヤ、國家ノ事体モ亦タ之ト異ナラス、已ニ憂患ノ内部ニ蔓延スルニ至レハ、早晚必ラス潰裂ニ歸セサルヲ得ス、今日ノ變動ノ如キモ亦タ此ノ如キ者アリテ、所謂封建ノ余毒之ヲシテ然ラシムルナリトスレハ、則チ宿昔ニ包藏スル者ヲ此ニ露出スルノ時ニシテ、多年ノ余毒モ亦タ此ニ於テ宜ク消散ニ赴クニ至ルヘシト想像スルモ、敢テ甚タシキ妄想ニハ非サル可シ、廢藩置縣ノ制ヲ実行セラレタルヨリ歳ヲ経ル已ニ久矣、而シテ百般ノ政術ハ其制ト共ニ沿革シ、人心モ亦タ沿革ト同シク豹變スト雖モ、屈指スレハ今日ニ至ル迄、變亂ヲ内困ニ現シテ慘毒蒼生ニ蒙ラシメタルモ、亦タ一二ニ止マラサル也、是等ノ變亂ニ就テ其ノ原因ノ歸着スル所ヲ概言スレハ、倅ク封建ノ余毒ニ胚胎スルナリト目スルモ、甚タシキ太過ナルヘシ、何トナレハ士族ハ封建ノ遺物ナリ、變亂ノ士族ヨリ生スルハ、争テカ封建ノ余毒ヲ負フ者ナカラサルヘケンヤ、彼ノ佐賀ノ如キ、熊本ノ如キ、萩ノ如キ、其ノ暴起スルヤ各々時期ヲ異ニシ、其ノ首唱スル所ハ互ニ口実ヲ同フセサルモ、共ニ封建ノ余毒タルヲ免カレサルハ則チ一ナリ、而シテ是等ノ種族カ撲滅ニ歸スルニ從ヒ、所謂封建ノ余毒モ從ツテ薄弱ニ歸シタ

リト雖モ、此ニ一種ノ病根ヲ存シ、堅牢破ルヘカラサルノ勢ヲ凝結ナラシメシ者ハ、則チ鹿兒島ノ一県ナリ、鹿兒島カ此ノ如キノ勢力ヲ保有スルハ、敢テ他道アルニ非ス、特ニ疇昔封建ノ勢ヲ今日ニ存在セシカ為メナラスヤ、若シ夙ニ其勢ヲ破却シ、全国一般ノ県治ヲ実行スルコトヲ得セシメハ、假令維新ノ元勳タルニモセヨ、士族ノ銳武ナルニモセヨ、争テカ彼カ如キノ勢力ヲ天下ニ恣ニスルコトヲ得ヘケンヤ、封建ノ勢ハ郡県ノ政ト共ニ併行スルコトヲ得ヘカラス、況ンヤ彼カ政府ニ恭順ナラサルハ、今日ニ生スル所ニ非サルニ於テヨヤ、其ノ早晚必ラス破裂決潰ノ機ヲ現スルニ至ルハ、決シテ疑フヘカサル所ニシテ、独リ今日ノ變動ヲ怪シムヘキニ非ラサルノミナラス、却テ封建ノ余毒ヲ此ニ消散セシムルノ成跡ヲ、収ムルニ至ル者アラント假想セサルヲ得ス、何トナレハ其ノ宿昔ニ鬱結スル者ハ封建ノ余毒ナリ、其ノ變動ヲ生スルハ余^(一字不明)ノ此ニ破裂スル者ナリ、如何ソ瘍疽ノ決潰シテ其毒ヲ散スルト同一ノ理由アラサルヘケンヤ、假令郡県ノ制ヲ確定スルモ、人民困難ニ陥ルノ甚タシキニ至レハ、必ラス変乱ヲ生セサルニ非ス、茨城・三重ヲ始メトシ、近クハ礪^(改)並郡ノ事ノ如キハ則チ是ナリ、然ル

ニ人民ノ變動ニ於ルヤ、苟モ治民ノ方略ヲ誤マラサレハ之ヲ緩定スルニ難カラスト雖モ、封建ノ余毒ハ則チ是ニ異ナリ、而シテ今日遂ニ其ノ余毒ヲ發出スルヲ見レハ、之ヲ目スルニ國家ノ祥事ヲ以テスヘカラサルハ固ヨリナリト雖モ、所謂雨降而地固ノ品評ヲ附スルモ、敢テ不当ナラサルヘシト信スル也、

一一 鹿兒島内地ノ狀況果シテ如何

二月二十四日

鹿兒島ノ暴徒ハ已ニ熊本ニ開戦スルニ至レリ、而シテ世人カ夙ニ鹿兒島叛党ノ為メニ抑留セラレシト臆定セシ大平丸ハ、一昨曰ヲ以テ無事ニ神戸港へ着シタルノ電報アリシト聞ク、世人ハコノ一報ヲ讀過シテ如何ナル想像ヲ發生シ来レルヤ、已ニ衆人ノ聞知スルガ如ク、該船ノ薩灣ニ入りシハ、赤龍丸ガ出帆以後数日ノコトニ係ルカ故ニ、其ノ叛党ノ為メニ抑留セラレシトスルモ、決シテ不当ノ推想ニハ非ルベシ、而シテ今日ニ至リ恙カナク神戸港ニ着セシト聞クヤ、未タ乗込人ヨリ其ノ実況ヲ聞知セザルニ先タチ、一閉ノ疑惑ヲ胸間ニ生スルモ亦タ故ナキ

ニ非ザルベシ、

今ノ時ニ当リ鹿兒島内地ノ状景ハ、果シテ如何ナルヘキ乎、或ハ謂フ、私学校党ガ暴発ノ徵ヲ現ゼシニ当リ、老輩ハ鹿兒島ヲ以テ戦地タラシムルヲ畏避シ、其ノ該地ニ留マラザランコトヲ主唱セリ、而シテ叛党ハ足ヲ鹿兒島ニ挙テ境外ニ赴キシヲ以テ、城下ノ静穩ナルコトヲ絶テ平日ニ異ナラズ、春日・清輝ノ両艦ヲ横タヘテ鹿兒島港ヲ封スルモ、敢テ緊用ナルニ非ルガ如キナリ、去レハ太平丸モ曾テ一タビ暴徒ノ為メニ抑留セラレシト雖モ、彼等カ界外ニ赴クニ及ヒ、無事ニ抜錨スルコトヲ得タルナルベシト、此ノ如キノ説アルモ、吾輩ハ敢テ其言ヲ速信シ能ハザルナリ、何トナレハ、今其形ヲ以テ之ヲ觀レハ、鹿兒島ニハ西郷・桐野・大山等ノ諸氏アリテ、位階人臣ノ上流ヲ占メ、其ノ勤王ニ厚ク忠誠ニ深キハ、已二十人ノ指日スル所ナリ、復タ何ノ欲望スル所アリテ叛党ニ左袒スヘケンヤ、然リト雖モ若シ其跡ヲ以テ之ヲ推セハ、是等諸氏ノ状態ハ方今果シテ如何ナルヘキ乎、西郷氏ハ山林ニ避遁シテ其ノ形跡ヲ知ルニ由シナキノ聞ヘアリ、桐野・篠原氏ノ挙動ハ衆人ノ危疑スル所トナリテ、未タ其ノ実況ヲ知ラザレトモ、大山氏ノ如キハ川村海軍太輔

ガ鹿兒島港ニ赴キシ時、頃刻ノ面話トハ言イ乍ラ、専ラ県令ノ職ヲ尽スヨリ外ナキコトヲ述べラレタリト聞ク、然ルニ叛党ハ已ニ数十里ノ路程ニ出テ、熊本鎮台ヲ襲撃スルニ至リタルナラスヤ、若シ鹿兒島ヲシテ平穩無事ナラシメハ、同氏ハ宜ク速ニ県庁ヲ復シテ其由ヲ官艦ニ通スヘシ、然ラバ則チ其ノ報知ハ、何ゾ東京ニ達セザルノ理アラシヤ、又タ何ゾ吾輩ノ耳邊ニモ多少ノ返響ヲ与ヘザルベケンヤ、然ルニ今日ニ至リテハ、更ニ何等ノ聞知ヲ得ル所ナキヲ以テスレバ、鹿兒島ノ情況ハ容易ニ臆測スル能ハザル也、

斯ク謂ヘバ、鹿兒島ノ情況ハ、容易ナラザル形勢ナルガ如ク、一県全国一和シテコノ叛乱ニ合同セシヤト想像スル者アルヲ知ラザレトモ、太平丸ガ神戸ニ着セシノ報知ヲ聞カバ、亦タ決シテ其ノ然ラザルヲ知ル可シ、曾テ聞ク、太平丸ハ郵船中ニ在テ最モ堅牢ナル工造ナリト、若シ一タビ叛党ノ掌中ニ帰スルアラバ、何ゾ復ビ港内ヲ出ルコトヲ得ベケンヤ、何トナレハ吾輩ハ素ヨリ軍事ニ暗シト雖モ、戦時ニ船舶ノ必用ナルハ他人ニ問フヲ待タズシテ明瞭ナレハ、叛党ニシテ一タヒ得タルノ船艦ヲ放ツハ、絶テ有ル間敷ノ道理ナリ、若シ將タ叛党ハ海軍ノ敵

スヘカラザルヲ察知シ、行軍ヲ陸地ニ取ルノ景況ナレバ、
太平丸ヲ捨テ発錨セシメシトスルモ、吾輩ハ之ヲ信シ得
ザルナリ、曰ク、何ソ縦令之ヲ運轉スルニ至ラサルモ、
港内ニ留メテ浮台場トスルモ、多少ノ功績アルベケレバ
ナリ、

然ラバ、太平丸ハ一度モ暴徒ノ為メニ横領セラレザリシ
ナランカ、若シ夫レ然ラバ、敢テ疑ヲ容ル、ニ足ラスト
雖トモ、其ノ暴徒ニ苦シメラレシコトハ、衆人一般ノ喋
々セシ所ニシテ、加フルニ帰期ノ数日間ヲ遅フスルヲ以
テスレバ、恐ラクハ叛党ノ網羅ニ罹リタルニ相違ナカル
可シ、已ニ網羅ニ罹リテ其ノ災害ヲ脱シタルヲ觀レハ、
前言ノ如ク鹿兒島ハ已ニ平穩ナリトセン乎、彼ノ三方ニ
分派セシト言フ叛党ノ兵ハ、恰モ蟹気楼ノ空中ニ現出セ
シガ如キ者ニシテ、糧尽キ勢ヒ挫ケ、一敗地ニ塗レテ消
散ニ歸スヘキハ、蓋シ数日ヲ出デザルベキノ理ナリ、果
シテ然ラハ亦タ何ゾ深ク愁フルニ足ランヤ、
太平丸ハ已ニ神戸ニ帰着セルコトナレハ、其ノ乗客ヨリ
該地ノ実況ヲ聞知スルヲ得ルモ、蓋シ久シキニ非サルヘ
シ、其ノ実況ヲ聞知スルニ至ラハ、果シテ蟹気楼兵タル
カ否ラサルカノ細報ヲ得ル所アルベシト信スル也、

一二 鹿兒島ハ挙県背叛セルガ如シ

二月二十六日

鹿兒島暴徒ノ反形ハ預メ天下ニ明白ナリシト雖モ、其ノ
叛党ハ一種ノ暴徒ニ止マルカ、将タ一國全州ヲ挙テ今回
ノ事件ヲ企テタルカハ、未タ世上ノ確認ヲ得ルニ至ラサ
リシカ、今日ヨリ之ヲ觀レハ、今度ノ變動ハ決シテ一種
ノ暴徒ニ止マルニ非ス、即チ一國全州ヲ挙テ背叛ノ挙ニ
及ヒタルハ、復タ疑フヘカラサルカ如キ也、

朝ヲ問ス野ヲ論セス、鹿兒島全州ヲ挙テ今日ノ挙動ニ及
ヒタルヲ見テ胆ヲ冷シ、魂ヲ消シ、首鼠兩端ノ意ヲ抱キ、
表裏反覆ノ念ヲ挾ム者アラン乎、此ノ如キハ実ニ廉恥ナ
ク節義ナク、又タ一定ノ見識モナク、勢ノ強弱ニ応シ其
ノ進退ヲ異ニスル者ニシテ、恰モ楊柳ノ風ニ従ツテ披靡
スルト一般ナリ、如何ソ其ノ心術ノ卑劣ヲ鄙マサルヘケ
ンヤ、又タ如何ソ其ノ行為ノ醜態ヲ惡マサルヘケンヤ、
已ニ政府ノ登庸ヲ辱フシテ其ノ俸祿ヲ食ミ、或ハ親ク百
般ノ政府ヲ裁定シ、或ハ其ノ施行ヲ是トシテ各自ノ職務
ヲ奉行スル以上ハ、最早宜ク政府ト進退去就ヲ共ニセサ
ルヘカラス、已ニ進退去就ヲ共ニスヘキノ地位ニ在リテ

偶々天下ノ大乱ヲ生シ、危殆ノ勢ヲ現スニ及ンテ其徳ヲ二三ニシ、首鼠両端ノ意ヲ抱キ、表裏反覆ノ念ヲ挾ムニ至リテハ、其ノ自ラ為ニスルハ則チ可ナリ、曾テ政府ノ登庸ヲ辱フシテ其ノ俸禄ヲ食ミシヲ忘レタル乎、從來ノ政治ハ何人カ之ヲ施行セシヨ願ミサル乎、此ノ如キノ種類ハ決シテ今日ニ存在スルコトナカルヘシト雖モ、万一ニタモ之レアラシメハ、我輩ハ將ニ問ントス、卿等ハ果シテ眞卿(顔真卿)・文山(文天祥)ノ節義ニ感セサル乎、哥舒翰(唐の人)・趙孟頫(宋の人)ノ醜態ヲ鄙シマサル乎ト、

今ヤ暴徒ノ勢敵正ニ熊本ニ盛ンニシテ、數回ノ交戦ニ至ルト雖モ、未タ輒スク之ヲ追却シ能ハス、夫レ鹿児島ノ強県ヲ以テ、全州ノ人士尽ク此ノ事件ニ左袒セシカ如キヲ見レハ、一時勢敵ノ猖獗ナルモ固ヨリ怪ムヘキ所ナラス、独リ我輩カ当路者ニ冀望スル所ハ、此ノ變動タルヤ、実ニ政府ノ興廢ニ密係スルノ一大事件タルヲ審カニシ、一勝ニ誇ラス、一敗ニ屈セス、剛毅ノ念ヲ淬励シ、果敢ノ氣ヲ鞭撻シ、一致協合到底平定ノ功ヲ期スヘキニ在リ、荷モ政府ノ根幹ヲシテ此ノ如キノ凝固ナラシメハ、假令暴徒ノ勢敵一時ニ盛ンナルモ、何ソ平定ノ功ヲ始終二期スヘカサルヲ患ヘンヤ、試ミニ眼ヲ開イテ吳楚七國ノ

變動ト、吳(唐の人)元濟ノ背叛ニ於ル者トヲ見ヨ、

七國ノ變動ニ於ルヤ、前ニ袁盎ノ大事ヲ誤ルアルモ、其ノ叛乱ノ拒クヘカサルニ及ンテハ、漢廷ノ議確然トシテ動かス、加フルニ周亜夫カ如キノ良將アルヲ以テ、遂ニ討滅ノ功ヲ奏スルコトヲ得タリ、吳元濟ノ蔡ニ反スルヤ、憲宗赫然トシテ斯ニ怒リ、毫モ屈撓スル所ナク、斐度ヲシテ其功ヲ奏セシメ、多年ノ積弊ナル藩鎮ノ威力ヲ此ノ一挙ニ破壊セリ、鹿児島ノ今日ニ於ルハ、恰モ吳楚七國ノ漢廷ニ背キ、吳元濟ノ唐代ニ反スルト一般ナリ、而シテ海陸ノ將帥豈周亜夫・斐度ノ如キノ良將ナカランヤ、若シ能ク政府ノ根幹ヲシテ確然鞏固ナラシメハ、何ノ鹿児島ノ背叛ヲ畏レンヤ、何ソ一時勢敵ノ猖獗ナルヲ憂ヘンヤ、是レ我輩カ深ク首鼠両端表裏反覆ノ士ヲ無形ニ排斥シテ、剛毅果悍ト一致協合トヲ当路者ニ冀望スル所以ナリ、

學士論者ノ議論文章ヲ以テ自ラ任スル者モ、今日ニ當リテ何等ノ期待ヲ抱ク所アル乎、已ニ學士ト唱ヘ論者ト稱スレハ、必ラス一定ノ主義ヲ平素ニ有スル所アルヘシ、而シテ變乱ノ勢正ニ熾盛ナルヲ望ミ、妄リニ自ラ顧慮スル所アリテ平素ノ主義ヲ隱蔽シ、徒ニ便宜ヲ謀ルアルカ

如キハ、是レ亦タ首鼠兩端ヲ抱キ、表裏反覆ヲ謀ルノ楊柳學士ナリト言ハサルヘカラス、故ニ苟モ政府ノ登用ヲ辱フシ、其ノ俸祿ヲ食ム者ノ進退去就ヲ誤ルヘカラサルハ、固ヨリ言ヲ俟スト雖モ、學士論者モ亦タ宜ク自ラ謀ル所アルヘキ也、

一三 熊本ノ形勢ハ官軍ニ有利 二月二十七日

熊本鎮台ハ今日ニ在リテ殆ント四面攻圍ノ地ニ迫リタルカ如シ、而シテ城兵カ屹然嚴守更ニ屈下セサルヲ見レハ、誰カ其ノ苦戰ノ状ヲ遙想シ、王事ニ辛酸スルノ厚キヲ感嘆セサランヤ、蓋シ始メテ戰端ヲ去ル廿一日ニ開キシヨリ、連日數回ノ戰爭ニ於テ、官兵常ニ勝利ヲ得タルノ電報アリト雖モ、賊勢猶ホ猖獗シ、台兵ハ殆ント孤立ノ地ニ陥リタルカ如キハ、精細ノ状ヲ得ルニ由ナシト雖モ、官兵カ植木・田畑^(願)ノ戰爭ニ苦戰シテ、一先ツ南ノ関ニ引揚ケタルヨリ、賊兵ハ熊本鎮台ト筑後路ノ間ヲ切斷シ、頗ル兇鋒ヲ振フニ至リタルカ如シ、然ルニ城中ハ愈々堅固ニシテ防守ノ備ヘ益々嚴重ナリト雖モ、已ニ孤軍タレハ其ノ勢力ヲ伸張スルニ難ク、殆ン

ト唯陽ノ状アルヲ免カレサル可シ、而シテ植木・田畑^(願)ニ戰フタル官兵ハ、小倉分營ヨリ繰出シタル半大隊ノ兵ナリト聞ケハ、恐ラクハ賊兵ト抵抗シ五角ノ勢ヲ保ツニ難カラン、勢イ此ノ如クナレハ、熊本ノ地境ハ官兵ノ応援ヲ迅速ナラシムルニ非サレハ、殆ント防守ニ苦シム者アルヲ免カレサル可シ、而シテ昨日ノ電報ニ拠レハ、野津^(願)・三好^(重臣)ノ兩少將モ已ニ熊本ノ方面ニ到着セラレ、城内ト通シ合セ本日ニモ進撃ニ及ハル可シト云フ(雜報ヲ見ヨ)、想フニ熊本鎮台カ此ノ応援ヲ得タルハ、大旱ノ雲霓ニ於ルモ奮ナラサルヘク、野津・三好ノ兩少將モ此一戰ハ実ニ軍氣ノ伸縮ニ關係ヲ与フルノ容易ナラサルヲ以テ、充分ノ軍略ヲ尽シ、必死ノ戰鬪ニ及ハル、ヘシト思ハル、也、

今ヤ官兵ノ九州ニ臨ミタル惣數ヲ算フルニ、我輩カ聞ク所ニ拠レハ、熊本鎮台ノ兵ハ歩兵五大隊・砲兵一大隊ニ、加フルニ綿貫少警視カ率イタル巡查七百名ヲ以テシ(此ノ巡查ハ以前ノ海兵ニシテ頗ル戰事ニ堪フヘキ者ナリト聞ク)、南ノ関ノ兵ハ野津少將カ率イラレタル歩兵二大隊・砲兵一大隊ト、三好少將カ率イラレタル歩兵三大隊ノ外、小倉分營ノ兵半大隊、福岡ヨリ出張ノ兵一大隊ナ

リ、去レハ惣數併セテ十四五大隊ニモ及フ可シ、而シテ賊徒ノ兵ハ其數幾何ナルヲ詳ニセスト雖モ、其ノ形勢ニ拠テ之ヲ推測スレハ、今日ニ至リ賊徒ハ却テ前後ニ敵ヲ受ルノ地位ニ臨ミタルカ如シ、是等ノ模様ハ我輩カ多言ヲ要スル迄モナク、熊本鎮台ノ兵ハ則チ賊背ニ拠守スル者ニシテ、南ノ関ヨリ進軍ノ兵ハ則チ其前面ニ臨ム者ナリ、若シ城中城外ト相合シ大挙進撃ヲ試ムルニ至レハ、賊兵ハ恰モ挾撃ノ地位ニ在ル者ナラスヤ、然ルニ賊兵ヲシテ拠守ノ方面ヲ広クシ、堅ク險要ノ地ヲ扼セシメハ、城中城外ノ兵共ニ充分ノ勢力ヲ合スルニ難キ者ナキニ非サルヘシト雖モ、何レニ致セ、此ノ方面ニ於テハ今日ノ景況ヲ以テスレハ、官軍ニ利アリテ賊兵ニ不利ナルノ形勢ナリト言ハサルヘカラス、

賊兵ハ熊本鎮台ノ堅固ニシテ抜クヘカラサルヲ以テ、鋒ヲ筑前・筑後ニ転シ、已ニ三百名許リヲ柳川ニ繰込ミシトノ聞ヘアリシト雖モ、野津・三好ノ両少將トモ兵ヲ率イテ熊本ニ臨マレタルヲ見レハ、賊モ未タ斯迄ノ羽翼ヲ展スニ至ラサリシナラント思ハル、且ツ野津少將ハ瀬高ヲ經テ熊本ニ臨マレタルカ如シ、瀬高ハ則チ柳川ト接近スルノ地ナリ、賊兵已ニ柳川ニ拠レハ、必ラス卒然熊本

ニ向ハレサルヘシ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、賊兵ノ柳川ニ繰込シト云フハ全ク虚伝ニ屬シ、其ノ専ラ兵鋒ヲ集ムル所ハ熊本鎮台ニ在リテ、官兵ノ折衝ヲ試ムル所モ亦タ熊本鎮台ニ在リト云フヘシ、

想フニ、今回ノ戰報モ蓋シ今明日ノ間ヲ出テサルヘシ、若シ官兵ニシテ大勝ヲ得ハ、賊勢ノ是ニ於テ屈縮センコト復タ疑ヲ容ルヘカラス、若シ不幸ニシテ充分ノ志ヲ得サルモ、決シテ深く趨起スヘキニ非スト雖モ、之ヲ今日ニ必要トセサルヲ以テ、暫ク不言ニ附スヘキ也、

一四 西郷氏暴徒ニ党スルヲ悲シム

二月二十八日

我々ノ性命ヨリモ貴重スル者ハ人民ノ自由權利ナリ、我々ノ食色ヨリモ欲望スル者ハ國家ノ安寧幸福ナリ、故ニ苟モ人民ノ自由權利ヲ庄抑セントスルモノアレバ、我々ハ之ヲ人民ノ公敵ト認メサルヲ得ズ、國家ノ安寧幸福ヲ妨害セントスルモノアレバ、我々ハ之ヲ國家ノ凶賊ト目セサルヲ得ス、之ニ反シテ其志ス所ハ人民ノ自由權利ヲ暢達スルニ在リ、其為ス所ハ國家ノ安寧幸福ヲ増加スル

ニ在ル者アラバ、我々ハ其人ノ何等ノ人種ニ係ルヲ論セズ、必ズ之ヲ日スルニ我々ノ恩人ヲ以テシ、之ヲ敬シ之ヲ重シ、以テ其徳ヲ欽戴スベキノミ、

中興ノ際ニ於テ薩士ガ回天ノ偉業ヲ贊成シ、我明治政府ヲ創立シ、以テ我々ノ自由權利ヲ暢達シ、懦弱不振ノ旧幕府ヲ覆滅シ、以テ国家ノ安寧幸福ヲ増加セシ功徳ハ、余輩ノ常ニ記憶シテ忘ル、能ハザル所ナリ、然ルニ今日ニ於テ該俱樂部ノ所為ノ如キハ、果シテ之ヲ何トカ云ハンヤ、其志サス所ハ人民ノ自由權利ヲ暢達セント欲スルニ在ル乎、其為ス所ハ国家ノ安寧幸福ヲ妨害スル所アラサル乎、是等ノ点ニ就テハ、世人ノ飽迄明知セラルベキ所ナルニ付キ、余輩ハ復タ喋々斯ニ論弁スルヲ要セザル也、

然リト雖モ西郷隆盛氏ガ一身上ニ就テハ、更ニ一步ヲ進メテ論及スル所ナカルヘカラス、夫レ氏ガ今回ノ暴挙ニ覚スル乎、將タ覚セサル乎ハ、暴挙以來一般世人ノ疑フ所ト為リ、或ハ氏ハ大義ヲ以テ激徒ヲ諭セドモ、尚其従ハサルヲ以テ、終ニ踪跡ヲ晦マシテ竄匿スト言イ、或ハ氏ハ既ニ暴徒ニ加ハ、リ、正ニ其魁首タリト言イ、諸説紛々數句ノ間一モ信ヲ取ルベキノアラザリキ、此時ニ

方テ、余輩ハ深く氏ガ忠誠報國ノ士ニシテ、妄リニ凶器ヲ動シ、国家ノ安寧ヲ妨害スル如キノ人ニ非ザルベキヲ確信スルヲ以テ、其必ズ今回ノ挙ニ与ラザルベキコトヲ臆斷シタリ、然ルニ廿六日ノ布達ニ於テ、同氏ガ官爵ヲ剝奪サル、ヲ見ルニ及ビ、始メテ其終ニ暴徒ニ党スルヲ知ルヲ得タリ、嗚呼維新ノ功臣江藤ハ臯セラレ、前原ハ戮セラレ、其終ヲ全クセサルモノ一ニシテ止マザリシハ、天下ノ共ニ悲ム所ナラスヤ、而シテ今ヤ又回天ノ元勳ナル西郷氏ニシテ、猶ホ賊名ヲ負フコトヲ免レザル乎、

余輩曾テ之ヲ聞ク、西郷氏ノ人ト為リヤ、忠信ニシテ士ヲ愛シ、廉潔ニシテ財ヲ愛セズ、其胸襟ハ瀟灑トシテ光風霽月ト其清ヲ争フベク、其行事ハ卓落トシテ高山峻峯ト其高キヲ比スベク、其平居人ニ交ルヤ顔容和穆、言辭懇切、談忠孝節義ノ事ニ及ベハ必ラス潛々トシテ流涕ス、故ニ士ノ之ニ親炙スルモノ其徳容ニ感泣心服セザルハナシト、且ツ氏ノ王家ノ為メニ其身ヲ忘レ、屢々大難ニ當テ万死ニ瀕セシハ、世人ノ明知スル所ナリ、然ルニ其議論廟堂ノ諸公ト協ハズ、一旦冠ヲ内閣ニ挂テ故山ニ退クニ及ンデヤ、人或ハ氏ガ快々不平ノ意アルカヲ疑フモノアリト雖トモ、余輩ハ猶ホ深く其忠誠ヲ信スルヲ以テ、

國家ノ最大難事アルニ非サレハ、必ラス足ヲ鹿兒島ニ擧ケサルヘシト想像セリ、豈ニ復タ漁陽ノ兵鼓ヲ動かシテ、國家ノ安寧ヲ妨害スルヲ思ハンヤ、故ニ一朝其官爵ヲ剝奪サル、ヲ見ルニ及テハ、実ニ驚愕スル所アルヲ免カレサル也、

且ツ夫レ氏ガ今回ノ挙動ニ就テハ、余輩ノ疑ヲ免レザルモノアリ、若シ氏ヲシテ真ニ快々不平ノ意ヲ懷キ、政府ノ処置ニ睚眦シ、之ヲ顛覆セント欲スルノ意アラシメンカ、何ゾ江藤ガ佐賀ニ叛キタル時ニ起ラサルヤ、何ゾ前原ガ萩ニ起リタル時ニ動かサルヤ、此ノ好機ニ乗スルヲ為サズシテ、遷延今日ニ至リ罅隙ノ乘スベキナク、名義ノ藉ルベキナキニ起ルヲ為スハ、頗ル怪ムヘキノ大ナル者ナリ、且ツ前ニ聞ク所ニ抛レバ、激徒ノ氏ニ迫テ其暴挙ニ同意センコトヲ促スニ方リ、氏ハ断然大義ヲ陳テ之ヲ拒絶シタリト、ソレ然ラン、西郷氏ハ豈ニ義利ニ迷フノ人ナランヤ、然ルニ激徒ノ気焰ハ又遏ムベカラズ、鹿兒島士人ノ決志ハ、復タ回スベカラザルヲ知ルニ及ンテ、止ムヲ得ズ其意ヲ枉ゲテ之ニ同心セシモ、未タ知ルヘカラス、果シテ然ラハ氏ガ志ハ何ゾ夫レ確固ナラズシテ、氏ガ所見ハ何ゾ夫レ明ナラザルヤ、

然リト雖トモ既ニ王師ニ抗敵シ国土ヲ暴掠シ、敢テ邦家ノ安寧ヲ妨害スル者アレバ、是レ國家ノ凶賊ナルノミ、其志ス所人民ノ自由權利ヲ暢達スルニ非ズ、威力ニ依リテ其ノ冀望ヲ逞フセントスルモノアレバ、是レ人民ノ公敵ナルノミ、故ニ苟モ事蹟ノ斯ニ類スルモノアレバ、余輩ハ又其罪ヲ掩フ能ハザルナリ、嗚呼西郷氏ハ維新ノ元勳ニシテ不世ノ傑士ナルニ、天下後世ヲシテ復タ其功勞ヲ追想スル者ナク、徒ニ其月照師ト共ニ薩海ノ波臣ト為ラサリシヲ惜マシムルニ至ラバ、豈亦悲シカラズヤ、

一五 鹿兒島挙兵ノ理由如何 三月一日

我カ同胞ノ兄弟ヨ、諸君ハ西郷隆盛・桐野利秋・篠原國幹等カ兵ヲ南隅ニ擧ケ、今日ノ變動ヲ企テタル口実ヲ探知センコトヲ要セサル乎、熊本ノ戦争ハ已ニ數回ニ涉リ、勝敗ノ実況モ略ホ之ヲ連日ノ電報ニ得ヘシト雖モ、賊徒カ何如ナル名義ヲ有シ、何如ナル口実ヲ唱フルカハ、未タ甚タ世上ニ明白ナラサルカ如シ、今ヤ我輩カ數日ノ尽力ニ得タル所ノ探訪ニ抛レハ、賊徒ノ口実ハ則チ左ニ掲クル文書ニ在ルカ如ク、其ノ文書モ亦タ全く好事者ノ作

意ニ出テタルニモ非サルニ似タリ、

今般当県官吏ニ専使申付ケ、御通知ノ事件左ニ申シ進シ候、近日当県ヨリ旧警視庁へ奉職ノ警部中原尚雄其外別紙人名ノ者共帰省ニ託シ、帰県候処、彼是窃ニ国憲ヲ犯サントスル奸謀発覚シタルニ付キ、即チ御規則ニ基キ其筋へ申付ケ、該人名捕縛ノ上鞫問ニ及ヒ候処、不図モ該犯ノ口供別紙ノ通りニ有之候、就テハ右事件陸軍大将西郷隆盛・陸軍少将桐野利秋・陸軍少将篠原國幹等ガ耳聞ニモ相触レタルカ、右三名ヨリ今般政府ニ尋問ノ筋有之、当地発足致シ候間、御合ノ為メトテ此段届出候、尤モ旧兵隊随行数多出立候間、人民動揺不致様一層御保護御依頼候事、書面ヲ以テ届出候ニ付キ、県庁ニ於テ書面ノ趣聞届 朝廷へ御届申置候間、為御心得御通知ニ及ヒ候也、 県令大山綱良

右ノ書面ハ近傍各県并ニ鎮台へ報告ニ及ヒタル者ノ由ニテ、併モ大山県令ノ姓名ヲ署スト雖モ、今日ニ至ル迄大山氏ハ依然トシテ県令ノ職ヲ奉シ、政府ヨリ何等ノ御沙汰ナキヲ見レハ、蓋シ賊徒カ大山県令ノ名ヲ仮リテ、斯ル文書ヲ構成セシ者ナランカ、而シテ所謂国憲ヲ犯サントスル奸謀ナル者モ、別紙ノ口供ヲ得サレハ何如ナル事

情タルカモ測リ知ルヘカラスト雖モ、或ハ變動以來世上ニ喋ミスル刺殺ノ事件ナルカト思ハル、此ノ刺殺ノ件ニ就テハ、我輩カ夙ニ聞知スル所ニ抛レハ、彼ノ暴徒ガ強テ之ヲ構成セシ者ノ如シ、抑々暴徒カ中原其他ノ数名ヲ捕縛スルヤ、手荒キ鞫問ヲ遂ケタルノ末、中原等ハ遂ニ視察ノ為メ帰省セシ旨ヲ答ヘタリ、然ルニ暴徒ハ視察ト刺殺ト首相通スルヲ以テ、枉テ之ヲ刺殺トナシ、刺殺トナラハ西郷大将ヲ刺殺センカ為メナル可シトテ、愈々苛酷ノ拷問ヲ加ヘ、殆ント性命ヲモ絶タントスル程ナルヲ以テ、中原等ハ抛ナク刺殺ニ相違ナキ旨ヲ答ヘタリト、果シテ然ラハ賊徒カ政府ニ尋問ノ筋アリト言フモ、無理ニ其ノ口実ヲ構造セシ者ニシテ、何如ソ之ヲ國家ノ品賊、人民ノ公敵ト言ハサルヘケンヤ、

今ノ時ニ当リ上命ヲ以テ、中原等ニ刺殺ヲ試シムル等ノ異事アルコトナキハ、三尺ノ豎子モ亦タ能ク之ヲ瞭知スル所ナリト雖モ、仮ニ中原等カ一己ノ量見ヲ以テ、真ニ刺殺ヲ謀リタリトスルモ、西郷・桐野等ハ奮然トシテ兵ヲ廢城ニ挙ケ、国安ヲ攪乱スルモ、不可ナル所ナキノ名義ヲ有スルニ足ルヘキ乎、刺殺ハ則チ西郷ノ一身ニ止マルモノ也、國家ノ福否人民ノ休戚ニ關係スル者ニ非サ

ル也、若シ之ヲ忍フヘカラストセハ、単身独行政府ニ尋問スルモ亦タ可ナリ、一封ノ書ヲ政府ニ飛シテ之ヲ推究スルモ亦タ可ナリ、何ソ大兵ヲ提ケテ顛覆ノ挙動ニ及フノ理由アルヘケンヤ、凡ソ顛覆ハ抑圧ニ堪ヘス、鉗束ニ忍ヒス、權利ヲ回復シ自由ヲ伸達センニハ、兵力ヲ俛ルノ外策ノ出ル所ナキノ日ニ非サレハ、決シテ謀ルヘカラスアルノ事件ナラスヤ、而シテ賊徒ノ名義タルヤ、人民ノ為ニ權利ヲ保護スルニモ非ス、自由ヲ伸暢スルニモ非ス、一身ニ關係スルノ事件ヨリ此ノ大乱ヲ発シ来レルヲ見レハ、断然漢代ノ韓彭黥布ヲ今日ニ現出セシ者ナリト言ハサルヘカラス、

雖然、西郷カ一身ニ關係スルノ事件ヲ口実トシテ、薩ノ全国ヲ風動シ、遂ニ天下ノ大兵ヲ動カスコト此ニ至ルヲ見レハ、其ノ平素人望ヲ収攬スルノ深キコト知ルヘシ、然ラハ則チ西郷モ亦タ実ニ当世ノ英傑ナラスヤ、

一六 叛党無策ノ因ハ鎮台兵蔑視ニアルカ

三月二日

誰カ鹿児島ノ叛党ヲ以テ目的ヲ達シ得ヘシトナスヤ、我

輩ハ之ヲ今日ノ実況ニ徴シ、其ノ能ク勝算ヲ制スル所以ヲ知ラサル也、蓋シ一勝一敗ハ兵事ノ常ニシテ、固ヨリ預定シ得ヘキ所ニ非サレトモ、全局ノ形勢ニ至リテハ、敢テ之ヲ臆度スルノ難キニ非サル可シ、知ラス、世人ハ今日ノ變動ニ際シ、全局ノ形勢ヲ目スルニ如何ノ觀察ヲ以テスル乎、

蓋シ嘗テ之ヲ聞ク、上智不戦而勝ト、若シ西郷ヲシテ上智ニ出テシメハ、或ハ戦ハスシテ勝ツノ大策ヲ運行スルニ至リシモ知ルヘカラス、何トナレハ西郷ハ政府モ亦タ之ヲ輕視セサル所ナリ、世人ハ固ヨリ之ヲ泰斗シ祝ル所ナリ、未タ変乱ノ形跡ヲ露ハサ、ルニ先タチ、雍容和穆親ウ東京ニ臨マハ、政府モ亦タ之ヲ故職ニ復セサルヲ得サルノ勢ニ至ル可シ、已ニ国家ノ政權ヲ握リテ又大陸軍武官ノ上位ニ列スルヤ、漸々ニ心腹ノ士桐野・篠原・村田ノ徒ヲ緊要ノ地位ニ登用シ、海陸ノ武權ヲ掌握スルニ至ラハ、最早天下ノ勢大イニ定マルノ時ニシテ、蓋シ為サント欲シテ意ノ如クナラサルコトナカル可シ、是豈上智不戦而勝ノ故智ニ出ル者ナラスヤ、事此ニ出テスシテ輸贏ヲ干戈ニ決セントセハ、何ソ其ノ羽翼ヲ伸張シテ各処ヲ擾乱スルノ目的ニ出テサルヤ、若シ其レ彈藥掠奪ノ

事變ヲ現スルノ後チ、其ノ大策ヲ決スルヤ、颯風疾雷ノ如ク、一大隊乃至二大隊ノ兵ヲ鹿兒島ノ汽船ニ乗セテ、九州・中国・四國ヨリ山陰・北陸ノ間ニ上陸セシメ、一時ニ各処ヲ擾乱スルニ至ラハ、海軍盛ンナリト雖モ陸軍多シト雖モ、四顧狼狽奔命ニ疲困シテ防禦ノ術ニ苦ムニ至ルヘシ、然ルニ其ノ策ヲ立ルコト此ニ至ラスシテ、偏ヘニ路ヲ陸地ニ仮リ、三方進行ノ声言モ亦タ官兵ヲ分ツニ足ラス、専ラ熊本ノ方面ニ蟻集シテ、開戦以後已ニ一旬ニ過クト雖モ、何ノ仕出シタルコトモナク、官兵ト拵角ノ勢ヲ為スニ過キサルヲ見レハ、之ヲ有策ノ兵ト言フヘキ乎、

蓋シ叛党カ此ノ如キノ無策ニ出タル所以ヲ尋ヌルニ、薩人ノ募兵ヲ蔑視スルヤ実ニ甚タシク、桐野ノ如キハ、常ニ余ニシテ足ヲ挙ハ一封ノ書ヲ以テ鎮台ヲ屈下セシメ、長驅シテ大阪ニ至ランコト容易ナリト誇言セシト聞ク、此ノ如キノ所見ナリシカ故ニ、想フニ其ノ本国ヲ出張スルニ当リテハ、熊本鎮台ノ如キハ戦ハスシテ之ヲ陥レ、其ノ器械輜重ニ依リテ進軍ノ準備ヲ為シ、直チニ豊筑ノ間ニ臨マハ、各県士族風靡シテ之ニ応シ、旬日ヲ出スシテ大阪ニ臨ムコトヲ得ヘキ程ノ想像ナリシナル可シ、然

ルニ台兵ト雖トモ亦タ猿猴ニ非サル也、耳目四肢薩兵ト異ナルニ非サル也、況ンヤ今日ノ戦争ハ、専ラ兵器節制ヲ貴フノ時ナルニ於テヨヤ、去レハコソ薩兵ノ妄想ハ忽チニ面餅ト齟齬シ、鎮台ハ堅固ニシテ復タ之ヲ抜クヘカラス、諸県ノ士族ハ假令相応スルノ意アルモ、活動ノ時機ヲ得ル能ハス、再ヒ鋒ヲ筑後路ニ転シテ聊カ志ヲ得ルカ如キモ、野津・三好ノ兩少將カ応援ノ兵ニ遮断セラレ、万一九節度ノ兵、□ニ潰ユルカ如キノ不幸アルニ非サレハ、復タ肥後ノ地境ヲ越テ兇鋒ヲ恣ニシ能ハサルノ形勢ニ立チ至リタルナラスヤ、

然レトモ薩兵ノ慄悍ニシテ銳武ナル、其ノ目的ノ齟齬スルニ及ンテハ、愈々非常ノ劇戦ヲ為サンコト必然ナレハ、敢テ之ヲ輕視スヘカラス、且ツ豊後口ノ模様ノ如何ナルカハ、未タ測リ知ルヘカラスト雖トモ、今日現狀ノ全局ヨリ之ヲ觀レハ、海上ノ運轉ハ全ク海軍ノ為ニ抑制セラレ、陸地モ亦タ肥後ノ地境ニ阻遏セラレ、本国ヨリノ運輸ハ遼遠ニシテ、兵器ノ損壞スルモ之ニ代フルノ銃砲ナク、彈藥ノ欠乏スルモ始ント之ヲ補フニ難ク、頗ル縮退ノ勢アリト言ハサルヲ得ス、而シテ官兵ノ景況タルヤ、十七大隊余ノ大兵ハ、已ニ九州ニ繰リ込テ薩兵ノ陸梁ヲ

制スルニ足リ、海軍ハ夙ニ四艘ノ軍艦ヲ以テ鹿児島ヲ封港シ、其他船隻ハ長崎ニ馬関ニ排列シテ海上ヲ擁扼シ、時機ニ応シテ其背ヲ扼シ、其腹ヲ衝クモ総テ自由ナルヲ見レハ、官兵ハ今日ニ在リテ緯々然トシテ其ノ余地ヲ有スル者ナリ、夫レ薩兵カ其策ヲ失シテ窘縮ノ地ニ陥リ、官兵ハ其ノ全局ヲ占メテ充分伸張ノ勢ヲ有スルヨリハ、能ク意外ノ變動ヲ現スルニ非レハ、復タ深く患フルニ足ラサル者アリト言フ可シ、区々ノ一勝一敗ハ何ソ重ク意トスルニ足ランヤ、

一七 秀吉ノ島津征伐ニ比ス 三月八日

星斗闌十トシテ風霜凜烈タリ矣、如何ソ遠征ノ將士カ野營ニ対持シテ、此ノ風光ニ凄然タルヲ遙想セサルニ忍ヒンヤ、深更風冷カニシテ角声正ニ長シ矣、想フニ西征ノ軍士モ此ノ慘愴タル物景ニ感シテ、坐ロニ悽愴ノ情ヲ起スナキニ非サルヘシ、感極リテ寐ラレス、起テ牀上ノ書ヲ緝ケハ、便チ豊公カ島津氏ヲ征スルノ記ナリ、読テ其ノ顛末ヲ闕スレハ、何ソ今日ノ事跡ト相似タルノ酷タシキヤ、

初メ島津義久カ南隅ヨリ起リテ、九州ヲ脅食スルニ当リ(肥前杵城主)、(豊後臼杵城主、宗麟)テヤ、龍造寺政家・大友義鎮ノ如キモ其ノ銳鋒ニ抗敵スルコト能ハス、(筑前岩手城主)高嶺鎮種ハ窟城ニ自殺シ、(立花繁連、筑前立花城主)戸次宗茂モ亦(也)タ其城ヲ保チ得サルノ勢ニ瀕シ、九州ヲ挙テ殆ント島津氏ノ幕下ニ属セントスルニ至レリ、豊公カ其ノ不逞ヲ咎メテ仙石秀久ヲ薩州ニ遣ハシ、其ノ罪戾ヲ責ルニ及ヒ、(肥前松城主)義久敢テ之ヲ意トセス、寝衣ヲ着シテ之ニ接シ、書ヲ取リテ地ニ投テ曰ク、我族困于此十四世矣、促朝貢者独有近衛氏、猴冠者敢欲屈致我乎ト、想フニ當時義久ハ連戦ノ勝ニ倣リ、豊公ヲ見ルコト龍造寺・大友ノ二氏ニ於ルカ如ク、假令百万ノ兵ヲ率ヒテ我ニ臨ムトモ、薩摩刀ノ切レ味ヲ以テ、上方武士ノ鈍鋒ヲ挫折センコトハ、朝飯前ノ仕事ナリト預定セシ者ナル可シ、然ルニ豊公カ自ら大兵ヲ驅リテ鎮西ニ臨ムニ及ンテヤ、兵ノ精ナル鋒ノ鋭ナル、復タ龍造寺・大友ニ於ルノ比ナラス、(肥後熊本城主)福島正則等ノ猛將ハ、上方武士ヲ以テ之ヲ輕侮スヘキニ非ス、始メテ耳川ノ一戦ヲ三月ニ試ミシヨリ連戦連敗、久シカラスシテ国境ニ迫退ケラレ、一騎当千ノ聞ヘアル新納忠元・伊集院忠棟・種子島大膳ノ如キモ、復タ其勇ヲ試ムルニ所ナク、交戦以來僅ニ三月ヲ出テサルニ、義

久ハ遂ニ髪ヲ削リテ僧衣ヲ着シ、太平寺ニ詣リテ降伏ヲ乞フニ至レリ、是レ豈ニ自ラ見ルノ妄リニ高クシテ、人ノ技量ヲ察スルノ甚タ暗キニ出ルノ過チナラスヤ、古昔ノ事ハ則チ如此矣、更ニ眼ヲ開イテ今日ノ実況ヲ見ヨ、復占ノ事業ハ水戸ニ創マリ長州ニ繼キ、在苒トシテ戊辰ノ成跡ヲ開キタル者トハ言イ乍ラ、其ノ武勲ノ最大一二位スル者ヲ尋ヌレハ、首トシテ鹿兒島ヲ推サ、ルヘカラス、当時薩兵ハ幕府・會・桑ノ大兵ヲ伏見・下鳥羽ノ一戦ニ撃破シ、長駟シテ東海・東山ノ両道ヲ下リ、戦ハスシテ江戸城ヲ降シ、半年ヲ出スシテ奥・羽・越三國ノ聯合兵ヲ瓦解セシメ、遂ニ維新ノ大業ヲ創興スルニ至レリ、其功ノ偉ナル、其業ノ大ナル、豈ニ義久カ曠昔ノ比ニ止マルヘケンヤ、然ルニ其ノ武勲ノ此ノ如ク俊絶ニシテ、薩人ノ威名ハ殆ント兇啼ヲ止ムルカ如キハ、則チ一方ニ屹立シテ政府ノ号令ヲモ遵奉セサルノ根源トナリ、政府モ亦タ容易ニ県治ノ釐革ニ着手シ得サルカ如キハ、愈々彼ヲシテ驕慢ヲ増長セシムルノ原因トナリ、遂ニ該県ニシテ一タヒ事ヲ萃レハ、直チニ天下ヲ風動スルニ至ルヘキノ妄想ヲ世人ニ与ヘシメ、該県ノ人士モ亦タ一挙シテ全国ヲ攪乱シ得ヘキノ想像ヲ平常ニ懷抱スルニ至レ

リ、是レ豈ニ義久カ龍造寺・大友氏ニ戡定シテ、自ラ驕リ自ラ恃ミタルト一般ナラスヤ、

今日ノ變動ヲ起サントスルニ臨ミ、西郷・桐野等ノ意想ハ、我輩カ曾テ之ヲ紙上ニ登録セシカ如ク、熊本鎮台ヲ一戦ノ下ニ撃破シ、其ノ彈藥糧軍ニ依リテ進軍ノ準備ヲ為スノ目的ナリシト、嗚呼台兵ヲ觀ルヤ猿猴ノ如ク、各自ノ威名ヲ以テ海内ヲ風靡スヘシト預定セシハ、即チ義久カ薩摩刀ノ切れ味ヲ以テ上方武士ノ鈍鋒ヲ挫折センコトハ、之ヲ掌ニ指スカ如シト想像セシト同一ニシテ、其ノ敵勢ノ状況ヲ察スルニ疎ナルモ、亦タ絶テ異ナラサル者アリト言フ可シ、去レハコソ鎮台ハ堅固ニシテ復タ之ヲ抜クヘカラス、漸ク筑後路ニ転スルモ官兵ノ援軍ニ阻絶セラレ、今日ニ至リテハ漸々縮退ノ勢ヲ露ハスコト殆ント義久カ豊公ニ臨ムカ如キノ状アルニ非スヤ、想フニ西郷カ桐野・篠原等ヲ見ルハ、義久カ新納・伊集院ヲ特ムカ如クナルヘシ、然ルニ野津^(鎮雄)・三好^(重忠)等ノ將帥ハ加藤・福島ニ非サルモ、勇悍善戦能ク薩兵ノ銳鋒ヲ挫折シ、吉田少佐カ重創ヲ受ケタルハ、長曾我部信親^(元親の嫡子)ノ戦死ニ似タルアルモ、後軍ノ進攻ハ益々鋭ク、遂ニ熊本ト連合セントスルニ至レリ、夫レ薩ノ征討ヲ受ルコト今ニ第二回ナ

ルニ、其ノ驕慢ノ宿謀ニ違フコト前後一般ナルヲ見レハ、
我輩力之ヲ古昔ニ感シテ之ヲ今日ニ嘆スルモ、豈偶然ニ
出ル者ナランヤ、

一八 名義ハ官賊何レニアリヤ 三月十日

將ニ西海ニ事アラントスルノ警報ヲ得タルヨリ、已ニ一
箇月余ヲ經過シ、又タ開戦ノ飛報ヲ聞知セシ以後殆ント
二旬ニ垂ムトシ、電信ノ各官省ニ達スル者ハ口ニ幾十回
ナルヲ知ル可カラズ、各新聞社員ノ之ヲ漏聞シテ紙上ニ
記載スル者モ亦タ極メテ多シ、而シテ其ノ電報タルヤ、
十中ノ八九ハ大率官軍ノ勝利ニ出ルヲ以テ、吾輩記者ハ
欣々トシテ之ヲ世人ニ報道スルコトヲ忽ニセス、併セテ
官兵が大挙シテ賊勢ヲ挫折シ、首領ハ刑戮ニ就キ、殘賊
ハ処分ヲ終へ、凱歌ノ旌飾ヲ京城ニ飄ヘサンコトヲ希フ
ハ、大早ノ雲霓ヲ望ミ、孩子ノ乳母ヲ仰クモ亦タ齊ナラ
サル也、然ルニ勝報ノ常ニ間絶ナキモ、凱歌ノ佳報ハ果
シテ何ノ時ニ望ム可キカ、吾輩モ亦タ世人ト均シク茫々
然トシテ其期ヲ預定シ能ハスト雖トモ、大兵業已ニ九州
ニ達シ、軍備モ亦タ全ク整矣、縦令賊勢ノ一時ニ猖獗ナ

ルモ、焉ゾ久シキニ持重スルコトヲ得可ケンヤ、
兵ノ要ハ其名ノ正順ナルニ在リ、其名正順ナラサレハ兵
士何ヲ以テ義ニ進マンヤ、彼ノ無名ノ師ノ如キハ、蓋シ
一時ノ激怒ニ由テ発シ、或ハ傲慢ノ極度ニ生スル者ニシ
テ、此ノ如キハ、吞噬ヲ以テ常トシ、攻伐ヲ以テ業トス
ル人倫滅裂ノ時ニ非レバ、決シテ志ヲ當時ニ逞フセシ者
アラス、見ヨヤ、第三世那勃烈翁ガ(ナボレオン)仏國ノ驍兵ヲ驅テ(テ)
漏生ヲ討セントシ、一敗地ニ塗レテ身俘虜ノ辱ヲ受ケ、
地境ハ之カ為ニ削ラレ、國光モ是ニ於テ減損シ、遂ニ他
國ニ客死スルヲ免カレサルニ至リシハ、豈其レ兵ヲ擧ル
ノ名正シカラズ、傲慢ノ極其ノ実力ヲ測ラザルヲ以テ、
終ニコノ汚辱ヲ後世ニ貽セシニ非スヤ、若シ此ノ那勃烈
翁ヲシテ名正シク事順ニ、仏國ノ人心ヲ振起作興スルニ
足ラシメバ、或ハ再ヒ第一世ノ那勃烈翁帝國ヲ欧州ニ現
出センモ、未タ知ルヘカラサリシト雖モ、三世那公ハ乃
祖ガ敵兵ノ四境ニ迫リ、國脈將ニ尽キントスルニ當リ、
其名ヲ憂國ノ二字ニ有シテ兵士ヲ義戰ニ赴カシメシト、
其時ヲ異ニスルヲ顧ミズ、濫リニ傲慢ニ長シテ無名ノ師
ヲ起セシヲ以テ、大事ヲ一世ニ誤リ國光ヲ永世ニ減損セ
リ、是レ豈殷鑑ノ最モ近キニ在ル者ナラスヤ、

今日薩兵ノ叛乱ハ、名義ノ人心ヲ動カスニ足ル者アルカ、傲慢ヨリ生シタル者ニ非サルカ、官兵ノ彼ヲ討スルハ無名ノ兵ト謂フヘキカ、兵士ノ戦地ニ赴クハ義ニ由テ進ムニ非ストセンカ、今日ハ是レ吞噬殺伐ノ世界ト言フ可キカ、名義ノ確乎タル者ナキモ猶ホ大事ヲ成スニ足ルヘキカ、是等ノ数点ニ就テ之ヲ熟考セバ、官兵ノ全勝ヲ有セシコトハ、決シテ疑フヘキ所ニ非サレ共、今ヤ吾輩ハ更ニ一步ヲ進ンテ彼我ノ順逆何如ヲ略言セン、世人モ夙ニ明知セラル、カ如ク、彼カ口実トシテ兵ヲ嘯集セシ所以ハ、僅ニ尋問ノ一点ニ過キス、其ノ此ニ至ルモ畢竟傲慢ヨリ生スル者ナリ、而シテ官兵ノ之ヲ征討スルヤ、恐レ多クモ 天皇陛下ノ詔命ニ出ル者ナリ、兵士ハ則チ国民ヲ保護スルノ大義ヲ以テ進ム者ナリ、名義ノ確然タル固ヨリ金玉ノ如シ、何等ノ狂人タリトモ必ラス復タ喙ヲ其間ニ容ル、所アルヘカラス、

此ノ如キモ世人ハ猶ホ疑懼ヲ此間ニ抱カン乎、今日ハ是レ決シテ吞噬攻伐ノ世ニ非ルナリ、維新以來文化煥發シテ世道夙ニ一変シ、大イニ昔日ノ体面ヲ異ニセシハ、独リ治安ノ時ニ在テ、和平ノ事務ヲ総理スルノ際ニ止マラス、鮮血淋漓タル戦地ニ於テモ漸ク其ノ面目ヲ改メタル

者アルガ如シ、吾輩ノヲ聞ク、戊辰ノ戦場ニ在テハ、士官トナク兵卒トナク、苟モ敵トサヘアレハ其ノ捕縛セラレシ者ハ、大率刀トノ犠牲ニ供セラル、ニ至レリト、而シテ今日ノ戦乱ニ至リ叛兵ノ所行ハ、得テ之ヲ知ラザレトモ、官兵カ賊兵ヲ捕獲セシ者ハ尽ク之ヲ警察官ニ委シ、訊問ノ上之ヲ抑留スルニ過キズト、此ノ如キハ欧米人カ開明ノ戦場ト誇言スル者ニ一步ヲ譲ラサルノ戦争ニシテ、前年ト比較スレハ、如何ゾ数歩ノ開明ヲ現セシト言ハザル可ケンヤ、

時勢ノ開明ニ進行セシヤ已ニ斯ノ如シ、然ラハ則チ其ノ勝敗モ、宜ク順逆曲直ノ在ル所ヲ以テ之ヲ決定スヘキノ時ナリ、而シテ叛兵ハ素ヨリ非理ノ極地ニ在リ、加フルニ其事ノ傲慢ヨリ起ルヲ以テスレハ、其ノ堂々タル王師ト鋒ヲ按スルニ及ンテハ、一敗地ニ塗レ、踵ヲ旋ラサスシテ降伏謝罪ニ至ルヘキハ、豈必至ノ理ナラスヤ、然ルヨ今日ニ至リテ猶ホ屈撓セス、二旬ニ渉ルノ激戦ヲ実行スルヲ見レハ、薩兵ノ桎梏モ亦タ想フヘキ也、

一九 賊勢ヲ輕視スベカラズ 三月十三日

我輩之ヲ賊徒ガ歌謡ニ唱フト聞ク、曰ク、勝バ官軍負けハ賊よ、命ち惜むな国の為めト、又タ其ノ号令ハ、進め〜死ね〜ノ数語ニ在リト聞ク、我輩ハ此ノ歌謡ト号令トヲ聞クニ及ンテ、賊徒カ名義名分モ復タ之ヲ度外ニ附シ、唯其ノ成敗ヲ以テ是非曲直ヲ決スルノ心事ナルヲ知ル也、又タ其ノ慍悍銳武ニシテ、輒スク官軍ノ大兵ニ屈セサルモ、決死ノ一念之ヲシテ然ラシムル者アルヲ知ル也、

所謂勝ば官軍負けば賊よノ一言ハ、則チ本居宣長ガ所謂なし得たるを聖人といひ、なし得ざるものを賊といふノ意ニシテ、名義名分ハ復タ措テ之ヲ問ハサルノ謂ナリ、然ルニ本居ガ此語ヲ下シタルノ本意ハ、敢テ成敗ヲ以テ聖ト賊トヲ判決スルヲ可トシ肯ニスルニ非ス、乃チ支那ノ風情ハ常ニ此ノ如クニシテ、湯(殷王)・武カ嘗テ君トシ仰ケル(夏王)・紂ヲ討伐スルモ、成敗ノ後チヨリ聖ト喚レ賢ト唱ヘラレ、更ニ大義名分ノ凜然タル者ナキヲ擯シテ、我邦ノ皇統一系万古不易ナルヲ称賛スルノ議論タリ、成程本居ノ説ノ如ク、我邦ニ於テハ仮令如何ナル乱臣賊子アルトモ、マサカニ皇統ヲモ紊乱スル程ノ不軌ヲ挟ム者アルコトナキハ、日本帝国ノ湮滅セシ後ハイザ知ラス、歴然

トシテ在在スル限りハ決シテ之レアル間敷ノ条理タリト雖モ、東西相争ヒ彼我相闘クノ間ニ於テハ、所謂勝ば官軍負けハ賊よノ一言ハ、時アリテ之ヲ實際ニ現出スルコトナシトモ言フヘカラス、

古昔ノ事ハ暫ラク差置キ、近ク之ヲ戊辰ノ事跡ニ徴スルモ、瞭然トシテ明白ナル者アル可シ、今日ヨリ之ヲ言ヘハ、徳川・曾・桑ノ兵ハ固ヨリ乱臣ナリ賊徒ナリ、然ルニ若シ伏見・下鳥羽ノ一戦ニ於テ、大坂ノ兵ハ見事ニ薩・長ノ兵ヲ撃破シ、進ンテ禁闕ヲ擁セシメハ、賊徒ハ變シテ王師トナリ、王師ハ代リテ賊徒トナリ、東北ニ臨ムノ錦旗ハ却テ西南ニ向フニ至リシモ知ルヘカラス、幸イニ大坂ノ兵ハ一戦ノ下ニ敗衄シ、親ラ金甌ヲ破壊セシヲ以テ、賊徒ハ遂ニ賊徒タルニ終リ、王師ハ遂ニ王師タルヲ失ハサリシナラント想像セラル、今日賊徒カ、勝ば官軍負けハ賊よノ歌謡ヲ唱フルモ、或ハ当時ニ実試セシ者ヲ追憶シ、以テ此ノ俚言ヲナス者ナランカ、

抑々官軍タルヘキノ生質ヲ具シテ、官軍タルノ名義ヲ有スル者ハ、仮令不幸ニシテ当時ニ顛蹶スルコトアルトモ、百世論定マルノ後ニ至リテハ、決シテ其ノ正義正道タルヲ失フコトナシト雖モ、一時兇餓ノ盛ンナルニ当リテハ

復タ之ヲ如何トモスルコト能ハス、所謂人多而勝天ノ變アルヲ免カレサルハ、靡々トシテ然ル所ナリ、彼ノ北條義時カ後鳥羽天皇ヲ承久ニ破リ、足利尊氏カ後醍醐天皇ヲ南山ニ燵スルカ如キハ、一時ノ兇鋒ヲ以テ正義正道ヲ湮滅スルノ時ニシテ、想フニ當時ニ在テモ識者ハ必ラス其ノ不理非義タルヲ切齒セシナラン、然レトモ兇鋒ノ一時ニ熾盛ナル、復タ之ヲ撲滅シ得ルニ由ナク、北條ハ九代ニ永存シ、足利ハ十三世ニ血食スルニ至レリ、是レ則チ成敗ヲ以テ幸不幸ヲ決スル者ニシテ、其ノ事跡ハ大イニ今日ト異ナル者アリト雖トモ、其ノ実況ハ所謂勝ハ官軍ノ意旨ト甚タシキ隔絶アルニ非サル可シ、

今日ハ是レ攻伐呑嚼ノ時ニ非ス、理論ヨリ之ヲ言ヘハ、戦争モ必ラス名義ノ正否如何ヲ以テ勝敗ヲトスヘキノ議ハ、我輩已ニ之ヲ前日ニ開陳セリ、然ルニ今ヤ賊徒カ軍中ニ唱フル所ノ歌謡ヲ聞ケハ、彼等ハ全ク名義名分ヲ度外視シ、偏ヘニ腕力ヲ以テ勝敗ヲ決シ、勝敗ニ由リテ名義ヲ定メント欲スル者ニシテ、実ニ之ヲ開明ノ乱賊ナリト言ハサルヘカラス、其ノ乱賊タルハ則チ此ノ如シト雖トモ、所謂進め〜死ね〜ノ号令ハ之ヲ戰鬪ニ実行シ、今日ニ至リテ未タ其ノ勢力ヲ沮喪セサルヲ見レハ、如何

ソ之ヲ輕視シテ可ナランヤ、

且ツ夫レ一時ノ兇鋒ヲ以テ正義正道ヲ湮滅スルノ變事ナキニ非サルハ、前条ニ開陳スルカ如シ、斯ノ如キノ變事ヲ今日ニ消滅シテ、充分ニ正義正道ヲ開達スルハ、偏ヘニ官兵ノ奮発ニ依ラサルヲ得ス、嗚呼官兵ハ飽迄官兵タルヘキノ生質ヲ具有シテ、又タ賊徒ヲ討滅シ得ヘキノ兵數ト戰具トヲ充備セリ、賊徒カ斯ル暴慢無礼ノ歌謡ヲ唱フルヲ聞テ、赫然憤怒スルナキ乎、我輩ハ官兵カ一層ノ奮発ヲ以テ賊鋒ヲ挫折シ、其ノ意旨ヲ全フスルコトヲ得サラシメンコトヲ冀望スルハ、殆ント大旱ノ雲霓ニ於ルカ如シ矣、

二〇 鹿兒島叛徒ト民権思想 三月十四日

民権ヲ平素ニ説キ自由ヲ通常ニ語ルノ士ハ、今日ニ至リ何ノ処ニ其跡ヲ収メタルヤ、知ラスヤ、今回ノ戦争ハ独リ我カ政府ノ屈伸ニ關係スルノ事變タルノミナラス、吾人カ權利自由ノ進縮ニ就テモ、頗ル密附ノ關係ヲ有スルノ變乱タリ、此ノ如キノ關係ヲ持スルノ變動ヲ目撃スルニ際シ、之ヲ見ルコト秦人ノ越人ニ於ルカ如キ者ナキニ

非サルノ感覺ヲ与ヘシムルヤ、我輩ハ争テカ疑ハサラン、此徒ノ平生ニ在テ民権ヲ説キ自由ヲ語ルハ、果シテ真ナル乎、抑々偽ナル乎ト、

世人ハ必ラス問ハン、子ハ何ヲ以テ此ノ如キノ感覺ヲ生シ来レルヤト、我輩ハ之ニ答ヘテ曰ン、不肖ナカラモ身ハ新聞記者ノ班ニ列シ、輿論ヲ採取スルニ最便ナルノ地位ヲ有スルヲ以テ、聊カ世上ノ議論如何ヲ觀察スルニ容易ナル者アリ、而シテ變動以後世人カ何等ノ事ヲ談シ、何等ノ議ヲ陳スルヤヲ伺フニ、大率尋常一樣ノ談柄ヲ臚列スルニ過キスシテ、其ノ變動ノ如何ナル理義ヲ有シ、如何ナル關係ヲ抱ク等ノ旨趣ヲ弁析シ、以テ世人ノ方向ヲ確定センコトヲ試ムルカ如キハ、蓋シ亦タ稀ナリ、此ノ民権ノ屈伸自由ノ進縮ニ密附ノ關係ヲ有スルノ戦争ヲ目撃スルモ、猶ホ見テ以テ政府裏内ノ事トナスカ如ク、議論ノ此ニ及フモノ殊ニ甚タ寥々タルヲ見レハ、我輩カ此徒ノ平生ニ在テ民権ヲ説キ、自由ヲ語ルノ真偽如何ヲ疑惑スルモ、豈敢テ謂レナキニ迷霧ナリトナス可ケンヤ、政府カ平生ノ得失ヲ細檢シテ、一事一行ノ可否迄モ詳論スルトキハ、尽ク其善ヲ尽ストモ言フヘカラサル者アル可シト雖トモ、試ニ鹿兒島ノ目的ト對比シ来リ、何レカ

吾人ノ權利ヲ保護シ、自由ヲ伸達スル者ナルカノ問題ヲ下シ来ラハ、苟モ通常ノ眼光ヲ具ヘサル者ニ非サルヨリハ、必ラス政府ハ吾人ノ權利ヲ保護シ、自由ヲ伸達スルノ目的ヲ具スル者ニシテ、鹿兒島ハ其ノ然ラサル者ナルヲ知ラン、何トナレハ假令政府カ一事一行ノ施設ニ於テハ、尽ク其善ヲ尽ストハ言イ難キ者アルニセヨ、其ノ改進ノ政府タルニ相違ナキハ、輿論ノ絶テ疑ヲ容レサル所ナリ、而シテ鹿兒島ノ学校党カ常ニ廉恥ヲ説キ、節義ヲ談シ、風俗人心ノ頽敗ヲ慨スルカ如キハ、自ラ現今ノ流弊ニ痛切ナル者ナキニ非スト雖トモ、其ノ憑拠スル所ハ封建ノ威力ニシテ、其ノ愛慕スル所ハ武士ノ氣象ニ在ルヲ見レハ、彼等カ其ノ目的ヲ達シ得テ政治ヲ実行スルニ当リテハ、果シテ何等ノ成跡ヲ我輩人民ニ及ホスヘキ乎、凡ソ成業^(果)ハ原因ト其ノ実跡ヲ異ニスル者トハ言イナカラ、若シ今日迄ノ目的ヲ実地ニ施行スヘシトセハ、殆ント消滅セントスルノ武権ヲ今日ニ回復シ、將ニ発達セントスルノ文治ヲ将来ニ障害スルニ至ルヘシ、苟モ武権ヲ回復シテ文治ヲ障害スルニ至レハ、民権自由ハ從ツテ地ニ墮ツヘキノ時ナリ、此ノ如キモ論者ハ猶ホ極言痛論與人ノ目的ヲ確定センコトヲ欲セサル乎、

鹿兒島ノ變動ハ天下ノ大乱ニシテ、政府ハ全力ノ大半ヲ九州ニ傾ケ、上ハ國家ノ會計ヨリ下ハ一般ノ商業金融ニ至ル迄、容易ナラサル影響ヲ及ホスニ至レリ、其ノ變動ノ此ノ如ク大ナルヤ、全国人民誰カ其ノ戦狀ノ如何ナル景況タルヲ觀望セサラシヤ、況ンヤ平素ニ在テ議論文章ヲ事トスルノ学士書生ニ在テハ、猶更日夜ニ之ヲ胸懷ニ絶タザルベシ、之ヲ胸懷ニ絶タサルモ、之ヲ紙上ニ論弁シテ輿論ノ方向ヲ確定センコトヲ務メサルハ、豈其レ政府ニ抵抗スル者トサヘアレハ、民權ヲ保護シ自由ヲ伸達スル者トナス乎、徒ニ政府ニ抵抗スルモノヲ以テ人民仲間ニ厚意ナル者トナシ、叛乱ノ生質ト名義ノ順逆ヲモ察セサルカ如キハ、如何ソ薰蒼氷炭ヲモ弁セサルノ盲目論者ナリト言ハサルヘケンヤ、若シ是等ノ流派アラシメハ、我輩ハ將ニ此徒ニ向ツテ言ハントス、君等ハ鹿兒島叛党カ平素ノ主義トスル所ハ、何等ノ目的ニ在ルヲ知ラサル乎、其ノ口実トスル所ハ何等ノ名義ナルヲ悟ラサル乎ト、已ニ叛党カ平素ノ主義ト今日ノ口実トヲ知覺セハ、民權自由ノ敵ナルカ味方ナルカヲ察スルニ難カラサルヘシト雖モ、若シ猶ホ我輩ノ言ヲ可トシ肯ンセサレハ、我輩ハ又タ將ニ言ントス、然ラハ則チ君等カ民權ヲ平素ニ説キ、

自由ヲ通常ニ語ルハ、不平ヲ発洩センガ為メニ仮面ヲ民權自由ニ求ムル者ナリト、

二 變乱ニ際シテ民權自由論者ノ義務

三月十五日

我輩ハ昨日ノ紙上ニ於テ民權ヲ平素ニ説キ、自由ヲ通常ニ語ルノ士ニシテ、今日ノ變動ヲ目撃スルモ、絶テ其ノ如何ナル理義ヲ有シ如何ナル關係ヲ抱ク等ノ旨趣ヲ、弁析スル者ノ甚タ寥々寂々ナルヲ疑惑シ、以テ一片ノ所見ヲ開陳セリ、然ルニ一方ニ對シテハ猶ホ意見ヲ詳悉セサルニ忍ヒサル者アリト覺ユルニ付キ、更ニ一步ヲ進メテ此ニ論及スル所アラント欲スル也、

見ヨ見ヨ、近日新聞紙上ノ論談ヲ見ヨ、曾テ侃々諤々タル民權自由ノ論說ヲ以テ、多少ノ影響ヲ世間ニ及ホセシ学士ニ至ル迄、漸ク其鋒ヲ収メ、將ニ勤王ノ一点ニ歸セントスルカ如キニ至レリ、此ノ如キハ畢竟事變ノ然ラシムル所トハ言イ乍ラ、進ム者ハ際涯ナク、走ル者ハ遏息セス、終ニ論者ノ心思ヲ勤王ノ一語ニ束縛セシメ、此ノ貴重スヘキ民權自由ノ主義ヲ胸間ヨリ掃蕩スルニ至ラハ、

豈其レ論者ノ義務ヲ尽ス者ナリト言フヘキ乎、

洋ノ東西トナク、人種ノ黄白トナク、内訌又ハ外患ノ為ニ鼓聲ヲ囂中ニ轟カシ、警報頻リニ至リ、人心恟々タルノ際ニ在テハ、堂々タル紳士モ亦タ其ノ宿論ヲ変換シ、民権自由ヲ貴重スルノ論者ニシテ專制圧抑ノ法則ヲ案シ、民権ヲ妨ケ自由ヲ害スルノ所分ヲ施シテ、自ラ怪シマサルニ至ルコトナキニ非ス、假令其ノ法則ヲ案シ、其ノ所分ヲ施コスニ至ラサルモ、平素ノ論旨ト全ク正向ノ反点ニ走ルカ如キハ往々ニ然ルアリ、請フ、彼ノ英國「巴力門」ノ議士ニシテ自由党ノ首領ト称セラレタル、イドモンド・ベルクカ始終ヲ一見セヨ、氏カ名声ハ夷ニ四境ニ伝播シテ、当時ノ人望ヲ一身ニ集合セシモ、其ノ廟堂ノ上ニ翱翔シテ宰相ノ重任ヲ負フコト、ピット、ブックス(フオックス)ノ如キニ至ラサリシハ、氏カ論旨ノ君権ニ正向セシカ為メナラスヤ、而シテ仏国革命ノ変乱ヲ発スルニ及ヒ、論旨頓ニ一変シテ陰然王党論ノ極点ニ達スルニ至リシハ何ソヤ、後世ノ論者或ハ之ヲ論断シテ、氏カ愛子ヲ失ヒシヨリ悲哀ノ余リ、脳裏錯乱セシナリト言フ者アリト雖トモ、恐ラクハ此ノ一事ニ止マルニモ非サル可シ、何トナレハ変乱ノ甚タシキ全国ヲ震倒スルニ至リテハ、一般世人ノ思想

ヲ攪乱シテ、終ニ各自ノ持論ヲ転換セシムルモ亦タ怪ムニ足ラサル者アレハ也、斯ノ如キノ時ニ至リテ、心思ヲ錯乱スル程ノ苦心焦慮ヲ極メサルハ、人情ニ背戾スルノミナラス、政府ニ対スルノ義務ヲ誤マルト言フ者アランモ知ルヘカラサレトモ、虚心平氣以テ平素ノ論旨ヲ失ハス、上下ノ幸福ヲ文壇ニ保持センコトヲ謀ルモ、亦タ論者カ国家ニ対スルノ一義務ナリト言ハサルヘカラス、兇器ヲ執テ政府ニ敵抗スル者ハ、固ヨリ之ヲ討セサルヘカラス、之ヲ滅セサルヘカラス、然ルニ之ヲ討滅スルノ責任ハ政府ニ在テ、其ノ戦地ニ進ミ交戦ヲ試ムルハ、兵役ニ従事スル人民ノ義務タリ、其ノ政務ニ関涉セス其ノ兵役ニ従事セサルノ党類ニ在テハ、宜ク何等ノ義務ヲ尽スヘキヤ、義兵トナリテ戦場ニ臨マン乎、苟モ兵ヲ募ラントセハ、政府ヨリ全国ニ令シテ国民ヲ徵集スルノ規則タリ、論者ニシテ復タ何ノ窮迫士族カ名義ヲ勤王ニ仮リ、僥倖ヲ万一ニ求ムルカ如キノ醜体ニ習フヘケンヤ、然ラハ則チ今日ニ尽スヘキ心分ノ義務ヲ求ムヘカラサル乎、曰ク、然ラス、国民タル者ニシテ、何ノ時カ尽スヘキノ義務ナカルヘケンヤ、請フ、活眼ヲ開イテ我邦今日ノ状態ヲ熟視セヨ、假令叛賊ノ明日ニ鎮定スルモ、政体ハ未

タ完全無欠ナリト言フ可ラス、苟モ政体ヲ固定セントセハ、君民共治ニ依ラサルヘカラサルハ、朝野一般ノ確知スル所ナリ、然ラハ則チ此ノ變亂ノ時機ニ際スルモ、亦タ一步ヲ其ノ方向ニ進ムルヲ以テ、論者カ国家ニ対スルノ義務ト言フヘキ也、

兵乱ノ禍毒ハ已ニ自由論者ノ思想ヲ纏フカ如クニシテ、其ノ開陳スル所ハ一モ戰地ニ関セサルハナク、其ノ論旨ハ漸ク勤王ノ一語ニ傾向セントスルニ似タリ、勤王ノ志念ヲ振興スルハ我輩モ亦タ倅ク同点ニ在ル者ナリト雖モ、其極或ハ内訌平定ノ後ニ至ルモ、人心偏ヘニ勤王ノ一語ニ恋ミシテ民権自由ノ貴重スヘキヲ忘レ、夙ニ万世不朽ノ政体ト確認セル君民共治ノ方向ハ、漸ク其跡ヲ滅シ、仮令波濤ノ間ニ沈没スルノ悲觀ヲ現セサルモ、其ノ達スヘキノ津涯ヲ知ラサルカ如キニ至リテハ、之ヲ国家ノ幸福ト言フヘキ乎、嗚呼朝野相合シテ僅カニ其ノ基礎ヲ構造セシ君民共治ノ政体ニシテ、之ヲ今日ニ破壊スルニ至ラハ、論者ノ面目ハ果シテ何ノ所ニカ在ル、論者ハ猶ホ可ナリ、政府モ亦タ之ヲ如何スルニ術ナカルヘシ、然ラハ則チ我輩カ論シテ此ニ至ルモ、亦タ已ムヲ得ルニ出ル者ナラサルヲ知ル可シ矣、

二二 士族志願兵制ヲ排ス 三月十七日

内訌ノ紛紜亦タ極矣、此ノ時ニ當リ苟モ国ヲ患ヘ政府ヲ思フノ衷情ヨリ、人民タルノ義務ヲ尽サントセハ、何等ノ目的ヲ確定スルヲ以テ其ノ方向ヲ失ハサル者トナスベキカ、志願兵トナリテ戰地ニ進ムニ在リトセンカ、一タヒ政府ヨリ召集ノ令ヲ下セハ、数百万ノ兵ヲ募ルモ亦タ容易ナルヘシ、然ラハ則チ復タ何ゾ志願兵ト為リテ戰地ニ赴クヲ以テ、国ヲ患ヘ政府ヲ思フノ衷情ト言フコトヲ得ヘケンヤ、

此ノ如キヲ以テ吾輩ハ、已ニ一昨日ノ紙上ニ於テ士族ノ義勇兵（先キニ義勇兵ト記セシヲ今志願兵ト書ス、其意同シ）タランコトヲ希フハ、口実ヲ名義ニ借リ、僥倖ヲ万ニ望マントスルニ過キサルヲ擯斥セリ、世人或ハ其ノ苛酷ニ過ルヲ疑フ者アランモ知ルヘカラサレトモ、吾輩ノ極言此ニ至ルハ決シテ其理由ナキニ非ズ、請フ、左ニ陳述スル所ヲ見ヨ、

政府ハ已ニ全国ノ兵員ヲ擧テ其ノ大半ヲ九州ニ派遣セリ、賊兵如何ニ猖獗ヲ逞フスルモ、決シテ久シキニ防禦シ能ハサルハ必然ナリ、仮令西郷・桐野輩ハ那勃烈翁（ナボレオウ）ノ兵略

ヲ蓄へ、華盛東^(ワシントン)ノ人望ヲ有スル者トスルモ、僅ニ一地方
 内ノ少年輩ヲ馭リ、粗製ノ戦器ヲ以テ堂々タル王師ニ抗
 スルノ狂兵タリ、何ソ強悍無比ヲ以テ天下ニ誇称スル仏
 国全土ノ兵機ヲ運転スル者ト、之ヲ比較シ見ルヲ得ヘケ
 ンヤ、亦タ何ゾ茫渺三千里ノ大洋ヲ隔テ、且ツ蒸気船舶
 ノ發明以前ニ関ル英米分離ノ變乱ト、同一祝スルヲ得ヘ
 ケンヤ、然ラハ則チ王師ノ勝算ハ、復タ贅言ヲ要セザル
 ベシト雖モ、猶ホ其ノ勝算ヲ制スルニ充全ナラズトセン
 カ、前ニモ言フガ如ク、頃刻百万ノ大兵ヲ挙テ賊壘ヲ蹂
 躪シ主領ヲ擒獲スルモ、亦タ何ノ難キコトカ之レ有ン、
 然ルニ政府ハ此ニ出スシテ今日ニ至ルマデ、未タ賊焰ヲ
 熾滅ニ帰セシメザルハ、徒ニ無用ノ大兵ヲ派遣シテ過大
 ノ失費ヲ要シ、後患ヲ貽サンコトヲ畏ル、カ為メナリト
 推測スルモ、決シテ不当ニ非サルヘシ、若シ其レ失費ノ
 多過ヲ懸念スルニ非ズ、他日ノ疲弊ヲ顧慮スルニ非サレ
 バ、幾百万ノ兵員ヲ徵集スルモ亦タ難ンスル所ニ非ス、
 然ラハ則チ士族輩ガ志願兵タルヲ希フモ、亦タ無用ト言
 フヘキ也、

日本ノ兵制ハ全国ノ丁壯ヲ募ルニ在リテ、士族ニ依頼ス
 ルニ非ス、若シ其レ召募ノ一令士族輩ニ及フアラバ、其

時コソ士族タルノ氣力ヲ振起シ、勇進奮発以テ戦地ニ赴
 キ、進ンデハ賊鋒ヲ挫キ、退テハ軍令ヲ守リ、宜ク明治
 政府ノ下、干城ノ兵士タルニ恥ザランコトヲ欲スベシト
 雖トモ、未タ召募ノ令ヲモ聞カザルニ、蓋リニ諸方ニ集
 合シ、刺ヲ研ギ銃ヲ磨シ、或ハ兵機ヲ談シ軍略ヲ説キ、
 願書ヲ捧ゲテ出兵ヲ企望スルガ如キハ、戦功ヲ以テ他口
 ノ僥倖ヲ釣ラントスル者ト認メラル、モ、亦タ遁辞ナカ
 ル可シ、何トナレハ若シ今日ノ兵制ヲモ知ラズシテ此行
 ヒアリトセバ、不学文盲者タルヲ免カレス、想フニ諸君
 ハ不学文盲者ニハ非サルヘシ、之ヲ知ルモ猶ホ此行ヒア
 リトセハ、是レ則チ変乱ヲ機会トシテ僥倖ヲ釣ル者ナリ
 ト指称セラル、モ、亦タ抛ロナカルヘシ、然ラザルモ漫
 然タル杞憂人ノ看ヲ識者ニ下サル、ハ、避クヘカラサル
 所ナリ、縦令杞憂人タルモ之ヲ冷笑スルハ吾輩ノ本意ニ
 非レトモ、士族ノ今日ニ進退スルハ、日本ノ国是ニ関シ
 甚ダ欲セザル所ナリ、

試ニ見ヨ、今日ノ騒乱ハ其レ何人ノ挙動ニ由ルカ、不平
 士族ニ擁セラル、ニ非レバ、西郷ト雖トモ必ラス叛賊ノ
 醜名ヲ負ハサルヘシ、戦地近傍ノ人民モ此ノ酸苦ヲ蒙ラ
 サルベシ、政府モ亦タ此ノ無用ノ失費ヲ要セザルベシ、

然ラハ則チ今日ノ變亂ハ、全ク士族ノ不平ニ起ルト言ツテ可ナリ、士族ヲ制スルニ士族ヲ以テスルハ、則チ其ノ禍毒ヲ永存スル所以ニシテ、安ソソ之ヲ可トシ肯ンスルコトヲ得ヘケンヤ、故ニ吾輩ハ將ニ士族ニ向ツテ言ントス、士族諸君ヨ、万一一モ他日ニ召募ノ令ヲ得ルアラバ、其時コソ宜ク勇進奮起スベシトテ、自立ノ職業ニ從事シ、余有ラバ（窮迫士族ニ非ズシテ）責テハ家禄ヲ奉還シテナリトモ、軍費ノ万一一ヲ尙補セラレヨ、是レ吾輩カ最モ士族諸君ニ企望スル所ナリト、

吾輩ハ斯ノ如ク當時ノ士族ニシテ志願兵タランコトヲ希フノ善行ニ非ルヲ論ズルハ、今回變亂ノ性質如何ヲ觀察スルニ出ルモノ也、若シ其レ變亂ノ性質ヲ異ニシ、外敵ノ境界ヲ犯サントスルガ如キコトアラハ、其時コソ宜ク奮激突戰、以テ生命ヲ鴻毛ニ附シ一身ヲ土芥ニ比シ、斃而後己ノ節操ヲ磨勵スル所アルヘシ、万一是等ノ變アルニ當テハ、吾輩モ亦タ將ニ諸君ト共ニ先登ヲ競ハントス、

二三 私学校之精神已滅矣 三月二十日

鹿兒島ノ私学校党ハ仮令變動ヲ今日ニ起サル、モ、固ヨ

リ我輩改進者流ノ共ニ政図ヲ謀ルヘキ者ニ非サル也、然ルニ所謂有志者流ノ一派カ専ラ鹿兒島ニ傾向シ、西郷ヲ仰クコト鬼神ノ如ク、私学校党ヲ見ルコト良友ノ如クナリシハ、鹿兒島カ隱然トシテ風俗ノ頹破ヲ一方ニ抱持シ、人心ノ浮靡ヲ南隅ニ匡救スルカ如キ者アリテ、其ノ主義トスル所ハ、時勢ノ進度ト背馳スル者アルヲ免カレサルモ、自ラ固有ノ元氣ヲ失ハサルノ見ルヘキ者アレハナリ、然ルニ今日ニ至リテハ、私学校ノ貴重スヘキ精神ハ砲煙戰塵ト共ニ消滅シ去リ、復タ一点ノ佳称スヘキ者アルヲ見ス、我輩カ私学校之精神已滅矣ノ論題ヲ掲ケ来レルモ、豈偶然ニ出ル者ナランヤ、

私学校党ノ平素ニ於テ主義トスル所ハ、内憂外患ヲ問ス国家ノ一大難事ト見ルヘキ程ノ變亂アレハ、蹶起シテ其急ニ赴キ、奮然困難ニ殉シ、以テ干城ノ士タルニ恥チサルノ大節ヲ尽サントスルノ趣意ナリシト伝聞ス、其ノ主義トシ目的トスル所、已ニ此ノ如クナレハ、仮令其ノ名目ハ学校ト言フニモセヨ、尋常ノ学業ヲ講セスシテ偏ヘニ廉恥ヲ磨勵シ、節義ヲ講究シ、其ノ論談スル所ハ凡テ一死國ニ殉スルカ如キノ激烈ニ止マルモ、亦タ元氣ヲ一方ニ抱持スルノ取ルヘキ者アリトスレハ、強チニ之ヲ擯

斥スルニ忍ヒサル者ナキニ非スト雖モ、今ヤ彼等カ相合同シテ政府ニ背叛シ、此ノ慘酷ナル変乱ヲ暴起セシハ、聊カタリトモ平素ノ目的ヲ実行セシ者アリトナスヘキ乎、今日ハ是レ内憂ノ眼前ニ切迫シ、政府モ亦タ之ヲ統制シ能ハサル程ノ事變アルニモ非ス、又タ外患ノ危急ヲ現出シ、国家ノ安危存亡ニ關係スルノ大難事アルニモ非ス、其ノ容易ナラサル變動ヲ發起シテ全国兵員ノ大半ヲ九州ニ傾ケ、延テ會計上ニ至ル迄之ヲ收拾スルニ易カラサルノ差違ヲ生シテ、究竟人民ノ頭上ニモ波及スルノ災厄ヲ蒙ムラシメ、更ニ不融通ノ上ニモ不融通ヲ累ヌルノ困難ヲ生セシハ、皆ナ薩賊カ俄然トシテ今回ノ変乱ヲ起セシヲ以テナリ、然ラハ則チ彼等カ平素ニ主義トスル所ハ、聊カ之ヲ実行セサルノミナラス、躬ラ慘毒ナル内憂ヲ醸生セシ者ナラスヤ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、我輩カ之ヲ目スルニ私学校ノ精神已ニ滅スルヲ以テスルモ、決シテ妄評ナラサルヲ知ル可シ、

我輩又タ之ヲ聞ク、私学校ノ規則ニハ、何程ノ變アルトモ官庁ヲ焼ス、官吏ヲ殺サス、官物ヲ掠奪セス、民財ヲ剽掠セサル等ノ條款アリト、而シテ彼等カ今回ノ變乱ヲ發起スルニ当リ、何等ノ挙動ヲ現行セシヤ、假令官庁ヲ

焼キ官吏ヲ殺ス等ノ所業ナキニモセヨ、彼ノ出張ノ際ニ当リ、県庁ノ官金五十万円ヲ抱キ去リシハ、良シヤ大山県令ヨリ之ヲ資給セシトスルモ、到底官物ヲ掠奪スルノ姿ニ歸セサルヲ得ス、暫ラク十分ノ寛假ヲ与ヘテ是レハ県令ヨリ渡シタル者ナレハ、請取テモ可ナル者ト心得タリトスルモ、彈藥ノ掠奪ハ之ヲ如何スヘキ、鹿兒島ニ貯蓄セル彈藥ハ則チ海陸兩軍ノ所轄ナラスヤ、之ヲ掠メ去ルモ官物ヲ奪フニ非スト為スヘキ乎、若シ將タ賊徒ハ、我々ノ謀ル所ハ義挙ノ用ニ供スルカ故ニ、之ヲ掠奪スルモ差構ヘナシトセンカ、是ハ余リニ勝手ナル話シニテ、此ノ如クナラハ都合次第ニテ、平素ノ盟約ヲ破壞スルモ妨ケナシト為スヘキノ理ニシテ、能クノ賊徒贖負ニ非サルヨリハ、決シテ之ヲ首肯スル者ナカル可シ、然ルニ是等ノ事件モ枉テ十二分ノ寛恕ヲ加ヘ、賊徒ノ冥頑ナル急遽暴発ノ際復タ致シ方ナシトスルモ、熊本ニ連戦持久スルノ後、其ノ金穀輜重ニ欠乏スルニ及ヒ、人家ニ乱入シテ民物ヲ剽掠シ、人足ヲ使用シテ賃錢ヲ払ハサルカ如キハ、之ヲ民財ヲ掠奪スル者ニ非スト言フヘキ乎、如何ニ千言万語ヲ費シテ之ヲ保庇セントスルモ、必ラス其ノ辭柄ヲ得ルコト能ハサル可シ、是ニ於テカ彼ノ新政厚德ノ四大

字モ、一時民心ヲ総攬セントスルニ過キサルノ仮策タル
ヲ明カニスルニ足り、私學校ノ規則ハ固ヨリ、夙ニ湮滅
ニ帰シタリト言ハサルヘカラス、

以上開陳スルカ如クナレハ、今日ノ西郷党ハ前ノ學校党
ニ非スト言フモ、断然不可ナル所ナカル可シ、何トナレ
ハ其ノ精神ハ早ク已ニ消滅ニ帰シタレハ也、而シテ西郷
ハ今回ノ變動ニ於テ現ニ賊徒ノ党首トナリ、親ク軍配ヲ
執ルヲ見レハ、仮令射ラ官物ヲ掠奪シ民財ヲ剽掠スルコ
トナキモ、其徒ノ為ス所ハ則チ西郷ノ為ス所ナリト指称
セラル、モ、決シテ之ヲ回避スルコトヲ得サルヘシ、此
ノ如キモ今日ニ至リテ猶ホ西郷ヲ鬼神視シ、學校党ヲ良
友シ見ルノ痴漢アラハ、我輩如何ソ是等ノ徒ハ、徒ニ其
名ヲ慕フテ其実ヲ察セサルノ盲眼者ナリト言ハサルヲ得
ンヤ、

二四 官兵衝賊背之策已成矣 三月二十一日

我輩カ昨日ノ紙上ニ登錄セシカ如ク、官兵カ賊背ヲ衝ク
ノ策略ヲ行ハントスルニ就テハ、兵隊モ総テ整頓シ、高
島大佐カ率イラレタル一大隊半ノ兵ト巡查七百名トハ、

去ル十八日午前五時ニ長崎ヲ発艦シテ八代ニ上陸シ、直
チニ攻撃ヲ試ムルノ筈ニテ、残ル一大隊半ノ兵ト巡查五
百名ハ、八代ヨリ上陸セシ兵ノ報知ニ由リテ、其機ニ投
シ宇土ヨリ攻撃シテ遂ニ一手トナリ、衝突ヲ川尻ノ賊營
ニ試ムルノ筈ナリト、而シテ再度ノ電報ニ抛レハ、此ノ
長崎ヨリ出張セル官兵ハ、已ニ肥後ノ地境ニ上陸シテ戰
地ニ臨ムニ至リタル也(雜報ヲ見ヨ)、

戰地ノ実況ニ於テハ、互ニ胸壁ヲ嚴重ニシテ相對持スル
ニ至レハ、如何ニ殊死奮戰ヲ試ムルモ、今日一壘或ハ二
壘ヲ拔テ明日又タ之ヲ奪ハレ、又ハ若干ノ里程ヲ進ムカ
ト思ヘハ再ヒ若干ノ里程ヲ退ク等ノ變アリテ、之ヲ要ス
ルニ一勝一敗ノ殊異アルニ過キス、彼ノ全形ノ局面ヲ一
變スルノ戰爭ハ、必ラス撫背或ハ扼喉ノ奇策ニ在ルヘキ
ヲ以テ、我輩ハ夙ニ官兵カ此ノ計略ヲ實施セラレンコト
ヲ想像スルノミナラス、併セテ深ク之ヲ冀望セリ、然ル
ニ官兵カ今日ニ至ル迄未タ其ノ策略ヲ決行セラレサリシ
ハ、鹿兒島ノ実況如何ヲ詳悉スルニ由ナキカ故ニ、突然速
断ノ危険ニ出ンコトヲ憚カラレタル者ナル可シ、而シテ
(前光)柳原勅使ト黒田參議カ一タヒ鹿兒島ニ臨マレタルヨリ、
(久光、忠義)島津父子ハ敢テ異状アルコトナキヲ明カニシ、其他ノ事

件モ尽ク委任通りニ処分ヲ終ヘラレタルヨリ、最早撫背

扼喉ノ大策ヲ行フニ適當ナルヲ決セラレタル者ナルヘクシテ、即チ黒田參議カ電報中ニ報告セラレタル大挙攻撃

ノ決策ハ、今日ノ進軍ニ在リトシテ可ナルヘシ、

且ツ夫レ八代ニ上陸スルノ兵ハ、高島大佐カ率イラレタル一大隊半ノ兵ト、巡查七百名ナリト云フニ拠レハ、曾

テ鹿兒島ニ赴キタル兵員ナランカト想像セラル、若シ鹿兒島駐屯ノ兵ナラハ、本國ノ復タ患フルニ足ラサルノ実

況ヲ詳悉セラレタルノ後ニ出テシコト知ルヘシ、何トナレハ若シ本國ニシテ猶ホ患フヘキノ形勢アレハ、容易ニ

兵備ヲ緩フスヘカラサレハ也、夫レ本國ハ已ニ賊ノ後援ヲ為スニ足ラス、前面ニハ官兵カ整々堂々ノ陣ヲ以テ之

ヲ蹙圧スルアリ、腹部ニハ熊本鎮台カ城中ニ堅守シテ之ヲ阻隔スルアリ、而シテ今又タ其ノ背後ヨリ衝突セラル

、ニ至リテハ、良シヤ西郷・桐野ノ戰略ハ鬼神ヲ欺キ、薩兵ノ銳武ナル一以テ十二敵スヘシトスルモ、争テカ其

勇ヲ試ムルコトヲ得ヘケンヤ、然ラハ則チ仮令ヒ賊徒カ一戦ノ下ニ敗衄セスシテ、猶ホ殊死奮闘シ或ハ官兵ヲ一

回二回ニ苦マシムルコトアルモ、全局ノ輸贏ハ已ニ此ノ賊背ヲ衝クノ大策ニ定マレリト言フモ、如何ソ架空ノ妄

想トナスヘケンヤ、

戦地ヲ実試セサル者ハ、撫背扼喉ノ痛切ナル關係ヲ有スルヲ悟ラサル者アランモ測ラレサレ共、苟モ戦争ノ実況ヲ經驗スル者ハ、一タヒ背後ヨリ衝突セラル、ニ至レハ、

勇者モ其勇ヲ試ムルニ処ナク、智者モ其智ヲ用ユルニ由ナキヲ知ルヘシ、我輩之ヲ戊辰ノ戦争ニ記ス、官兵カ松

ヶ崎ヨリ上陸シテ、所謂撫背扼喉ノ策略ヲ実試スルニ當リ、全越ノ賊兵愕然トシテ心胆ヲ冷サ、ルハナシ、然ル

ニ會・桑・庄内・長岡等ノ壯士ハ、上陸ノ官兵ヲ見ルニ鼠ノ囊中ニ入ル者ヲ以テシ、守兵ヲ長岡・與板・寺泊ノ

三方ニ配置シテ敵ニ備ヘ、銳ヲ尽シテ後面ニ向ヒ、松ヶ崎ノ官兵ヲ撃破セント奮発セシト雖モ、已ニ心胆ヲ冷セ

ルノ兵士ハ、再ヒ其ノ氣力ヲ挽回シ得ルコト能ハス、官兵カ一タヒ見附ニ進撃スルニ及ンテ、某藩ノ兵ハ一戦ノ

下ニ瓦解逃走シ、始メテ戦ヲ開キタル大茂迄遁逃シ、遂ニ全越ノ地ヲ失フニ至レリ、此ノ如キハ官兵カ背後ヨリ

衝突スルノ策略ヲ行ヒシカ為メニシテ、今日八代・宇土ヨリ上陸シ、川尻ノ賊營ヲ衝クノ大策ト一般ナリ、

然ルニ戊辰ノ戦争ニ於テハ、仮令官兵カ松ヶ崎ニ上陸スルモ、背ニ會津ノ本國アリ、前ニ長岡・與板・寺泊ノ賊

兵アリ、之ヲ鼠ノ囊中ニ入ル者ト認メシモ亦タ謂ナキニ非スト雖モ、今ヤ則チ然ラス、鹿兒島ハ已ニ官兵ノ為ニ処分ヲ終ヘラレ、前ニハ大兵ノ嚴然トシテ之ニ臨ムアリ、中間ニハ熊本城兵ノ之ヲ阻格スルアリ、加フルニ其ノ背後ヲ衝突セラル、ヨ以テス、之ヲ戊辰越後ノ賊兵ト比較スレハ、其勢更ニ困難ナル者アリト云フヘシ、然ラハ則チ薩兵ノ瓦解ハ遽ニ越後ノ賊兵ノ如クナラサルモ、安ソソ全局ノ勝敗ハ此ニ於テ先ツ定マルト言ハサルヘケンヤ、

二五 戦地之実況可推想矣 三月二十二日

戦地ヲ去ル數百里ナリ、然ルニ瞑目跌坐シテ其ノ状況ヲ遙想スレハ、恰モ砲煙ノ天ヲ捲キ、刀影ノ空ニ閃クヲ眼前ニ望ムヘキカ如シト雖モ、其ノ実境ニ至リテハ豈之ヲ推知シ得ヘケンヤ、実境ハ固ヨリ之ヲ推知シ得ヘカラスト雖モ、之ヲ電報ニ徴シ之ヲ伝聞ニ求メ、併セテ一身ノ經歷ト比較シ来レハ、隱然トシテ其ノ状況ハ斯ヤアラント思ハル、者ナキニ非ス、聊カ其ノ状況ヲ想像シ得ルヤ、綽然トシテ自ラ心胸ヲ寛フスルニ足ル者アリ矣、

初メ熊本鎮台カ賊徒ノ兇鋒ニ披靡セラレス、堅ク城中ニ

嬰守シテ其ノ志望ヲ齟齬セシムルモ、賊徒カ鋒ヲ筑後ノ方面ニ転シ、小倉分宮ノ孤軍ヲ木ノ葉ニ撃破スルニ当リ、其鋒ノ銳ナルヤ恰モ風雨ノ如クナリ、継テ野津・三好ノ両少将カ大兵ヲ率テ高瀬・山鹿ノ両道ニ臨ムニ及ヒ、漸ク賊徒カ進行ノ勢ヲ遮断シ、殊ニ高瀬口ハ漸クニ賊勢ヲ蹙圧シテ敵地ヲ進略スルニ至リシト雖モ、其鋒ヲ接スルニ及ンテハ、未タ甚タシキ勇戦格闘ヲ為スニモ至ラサリシカ如シ、而シテ近日ニ及ンテハ官兵カ勇悍善戦、進取ニ鋭拔ナル、サシモ慄悍ヲ以テ全国ニ著名ナル薩兵カ必死ノ力ヲ極ムルモ、復タ之ニ加フルコト能ハス、常ニ巡查ノ刀撃、歩兵ノ銃槍ニ逡巡スル所アルニ似タリ、夫レ官兵ノ勇悍善戦此ニ至リタルハ、蓋シ數回ノ戦地ヲ經驗セシカ為メナルヘクシテ、其ノ戦争ニ慣熟スルコト此ノ如クナレハ、仮令如何ナル苦戦ヲ一回二回ニ經過スルトモ、決シテ甚タシキ解散ニ至ラサルヤ明カナリ、我輩

(奮之助、戦國末の武將)

安ソソ官兵ノ為ニ之ヲ大賀セサルヘケンヤ、山中幸盛嘗テ戦争ノ經歷ヲ談シ、初メテ戦場ニ臨ミタル時ハ、実ニ暗夜ニ彷徨スルカ如クナリシカ、二回三回ニ至リテハ漸ク星明リヲ得ルカ如クナリキ、然ルニ数度ノ戦地ヲ跋涉スルニ及ンテハ、皎然タル明月ノ下ニ在ルカ

如ク、復タ一物ノ眼ヲ掩フ者ナシト語リシト聞ク、実ニ山中ノ説ノ如ク初メテ戦場ニ臨ミ、砲丸銃弾ノ幾千トナク頭上耳辺ニ飛来スルニ当リテハ、神悸シ眼暗ミ敵ニ向ツテ格闘スルコトハ扱置キ、一身ヲ何ノ地ニ置テ然ルヘキヤト惶惑スル程ノ事ニテ、偶々鉛ヲ銃ニ装スルモ、或ハ之ヲ倒置シ、又ハ込箭ヲ収メスシテ放ツ（本込ナレハ然ラサレ共）等ノ狼狽アルヲ免カレサル者ナリ、我輩觀ク之ヲ戊辰初回ノ開戦ナルト鳥羽ノ役ニ記ス、或ハ敵ノ放テル砲丸ニボイスノ燃ヘ来ルヲ望ンテ、敵ハ焼玉ヲ放ツナリ、アナ怖ロシヤト喫驚セシカ、再ヒ味方ヨリ放テル大砲モ亦タ同様ナルヲ見テ、扱ハボイスノ燃ルニテアリケルト一笑セシコトアリキ、又タ長岡兵ノ如キハ、後來越後ノ戦争ニ於テ最モ勇武ノ名ヲ得タル者ナレ共、始メテ妙見山ニ戦フニ当リテハ、唯々林中山間ニ俯伏シテ一步モ進ミ得ス、何故ニ進マサルソト叱スレハ、敵丸来ル、如何シテ進ミ得ヘキト戦慄スル程ノコトナリキ、其ノ戦争ニ慣熟セサルノ時ニ在テハ、大率此ノ如キヲ免カレサレ共、已ニ数度ノ戦地ヲ経ルニ及ンテハ、明カニ其ノ実況ヲ熟知シ、声アルノ鉛丸ハ身ヲ貫ク者ニ非サルヲ知り、又タ扱ヲ抛ルヘキノ場所ヲ擇ンテ進退ヲ自在ニシ、

胸壁ニ対持スルニ当リテハ、砲煙（夜中ナレハ砲火）ヲ望ンテ鉛丸飛来ノ時期ヲ計ルニ至ル可シ、此ノ慣熟ヲ得ルニ及ンテハ、吟詩放歌シテ敵ト格闘シ、砲鉛銃丸雨ノ如ク蝟集スルモ、更ニ動揺スルコトナキハ、勇者ノミ独リ之ヲ能クスルニ非ス、尋常ノ男子タレハ尽ク皆ナ然ルナリ、其ノ戦闘ニ熟スルコト此ノ如クナレハ、対等ノ戦略ノ様ノ兵力ニテハ、中々ニ之ヲ撃破シ得ヘキニ非ス、必ラスヤ戦略或ハ兵力ノ一方ニ殊絶スル者アリテ、始メテ大イニ勝敗ヲ決スルコトヲ得ヘキ也、

今ヤ官兵力最初ニ在テハ、甚タシキ勇戦格闘ヲ為スニモ至ラサリシカ如キハ、士官將校ハ固ヨリ、飽迄戦事ヲ経過スルモ、或ハ兵卒ノ未タ戦争ニ練熟セサルカ為メナリシカト思ハル、而シテ今日ニ至リ勇悍善戦數々賊鋒ヲ挫折スルハ、想フニ必ラス数度ノ戦争ヲ経過シテ、其ノ実況ニ通曉スルニ至リタルニ由ルナル可シ、嗚呼官兵ノ熟達已ニ薩兵ノ慄怖ト抵抗スルニ足り、又タ其ノ戦略ト兵力ノ彼ニ数歩ヲ踰ル者アルヲ見レハ、賊勢ノ未タ全ク沮喪ニ赴カサルモ、何ソ深く意トナスニ足ランヤ、

二六 時勢人心ノ帰向恐ルベシ 三月二十四日

誰カ時勢人心ヲ以テ畏ル、ニ足ラストナスヤ、我輩ハ之ヲ從來ノ沿革ニ徴シ、之ヲ今日ノ現状ニ驗シ時勢ノ帰スル所人心ノ向フ所ハ、復タ暴威暴力ヲ以テ之ヲ压倒シ得ヘカラサル者アルヲ知ル也、已ニ其ノ成敗ハ時勢人心ノ帰向如何ニ關係スル者アルヲ知ルヤ、所謂逆勢者亡順勢者勝ノ誣言ニ非サルヲ確信スヘシ、

試ニ之ヲ從來ノ沿革ニ徴シ得ル者ヲ言フニ、世人ハ彼ノ戊辰革命ノ戰爭ニ就テ何等ノ觀察ヲ下シ来レル乎、當時幕府ハ漸ク衰運ノ極点ニ達シタリト雖モ、亦タ天下ヲ輕重左右スルノ兵力ヲ有セサルニ非ス、麾下八万ノ士ハ則チ其ノ爪牙ニ供スル所ナリ、数万ノ歩兵ハ則チ熟練ヲ平素ニ極ムルノ軍隊タリ、而シテ海軍ハ固ヨリ内國ニ在リテ、独リ其雄ヲ専ラニセシ所ナラスヤ、其ノ之ヲ独手ニ占有スル者ノ恃ムヘキヤ斯ノ如ク、加フルニ譜内各藩ノ之ト進退興廢ヲ共ニスル者ノ、數フルニ遑マアラサルヲ以テス、假令薩長諸藩ハ人物ノ林ノ如ク群立スルモ、兵士ノ號武ハ、虎ヲ搏スルニ難カラサルモ、其ノ忽焉トシテ瓦解滅亡ニ帰スルハ、宜ク彼カ如ク容易ナルヘカラサル

ノ理ナリ、而シテ數万ノ大兵ハ伏見・下鳥羽ノ一戦ニ敗颯シ、先鋒ノ大敗ハ金城鉄壁トモ恃ムヘキ大坂城ヲ失フニ至リ、東御・東山両道ノ草木ハ尽ク錦旗ノ風ニ披靡シ、終朝ヲ依スシテ江戸ノ堅城モ忽チニ降伏ノ旗ヲ掲ケ、爾闕ノ險ハ恃ムヘキナキニ非サルモ、一夫ノ之ヲ守ル者ナク、數隻ノ戰艦ハ品海ニ配列スルモ、何等ノ運用ヲナスニ至ラス、其極奥羽諸藩ノ聯合ヲ結フアルモ、數月ヲ出スシテ盟解ケ從散シ、海内ヲ挙テ維新ノ治下ニ浴スルニ至リシハ、大義名分ノ存スル所、画策運籌ノ勝ル所、之ヲシテ然ラシムル者アリトハ言イナカラ、豈時勢已ニ變更シ、人心亦タ幕政ヲ厭ヒ、革命ノ變ヲ胚胎スルノ時期ニ乘シタルカ為メナラスヤ、

更ニ之ヲ今日ノ現状ニ徴スルニ、西郷ノ名望ハ実ニ天下ノ人心ヲ總攬スルニ足り、薩士ノ慷慨銳武ナルハ、殆ント全國ヲ震倒スルニ足ルヘキノ觀望ヲ得タル所ナラスヤ、而シテ今回ノ變乱ヲ生スルニ及ヒ、事跡ハ全ク宿謀ト扞格シ、独リ熊本鎮台ヲ一檄ノ下ニ降シ、鎮西全州ヲ馬蹄ニ蹂躪スルノ目的ヲ達シ得サルノミナラス、未タ筑後路ニ臨ムニ遑マアラサシテ早く官兵ニ阻格セラレ、今日トナリテハ令殺已ニ尽キ彈藥亦タ乏シク、日ニ逡巡窮蹙ノ

地位ニ迫リ、道ニテ嶮戦ヲ試ムルモ官兵ヲ挫折スルニ由ナク、退イテ四境ヲ守ラントスルモ其勢已ニ難ク、白旗ヲ軍門ニ掲クルニ非サレハ、肥後ノ朝露ト消ヘテ、白骨ヲ戰場ニ止ムルニ外ナキカ如キノ情況ニ立チ至リタルハ、何ソ西郷ハ固ヨリ一世ノ英雄ナラサルニ非ス、一タヒ足ヲ鹿兒島ニ挙テ一万余ノ壯士ヲ蹶起セシムルニ至レリ、薩士モ亦タ銳武ナラサルニ非ス、全国兵員ノ大半ヲ挙テ之ヲ討伐スルモ容易ニ之ヲ撲滅シ能ハス、今日ニ至リテ戦鬪猶ホ正ニ盛ンナリ、斯ノ如キノ英雄ニシテ斯ノ如キノ強兵ヲ驛リ、以テ熊本ニ進入スルモ遂ニ其ノ初志ト齟齬スルカ如キアルヲ免カレス、輿論モ亦タ其ノ挙動ヲ可トシ認メサルノミナラス、力ヲ極メテ之ヲ排斥スルニ至リシハ、何ヲ以テ然ルアル乎、蓋シ今日ハ是レ改進ノ時勢ニシテ、人心モ亦タ改進ニ帰向スルノ日ナリ、而シテ西郷ノ兵タルヤ封建ノ武力ニ藉ル者ニシテ、其ノ主義タルヤ亦タ改進ニ帰着スルニ非ス、已ニ改進ノ主義ヲ失フヨリハ、是レ時勢人心ニ背戾スルノ兵ニシテ、其ノ驥足ヲ展ルコト能ハサルハ、職トシテ之ニ由ルト言フモ甚タシキ誤謬ナカルヘシ、若シ西郷ノ背反ハ此ノ如クナラスシテ、改進ノ兵タルヲ天下ニ明カニスルニ足ル者アラハ、

輿論モ必ラス之カ為ニ聳動セラレ、其ノ政府ノ患害ヲ為スコト恐ラクハ此ニ止マラサル可シ、

嗚呼幕府ノ兵力ハ全国ニ冠タルモ、一朝ニシテ撲滅ニ帰セシコト彼カ如ク、西郷カ天下ノ人望ヲ総攬シテ薩士ノ強兵ヲ率ユルモ、其ノ宿望ト齟齬セシコト此ノ如キハ、一方ヨリ之ヲ言ヘハ用兵ノ拙劣ヲ免カレサル者ナキニ非サルヘシト雖モ、其志ヲ展ルコト能ハサルハ、畢竟時勢人心ニ背戾スル者アルカ為メナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、苟モ時勢人心ニ背戾スル者アルヲ免カレサレハ、仮令何程ノ人物ヲ網羅シ何程ノ兵力ヲ具フルモ、到底敗滅ヲ免カレサル者アリト言ハサルヘカラス、我カ政府ハ今回ノ戦争ニ就テ、更ニ深く感覺省思スル所アルヘシト信スル也、

二七 薩力ノ一和ハ薩力ノ滅殺ヲ嘗ス

三月二十八日

薩州人ハ第一ニ薩州人ニシテ、第二ニ日本人ナリ、長州人ハ第一ニ日本人ニシテ、第二ニ長州人ナリトハ、横濱ノ「ジヤパン・メー」記者カ、曾テ短簡ナル一語ヲ以

テ、薩長ノ両士族ヲ評セシ所ナリ、抑々「メール」記者
カ此ノ品評ヲ下セシハ、薩ト言イ長ト言イ、俾ク戊辰復
古ノ元勳ニ位シ、共ニ勢力ヲ当世ニ有シテ天下ノ觀望ヲ
集ムルモ、其ノ狀況ノ大イニ相異ナル者アルヲ以テナリ、
嗚呼風俗ヲ異ニシ言語ヲ同フセス、内情ヲ瞭知スルニ暗
キノ外国人ニシテ、此ノ切当ナル論評ヲ下サシムルニ至
リシハ、鹿兒島ノ驕傲不遜ニシテ別派獨立ノ狀態ヲ固結
スルハ、明カニ内外ニ昭々タル者アルカ為メニシテ、実
ニ嘆息ニ堪ヘサル所ナリト雖モ、今回ノ叛乱ヲ發スルニ
及ヒ、始メテ其ノ品評ヲ破壞スルノ機會ヲ生シタリト言
フ可シ、

然ルニ「メール」記者ノ品評ハ、其語簡略ニシテ其意解
シ難キ者ナキニモ非サルヲ以テ、聊カ之ヲ附演センニ、
其ノ第一ニ薩州人ニシテ第二ニ日本人ト言ヘルハ、蓋シ
日本人ナレハ、宜ク政府ノ法令ヲ遵奉シ規則ヲ執行スヘ
キ筈ナルニ、鹿兒島ニ限リ一向ニ法令規則ヲモ運行セス、
自儘我儘ノ挙動ヲナスヨリハ、日本國中ニ別派獨立ノ一
州ヲ存スルノ姿ニシテ、第一ニ薩州人ト言ハサルヲ得ス、
去レハトテ、日本ノ版図内ニ生育スル者ニ相違ナケレハ、
亦タ日本人ト言ハサルヘカラサルモ、是レハ第二番目ナ

リト云フノ意ナル可シ、蓋シ鹿兒島カ此ノ如キノ威力ヲ
保有シ、殆ント政府ト對等ノ体裁ヲ為スニ至リシハ、復
古ノ事業タル多クハ鹿兒島ノ力ニ藉ル者アルカ為ニ、遂
ニ斯ル嘆スヘキノ形状ヲ養生スルニ至リタルナリト雖ト
モ、詳カニ再三ノ思考ヲ費シ來ル時ハ、抑々亦タ他ニ存
スル所アリテ然ルナリト言ハサルヘカラス、

薩長ヲ一視シテ其ノ武力ヲ比較スレハ、長ハ薩ニ劣ル者
ナキニ非サレ共、其ノ勤王ノ功績ヲ語レハ、決シテ薩ニ
一步ヲ讓ル所アルヘカラス、若シ偏ヘニ復古ノ武勳ヲ以
テ勢力ヲ得ル者ナリトセハ、宜ク薩ト優劣ノ殊異アルコ
トナカルヘシト雖モ、今日ニ至リ長ハ稍雁行ノ狀アルヲ
免カレサルハ何ゾ、蓋シ一和ハ勢力ヲ保有スル所以ニシ
テ、分裂ハ衰弱ヲ促カス所以ナリ、長ノ如キハ固ヨリ復
古ノ元勳ニシテ、其ノ勢力ヲ得ルモ、薩ヲ除クノ外復タ
比類スヘキ者アルヲ見スト雖モ、其ノ前後ノ始末ヲ熟視
スレハ、幾許カ水府ノ覆轍ヲ蹈ミシ者ナキニモ非ス、丙
寅^(一)ノ内乱ハ暫ク措置キ、維新後ニ至リテモ大樂・富永ノ
變乱アリ、近クハ又タ前原ノ蹉跌アリ、是等ハ皆ナ幾分
カ勢力ヲ減殺スルノ根源ニシテ、即チ第一ニ日本人ニシ
テ第二ニ長州人ノ品評ヲ受ル所以ナラスヤ、

唯其レ薩ニ至リテハ今回ノ變動ヲ現スルニ至ル迄、未タ兄弟鬩ニ闕イテ外其侮ヲ受ルノ拙ヲ露サス、或ハ持論ノ行ハレサルヲ以テ卒然去テ国ニ就キ、其ノ一党ハ大率職ヲ解テ、之ト進退ヲ共ニスルカ如キノ変ナキニ非サリシト雖モ、其ノ政府中ニ奉事スル者ト果シテ隔離スルト否トハ、未タ其ノ形状ヲ判然タラシメサリキ、是レ世人カ薩ヲ望ムニ測ラレサルノ觀察ヲ以テシ、一タヒ足ヲ挙ルニ及ンテハ、如何ナル事業ヲ成サンモ知ルヘカラサルノ推測ヲ下シタル所以ナラスヤ、然ルニ今日ノ變ヲ生スルニ及ヒ、薩人ノ政府ニ奉職スル者ニシテ一人ノ異状アルコトナク、殊更海陸軍ノ間ニ在ル者ハ將官ヨリ兵卒ニ至ル迄、苟モ其役ニ当ル者ハ奮ツテ戰場ニ出陣シ、毫モ回顧スル所アルヲ見ス、此ノ如キハ名義名分ノ已ムヲ得サル者アリトハ言イ乍ラ、其ノ親戚相戦ヒ、朋友相角シ、所謂血ヲ以テ血ヲ洗フカ如キノ状アルヲ見レハ、如何ソ其ノ心事ヲ洞察シテ、為ニ一掬ノ涙ヲ潜々タラシメサルヲ得ンヤ、

薩士ノ官兵ニ將タリ卒タル者ハ、特ニ正義ヲ誤ラサルヲ以テ心トシ、皎然トシテ白日ノ清キカ如クナルヘシト雖モ、叛賊豈必ス尽ク同情ナルヘケンヤ、其ノ撲滅ニ就ク

ニ及ンテハ、或ハ謂レナキノ私怨ヲ包蔵セサルヲ期スヘカラス、果シテ然ラハ安ソ薩士ノ慄慄ハ却テ其肉ヲ殺クノ媒タルニ至ラサルヲ知ランヤ、然ラサルモ維新ノ功臣ハ今日ノ逆臣トナリ、或ハ戦地ニ斃レ、或ハ刑戮ニ罹リ、或ハ懲役ニ苦ミ、昔日ノ名譽ハ全ク之ヲ今日ニ抹却スルニ至ランコトハ、蓋シ遠キヲ待タサルヘシ、此ニ至レハ、薩力ノ滅殺スルコトナカランヲ欲スルモ復タ得ヘカラス、

抑々薩人ヲシテ彼カ如キノ一和ヲ保タシメシハ、蓋シ西郷ノ力ナリ、而シテ其ノ一和ハ、却テ全州ノ威力ヲ一挙ニ掃蕩セシムルノ原因トナルカ如キニ至レリ、果シテ掃蕩ニ至ラハ、安ソ他日、却テ長州ノ一和ヲ失ヒシヲ欽羨スル者アルニ至ラサルヲ知ランヤ、薩力ノ滅殺此ノ如クナラハ、横文記者モ亦タ、薩人ヲ目スルニ第一ニ薩州人ニシテ、第二ニ日本人ヲ以テスルコトヲ得サル可シ、故ニ曰ク、「メール」記者ノ品評ヲ破壊スルハ今回ノ叛乱ニ在リト、

嗚呼士族諸君ハ今日ノ變亂ニ際會シ、何等ノ目的ヲ確定シ、何等ノ業事ヲ履行セント欲スルヤ、夫レ西郷隆盛カ鹿兒島ニ高踏シテ、世事ヲ謝絶スルカ如キノ觀察ヲ世上ニ与フルニ當リテハ、與人ノ仰イテ以テ一世ノ豪傑トシ、望ンテ以テ絶代ノ忠臣トセシ所ニシテ、身ハ当世ノ事ニ干預スル所ナキモ、我カ日本帝國ノ為ニ、巍然トシテ泰山ノ重キヲ致スニ足ルカ如キノ觀望ヲ抱有セシト雖モ、今日ニ至リ卒然無名ノ師ヲ起シテ、國家ノ安寧ヲ攪亂シ、干城ノ兵士ヲ殺戮シ、肥後ノ人民ニハ修羅ノ苦ミモ斯ヤアラント思ハル、程ノ慘毒ヲ及ホシ、全國ノ人民ニモ起テ業ニ樂マス、寢テ枕ヲ安ンセサルノ辛苦ヲ蒙ムラシムルニ及ンテ、前日ノ功業ハ戰塵ト共ニ散シ、疇昔ノ美事ハ砲煙ト共ニ消シ、乱賊ノ汚名ハ復々当世ニ蔽フヘカサルニ至レリ、斯ノ如キモ、諸君ハ猶ホ西郷カ疇昔ノ名望ニ眩惑シテ、今日ノ挙動ニ怪シム所ナキ乎、若シ其ノ挙動ニ怪シム所ナシトスルノミナラス、或ハ附和雷同シテ其ノ兇鋒ヲ助ケントスルカ如キ者アラハ、我輩ハ將ニ言ントス、此ノ如クンハ諸君ノ罪ハ隆盛ヨリ猶ホ大ナリト、諸君若シ之ヲ異トセン乎、居レ我レ君等ニ告ン、蓋シ鹿兒島ノ驕傲不遜ナルハ一朝一夕ノ故ナラス、

其ノ早晚必ラス一變動ヲ生スヘキハ、識者ヲ待テ後チ之ヲ知リシニ非サル也、故ニ政府ガ赤龍丸ヲ遣テ彈藥運搬ノ事ニ着手スルヤ、或ハ之カ為ニ背叛ヲ促カスニ至ランモ、測ラレサルノ洞察ナキニシモ非サリシナル可シ、案ノ如ク暴徒カ其ノ運搬ヲ妨ケ、併セテ彈藥掠奪ノ暴挙ヲ発スルニ及ヒタルヨリ、政府ハ速ニ其ノ變動ヲ生スヘキヲ察シ、出兵ノ用意ハ夜ヲ日ニ繼テ迅速ナリシヲ以テ、彼カ未タ筑後路ニ進入スルニ及ハスシテ、之ヲ高瀬・山鹿ニ擁扼シ、數日間ノ烈戰ヲ以テ、漸ク其ノ銳鋒ヲ挫折セントスルノ時機ニ際スルニ至リタルナラスヤ、然ラハ則チ西郷ノ罪ハ山岳ヨリモ高ク、叛党ノ惡ハ九淵ヨリ深シトスルモ、其ノ背叛ノ意ヲ抱クコト一朝一夕ニ非サルヨリハ、実ニ之ヲ不得已ニ附スルノ外ナカル可シ、而シテ官兵カ今日ニ至リテ、漸クニ賊勢ヲ蹙庄スルハ、其ノ苦戰奮闘ノ然ラシムル所トハ言イ乍ラ、一ハ戒嚴ノ急遽ニ出テサリシヨリ、大イニ時機ヲ誤マラサルノ便益ヲ得タル者アリト言フモ、亦タ可ナル者アルニ似タリ、鹿兒島ハ此ノ如ク政府ニ戒嚴セシムルノ久シカリシカ故ニ、彼カ慄悼ヲ以テ今日ニ暴起スルモ、青天霹靂ノ驚ク可キカ如クナラス、飽迄戒備ヲ嚴肅ニシ、以テ其ノ變動ニ

応シ、彼ヲシテ其ノ宿望ヲ逞フスルコトヲ得サラシメタ
 リト雖トモ、今若シ政府カ専ラ鹿児島ニ注目シテ、兵員
 ヲ肥後ノ一面ニ集ムルノ時ニ當リ、万一ニタモ士族輩カ
 其ノ方向ヲ誤リ、其ノ職分ヲ忘レ、名義名分ヲモ顧ミス
 シテ各所ニ煽起シ、賊勢ヲ助クルニ至レハ、其ノ事變タ
 ル不備ニ起ルノ恐レナキニモ非サルヲ以テ、或ハ官兵ノ
 妨害ヲ為ス者ナシトモ言フヘカラス、若シ將タ是等ノ士
 族輩カ烏合嘯集シテ、賊徒ニ応シタレハトテ、器械・彈
 藥ニモ欠乏シ、金穀輜重モ充分ナラサルノ草賊ナレハ、
 其ノ之ヲ討滅スルニ難カラサルハ、固ヨリ言ヲ俟スシテ
 知ルヘシト雖トモ、薩賊ノ勢餘未タ全ク撲滅ニ帰セス、
 王師専ラ熊本ノ野ニ戦フノ時ニ當リ、或ハ士族ノ患害ヲ
 一方ニ起スニ至レハ、官軍モ亦タ兵ヲ分ツテ之ヲ討セサ
 ルヘカラサルヲ以テ、聊カ兵鋒ヲ合一ナラシムルニ難キ
 ノ遺憾ナキニモ非サル可シ、已ニ此ノ遺憾アルヲ免カレ
 サルヤ、或ハ之カ為ニ迅速ニ平定ヲ終ルヘキノ勲績ヲ、
 遷延ニ涉ラシムルノ畏レナシトモ言フヘカラス、若シ此
 ノ如キノ扞格ヲ生セシメハ、是レ士族ノ為ニ、殆ント撲
 滅ニ帰スヘキノ賊敵ヲ、消除スルヲ遲滞ナラシムル也、
 然ラハ則チ我輩カ士族諸君ノ罪ハ隆盛ヨリ猶ホ大ナリト

言フモ、如何ソ之ヲ過言ナリトスヘケンヤ、（此稿未完）

二九 続士族諸君ニ白ス 四月十日

我輩カ之ヲ前日ニ開陳セシカ如ク、士族諸君ニシテ其ノ
 職分ヲ忘レ、其ノ方向ヲ誤リ、国家ノ福否ヲモ顧ミスシテ
 各所ニ蜂起シ、賊勢ヲ助長スルニ至レハ、其罪ヲ一般社
 会ニ負フハ、西郷ニ愈ル者アリトスルモ豈不可ナリトス
 ヘケンヤ、而シテ我輩熟々士族諸君ノ心情ヲ察スルニ、
 其ノ氣力ナク志望ナク、草木ト共ニ朽チ塵土ト共ニ終ル
 ヲ甘ニスル者ノ如キハ、復タ論スルニ足ラサレトモ、苟
 モ時事ヲ平素ニ談シ、志望ヲ胸懷ニ抱クカ如キノ徒ニ在
 テハ、今回ノ事變ヲ現スルニ及ヒ、平素ノ鬱結ヲ此ノ一
 挙ニ散シ、他日ノ光榮ヲ此ノ變動ニ博セントスルカ如キ
 ノ冀望ヲ抱キ、劍ヲ彈シ鞍ヲ敲イテ、髀肉ノ肥滿ヲ消ス
 ル所アラント希フノ流亜ハ、蓋シ數フルニ違アラサル可
 シ、其ノ現ニ此ノ挙動ヲ発裂セシ者ヲ尋レハ、福岡・中
 津ノ士族ノ如キハ則チ是レ也、
 嗚呼是等ノ流亜ハ、何ソ其レ惑ヘルノ甚タシキヤ、我輩
 請フ、二三ノ問題ヲ掲ケ來リ以テ君等ニ質正セン、君等

ハ西郷隆盛カ從來ノ名望ニ眩惑シ、隆盛ニシテ兵ヲ起スニ至リタルヨリハ、傍觀坐視スヘカラサルノ時勢タルニ相違ナシ、之ヲ翼シ之ヲ助ケ以テ目的ヲ達セシムルハ、日本帝國ノ忠臣タルニ背カサル者ナリトスル乎、此ノ如クンハ諸君ハ是レ隆盛ノ奴隸ナリ、目アリテ見ル能ハス、耳アリテ聴ク能ハサルノ徒ナリ、苟モ耳目ノ聞見スル所ヲ了解シ、一己ノ見識ヲ備フル所アラハ、蓋シ今日ノ時勢ヲ通觀スルニ難カラサル可シ、今日ノ時勢ハ実ニ至難至艱ナル者ナキニ非サレトモ、外國トノ關涉ニ於テ、目下ニ切迫スルノ大難事アリトセン乎、決シテ然ラサル也、政府カ外國ニ對シテ言フヘカラサルノ失体ヲ極メ、又タ人民ニ對シテ諒恕スヘカラサルノ無道ヲ行フタルコトアリトセン乎、是レ亦タ決シテ然ラサル也、然ラハ則チ政府カ百般ノ施設ト所置ニ於テハ、時アリテ失錯ナキヲ保ツヘカラサルモ、兵力ヲ以テ之ヲ顛覆シ、敢テ不可ナカルヘキ程ノ罪責アリトナスヘキ乎、識者ハ決シテ之ヲ許諾シ肯ンセサル也、然ルヨ諸君ハ、隆盛カ兵ヲ起スノ名義ヲモ顧ミス、今日ノ時勢ヲモ推考セス、徒ニ彼カ從來ノ名望ニ眩惑シテ之ヲ羽翼スルノ心情ヲ起スニ至ラシメハ、我輩如何ノ之ヲ目スルニ隆盛ノ奴隸ヲ以テシ、併セテ耳

目アリテ視聽ヲ具セサルノ看ヲ下サ、ルコトヲ得ヘケンヤ、若シ將タ諸君ハ隆盛ノ名義口実トスル所ト一身ノ關係ニ止マルニモセヨ、西郷ハ元來國勢ノ萎靡奮ハサルヲ嘆シ、國權ノ振張ニ赴カサルヲ慨スルノ志士ナリ、彼ニシテ驥足ヲ展スニ至ラハ、必ラス其ノ面目ヲ一變スルノ実績ヲ現スルニ至ルヘシトセン乎、是レ亦タ惑フノ甚キナリト言ハサルヲ得ス、蓋シ富強ノ姿ヲ備ヘサレハ之ヲ目スルニ国力ノ充実ヲ以テスヘカラス、国力充実ニ至ラスシテ國權ヲ振張シ得ル者ハ、我輩ノ未タ曾テ聞カサル所ナリ、諸君ト雖モ若シ我カ国力ノ充実ニ至ラサルハ、何等ノ點ニ基源スルヤヲ問ハ、必ラス會計ノ困難ニ座スルヲ知ラン、而シテ今度西郷カ非常ノ變乱ヲ發動スルニ及ヒ、會計上ニ取リテ幾許ノ損失ヲ生シタル乎、其教実ニ測リ知ルヘカラサル也、我輩カ曾テ紙上ニ登錄セシカ如ク、魯國ノ如キスラ土國ニ對シテ開戦ノ用意ヲ為シ、二十余万ノ大兵ヲ備ヘシニ就テハ意外ノ困難ヲ生シ、抛ナク紙幣ヲ濫造シ租税ヲ重課セシヨリ、紙幣ハ下落シ、物価ハ騰貴シ、銀行ノ分散日ヲ追テ多キヲ加フル程ノ大害ヲ生シタルニ非スヤ、況ンヤ我邦ニ在テ是程ノ事變ヲ發生セシ

コトナレハ、其ノ影響ハ応ニ如何ノ点度ニ至ルヘキヤ、非常ナル理財家ト雖モ実ニ之ヲ收拾スルニ至難ナルヘシ、而シテ此ノ如キノ變動ヲ生シ、只ニサヘ疲弊ヲ極メタルカ上ニ一層ノ疲弊ヲ及ホシ、国力ノ衰頽ヲ極メシムルハ何人所為ニ係リタル乎、即チ西郷カ一身ニ關係スルノ事故ヲ口実トシ、斯ル慘憺タル干戈ヲ起セシカ為メナラスヤ、然ラハ則チ西郷ハ、假令平素ニ在テ国勢ノ萎微ヲ嘆シ、国権ノ振振ヲ謀ルノ志士タリトモ、其ノ所業ハ正シク自ラ驅リテ国力ヲ衰頽ニ赴カシムルノ挙動ナリト言ハサルヲ得ス、此ノ如キモ諸君ハ猶ホ西郷ヲ助ケテ戦争ヲ弥久セシメ、益々疲弊ヲ助長セシメント欲スル乎、且ツ夫レ我邦ニ於テ、目下ノ最モ憂慮スヘキ者ヲ求ムレハ、外国ノ関渉ニ於ルニ非ス、人民ノ沸騰ニ於ルニ非ス、會計ノ困難ト士族ノ暴発ニ在リト言フヘシ、而シテ西郷ハ已ニ暴発ヲ実行シテ斯ノ如キノ大乱ヲ生シ、又タ會計ヲシテ一層ノ困難ヲ極メシムルニ至レリ、然ルヲ士族諸君ニシテ更ニ其ノ後舞ヲ継キ、愈々騒乱ヲ重大ナラシムルニ至レハ、天地ニ哭泣シテ国家ノ不幸ヲ嘆スルモ復タ及フヘカラス、諸君モ請フ、深く反思反省スル所アレ、

(此稿未完)

三〇 続々士族諸君ニ白ス 四月十二日

我輩カ士族諸君ノ為ニ一片ノ婆心ヲ呈シ、併セテ国家ノ災害ヲ予防セント欲スルハ、前条ニ詳悉スル者ノ如シ、然ルモ諸君ハ猶ホ胸中ノ迷雾ヲ掃蕩シ得ルコト能ハスシテ、空ク岐路ニ彷徨スル所アラン乎、我輩ハ更ニ一歩ヲ進メテ、諸君ノ為ニ正路ヲ指点センコトヲ謀ラサルヘカラス、去レハトテ、從來文武ノ二途ニ従事シ、以テ其ノ勲績ヲ顯ハスノ外他ニ志念ヲ寓スル所ナキノ士族ニシテ、昔日ノ光榮ト今日ノ衰頽ト、其ノ變易ハ畜ニ霄壤ノ差違ニ止マラサルノ時勢ニ際会セシヨリハ、其ノ商業ヲ事トスルヲ甘ンセス、耕耘ヲ務メトスルヲ屑トセス、隴頭ニ大息スル者ヲ見テ非常ノ傑士ナルヲ嘆シ、兵士ノ陸梁ヲ望ンテ士馬ヲ幽燕ニ養フノ徒ヲ欽シテ、其ノ事業ヲ冀望スルカ如キノ流亜ニ在テハ、特ニ我輩ノ言論ヲ許容セサルノミナラス、却テ腐言トシ陳論トスルニ至ランモ測ラレスト雖モ、此ノ如キハ実ニ是レ其ノ適従スル所ノ目的ヲ誤ルノ大ナル者ニシテ、即チ其ノ身分柄ノ何者タルヲモ察セサルノ、大痴漢ナリト言ハサルヲ得ス、

士族ノ衰頹モ亦タ極矣、百花草木ハ春風和氣ヲ迎フルニ至レハ、再ヒ其芽ヲ長シ其芳ヲ競フコトヲ得ルモ、一去セシ士族ノ武權ハ、恰モ秋風揺落ノ時期ニ際会シテ、復タ其候ヲ變センコトヲ望ムヘカラサルカ如クナレハ、志氣余リアリテ識量足ラス、功名ヲ戎馬ノ間ニ博取スルノ外、光榮ヲ發達スヘキ者ナシト認ムル程ノ無識者ニ在テハ、今日ノ如キノ事變ヲ現出スルニ及ヒ、時コソ来レト踊躍シ古劍ヲ筐中ニ出シテ龜文ヲ灼爍タラシメント擬シ、銃器ヲ急遽ニ磨シテ彈藥ノ備ハラサルヲ慨スルカ如キモ、其ノ身分柄スラ察知セス、務ムヘキノ目的スラ明ラカニセサルノ等輩ニ在テハ、実ニ抛ナキコトトハ言乍ラ、如何ソ其ノ冀望ノ正鵠ヲ誤ルノ甚タシキ者アルヲ咎メサルヲ得ヘケンヤ、試ニ之ヲ古諺ニ見ヨ、不在其位則不謀其事君子思不出其位トハ古哲ノ確言ト称道シ来レル所ナラスヤ、去レハコソ我輩ハ壯兵募集ノ号令未タ下ラサルノ時ニ在テハ、士族カ官兵ノ為ニ志願兵タランコトヲ希フモ、今日ノ時勢ニ取テハ甚タ祥事トハナスヘカラサル者タルヲ痛論セリ、況ンヤ謂レナキノ不平ヲ以テ謂レナキノ冀望ヲ達セント欲シ、賊徒ニ応援シテ其ノ勢力ヲ助ケント欲スルカ如キノ志念ヲ抱ク者ニ於テヨヤ、

然ルニ今日ノ事變ニ際会シテ、賊徒カ勝利ヲ奏センコトヲ冀ヒ、起リテ之ヲ助ケントスルカ如キノ徒ニ在テハ、各種ノ辞柄ヲ構造シ、自己ノ私心ヲ掩蔽セントスルニ相違ナカル可シト雖トモ、若シ識者ノ活眼ニ看破セラレ、其ノ論責ヲ蒙ルニ至ラハ、争テカ一言ノ下ニ窮迫ヲ極ムル所ナカラサルヘケンヤ、蓋シ租稅ヲ納ムルノ良民ナレハコソ、政事ニ干預スルノ權利モアルヘケレ、士族ノ如キハ已ニ祿制ヲ一變セラレタリト雖トモ、祿券ノ消却ヲ終ルニ至ラサル迄ハ、俸ク食客居候ノ姿ナリ、斯ル身分柄ニテハ良民ト共ニ同等ノ權利ヲ領受セントスルモ、猶ホ過分ニ屬スルノ道理ナラスヤ、況ンヤ自己ノ鬱結ヲ霽サンカ為ニ、干預スヘカラサルノ分界迄ヘモ闖入シ、干戈ヲ執テ国家ノ安寧ヲ攪乱スルカ如キハ、実ニ以テノ外ナル所業ナリト言ハサルヲ得ス、然ルニ是等ノ党類ハ必ラス強テ干戈ヲ執ルノ口実ヲ仮造シ、我レ能ク国政ヲ匡正セント欲ス、又タ能ク億兆ノ幸福ヲ開広セント欲スル杯ト公言シ、其ノ仮面ヲ裝飾センコトヲ務ムト雖トモ、元來決シテ干預スヘカラサルノ分界ハ闖入シ、一己ノ私念ヲ逞フセントスルノ所業タルニ外ナラサレハ、聊カタリトモ事理ヲ解スルノ良民ニ在テハ、必ラス言ハン、是

等ノ事ハ誠ニ以テ入ラサル御世話ニテ、実ニ迷惑千万ナリ、君等ノ如キハ、固ヨリ兵力ヲ以テ国政ヲ匡正スヘキ身分柄ニモ非ス、又タ君等ニ依テ、我々ノ幸福ヲ開広セラレントヨモ望マス、責テ我々ノ恩義ニ負カサラントセハ、謂レナキ戦争ヲ起シテ、非常ノ困難ヲ我々ニ及ホスコトナカラシメヨト、若シ此ノ一言ヲ附与セラレナハ、想フニ士族ハ何等ノ口実ヲ以テ之ヲ分疏スヘキヤ、士族ガ其ノ目的ヲ確定スヘキ所ヲ誤リ、其ノ適従スヘキ所ヲ失フノ此ノ如キニ至ルハ、畢竟文武ノ二途ニ従事シ、以テ其ノ勲績ヲ顕ハスノ外、一身ノ光榮ヲ博取スヘキ者ナシトスルノ謬見ヲ凝結スルニ座スル也、嗚呼文武ノ事業ハ、已ニ士族ノ身体ト分離セリ、何ソ其他ノ目的ニ就テ、上ハ国家ノ裨益ヲ經画スル所以ヲ謀リ、下ハ一身ノ光榮ヲ發達スル所以ヲ求メサルヤ、若シ熱心ニ其ノ着手スヘキノ事類ヲ求ムレハ、適応ナル目的ヲ確定スルニ難カラサル可シ、然ルヨ之ヲ精思シ之ヲ踴勉スルコトヲ希ハスシテ、鬱結スヘカラサルノ不平ニ鬱結シ、冀望スヘカラサルノ妄想ヲ發起シ、干戈ヲ執リテ賊勢ヲ助ケ、天下ノ騒乱ヲ助長セントスルカ如キハ、如何ソ寛恕スヘカラサルノ罪惡タルヲ免カル、コトヲ得ヘケンヤ、

嗚呼西郷ハ功績ヲ天下ニ負ヒ、幸福ヲ人民ニ及ホスノ一人ナリ、而シテ今日ノ變動ヲ現スルニ及ヒ、前日ノ功德ハ浮雲ト消シ流水ト去リ、復タ其ノ罪惡ヲ償フヘカラス、況ンヤ尋常士族ノ渥恩ヲ政府ニ受テ、其ノ報酬ヲモ致サス、恩惠ヲ人民ニ蒙ムリテ、其ノ弁償ヲモ尽サ、ルノ身分ニシテ、上ハ国家ニ叛キ、下ハ人民ニ負クノ挙動ヲ甘ンスルニ至テハ、之ヲ德ニ報スルニ怨ヲ以テスル者ト言ツテ可ナリ、諸君モ亦タ一飯ノ恩モ必ラス報スヘキノ条理アルヲ知ラサル乎、

(畢)

三一 征韓ノ行ハレザルヲ惜シムハ謬見

四月十四日

惜イ哉、^(明治六)癸酉ノ歳ニ在リテ征韓論ヲ実行スルニ至ラサリシヨ、唯其レ征韓論ノ内閣ニ行ハレサリシカ為ニ、或ハ佐賀ノ變動ヲ起シ、或ハ台湾ノ遠征支那ノ葛藤ヲ醸シ、繼テ熊本ノ騒動ヨリ萩ノ擾乱ニ至ル迄、幾許カ其ノ連糾ヲ蒙ラサル者ナシ、是等ノ事ハ暫ク之ヲ今日ニ嘸ミスルコトヲ要セサルモ、目下ノ大乱此ノ如キヲ見レハ、争テカ慨然トシテ前日ノ征韓論ヲ瞻回シ、其ノ實際ニ行ハレ

サリシヲ嘆セサルヲ得ン、夫レ西郷カ一世ノ人望ヲ收攬スルノ姿ヲ以テ、征韓大将ノ印綬ヲ負ヒ、之ヲ羽翼スルニ板垣・後藤・副島・江藤等ノ傑士ヲ以テシ、今日ニ消糜スル所ノ軍費ヲ征韓ノ挙ニ散シ、内乱ニ殺傷スル所ノ兵士ヲ外征ニ用ユルニ至ラハ、其ノ國勢ヲ宇内ニ輝カシ、武名ヲ海外ニ轟カスハ論ナク、併セテ今日ノ如キ慘憺タル内乱ヲ起スニ至ラサル可シ、而シテ此ノ議論ノ前日ニ行ハレサリシカ為ニ、遂ニ國家ノ棟梁日本ノ一人トモ言フヘキ西郷ヲシテ、今日ノ挙動ヲ発セシメ、容易ニ收拾スヘカラサルノ損害ヲ生スルニ至ラシメタリトハ、是レ論者ノ或ハ今回ノ變動ヲ嘆スルノ極、語リテ此ニ及フ所ナリ、嗚呼論者カ西郷ヲ痛惜スルノ余リニ、前日ノ征韓論ヲ実行シ得サルヲ嘆スルハ、一応ノ理アルカ如シト雖モ、詳細ニ思考ヲ費シ來ル時ハ、其ノ西郷ヲ痛惜スルハ則チ可ナリ、其ノ征韓論ヲ実行スルニ至レハ、國勢ヲ宇内ニ耀カシ、武名ヲ海外ニ轟カスコトヲ得ヘシトハ、蓋シ速ニニ渉ルノ甚タシキ者ナリト言ハサルヲ得ス、我輩請フ、其ノ然ル所以ヲ左ニ開陳セン、

実ニ論者ノ痛惜スルカ如ク、西郷ヲ今日ニ失フハ國家ノ為ニ嘆息痛恨ニ堪ヘサル者アリト言フ可シ、世人ハ西郷

カ今回ノ暴挙ヲ発生セシニテ之ヲ罵詈訾シ之ヲ叱咤シ、痛言極論毫モ仮借スル所ナク、我輩モ亦タ所為ノ在ラン限リヲ尽シテ、人心ヲ迷離ニ陥レサランコトヲ務ムト雖モ、コレハ是レ其ノ挙動ヲ罪スル也、其ノ背叛ヲ責ル也、若シ其ノ人物如何ニ論及セハ、西郷ハ実ニ一世ノ豪傑ニシテ、復タ遽ニ之ヲ当世ニ求ムヘカラサルノミナラス、今回ノ事變ヲ發動スルニ及ンテ、益々彼カ非常ノ傑士ナルヲ確信スルニ足ル者アリトスルモ、恐ラクハ大過ナカル可シ、

西郷カ今日ノ挙動ハ、名義ナク条理ナキノ暴発タリ、天兵ニ抗シ人民ヲ害スルノ謀叛タリ、而シテ遠ク前日ノ事業ヲ尋ヌレハ、其ノ勞苦モ勤王ノ事ニ起リ、其ノ成功モ勤王ノ業ニ終レル者ニシテ、其ノ赤心ハ夷ニ汗青ヲ照シ、其ノ勲績ハ夷ニ天日ト光ヲ争フコトヲ得ヘシ、然ルニ我輩ノ西郷カ今回ノ事變ヲ發動スルニ及ンテ、益々其ノ非常ノ傑士ナルヲ確信スルニ足ル者アリトスルハ、何ソ西郷カ前日ノ勲績ニ於テ、深ク之ヲ贊称スヘキハ其ノ事業ニ由リテ之ヲ言フナリ、而シテ今回ノ變動ヲ以テ、益々一世ヲ驚愕セシムル者アリトスルハ、其ノ人物ニ就テ之ヲ論スル也、世人モ亦タ我輩ト共ニ之ヲ觀察セヨ、西郷

カ前日ノ功業ハ、之ヲ上ニシテハ天下ノ政体ヲ一変シ、之ヲ下ニシテハ億兆ノ幸福ヲ開達セシ者ニシテ、実ニ維新ノ元勳功臣ノ随一トモ言フヘキ者ナレ共、是等ノ事業ハ毫モ他ニ依頼スル所ナク、全ク西郷ノ一身ヲ以テ之ヲ經營セシ者ト言フヘキ乎、決シテ然リトスルヲ得サル可シ、彼カ仮借セシ所ハ勤王ノ名義ニ在リ、其ノ使用セシ所ハ薩ノ藩力ニ在リ、勤王ハ當時ニ在テ最モ人心ヲ收攬スヘキノ名義ナリ、薩ハ全国中ニ在テ最モ首座ニ位スルノ強藩ナリ、夫レ強藩ノ兵力ニ依リテ、仮ルニ勤王ノ名義ヲ以テスレハ、其勢屋上ニ在テ瓶水ヲ覆スカ如シ、誰カ復タ之ヲ支フル者アラン、然ラハ則チ西郷カ前日ノ功業ハ、実ニ維新ニ冠タリト雖トモ、未タ一身ノ力ヲ以テ之ヲ經營シ得タリト言フヘカラス、則チ勤王ノ名義ト薩藩ノ兵力ニ仮借スル者アリト言テ可ナリ、

今回ノ挙動ハ則チ然ラス、其ノ口実如何ヲ尋メレハ、一己ノ身上ニ關係スルノ事故タルニ過キス、其ノ兵卒ハ鹿兒島ノ士ナリト雖トモ、君命ヲ以テ起ルニ非ス、全ク西郷ニ心服セシヨリ出ルナリ、是ニ由テ之ヲ論スレハ、西郷カ今日ノ事業ハ、復タ前日ノ如ク仮借ノ具アルニ非スシテ、一身ノ奮起ヲ以テ此ノ大變ヲ生シタル者ナリ、想

フニ天下広シト雖トモ人物多シト雖トモ、名義ノ毫モ人心ヲ聳動スル所ナク、一人ノ奮起ヲ以テ是程ノ大兵ヲ一朝ニ召集シ、甘ンシテ其ノ死命ヲ致サシムル者ハ、恐ラクハ一人トシテ求メ得サル可シ、而シテ西郷カ一タヒ足ヲ麤城ニ擧ルヤ、一万余人ノ壯士ハ終朝ニシテ響應シ、政府カ天下ノ全力ヲ尽シテ之ヲ討伐スルモ、猶ホ屈撓スル所ナク、抗戰角鬪五十余日ニ及フヲ見レハ、其ノ人心ヲ收攬スルノ深キコト蓋シ之ヲ推知スヘシ、然ラハ則チ西郷カ今日ノ挙動ハ、真ニ天地ニ容ルヘカラサルノ罪戾タルヲ免カレサルモ、其ノ人物上ヨリ之ヲ論スレハ、今日ノ變動ヲ現スルニ及ヒ、益々一世ヲ驚愕セシムル者アリト云フモ、亦タ誤謬ナカル可シ、是程ノ人物ニシテ謂レナキ變動ヲ起シ、上ハ国力ヲ衰頹セシムルノ甚タシク、下ハ一身ノ名譽ヲ泥土ニ抛擲スルニ至リシヲ見レハ、我輩モ亦タ論者ト共ニ深ク之ヲ痛惜セサルニ忍ヒスト雖モ、其ノ之ヲ痛惜スルノ極、征韓論ノ内閣ニ行ハレサリシヲ嘆スルニ至テハ、抑々亦タ誤矣、我輩諸フ、筆ヲ繼テ其ノ所見ヲ開陳スル所アラン、

(此稿未完)

三三 官兵熊本城ト連絡成ル 四月十七日

熊本ハ数十日ノ籠城ニ堪ルコト能ハスシテ、遂ニ賊徒ノ所有トナルニ至ラン乎、將タ又タ官兵カ城中ノ困難ヲ極ムルニ至ラサルニ先タチ、早ク城中ト連絡ヲ通スルニ至ラン乎トハ、與人ノ眼ヲ集メ耳ヲ傾ケ、以テ其ノ報告ヲ探偵スルニ怠ラサリシ所ナリ、而シテ八代口ノ官兵ハ世人ノ冀望ヲ誤マラス、其ノ時機ヲ失ハス、遂ニ一昨十五日ヲ以テ山川中佐カ率イラレタル右側一中隊ノ兵ハ、先ツ早ク熊本城ニ達シ、各旅団ノ兵ハ昨日未明大挙シテ熊本ノ本城ニ連絡ヲ通シ、入城ノ議ヲ決セラレタル旨ヲ電報ニ得タルニヨリ、我輩ハ速ニ之ヲ昨十六日ノ附録ニ印行シテ世上ニ公告スルコトヲ誤ラサリキ、

我輩カ前日ニ開陳セシカ如ク、今日トナリテハ、仮令万一熊本鎮台カ守城ニ堪ルコト能ハサルノ不幸ヲ現スルニ至ルトモ、全局ノ勝敗ニ關係ヲ及ホス程ノ大事ニ非サルハ、少シク戰場ノ大形ヲ通観スル者ノ、尽ク之ヲ瞭知セシ所ナリ、何トナレハ、官兵ハ預メ全局ノ勝算ヲ定メ、正面後背共ニ進ンテ賊兵ヲ蹙圧シ、賊ノ戦線ハ最早之ヲ広張スルニ由ナキノ形勢ニ立至リ、剩ヘ官兵カ背後ヲ衝

ントテ、隈川ニ出張セシ賊ノ後援モ、更ニ志ヲ得ルニ至ラスシテ、人吉ニ敗走セシコトナレハ、良シヤ熊本ニ言フヘカラサルノ不幸アレハトテ、正面ト背後ノ戦線ハ依然タル戦線ニ止マリ、左ノミノ交換ヲ生スヘキノ理ナケレハ也、去レハトテ若シ熊本ノ不幸ヲ現スルト、其ノ未タ此ニ至ラスシテ連絡ヲ通スルト、何レカ官兵ノ為ニ賀スヘキカト問ハ、言ハスシテ其ノ速ニ連絡ヲ通スルノ賀スヘキヲ知ル可シ、此ノ關係ハ我輩カ今更喋々スル迄モナク、若シ官兵カ熊本ト連絡ヲ通スルニ至ラスシテ、嘆スヘキノ不幸ヲ生スルニ至レハ、熊本ニ蟬集セル賊兵ハ、最早城下ニ患フヘキ者ナキヲ以テ、鋒ヲ各処ノ方面ニ分ツニ至ル可シ、然ラサルモ、慄悍驍武ニシテ容易ニ制スヘカラサルノ賊兵ニ、加フルニ城下ノ兵勢ヲ以テスレハ、更ニ官兵ノ為ニ患害ヲ及ホシ、幾何カ平定ノ期ヲ遲滞ナラシムルハ必然ナリ、且ツ夫レ官兵カ是迄矣ニ名状スヘカラサルノ激戦ヲ遂ケ、危険ヲ犯シ死傷ヲ厭ハス、以テ賊兵ヲ衝突セシモ、速ニ平定ノ功ヲ奏セントスルニ在リトハ言イ乍ラ、一ハ一日モ早ク城中ト連絡ヲ通シ、台兵ノ困難ヲ救ハントセシニ在リシナル可シ、而シテ未タ其ノ目的ヲ達スルニ及ハスシテ、城中ノ不幸ヲ現スル

ニ至レハ、賊ノ為ニ一層ノ勢敵ヲ助長シ、官兵ノ為ニ無限ノ失望ヲ生セシムルニ至ランコト明カナリ、然ラハ則チ官兵カ熊本城ト連絡ヲ通スルニ至リシハ、実ニ朝野一般ノ憂苦ヲ掃除スルノ報告ニシテ、豈之ヲ戦争以來ノ大吉報ト言ハサル可ケンヤ、

熊本ノ籠城猶ホ堅固ナルニ際シテ已ニ連絡ヲ通スルニ至リシヨリハ、数十日間城中ニ退守セシ台兵ハ、一變シテ攻撃ノ兵トナリ、益々官軍ノ兵勢ヲ盛ンナラシムルハ、言ヲ俟スシテ明カナリ、此ノ戦勝ノ兵威ニ乗ル愈々賊兵ヲ蹙圧スルニ至ラハ、賊兵ハ必ニ何等ノ目的ニ出テ以テ之ヲ支柱スヘキ乎、背後ノ官兵已ニ城中ト連合スルニ至レハ、蓋シ植木ノ間ニハ防戦シ能ハサル可シ(植木ノ賊モ已ニ潰走ストアリ、委クハ電報ヲ見ヨ)、植木・熊本共ニ官兵ノ掌握ニ歸スルニ至レハ、肥後ハ已ニ賊兵ナキニ至ルナリ、肥後ノ賊兵尽ク瓦解スルニ至レハ、坂梨ノ賊兵豈独リ此地ニ拠有スルコトヲ得ヘケンヤ、我輩ハ戰場ノ地理ニ暗キヲ以テ、進退攻守ノ形勢ヲ詳論スルコトヲ得サレ共、戦勢已ニ此ニ至レハ、賊兵蓋シ亦タ策ノ出ル所ナカル可シ、兵員一結責テハ死出ノ憂晴シト覚悟シ、殊死鏖戦勝敗ヲ一挙ニ決スルノ目的ニ出シ乎、一戦二戦

ハ官兵ニ困難ヲ及ホスコトナキニ非サルヘシト雖モ、到底一万余人ノ壮士ハ尽ク戰場ノ露ト消ヘ、屍ヲ山野ニ暴スノ外ナカル可シ、退イテ路ヲ日向路ニ取リ、遂ニハ本國ヲ守ルノ戰略ニ出シ乎、海陸ノ攻撃凡テ官兵ニ自在ナリ、何ソ平定ノ功ヲ迅速ナラシムルニ難カラシヤ、然ルニ後事ノ結局ハ遽ニ之ヲ数百里外遠隔ノ地ニ算スヘカサルモ、背後ノ官兵已ニ城中ト連絡ヲ通スルコトヲ得タルノ一報ハ、則チ戦争ノ分離ヲ此ニ現スルノ機会ニシテ、大イニ戦勢ヲ此ノ一挙ニ交換スルハ、言スシテ明瞭ナル所ナリ、

我輩カ官兵ノ賊背ヲ衝クヲ以テ撫背扼喉ノ策トナシ、之ヲ前日ニ論談スルヤ、或ハ之ヲ嘍々スルノ論者ナキニモ非サリシト雖モ、今ヤ官兵カ城中ト連合セシハ、背後ノ官軍ノ手ニ出ルヲ見レハ、(清懸)黒田參軍ノ戰略、極メテ其機ヲ失ハサリシヲ想像スルニ足ル可シ、而シテ数日以來植木・木留・坂梨ノ方面ハ、近來烈戦ヲ試ミサルカ如キヲ以テ、或ハ其状如何ヲ慮ル者ナキニモ非サリシト雖モ、今日ヨリ之ヲ見レハ、官兵ノ戰略ニ於テハ、蓋シ背後ヨリ連絡ヲ通スルノ易キニ如カサルヲ預定セラレタル者ナランカト想像セラル、何レニ致セ、戦勢ノ交換已ニ此ニ至リタ

ルヨリハ、我輩ハ将ニ大白ヲ挙テ言ントス、戦争ノ大形
已ニ定マル、諸君諸フ、憂慮セスシテ可ナリト、

本篇ハ昨十六日午後一時ノ稿スル所ニ係ル、其後得ル所ノ電
報ニ拠レハ、更ニ戦状ヲ一變セシ者アルヲ明カニス可シ、看
官請フ、電報ト參観セラレヨ、

三三 統征韓ノ行ハレサルヲ惜シムハ謬見

四月十八日

西郷カ今回ノ事變ヲ發動スルニ及ンテ、益々彼カ非常ノ
傑士ナルヲ確信スルニ足ルヘキハ、我輩カ已ニ之ヲ詳論
セシ所ナリ、而シテ其ノ今日ノ挙動ヲ痛惜スルノ極、征
韓論ノ内閣ニ行ハレサリシヲ遺憾トスルノ謬見ニ属スル
ハ、是レ亦タ其ノ端緒ヲ前日ニ開陳セシ所ナリ、世ノ西
郷ヲ妄信スルノ甚タシキ者ハ、我輩カ卒然論シテ此ニ及
フヲ見ルヤ、或ハ異言ヲ此間ニ挾ム者ナキニ非サルヲ知
ルヘカラスト雖トモ、我輩モ亦タ容易ニ此説ヲ下サ、ル
也、請フ、其ノ所見ヲ左ニ開陳スル所ヲ見ヨ、
西郷カ征韓論ヲ発スルニ当リ、後藤・板垣・副島・江藤
ノ諸氏ハ皆ナ其議ニ左袒セリ、世人ハ其議ヲ共ニシ其論

ヲ同フセシヲ望ンテ、是等ノ人々ハ凡テ西郷ト同身一
ナル者トナシ、果シテ征韓ノ師ヲ起スニ至レハ、一致協
力共ニ軍事ヲ經画シ、毫モ乖離ヲ生スル所ナカル可シト
セン乎、諸氏ノ心事ハ我輩ノ得テ之ヲ明カニスル所ニ非
サレトモ、西郷ハ固ヨリ、是等ノ諸氏ト事ヲ共ニスルノ
目的ニ非サルヲ公言セシコトアリト聞ク、而シテ此ノ伝
聞ハ、我輩ノ推想スル所ニ於テモ、果シテ然ルヘキ者ア
ルカト思ハル、何トナレハ、西郷ハ決シテ他県ノ力ヲ借
リ余人ノ助ケヲ仰キ、以テ自己ノ目的ヲ達セントスルカ
如キノ人物ニ非サル可シ、其ノ自ヲ抱恃スルノ此ニ至ル
ハ、彼ノ意蓋シ思ヘラク、鹿児島ノ勢力ハ以テ全国ヲ压
倒スルニ足ルヘシ、薩ノ壮士ハ尽ク我ニ服従セリ、況ン
ヤ桐野・篠原ヲ初メトシ、其他共ニ大事ヲ謀ルヘキノ人
物ニ乏シカラサルニ於テヨヤ、我ニシテ一タヒ事ヲ挙げ
ハ、是等ノ人士ハ尽ク起リテ死命ヲ致スニ憚ラサルナリ、
何ソ他県ノ力ヲ借り、余人ノ助ケヲ仰クヲ事トセント、然
ルカ故ニ、江藤前ニ起ルモ之ヲ救ハス、前原後ニ叛クモ
之ニ応セス、全ク一己ノ力ヲ以テ、今回ノ事變ヲ發動セ
シニ非スヤ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、西郷カ前年征韓論ヲ
發シタルノ際ニ於テ、後藤・板垣・副島等ノ諸氏ハ、尽

ク其議ニ左袒セシモ、西郷ハ是等ノ人ミト共ニ事ヲ謀ルノ目的ニ非サリシト言フモ、敢テ架空ノ妄談ニ屬セサルカ如シ、

若シ將タ西郷ハ万一同議ノ諸士ト一致協力シ、共ニ外征ヲ謀ル可シトスルモ、後藤・板垣・副島・江藤ノ諸氏ハ、果シテ遠征ノ策略ヲ經画シ、軍費・輜重ノ供給ヨリ善後ノ計算ニ至ル迄、一々其圖ヲ誤マラス、国勢ヲ宇内ニ耀カシ、武名ヲ海外ニ轟カスノ技量アル可シトセン乎、我輩之ヲ知ラサル也、知ラサルノ事ハ、暫ク之ヲ知ラサルニ附シテ可ナルヘシト雖モ、若シ当年ニ在テ征韓論ヲ実行セシメナハ、西郷ハ名望モ諸氏ノ上ニ位シ、其ノ發論モ亦タ西郷ニ出テタル者ナレハ、征韓大將ノ印綬ハ西郷ノ手ニ歸センコト明カナリ、此時ニ在テ西郷ハ果シテ何人ト謀リ、何人ヲ恃ミ、以テ外征ニ及フヘキ乎、想フニ其ノ最モ信任スル所ハ、桐野・篠原ヲ初メトシ、一方ニ隊長タルノ人物ニ在テ、其ノ最モ憑恃スル所ハ、薩ノ壮士輩ニ外ナラサルヘシ、其ノ最モ信任スル所ハ是等ノ人物ニ在テ、其ノ最モ憑恃スル所ハ薩ノ壮士輩ニ在リトスレハ、良シヤ当日ノ事ハ今日ト異ニシテ、軍費、輜重ト言イ、兵器、彈藥ト言イ、全国ノ供給ニ仰ク可シトスル

モ、其ノ事件タルヤ、外国ト連判セルコトナレハ、其ノ關係モ亦タ今日ノ内訌ト同一視スヘキニ非ス、豈其ノ軍略ノ目的ヨリ、全局ノ勝算ヲ詳悉スルヲ要セスシテ可ナランヤ、

西郷カ丘園ニ高臥シテ世事ヲ謝絶スルカ如キノ時ニ在テハ、其ノ人物ノ輕重才識ノ深淺殆ント測量シ得ヘキニ非ス、殊ニ彼レノ軍略ニ長スルハ、世人一般ノ信任スル所ナリシヲ以テ、西郷ニシテ一タヒ足ヲ舉レハ、終朝ニシテ海内ヲ風靡スルニ至ルモ測ラレストハ、與人ヲ挙テ尽ク其ノ然ラサルヲ明言シ能ハサリシ所ナリ、而シテ彼カ今回ノ事變ヲ發動スルニ及ンテハ、独リ其ノ名譽ヲ泥土ニ抛擲セルノミナラス、世人モ亦タ之カ為ニ大イニ其ノ期待ヲ誤マラル、ニ至レリ、嗚呼兵ヲ起シテ雌雄ヲ干戈ニ争ハントスルノ目的ヲ決セハ、宜ク先ツ彼ヲ知り己レヲ知ルノ觀察ヲ明ラカニシ、軍費、輜重ヨリ兵器、彈藥ニ至ル迄、一々其ノ計算ヲ詳カニシ、然後チ大事ヲ決行スヘキハ、假令軍略ニ長セサルモ、少ク事理ニ通スル者ノ、尽ク之ヲ明知スル所ナラスヤ、而シテ西郷ハ毫モ是等ノ間ニ注意セス、虚囑者ノ報告ヲ信用シテ政府ノ実力ヲ察セス、自己ノ名望ニ誇慢シテ、海内ヲ風靡ス可シ

ト爲シ、兵力ヲ以テ一朝ニ目的ヲ達セント妄想セシモ、未タ熊本城ヲ陥ル、ニ及ハスシテ、已ニ滅亡ノ徵效ヲ現スルニ至レリ、然ラハ則チ其ノ軍略ニ長スルハ果シテ何クニ在ルヤ、

今日ノ變動ト前日ノ征韓トハ、大イニ其ノ事跡ヲ異ニスト雖モ、其ノ軍略上ヨリ之ヲ觀レハ、豈内外ノ殊別アルヘケンヤ、無算ノ兵ヲ起スコト此ノ如クニシテ、之ヲ外國ニ施用シ、征韓ノ議ヲ行フニ至レハ、仮令一時ハ韓兵ヲ破リ得ルモ、支那ノ援兵ニ妨害セラレ、曠日弥久シテ戰ヲ決スル能ハス、漸ク困難ヲ極ムルニ際シ、外國ノ爲ニ仲裁ヲ入レラル、カ如キノ不幸ヲ生スルニ至レハ、独リ武名ヲ海外ニ轟カスコト能ハサルノミナラス、其ノ國光ヲ損害スルヤ、蓋シ亦タ大ナリ、而シテ今日西郷ノ用兵如何ヲ觀レハ、安ソ果シテ是等ノ不幸ナカリシヲ保ツヘケンヤ、故ニ我輩ハ西郷カ一世ノ豪傑タルヲ公言スルモ、其ノ征韓論ヲ実行シ得サリシヲ遺憾トスル者ノ誤謬ヲ解キ、併セテ西郷ハ独力ヲ以テテ大事ヲ謀ルノ人物ニシテ、同議ノ諸氏ト事ヲ共ニスヘカラサルヘキヲ論シ、世人ノ西郷ヲ以テ、後藤・板垣諸氏ト同身一体ノ人ナリト認ムル者ノ惑ヲ弁スルヤ如此、

三四 賊兵ノ力輕視スベカラズ 四月十九日

熊本城ノ未タ陥ラサルニ及ンテ、官兵カ早ク城中ト連絡ヲ通シ、一ハ益々全局ノ勝算ヲ固定シ、一ハ城兵カ数十日間ノ難戰苦闘ヲ徒爲ニ属スルニ至ラシメサリシハ、実ニ朝野一般ノ憂苦ヲ解散セシムルノ吉報ニシテ、若シ謝安石ヲシテ今日ニ臨マシメハ、定メテ履齒ノ折ル、ヲ覺ヘサルノ滿悅アル可シト信スル也、

賊兵ハ全ク当初ノ目的ヲ失シ、已ニ肥後ノ地方ヲ退散セシヨリハ、恰モ明智光秀ノ天王山ヲ失ヒ、石田三成ノ関ヶ原ニ敗レタルカ如シ、仮令如何ナル籌略ヲ按シ如何ナル後圖ヲ謀ルトモ、深ク天下ノ大患ヲ爲スヲ慮ルニ足ラサルハ、戰爭ノ大形ニ於テ瞭然明白ナル所ニシテ、其ノ全敗皆滅余燼ヲ留メサルニ至ルモ、蓋シ久シキヲ出テサル可シ、然ルニ賊モ亦タ実ニ輕視スヘカラサルノ強兵ニシテ、即チ一県ノ単兵ヲ以テ天下ノ兵ニ抗敵シ、五十余日ヲ支柱セシ程ノ勁敵ナリ、安ソ其ノ肥後ノ地方ヲ退去セシヲ以テ、復タ之ヲ意トスルニ足ラストナシ、膏ヲ脱シ鎧ヲ解キ、置酒高歌戰勝ヲ誇談スルノ時ナランヤ、且ツ夫レ我輩ハ官兵カ城中ト連絡ヲ通シタル時ノ景況ヲ

推想シ、更ニ今日迄ニ得タル所ノ電報ト參觀シ来レハ、猶更以テ官兵ノ注意ヲ要セサル者ナキニ非ス、世人モ必ラス電報ニ記憶セラル可シ、植木・木留等ノ官兵カ、戦ハスシテ熊本ニ達シタルハ、背後ノ官兵先ツ熊本ト連絡ヲ通シタル後ニ在リ、熊本ノ賊兵已ニ城下ヲ退クニ至レハ、独リ植木・木留ヲ固守スルコトヲ得ヘカラス、其ノ壘營ヲ撤シテ他方ニ転スヘキハ必至ノ勢ナルニヨリ、是等ノ官兵カ容易ニ城下ニ達シタルハ、固ヨリ怪ムニ足ラサレ共、背後ノ官兵トテモ亦タ非常ノ苦戦ヲ遂ケ、然ル後チ城中ト連絡ヲ通シタルニ非サルカ如シ、蓋シ是迄ノ戦争ニ就テ之ヲ觀レハ、賊ハ実ニ必死ノ兵ニシテ、如何ニ官兵ノ精練ト奮戦トヲ以テスルモ、容易ニ之ヲ撃破スルコトヲ得サリシ所ナラスヤ、然ラハ則チ賊兵ヲシテ、真ニ肥後ノ野ヲ以テ逐鹿ノ中原ト定メ、一步モ其処ヲ引クマシト覚悟セシメナハ、今日ハ漸ク兵器・彈藥ニ乏シク兵糧・輜重ニ苦ミ、疲羸困弊ヲ極ムルノ賊徒ナルモ、官兵ノ城中ニ通スルヲ得ルヤ、恐ラクハ此ノ如ク容易ナラサル可シ、且ツ賊徒カ退走ノ蹤跡ニ於テモ、電信ニ報道スル所ニテハ、其ノ場所区々ニシテ未タ一定ノ処ヲ得ス、若シ官兵ハ賊ノ北ルヲ逐テ直チニ之ヲ追跡

シ、途上再ヒ兵ヲ交ユルカ如キニ至ラハ、最早退走ノ蹤跡ヲ明カニスルニ至ル可シ、是等ノ都合ニ拠テ之ヲ推察スレハ、賊ノ熊本ヲ退キ各所ノ壘營ヲ撤セシハ、預メ官兵ト肥後ノ地方ニ争衡スヘカラサルヲ明カニシテ、早ク其処ヲ挙ケ、官兵カ連絡ヲ通スルノ際ニ於テ、之ト抗戦セシ者ハ僅少ナル残兵ナランカト思ハル、也、

或ハ賊兵ノ肥後ヲ退キシヲ以テ、賊中ニ容易ナラサル事變ヲ生シタルカ為メナラント推考シ、之ヲ西郷・桐野・村田等ノ自刃ニ帰スル者ナキニ非ス、果シテ此ノ如クナラシメハ、賊兵ノ四分五裂シテ各所ニ散乱シ、其ノ蹤跡スラ求メ難キモ亦タ怪ムニ足ラスト雖モ、西郷モ実ニ一世ヲ傾倒スルノ豪傑ナリ、未タ烏江ノ困厄ヲ極ムルニ瀕セスシテ、項籍ノ自刎ニ效フカ如キノ所為ニモ至ルマシキカト思ハル、若シ西郷ニシテ未タ死セサラシメハ、其ノ肥後ヲ退キシハ、之ヲ第一着ニ失ツテ之ヲ第二着ニ謀ルノ目的ナラント想像セサルヲ得ス、而シテ其ノ目的ニ至テハ、是迄ノ戦形ニテハ官兵ト拮抗シ得ヘカラサルヲ悟リ、戦線ヲ縮メ兵力ヲ一ニシ、決死奮戦ヲ一挙ニ試ムルノ目的ナルカ、或ハ路ヲ日向ニ取り、遂ニハ本国ヲ根拠ト定メ、官兵ニ抵抗スルノ計算ナルカハ知ラサレ共、

西郷ニシテ猶ホ陣中ニ存セシメハ、官兵ハ決シテ自安ノ
氣ヲ生スルコトヲ得サル可シ、

電報ニ擧レハ、賊徒ハ蓋シ日向路ニ走リタルカ如シ、然
ラハ則チ官兵ハ速ニ此ノ機会ヲ誤マラス、疾雷耳ヲ掩フ
ニ及ハサルノ勢ヲ以テ賊兵ヲ追撃シ、彼ヲシテ又タ後図
ヲ為スニ暇ナカラシムルヲ以テ、長策トナスヘキニ似タ
リ、仮令彼ヲシテ後図ヲ謀ラシムルモ、万々足利尊氏ノ
九州ニ再起スルカ如キノ患ナキハ、言ヲ待スシテ知ル可
シト雖モ、新田義貞ノ遲緩稽待ハ如何ソ之ヲ嫌忌セサル
ヘケンヤ、若シ將タ西郷ヲシテ、決死奮戦ヲ一挙ニ試ム
ルノ目的ナラシメン乎、官兵ハ宜ク壘營ヲ堅固ニシ兵備
ヲ肅整ニシ、以テ其鋒ヲ挫折スルコトヲ誤ラサル可シ、
彼ノ戦勝ニ做リ兵備ヲ怠リ、再ヒ敵軍ノ乗スル所トナル
カ如キハ、古來往々免カレサル所ナリ、想フニ戦地出張
ノ諸公ハ、飽迄戦事ニ練熟シ軍略ニ優長ナルノ名士ナレ
ハ、預メ賊ノ情况如何ヲ探偵シ、機ニ臨ミ変ニ応シ、以
テ其ノ勝算ヲ制シ、賊徒全定ノ功ヲ奏セラレンコトハ、
蓋シ遠キニ非サルヘシト雖モ、我輩カ此説ヲ草スルモ、
王師ノ力々失敗ナキヲ冀望スルノ厚キニ出レハ也、

三五 征討ノ疲弊如何 四月二十一日

吾輩数日前ニ在テ之ヲ道路ノ間ニ聞ク、西南ノ事変ニ就
テ大藏省ハ已ニ一千余百万円ノ金額ヲ払ヒ出セリト、如
何ソ之ヲ臨時意外ノ洪費ナリト言ハサルヘケンヤ、然ル
ニ今日ニ至テハ已ニ熊本城ノ困ミヲ解キ、大イニ賊勢ヲ
挫折スルニ至リシト雖トモ、賊モ亦タ未タ一敗地ニ塗レ
テ其ノ勢力ヲ熾滅セシニ非ズ、彼レ退ヒテ我レ進ムノ時
期ヲ来タセシニ在リト云フヘシ、仮令賊兵カ熊本城ノ困
ヲ解キシハ、勢ヒ已ニ屈退セシニ由ル者ナレハ、亦タ深
ク憂フヘカラストスルモ、王師全ク平定ノ功ヲ奏シ凱歌
ヲ都城ニ唱フルハ、尚ホ幾致口ヲ経過スベキヲ知ルヘカ
ラス、然ラバ則チ向後軍陣ニ費用スル所ノ金額モ亦タ幾
許ヲ要ス可キカ、今日ニ在テハ、均シク之ヲ予算スルコ
トヲ得ザル可シ、

此ノ如キヲ以テ、西南ノ賊徒カ日ナラズシテ平定ニ帰ス
ルハ、断シテ疑フヘカサル所ナリトスルモ、征討ノ失
費ハ、如何シテ之ヲ恢復スルヲ得可キカノ問題ハ、識者
ノ最モ憂慮スル所ニシテ、世人モ亦タ巷街ニ喋々スル所
ナリ、吾輩安ソ之ヲ黙視傍觀ニ附シ、進ンテ此ノ一大

問題ニ向テ討論スル所ナカラサルニ忍ヒンヤ、然レトモ政府カ会計ノ出入ハ尚ホ機密ノ一部ニ属シ、当路ノ人ト雖モ容易ニ之ヲ詳知シ能ハサルガ如シ、矧ンヤ民間ノ一書生タル吾輩新聞記者ニ於テヨヤ、故ニ此ノ問題ニ向ツテ之ヲ討論スルモ、徒ニ道路ノ風説ニ拠テ思考ヲ下タスニ過キザレハ、素ヨリ誤謬ナキヲ期ス可カラズト雖モ、之ヲ言ハサルニ附スレバ世人ト共ニ疑団ヲ胸中ニ抱ヒテ終ルニ止マラン、之ヲ明言シ之ヲ發論シ他人ノ討論弁議ヲ辱フスルニ至ラバ、或ハ此間ニ就テ疑団ヲ氷解スル所アリテ、多少ノ裨益ヲ得ルコトアランモ知ルヘカラス、然ラハ則チ吾輩カ、未タ会計ノ全局ヲ詳カニセスシテ、此ノ論題ニ向フモ、遽ニ直突暴進トナスヘカラサルヲ知ルヘシ、

政府ノ歳入ハ海關・地租・雜稅等種類極メテ多岐ニシテ、其ノ金額タル亦タ極メテ巨大ナリト雖トモ、要スルニ一歳ノ入額ハ一歳施政ノ費額ニ加来ス可カラズ、然レトモ時トシテ非常ノ失費ヲ要スルノ事變、即チ佐賀ノ叛乱、臺灣ノ征役、熊本・萩・三重・茨城ノ暴動ノ如キノ事件アルヲ以テ、政府ハ定額外ニ毎歳五百万円ノ非常予備金ヲ備ヘ置キ、其ノ金額ニ就テ剩余ヲ存スルノ員數ハ、之ヲ

準備金内ヲ合スルノ成規ナリト云フ、而シテ已ニ準備金内ニ合スルニ及ンデハ、敢テ之ヲ積ミ置クヲ以テ定額トセズ、工業・勸農・勸商等ノ事業ニ於テ、善良ナル方法ト認ル者アレハ、之ヲ貸与シ之ヲ使用セラル、コトアリト聞ク、然ルニ近年ニ至リテ、準備金ヲ大藏省中ニ貯蓄セシ者、已ニ二千万円ノ帳合ニ至レリト云フ、假令其ノ金額ハ庫中ニ現在セザルモ、帳合已ニ二千万円ニ及ブヨリハ亦タ巨大ノ金額ト謂ハサル可カラス、

今度西南ノ變乱ヲ發動スルニ及ヒ、征討ノ軍費ニ欠乏セズ、千有餘百万円ヲ費用シテ、陸統兵士ヲ西海ニ派遣シ、巡查ヲ新募シ壯兵ヲ徵集スルモ、亦タ蓋シ其ノ準備金ヲ以テセラレタルナラント想像ス、夫レ政府ガ連月ノ變動ニ、巨額ノ金員ヲ払ヒ出シ、現今ノ差支ヲ生セサルハ、會計ノ方法其宜キヲ得タルカ為ニシテ、深ク之ヲ贊稱スヘシト雖トモ、政府モ亦タ際涯ナキノ巨費ニ、堪ユヘキノ無尽蔵ヲ有スルニ非ズ、況ンヤ旧臘以來、熊本・萩・三重・茨城ノ事變ニ就テモ、亦タ当年ノ非常予備金(昨年九月ノ七月ヨリ本年六月迄ヲ一年ト視ナシ)ノ多少ヲ使用セラレタルナラント思ハル、而シテ今度又タ西南ノ大乱ヲ生シ、已ニ熊本ノ賊ヲ一掃スルモ、猶且ツ鎮定ノ期

ヲ遷延セハ、政府ハ何等ノ方法ヲ以テ軍費ニ堪ユヘキカ、若シ夫レ紙幣ヲ濫製シテ、一時ノ急ヲ補綴シ置カハ、目前ニ甚タシキ困難ヲ生スルニ至ラサル可シト雖トモ、苟モ之ヲ濫製セバ他日如何ナル影響ヲ流通幣紙ニ及ボス可キカ、是ハ吾輩ノ彼是ト憂慮スルマデモナク、当路主任ノ君子カ其ノ弊害ヲ畏避セラル、ハ、恰モ豺狼ニ於ルカ如シト聞ク、是ニ由テ之ヲ觀レバ、政府ハ一時姑息ノ策ニ依リテ紙幣ヲ濫製シ、他日ノ大害ヲ招クガ如キノ拙策ハ万々絶無ナルヘキヲ信ズ、

賊勢已ニ燼滅ニ帰シ、凱旋ノ喇叭ハ三千万人ノ歡喜ヲ促スアルモ、吾輩ハ未タ征討ノ疲弊ヲ恢復スルノ方向ニ於テ、確然タル目的ヲ聞知スルニ至ラザレハ、世人ト共ニ欣々揚々タルコト能ハザル者アルヲ免カレス、看ヨ、巡查ノ招募限數ハ、多端ニ際シテ詳カニ其員數ヲ知ル能ハザルモ、蓋シ幾千ヲ以テ數フ可ク、一万ノ壯兵ハ已ニ徵集ノ期ヲ急ラザリシガ如シ、然ラバ則チ是等ノ人員ヲ解散シ、死傷ノ士官或ハ兵士ニ恩給ヲ与フル等ノ失費ハ幾百万円ヲ要スヘキカ、加フルニ諸院省ノ戰地近傍ノ諸県立替失費等ヲ精算セバ、縦令薩肥近隣士族輩ノ、賊徒ニ左袒セシ者ノ秩祿ヲ沒収スルモ、今日ノ疲弊ハ実ニ容易

ニ恢復スルコトヲ得ヘカラス、思テ此ニ至レハ、杞憂交々胸中ニ充塞シ、復タ為ス可キノ方法ヲ速斷シ能ハザル也、

然ルニ今日ハ賊勢漸ク衰頹ニ趣クノ時ニ際シ、コノ疲弊ヲ回復スルノ方法ヲ考究スルハ、正ニ今日ノ緊要ナル論題ニ係ルヲ以テ、尚ホ且ツ編ヲ繼テ考案ヲ下ス所アラントス、

三六 戦費ヲ外債ニ頼ルハ危険 四月二十五日

吾輩ハ西南ノ事件ニ就テ大藏省ヨリ払ヒ出セシ金額ハ、已ニ千万円ヲ超ユルニ至リシコトヲ聞知セシヲ以テ、去ル廿一日ノ社説ニ於テ聊カ弁論スル所アリシト雖トモ、未ダ其ノ結局ニ論及スルニ至ラザリシガ故ニ、再ビ筆ヲ繼テ日本全国ノ會計如何ヲ論述シ、此ノ疲弊ヲ恢復スルニハ何等ノ方法ヲ用ユ可キカ、若シ之ヲ恢復スルノ良法ナキニ於テハ、必ズ終ニ政事ノ方向ニ於テ改革スル所ナルベカラサルノ論點ニ及バントス、

大藏省ノ準備金ハ、実ニ西南ノ騷擾ニ就テ、數万ノ大兵ヲ陸統九州ニ派遣スル資本ナリト云フヘシ、然レトモ万

一ニモ曠日弥久、尚ホ幾多ノ日月ヲ経テ賊勢全ク燼滅ニ
 帰セザル時ハ、政府ハ終ニ準備金ヲ尽シテ軍用ニ供スル
 ニ至ランモ知ル可カラズ、且ツ賊徒全ク鎮定ニ及ブモ、
 死傷者ノ恩給・募集兵解散ノ失費ハ、亦タ数百万円ヲ要
 ス可シ、万一悉ク準備金ヲ尽シテ尚ホ不足スルコトアラ
 バ、之ヲ補フニ官省ノ定額金ヲ以テセンカ、或ハ外債ニ
 依ランカ、将タ又タ紙幣ヲ増製センカ、必ズヤ是等ノ方
 法ニ依頼セサルヲ得ザル可シ、若シ果シテ是等ノ方法ニ
 依頼セバ、他日政府ハ如何シテ其ノ疲弊ヲ恢復スルヲ得
 可キカ、廟堂ハ卓絶ナル人材ニ乏シカラズ、百官有司ハ
 凡テ忠良ノ人ニ非サルナキモ、如何セン、政府一歳ノ収
 納ニ定限アリ、施政必要ノ金額ハ、一日モ之ヲ払ヒ出ス
 ヲ猶予スルヲ得ズ、誰カ其レ之ヲ苦心焦慮セザルヲ得ン
 ヤ、

万一ニ準備金ヲ以テ軍事ノ費用ニ供スルニ足ラサルカ故
 ニ、官省ノ定額金ヲ以テ其欠ヲ補ハントスレハ、何レノ
 官省ノ定額金ヲ減少シテ可ナランカ、陸海二省・警視局
 ノ如キハ、則チ此ノ夥多ナル費用ヲ要スル所ナリ、且ツ
 諸省中諸局諸課ニ就テ考フルニ、今日ノ和平ヲ保ツニ欠
 ク可カラザルノ事務ハ、已ニ節儉ヲ極メタルガ如シ、而

シテ仮令今日ニ緊要ナラザルカ如キノ業務タリトモ、亦
 タ他日ニ至大ノ囑望ヲ有スル者ニシテ、譬ヘハ北海道ノ
 開拓ニ於ル、文部ノ教育ニ於ル、内務ノ勸農勸商ニ於ル
 カ如シ、是等ノ事類ハ決シテ之ヲ抛擲ニ附スヘカラサル
 ニ、万一軍資金ヲ要スルニ急ニシテ、其ノ事務ヲ忽ニス
 ルコトアラハ、終ニ後來日本ノ国力ヲ強盛ナラシメ、良
 善ノ実果ヲ企望スベキ花蕾ヲシテ、炮丸一発以テ泥土ノ
 中ニ容散セシメンモノト謂ハサルヲ得ス、然ラハ則チ、
 良シヤ政府カ万一ノ時機ニ切迫スルモ、決シテ此策ニ依
 頼スルコトアルナキハ、預メ今日ニ明ラカナルガ如シ、
 已ニ諸官省ノ定額ヲ減少シテ、緊要ナル事務ヲ縮退セサ
 ルヘシトセハ、万一ノ期ニ際スルノ日、我カ政府ハ外債
 ニ依頼シテ、以テ其ノ急務ヲ補綴シ置カンカ、然ラザル
 モ外債ノ多キ、毎歳消却ス可キ金額ハ、元利相合シテ百
 八拾壹二万円ニ下ラズト謂フ、然ルニ右ハ吾輩ノ伝聞ニ
 得タル者ニ過スシテ、其全額ノ果シテ幾許ナルヤハ、未
 タ之ヲ確知スルヲ得サレトモ、外債ノ金額ヲ毎歳ニ返却
 シテ、明治三十年ニ到ルニ非レバ、尽ク之ヲ消却スルコ
 ト能ハズトハ、吾輩ガ稍々信ズ可キノ書中ニ於テ見ルヲ
 得タル所ナリ、又タ明治十年一月ニ、大蔵卿ガ上奏セシ

會計予算表中歳出ノ部ニ、外債消却ノ元金ハ七十五万六千八百十円、利子百四万九千四百二十円ト云フニ拠テ之ヲ推算スレハ、現今ノ外債ハ千五百十二万円余ニシテ、利子ハ平等六七宋ニ至ルヲ知ルヘシ、去レハトテ是レハ一己ノ推測ニ過キサレハ、果シテ誤謬ナキヲ期ス可カラズト雖トモ、要スル二百八十一二万円ノ金額ハ、全ク外債ノ為メニ毎年吾国ヲ去テ海外ニ赴ク者ナルヲ知ルヘシ、且ツ「ヨリントタルバンク」(東洋銀行)ハ内国紙幣ヲ貯蓄シ置キ、動モスレバ止金引替ヲ促スコトアリト云フ、其ノ金額ノ多寡ハ之ヲ詳知シ能ハズト雖トモ、其ノ情況ニ就テ推考スレバ、蓋シ中々ノ巨額ナラント思ハザルヲ得ズ、此時ニ当テ尚ホ一層ノ外債ヲ増加スルハ、益々吾国ノ疲弊ヲ増長スルノ媒介ヲナスニアラズヤ、世ノ學者流ノ喋々弁論スル所ヲ聞クニ、外債ハ其国ノ疲弊ヲ招クモノニ非ズトシ、其ノ例証ヲ挙テ曰ク、欧米諸国ニ於テハ一モ外債ヲ有セザルノ国ナク、支那ノ如キ弱国ニ於テハ、却テ一錢ノ外債タモ負フコトナシ、以テ外債ノ深ク憂フルニ足ラサルヲ知ルヘシト、斯ノ如キハ実ニ其ノ国情ヲ知ルニ明カナラサルノ席上論ト言ハサルヲ得ス、今若シ債ヲ外国ニ募ルモ、其ノ国民富有ニシテ金

融開通シ、外債ヲ以テ内国ヲ富スヨ得、其利子ヲ払フモ尚ホ余利アルニ至ラバ、敢テ拙策ト謂フ可カラズト雖トモ、吾国ノ今日ニ於ルガ如ク、元利消却ノ方法ニスラ困難スルノ時ニ於テハ、決シテ欧米諸国ノ外債ト之ヲ同一視スルヲ得ヘカラス、然ラバ則チ外債ヲ以テ万一ノ急ヲ補綴シ置クハ、僅ニ焦眉ノ急ヲ凌クニ出ル者ニシテ、若シ日本人民ガ将来ノ幸福如何ヲ思考スレバ、安ソゾ鬱陶平、深ク憂念ヲ抱カサルヲ得ヘケンヤ、(此稿未完)

三七 熊本人民ノ艱苦 五月七日

悠々タル蒼天是レ何人ゾヤ、禍ヲ日本ノ西方ニ下シテ、我カ同胞兄弟ナル東肥幾万ノ生靈ヲシテ、家屋ハ兵燹ニ罹リ貨財ハ掠奪ニ遇ヒ、父子相見ズ兄弟妻子離散スルノ慘毒ニ罹ラシム、余輩ハ賊徒ノ暴殄シテ戦ヲ熊本城下ニ聞キシ以來、日ニ戦状ノ如何ナルヤヲ想像シ、勝敗ノ報知ニノミ注意シ、常ニ之ヲ探索スルニ汲々タレバ、耳朵ニ触ル、所モ亦自ラ官軍勇奮ノ情況、賊徒獍惡ノ状態ニ関係スルモノ多ク、熊本地方ノ人民ガ兵乱ノ為メニ流離艱苦スルノ狀況ニ至テハ、之ヲ想像セザルニアラズト雖

トモ、久シク其詳細ヲ知ルコト能ハザリキ、然ルニ頃日熊城ノ囲ミ始メテ解ケ、賊徒既ニ遯走シ、戦地ノ通信モ漸ク精密ニ渉ルヲ得ルニ至リ、兵禍ニ罹レル人民ガ惨苦ノ状モ略ホ之ヲ聞知スルヲ得ルニ至レリ、然レトモ尚ホ今日ニ於テハ、余輩ノ耳目ニ達スル所亦、只各社新聞ニ記載セル戦地ノ通信等ニ過ギザレバ、固ヨリ其果シテ幾郡村ノ人民如此ノ艱難ニ遭逢セシヤ、幾百ノ家屋這回ノ兵燹ニ焼滅セシヤ等ノ、詳細ナル事件ニ至テハ、全ク之ヲ知ルニ由ナク、僅カニ一二ノ人民ガ惨苦ノ状ヲ報道スルヲ見テ其余ヲ推想スルニ過ギズト雖トモ、一斑ハ以テ全豹ヲ窺フニ足レリ、一二人ガ惨状ヲ聞知シテ其地方幾多ノ人民ガ景況ヲ推想スレバ、誰カ為メニ潜然タラザルヲ得ンヤ、通信者ノ報道スル所ニ拠レバ、熊本ノ人民ハ或ハ賊ノ為メニ使役セラレテ、命ヲ流彈飛丸ノ下ニ殞スモノアリ、或ハ其家屋ヲ失フテ穴居シ、僅カニ余喘ヲ存スルモ垢面蓬頭見ルニ忍ビザルモノアリ、或ハ父子夫妻其生死ヲ知ラザルモノアリ、或ハ昆弟姉妹其居処ヲ認メサルモノアリ、居ルニ家ナク頼ムニ処ナク、愀々然トシテ中夜道路ニ号泣スト、嗚呼無知ノ人民果シテ何ノ罪カアル、皇天極マリ無シ、禍ヲ此地方ニ下シ、

人民ヲシテ此極ニ至ラシム、何ソ夫レ慘ナルヤ、抑モ我日本ノ平民ハ何ゾ天幸ノ薄キヤ、武士武族ガ自己ノ權威ヲ争ヒ、自己ノ怨恨ヲ霽サンヲ欲シ、妄リニ兵鼓ヲ動カシテ戦ヲ郊野ニ結ブガ為メニ、田疇ハ蹂躪セラレ、家屋ハ焼灼セラレ、無限ノ慘毒ヲ被ムルコト古來其幾百回ナルヲ知ラズ、而シテ維新以來兵制ヲ改革サル、ニ至テハ、平民ノ子弟モ亦募兵ト為テ軍役ニ服従セザルヲ得ザルノ義務ヲ有シ、今回ノ如キ變動ヲ生出スルニ及ンデモ、血ヲ陣門ニ流シ屍ヲ原野ニ曝シ、以テ国家ノ為メニ斃ル、モノ、多クハ是レ余輩平民ノ子弟ナルノミ、然ルニ民撰議院ハ未ダ設立セラレズ、人民政權ニ関預スルヲ得ザレバ、此戦争ノ由テ起リシ所以ノ如キハ曾テ之ヲ知ルコト能ハズ、且ツ其常ニ膏血ヲ絞ツテ産出スル所ノ収納ヲ割テ餒饉セル華士族ハ、縦令這回ノ如キ国家ノ大事ニ際会スルモ、其自己ノ痛痒ニ関係セザルヲ以テ、膏ヲ春郊ニ踏ミ花ニ紅樓ニ眠リ、西南ノ事ハ毫モ其意ニ関セザルモノ、如ク然レリ、嗚呼我邦ノ平民ハ何ゾ夫レ不幸ナルヤ、況ヤ今日彼ノ熊本ノ人民ガ兵禍ニ罹リシモノ、慘状ヲ想像スレハ、衷心為メニ惻怛ノ念ヲ生ジ、涕淚ノ滂沱トシテ襟ヲ湿ホスヲ覺ヘザルモノアル也、

余輩ハ兵馬倥傯ノ間ニ於テ、已ニ官兵カ戰爭ノ為ニ無限ノ苦難ヲ蒙リタル人民ニ給スルニ、臨時ノ恩典ヲ以テシタルヲ感シ、又タ賊徒悉ク撲滅ニ至リ、禍乱全ク鎮定ニ帰スルノ後、政府ガ兵馬ノ残破スル所ト為リシ地方ノ人民ヲ救恤施濟スルコト、必ズ厚ク且ツ密ナルベキヲ信ズト雖トモ、尚ホ深ク其実情ヲ憫諒シ、其状況ヲ視察シ、費用ノ許多ナルヲ惜マズ、方法ノ繁雜ナルヲ厭ハズシテ、充分ニ救助ノ術ヲ尽サレ、其人民ヲシテ復タ旧時ノ田宅ヲ復シ、前日ノ貨財ヲ有スルヲ得ルニ至ラシメンコトヲ懇望スルヲ以テ、敢テ一言ヲ斯ニ開陳スルナリ、況ヤ戰爭ノ間ニ於テ民家ヲ放火シ、其ノ棲息ヲ失ハシメシカ如キハ、独り賊軍ニノミ止マラズ、官軍モ亦往々之ヲ為セシナリ、是レ固ヨリ止ムヲ得ザルノ兵略ヨリ出ルモノニシテ、固ヨリ之ヲ尤ムベカラズト雖トモ、苟モ人民ノ幸福安寧ヲ保護スベキモノニシテ、却テ此權道ヲ行フ當日ニ在テ、其禍ニ罹レル人民ガ意中ハ果シテ夫レ如何ゾヤ、之ヲ是レ思考スレバ、他日其艱苦ヲ賑恤スルハ豈ニ夫レ之ヲ忽カニスベケンヤ、

三八 西郷処分論 五月八日

西南ノ賊徒未ダ全ク燼滅ニ至ラズ、尚ホ肥薩ノ險ニ割拠シテ更ニ軍備ヲ整へ、飽マデモ王師ニ敵抗セントスルノ勢アルカ如シ、然リト雖トモ、敗退ノ殘兵金穀既ニ置シク、彈藥殆ト尽キ、其巢窟ナル鹿兒島ハ既ニ官兵ノ占有スル所ト為リ、進ムモ能ハズ退クモ亦行ク所ナク、特ニ天險ノ地ニ拠テ必死ノ血戰ヲ試ミ、力竭テ而シテ後ニ止マントスルニ過キス、征討ノ將士更ニ一脣ノ奮発ヲ以テ協力同心シ、計畫其宜キヲ失ハサレバ、兇焰ヲ撲滅シテ全ク平定ノ功ヲ奏スルモ蓋シ遠キニアラサルヘシ、此時ニ當リ、賊魁ヲシテ已ニ其所ヲ脱スルカ、或ハ早く自決セシメナハ則チ已矣、然ラスシテ、若シ縛ニ就クカ如キノコトアラシメハ、罪科処分ノ点ニ向ハサルヲ得ス、而シテ罪科処分ノ点ニ就テハ、既ニ世上ノ論者カ喋々スル所ト為リ、或ハ其寛ナランコトヲ望ムカ如キモノアリ、或ハ其嚴ナランコトヲ欲スルガ如キモノアリ、然ルニ我政府ノ近年ニ於テ、国事犯罪ヲ処分スルノ大率一揆ニ出ルヲ見レハ、其這回ノ賊ヲ処スルモ亦慣習ノ成規ニ由リ、元惡ハ之ヲ戮シ、脅從ハ治ムルナキノ典型ニ出テラル、

カモ測リ知ルヘカラスト雖トモ、今日ノ所謂賊魁ナル者ハ、即チ中興維新ノ元勳ニシテ、之ニ從属スル所ノ党与ハ一万余ノ多キニ及ベリ、然ラバ則其罪案ヲ断スルモ蓋シ甚ダ容易ノ業ニアラザルベシ、

夫レ政刑ハ公平ヲ尚ブ、国事犯ノ如キハ假令律ニ明文ナク、只時ニ從ヒ其罪ノ輕重ヲ斟酌シテ、之ヲ審断スルニ過ギズト雖トモ、彼ノ論者ノ、去冬ノ賊ハ、後ノ不軌ヲ図ルモノヲ懲ラスカ為メニ敵ニ之ヲ誅戮シ、今春ノ賊ハ既ニ之ヲ平定スレバ、復タ後患ナカルベキヨ以テ寛ニ之ヲ宥恕セヨト云フガ如キハ、余輩ノ敢テ取ラザル所ナリ、然リト雖トモ、敵刑酷罰ハ王者ノ仁政ニアラズ、文明諸国ノ決シテ為サ、ル所ナリ、況ヤ今日ノ賊ニ至テハ、實ニ無比ノ叛党稀世ノ兇徒タルガ如キモ、維新中興ノ際ニ於テハ、亦無二ノ忠勤ヲ擲テ拔群ノ功勳ヲ立テ、我明治ノ自由政府ヲ創規シテ、吾人同胞ヲ羈政ノ圧抑ニ救フニ就テハ、其尽力最モ居多ナリシ者ナリ、然ラハ則チ之ヲ今日ニ処分スルニ於テ、豈ニ夫レ之ヲ輕忽ニスベケンヤ、故ニ徒ラニ今日ノ叛迹ヲ見テ、必ズ慣習法律ニ拠リ先例ニ從ヒ、敵ニ之ヲ処刑セヨト云フニノミ止マルニ至ツテハ、亦余輩ガ寛仁ナル政府ノ為メニ希望スル所ニアラザ

ル也、

然ラハ則チ宜ク之ヲ如何ガスベキ、深く賊魁ノ叛逆ヲ企テシ所以ノ本心ヲ探究シ、其干戈ヲ動かセシ所以ノ原因ヲ搜索シ、彼レ果シテ固ヨリ不臣ノ意ヲ儲蓄セシモノナル乎、匪徒ノ為メニ脅迫セラレ、姦人ノ為メニ誑誤セラレ、遂ニ今日ノ挙動ニ及ビシモノニアラザル乎等ノ点ニ就テ、詳ニ之ヲ考究シ、深ク其情実ヲ酌料シ、然ル後其罪案ヲ定ムルハ、今日ニ於テ實ニ闕如スヘカラサルノ要點ニ居ル者ナルヘシト信スル也、聞ク所ニ拠レハ、福岡ノ賊魁ハ早く既ニ其処分ヲ終ラレタリト、彼党ハ固ヨリ一介ノ乱臣賊子ニ過キサレハ、其罪ヲ断スルモ亦容易ナルヘシト雖トモ、鹿児島ノ賊魁ニ至ツテハ、豈ニ夫レ之ト同一視スルヲ得ンヤ、今日ヨリ之ヲ看レハ亦只一ノ乱賊タリト雖トモ、其維新ノ功勞モ亦思ハザルベカラズ、試ニ思ヘ、カリバルヂハサルジニヤノ功臣ナリ、其羅馬ニ進マント欲スルヨリ、遂ニ王命ニ從ハズシテ王師ト抗敵スルニ至リシモ、其擒獲ニ就クニ及ビ、王ハ前功ノ大ナリシヲ以テ、直チニ之ヲ放免シタリ、我邦今日ニ於テ江藤・前原ノ先蹤アリ、刑罰必ズ公平ナラサルベカラスト雖トモ、功ヲ以テ罪ヲ償フハ蓋シ亦天下ノ通義ナルベシ、

彼ノ中原氏等ガ口供ノ如キハ、固ヨリ賊徒ガ構造シテ其

因テ暫ク此欄内ニ登錄ス、

謀叛ノ口実トセシニ相違ナシト雖トモ、其之ヲ構造セシハ果シテ賊魁ノ意ニ出ルモノナルカ、或ハ姦人ノ故ラニ之ヲ作りテ以テ賊魁ヲ誑惑セシモノナルカ、是等ノ事ハ最モ注意ヲ要スベキ所ナリ、且ツ夫レ賊魁ハ由来天下ノ信服セシ所ナリ、故ニ今日ニ至ルト雖トモ或ハ尚ホ疑ヲ中原氏等ノ口供ニ容レ、賊徒ノ挙動ヲ以テ徒ラニ政府ヲ顛覆シ、天下ヲ擾乱セント欲スルノ逆心ニ出シモノニモ非サルベシト、想像スル者ナシトモ云フベカラズ、果シテ然ラハ中原氏等ノ疑案ノ如キハ、最モ詳密ニ之ヲ糾問審査シ、其具状ヲシテ天下ニ明白ナラシメザルベカラズ、然リト雖トモ、以上陳述スル所ハ、徒ラニ賊徒ノ処刑ヲ寛ナラシメンヲ欲シテ此議ヲ陳スルニ非ス、只政府ガ純新ノ元勳トモ云フベキ功臣ノ罪ヲ断ズルハ、之ヲ尋常一様ノ国事犯罪ト同フセズ、必ズ之ヲ丁寧詳密ニシ、天下ヲシテ其処置ノ公明正大、恩アリ信アルニ悦服セシメラレンコトヲ希望スルノミ、

在東京 高木冠三寄送

本論ノ如キハ全く我輩ト論旨ヲ同フスルニアラズト雖トモ、其功臣ヲ惜ムノ情ニ至テハ頗ル切実ナルモノナキニアラズ、

三九 壮兵応募士族ノ目的 五月九日

西賊猖獗ニシテ容易ニ撲滅ニ至ラザルカ如キノ形勢アルニ方テヤ、我政府ハ其久シク干戈ヲ邦内ニ動かシテ、人民ヲ糜爛スルヲ恐レ、速カニ之ヲ平定センヲ欲シ、軍費ノ莫大ナルヲモ顧ミズ、六鎮ノ台兵過半ハ之ヲ九州ニ派遣シ、更ニ之ヲ援クルニ警視隊ヲ以テセリ、而シテ是等ノ諸軍ハ皆勇奮善ク戦フト雖トモ、慄悍倔強ノ賊徒、天險ノ地ニ拠テ死守スルヲ以テ、容易ニ之ヲ破ル能ハズ、熊本孤城ヲ重圍ノ中ニ委スルモノ延テ数旬ノ久シキニ及ヒシカ故ニ、爰ニ後備軍ヲ徵シ、四月四日ニ至リ又タ更ニ壮兵募集ノ令ヲ発シ、広ク天下士民ノ兵事ニ慣ル、モノヲ徵集シ、之ヲ編制シテ以テ征討ノ軍役ニ服セシメントスルニ至レリ、

夫レ此壯兵募集ノ令タルヤ、固ヨリ普ク天下ニ宣布スルモノニシテ、華士トナク平民トナク、苟モ身軀強壯ニシテ、戦闘ニ慣熟スルモノヲ召集スルニ在リト雖トモ、今日ニ於テハ所謂戦闘ニ経歴シテ、壮兵ノ称ニ適當スヘキ

モノハ特ニ士族ノ一部ニノミ多く、且ツ其閑暇ニシテ無事ニ苦ム者モ亦士族輩ニ多キヲ以テ、其陸統トシテ各鎮台ニ集合スルモノ、多クハ是レ大鬘結髮、袖ハ腕ニ至リ衣ハ胛ニ至ルノ守旧士族輩ニ在リト云フ、此ノ如キハ蓋シ今日ニ於テ亦止ムヲ得ザルノ勢ナリト雖トモ、余輩ハ已ニ此徵募ニ応シテ集合スル所ノ士族ガ、動モスレハ途方モナキ妄想ヲ抱ク者ナキニ非サルヲ聞知シ、又タ其ノ心情ニ於テモ、果シテ此ノ如キノ冀望ナキニモ非サルヘシト推想シ来レハ、殆ド慨嘆ニ堪ヘザルモノアルヲ免カレサル也、

蓋シ国家艱難ノ時ニ際シ、生ヲ輕ンジ義ヲ重ンジ、政府ト人民ノ為メニ其性命ヲ犠牲ニシ、以テ国事ニ殉センコトヲ欲スルハ則愛国士民ノ本色ナリ、況ヤ我国ノ士族ノ如キ、平素ニ在テ国家特別ノ恩遇ヲ受ルノミナラス、由来武ヲ講シ文ヲ修メ廉恥ヲ尚ビ節義ヲ重ンズルモノニ於テハ、今日ノ如キ国家ノ變乱ニ際シテ、政府ノ徵募ヲ忝フスルニ当リテハ、宜ク躍然蹶起一死ヲ以テ国ニ報センコトヲ期シ、復タ其一身ノ安危ヲ顧ミサルノ氣節ヲ淬励スヘシ、果シテ斯ノ如クナレバ、真ニ是レ士族タリ壯兵タルノ名称ニ愧チザルモノナリト雖トモ、今日召募ニ応

スルノ士族ハ、能ク此ノ如キノ氣概ヲ有スル者トナスヘキ乎、余輩ノ聞知スル所ニ抛レバ、彼ノ徵募ニ応ジテ郷閭ヲ出ルノ士族ハ往々王懐ニ敵シ、国難ニ殉セント欲スルノ義勇ニ出ルニアラス、從軍ノ徵募ヲ以テ永世ノ禄ヲ復セラレンコトヲ希望スル者多キニ居ルト、果シテ然ラバ余輩ハ安ソ其志氣ノ萎靡衰頽此ニ至ルヲ嘆シ、更ニ其目的ヲ誤マルノ甚タシキヲ悲マサルヲ得ンヤ、

去年三重県ニ於テ土民ノ暴動ヲ免スルニ方リ、県官ハ其近傍ノ士族ヲ徵募シ、其力ヲ仮テ以テ燒眉ノ急ヲ救防セシコトアリキ、此時ニ於テモ阿濃津ノ士族ハ鎮撫ニ就テ徵募ヲ致スコトアリシヲ以テ、敢テ永世禄ヲ復セラレンコトヲ要セシモノアリト、夫レ區々タル土民暴動ノ鎮撫ニ就テスラ、猶ホ且ツ此ノ如キ者アリ、況ンヤ今日ノ西賊ハ其悖悍屈強ナル、政府モ亦タ之ヲ殲滅スルニ苦シミ、終ニ壯兵マデヨモ徵募スルニ至リシナレバ、守旧頑固ノ士族輩ニ取テハ、從軍ノ功勞ニ由テ其永世禄ヲ復セラレンコトヲ希望スルハ、心情ノ宜ク然ルヘキ所ニシテ、余輩ノ聞知スル所モ、決シテ士族ヲ誹謗スルノ悪言ニ非サルヘシ、果シテ此ノ如クナラハ、士族ノ時勢ニ通セス目的ヲ誤ルモ亦タ甚タシ、諸君ハ蓋シ察セサル乎、政府ハ

既ニ一度世禄ヲ廢スルノ令ヲ下シ、改メテ禄券ヲ下賜スルノ制度ヲ定メラレタリ、今日ニ於テ、假令汗馬血衣ノ功勞莫大ナル者アルモ、豈ニ復タ永世禄ヲ復スルノ理アラシヤ、況ヤ今回徵募スル所ノ壯兵ハ、固ヨリ特ニ士族ニ限ルニアラサルニ於テヨヤ、其微勞ヲ以テ世禄ヲ復セラレンコト欲スルハ、蓋シ誤ルノ大ナルモノ也、

余輩ハ更ニ是等ノ士族諸君ニ一言ヲ呈スルアラントス、今ヤ諸君ハ國家ノ艱難ニ際シ速カニ政府ノ徵募ニ応ジ、兵役ニ服從セントス、諸君ノ挙動ハ固ヨリ嘉ミスベキ者アリ、希ハクバ、各固有ノ義勇ヲ鼓舞シテ、軼掌尽力以テ國事ニ殉センコトヲ是レ務メモヨ、若シ然ラズシテ、徒ラニ其目的ヲ世禄ニノミ注ガバ、異日恐ラクハ大ニ悔フル所アルベシ、而シテ之ヲ悔フルノ極、更ニ怨望不平ヲ懷ク、ニ至ラバ、決シテ諸君ノ幸福ニアラザルナリ、余輩之ヲ西哲ニ聞ク、言ヲ忠信ニシ行ヲ篤敬ニシ、孜々トシテ其職ヲ務メ、汲々トシテ其業ニ従ヒ、黽勉怠ラザル時ハ、人間到ル処盛運ナラザルハナシト、嗚呼諸君モ亦タ何ソ独リ世禄ヲ得ザルヲ患ヘンヤ、

四〇 西郷ノ交際謝絶ハ騒乱ノ因 五月十日

国力ヲ無益ノ戰爭ニ傾ケテ意外ノ洪費ヲ散シ、干城ノ兵士ヲ前後ノ戰鬪ニ殺傷セシコト其數ヲ知ラサルニ至リ、戦地ノ人民ハ流離顛沛其産ヲ失ヒ、其業ニ安ンセサルノ不幸ヲ極ムルニ至リシハ、何人ノ国安ヲ攪乱セシカ為ニ此ノ災害ヲ生シタル乎、即チ西郷隆盛カ謂レナキ口実ヲ以テ干戈ヲ起シタルニ坐スル也、而シテ西郷カ政府ニ睚眦スルノ甚タシク、遂ニ斯ル騒乱ヲ發動スルニ至リタル根源ヲ推究スレハ、彼カ交際ヲ謝絶シテ独リ自ラ抱持シ、隱然トシテ割拠ノ勢ヲ凝結セシニ帰着セサル可ラス、社会ニ必須緊要ナル者ハ交際ニ如クハナシ、苟モ交際ヲ謝絶シテ独リ自ラ退守シ、他人ト相接セサルニ至レハ、假令何程ノ聰明ヲ具シ、何程ノ才識ヲ備フルトモ、其ノ見ル所ハ一己ノ所見ニ過キス、其ノ聞ク所モ狭少ナル区域ニ止マルカ故ニ、其ノ聰明才識モ天資ノ所有ヲ失ハサルノミニシテ、更ニ之ヲ發達擴張スルニ足ラサルハ、曾テ疑フヘカラサル所ナリ、更ニ國家ノ開明ニ赴ク所以ニ就テ之ヲ觀察スルモ、亦タ交際ヨリ生スルニ非サルナキハ、更ニ喋々ノ論ヲ待タサル所ニシテ、彼ノ十字軍ヨリ

欧州ノ面目ヲ一変セシハ、亜細亜ノ文物ヲ実験セシニ基
 因シ、我邦ノ頓ニ旧習ヲ一変セシハ、各国ト貿易ヲ開キ
 シニ抛ルカ如キハ、夙ニ議論ノ一定ニ帰着スル所ナリ、
 而シテ戊辰ノ戦争ヲ以テ大イニ我邦ノ国風人心ヲ一変セ
 シモ亦タ、各藩ノ一方ニ退守セスシテ、互ニ交際ヲ戦争
 ノ間ニ通セシカ為メナリト言ハサルヲ得ス、

一人ト国家トヲ論セス、交際ノ關係ヲ進歩ノ間ニ有スル
 ヤ此ノ如シ、而シテ西郷ハ一タヒ冠ヲ内閣ニ挂テ、超然
 故山ニ高蹈スルノ後、何等ノ挙動ヲ以テ今日ニ至リタル
 乎、其ノ共ニ交通スル所ハ桐野・篠原・村田等ノ数子ニ
 外ナラス、是等ノ諸子ハ皆ナ西郷ト同身一体ノ人物ニシ
 テ、其ノ西郷ノ智識ヲ開達シ所見ヲ一新セシムルニ足ラ
 サルハ、言ヲ俟スシテ明カナリ、其他ニ至リテハ、其勇
 獅ノ如ク其猛虎ノ如キモ、敢テ共ニ語ルニ足ラサル私学
 校ノ壮士輩ニシテ、是等ノ徒ハ、特ニ西郷ト進退生死ヲ
 共ニセントスルノ志氣ヲ淬励スルニ過キス、其ノ西郷ヲ
 匡正シテ裨益ヲ及ホスカ如キハ、固ヨリ意想ノ外ニ在リ、
 抑モ西郷ハ先ニ内閣ヲ退クノ時ニ在テ、已ニ政府ノ諸公
 ヲ疾視スルノ甚タシキハ、彼カ当時ノ詩作ニ就テ之ヲ明
 カニスルコトヲ得ヘシ(秦檜^檜多余類ノ一句ヲ見ヨ)、夫レ

其ノ政府ニ睚眦スルヤ一朝一夕ノ故ニ非スシテ、已ニ故
 山ニ退クノ後ハ、其ノ相交ル所尽ク政府ヲ疾視スルノ一
 党ニ属シ、共ニ会合スルニ当リテハ、一モ政府ヲ誹議ス
 ルニ非サルハナク、二モ政府ヲ讒謗スルニ非サルハナク、
 加フルニ一死国ニ致スノ主義ヲ固執シテ、壮士ヲ結合ス
 ルヲ以テス、其勢必ラス騒乱ヲ發動スルニ至ラサルヲ得
 ス、況ンヤ東京・大坂ノ間ニ在ル不平党カ、各種ノ事情
 ヲ鹿兒島ニ報道スル者ハ、甚タシキ虚誕妄説ヲ以テ、政府
 ヲ誹謗スルニ非サルハナカリシト聞ク、然ラサルモ無事
 ニ一生ヲ終ルニ難ンスルノ所ノ西郷党ナルニ、併セテ無
 根ノ流言ヲ以テ薩摩ヲ發動スル者アルヲ加ヘ、又タ西郷
 等カ動モスレハ之ヲ信用スル者ナキニ非サルヲ以テス、
 是ニ由テ之ヲ觀レハ、彼カ今日ニ当リテ、此ノ如キノ騒
 乱ヲ發動セシモ亦タ何ソ怪ムニ足ランヤ、

右ニ開陳スル所ニ拠レハ、西郷カ今日ノ大乱ヲ發生セシ
 ハ、政府ニ睚眦スルノ心ヲ以テ、政府ヲ疾視スルノ一党
 トノミ交通シ、加フルニ一種ノ不平党カ、無根ノ浮説ヲ
 以テ、之ヲ教唆スル者アリシカ為メナリト言テ可ナルヘ
 シ、而シテ西郷カ其ノ所見ヲ誤ルノ此ニ至リタル原由ヲ
 推究スレハ、之ヲ彼カ交際ヲ謝絶シテ独り自ラ抱持シ、

隠然トシテ割拠ノ勢ヲ凝結セシニ帰着セサルヘカラス、若シ夫レ西郷ヲシテ彼カ如ク独リ自ラ抱持スルニ至ラスシテ、博ク天下ノ識者傑士ト交通ヲ開カシメハ、談論親炙ノ間自ラ智識ヲ開達シ、所見ヲ一新スルノ裨益ヲ得ル者アリテ、独リ旧染ノ頭腦ヲ洗滌スルノミナラス、併セテ当世ノ事情ニモ通曉シ、彼ノ不平党カ無根ノ流言ヲ以テ、之ヲ聳動スル者アルモ、容易ニ其ノ虚誕ヲ看破スルニ難カラサリシナル可シ、惜哉西郷ハ社会ニ必須緊要ナル者ハ交際ニ如クナキノ理ヲ知ラスシテ、徒ニ自己ノ党類トノミ交通スルニ過キササルヲ以テ、政府ト言ヘハ奸物ノ集会所ナリト目シ、動モスレハ無根ノ流言ニ誤ラル、カ如キノ拙劣ヲ免カレス、又タ其ノ論談スル所モ大率同一揆ニ止マルヲ以テ、更ニ智識ヲ開達シ所見ヲ一新スルコトヲ得ス、遂ニ謂レナキ騒乱ヲ起シテ、非常ノ損害ヲ国家ニ及ボシ、無辜ノ生靈ヲ塗炭ニ苦マシムルニ至レリ、蓋シ亦タ悲ムニ余リアリト言フ可シ、

勤王ノ事ノ如キハ最モ西郷ニ適応スル所ナリト雖トモ、彼カ夙ニ目的ヲ此ニ確定セシハ亦タ、早ク藤田・戸田等ノ名士ト交際ヲ結ヒタルノ裨益ニ由ル者ナルト言フヘカラス、是ニ由テ之ヲ論スレハ、西郷ハ交際ノ裨益ヲ以テ

勤王ノ勲績ヲ前日ニ収メ、今日ハ交際ヲ謝絶セシヲ以テ、無名ノ乱賊ニ終ルニ至レリト言フモ、敢テ不可ナカルヘシ、然ラハ則チ交際ノ徳タル抑々亦タ大ナラスヤ、

四一 高知県士族ノ動向 五月十二日

西南ノ叛党ハ勢微漸ク衰ヘ、久シカラスシテ撲滅ニ帰スルモ、絶テ疑フヘカラサルカ如キニ至リシト雖トモ、今又タ一種ノ紛紜ヲ四国ノ間ニ現シタルカ如ク、與人ヨシテ其ノ動靜如何ヲ注目スルコトヲ怠ラサラシムルニ至レリ、

去レハトテ、高知県ノ士族カ如何ナル挙動ヲ為サヤニ至リテハ、未タ今日ニ明白ナル所ニ非サレトモ、有名ナル立志社カ西南兵氛ノ其地ニ及ハンコトヲ恐レ、専ラ護郷兵ヲ取立ルノ用意ヲ為スコトハ、決シテ架空ノ妄説ニ非サルカ如シ、然ルニ彼ノ護郷兵設置ノ趣意書ナル者ニ就テ之ヲ觀レハ、兵乱ニ際シ官ノ救護ヲ受レハ、正税若干ヲ消費セサルヲ得ス、正税ヲ消費スルノ救護ヲ受ルハ、誠ニ中心ニ肩トセサル者アルニヨリ、我カ郷土人民ト相謀リ、護郷兵ヲ團結シテ、九州擾乱ノ勢ヲ波及セラル、

ニ至フハ、戮力以テ此ノ郷土ヲ守リ、其ノ安全ヲ計ラントスル迄ノ趣意ニシテ、敢テ政府ニ抵抗スルノ色ヲ露ハセシニ非スト雖トモ、其ノ形跡ニ就テ之ヲ推想スレハ、世人ノ深ク之ヲ異トスルモ、決シテ謂レナキノ疑心ナリトナスヘカラス、

立志社ハ正税若干ヲ消費スルノ救護ヲ受ルハ、中心ニ屑トセサル所アリト言フト雖トモ、海陸両軍ハ則チ人民カ膏血ヨリ出ル所ノ租税ヲ以テ之ヲ設置スル所ナラスヤ、已ニ租税ヲ出シテ之ヲ設置スルヨリハ、兵乱アルニ及ヒ其ノ救護ヲ蒙ムルハ、固ヨリ適當ノ事ニシテ、何ソ之ヲ心中ニ屑シトセサルノ理アルヘケンヤ、然ルニ立志社ニ在リテハ、国ノ將ニ兵乱ヲ蒙ムラントスルニ当リ、我カ郷土ヲ護リ我カ安全ヲ謀ルハ、則チ已レノ権利ヲ保全シ、以テ国ニ報ユルノ務メナレハ、何テモ漢テモ自力ヲ以テ一郷ヲ守ラサルヘカラス、政府ノ保護ヲ受ルハ残念至極ノ事ナリト奮発スルナラン乎、立志社トテモ今日戦争ノ模様ヲ知ラサルコトハヨモアラン、仮令賊兵熊本ヲ退イテ日向ニ走り、日向ハ土佐ト一海水ヲ隔ツルニ過キササルモ、官兵已ニ鹿兒島ノ根拠ヲ擁扼シ、又タ正面ヨリ大兵ヲ驅リテ之ヲ攻撃ス、争テカ海ヲ踰テ上佐ヲ剽掠スルニ

暇アラシヤ、況ンヤ賊ハ一モ船艦ヲ有セサルニ於テヲヤ、然ルニ立志社ハ賊ノ日向ニ走りタルヲ聞キ、遽ニ海ヲ踰テ郷土ニ來ルコトアラント心配スルハ、薩兵ヲ望ンテ羽翼ヲ具スル者ト目スルカ如クニシテ、余リ心配過キタル話ナリト思ハル、然ルニ立志社ハ決シテ此ノ如キノ愚ニアラシ、而シテ護郷兵ヲ今日ニ取立ント企ツルヲ見レハ、其ノ形跡タル、安ソ頗ル怪ムヘキ者アリト言ハサルヲ得ンヤ、且ツ夫レ立志社カ、護郷兵團結ニ付県庁ヘ申シ出テタルハ、願ニ非スシテ届ナリ、今日ノ国法タルヤ、仮令瑣少ノ事タリトモ、猶ホ之ヲ管轄庁ヘ請願シ、許可ヲ得タルノ後ナラデハ着手スヘカラサルノ成規ナラスヤ、而シテ今ヤ立志社カ護郷兵ヲ團結セントスルニ就テハ、無論ニ兵器ヲモ用意スル者ナル可シ、今日ニ在リテハ、刀劍スラ帶スルコトヲ得サルノ国法ナルニ、薩ノ強敵ヲ防禦スヘキ丈ケノ兵隊ヲ團結セント欲シテ、願ヲモ差出サス届放シニテ其ノ協議ニ着手スルヲ見レハ、設置ノ趣意書ハ特ニ郷土ノ安全ヲ保タントスルニ在ルモ、其ノ挙動ハ甚タ訝カルヘキ者アリト言ハサルヲ得ス、或ハ事變ノ此ノ如ク甚タシキカ故ニ、其ノ可否ヲ問フニ違アラスト言ン乎、夫レ土佐ノ焦眉ノ急アルニ非サルハ前ニ開陳

セルカ如シ、郷兵ヲ團結シテ其ノ安全ヲ謀ルカ如キハ、目下焦眉ノ急アルカ、或ハ海内騷亂シテ命令ヲ仰クヘキノ政府ナキカ如キノ時ニ非サレハ、決シテ恣ニ之ヲ取立ルコトヲ得ヘキ者ナラス、然ルヲ立志社カ賊ノ日向ニ走リタルヲ名トシテ、護郷兵ヲ設ケントスルヲ見レハ、之ヲ前原一誠カ熊本ノ賊徒ヲ拒クヲ名トシテ、兵ヲ明倫館ニ集メタルト異ナル者アリト言フモ、我輩ハ実ニ其ノ異ナル所以ヲ弁スルニ苦ムナリ、

土佐ノ如キハ、世人ノ夙ニ其ノ動靜如何ヲ注目セシ所ナリ、而シテ今日ニ至リ、其ノ形跡ノ怪ムヘキ者アルヤ此ノ如シ、然ラハ則チ、世人カ護郷兵ヲ取立ルノ一報ヲ聞テ、更ニ之ヲ顧慮スルモ亦タ決シテ謂レナキニ非ス、且ツ我輩カ先ニ伝聞スル所ニ拠レハ、土佐ハ必ラス薩兵カ盛ンナルノ日ニ起ルヘカラスト雖トモ、若シ其レ起ラハ薩兵敗衄ノ後ニ在ラン乎、何トナレハ彼ノ所見ハ蓋シ謂ヘラク、薩兵盛ンナルノ日ニ起レハ、到底西郷ノ麾下ニ屈セサルヲ得ス、此屈ヲ免カレント欲セハ、彼カ敗衄ノ後ニ発スルニ在リト、此ノ如キハ固ヨリ巷談街説ニ過キサレハ、決シテ之ヲ信用スヘキニ非スト雖トモ、今日ニ至リ土佐ノ形跡ニ於テ頗ル怪ムヘキ者アルヲ見レハ、其

ノ或ハ斯ル所見ヲ抱キシモ測ルヘカラス、又タ聞ク、政府ニ於テモ土佐ヲ処スル所以ニ就テ各種ノ議論アリト、然ラハ則チ今日ニ至リ、土佐ハ果シテ穩安ナラサル形勢ヲ生スルニ至リタルカ如シ、夫レ西南ノ變動未タ全ク鎮定ニ至ラスシテ、又タ土佐ノ變亂ヲ生スルニ至レハ、假令左ノミノ事ナシトスルモ、更ニ憂慮ヲ政府ニ及ホサルヲ得ス、我輩ハ深ク甚タシキ變動ヲ生スルニ至ラサルンコトヲ冀望シ、併セテ將來ノ動靜如何ヲ探偵シ、以テ之ヲ世人ニ報道スルコトヲ怠ラサル可シ矣、

四二 鹿兒島叛徒処分論 五月十六日

西郷降盛カ処分論ハ夙ニ詞場ノ一問題トナリ、或ハ特別ノ処分ヲ以テ寬典ニ擬セラレンコトヲ冀望スルカ如キ者アリ、或ハ慣例律法ニ拠テ其ノ公平ヲ失フコトナカルヘキヲ期待スル者アリ、甲乙各々其ノ所見ヲ異ニシテ、數々紙上ニ争衡セシト雖モ、論者ハ、彼ノ本月一日迄ニ処分ヲ終ラレタル福岡県賊徒ノ始末ヲ見テ、更ニ鹿兒島賊徒ノ処分ト關係ヲ有スル所ナシトスル乎、若シ關係ナシトセハ則チ已矣、苟モ關係アリトセハ以テ鹿兒島ノ賊徒

ヲ処分セラル、所以ニ就テ、明カナル一箇ノ比例ト為ス
ニ足ル者アリトセサルヘカラス、

福岡ニ於テ処分セラレタル賊徒ハ、斬罪四人、懲役十年
十二人、同七年五人、同五年一人、同三年四人、同二年
三百十二人、同一年五十一人、同百日一人、棒鎖六日一
人、除族十五人、無罪二十二人ニシテ、其ノ懲役ニ処セ
ラレタル者ハ、現ニ各県ヘ配賦セラレタリ（本月四日、
同十二日ノ雜報ヲ參觀セラレヨ）、此ノ処分ニ就テ之ヲ
觀レハ、其ノ禄券迄モ没収セラレタルカ否ヤハ、未タ我
輩ノ聞知シ得サル所ナレ共、其ノ処刑ハ蓋シ肥前ノ賊徒
ヲ癸酉（甲戌カ）ニ処シ、熊本・萩ノ叛党ヲ昨年ニ処セラレタル者
ト前後殆ント同一轍ニシテ、其ノ主従ヲ判シ輕重ヲ別チ、
以テ処分ノ寬嚴ヲ異ニスルハ、我邦ノ叛党ヲ処スル所以
ニ就テ、慣例律法トナリタルカ如キ者アルヲ確信ス可シ、
然ルニ世人或ハ福岡ノ賊徒ノ如キハ、固ヨリ一介ノ乱臣
賊子ニ過キサレハ、其罪ヲ断スルモ亦タ容易ナル可シト
雖トモ、鹿兒島ノ賊魁ニ至リテハ、維新ノ元勳復古ノ功
臣ナリ、決シテ福岡ノ賊徒ト同一視スルコトヲ得ヘキニ
非スト、為ス者アランモ知ルヘカラスト雖トモ（現ニ高
木冠三君ナル論者ハ此説ヲ為シ、載セテ去ル八日ノ曙新

聞ニ在リ）、彼ノ功勞ヲ思ヒ勲績ヲ念フカ如キハ、其ノ情
想ニ出ル者ニシテ、若シ法律上ヨリ之ヲ論スレハ、何ソ
功ヲ以テ罪ヲ償フノ理由アル可ケンヤ、故ニ西郷ノ叛罪
ヲ処スルカ如キハ、我カ 天皇陛下ニシテ彼カ嚙肯ノ功
勞ヲ思ハセラレ、特旨ヲ以テ寬典ニ処セラル、コトアラ
ハ、是レ特別ノ 敕旨ニ出ル者ナルカ故ニ、固ヨリ之ヲ
喋々スルノ理由アルコトナシト雖トモ、苟モ然ラサルヨ
リハ、断然之ヲ從來慣用ノ典刑ニ処シ、以テ其ノ叛罪ヲ
正スヘキハ、言ヲ俟スシテ明々瞭々ナル所ナリ、

此ノ如キモ猶ホ、福岡ノ賊徒ト其処分ヲ異ニスルモ可ナ
リト為ス者アラハ、更ニ一步ヲ進ンテ、何カ故ニ其ノ処分
ヲ異ニシテ可ナルヘキノ条理アルヲ質サ、ルヘカラス、
夫レ功ヲ以テ罪ヲ償フハ決シテ法律ノ許サ、ル所ナリ、
苟モ功罪相償フノ一点ヲ除カハ、西郷ニシテ福岡ノ賊徒
ト其ノ処刑ヲ異ニスヘキノ理由ハ、果シテ何ノ所ニ存ス
ヘキヤ、今度福岡ノ賊徒ヲ処分セラレタルハ、西郷ノ變
動ヲ起シタル為メニ、此ノ騒亂ヲ起シタルナリト見做サ
レタルカ、將タ又タ全く別種類ニ起リタル者ナリト見做
サレタルカハ、未タ其ノ口供ヲモ得サルカ故ニ、之ヲ詳
知シ得ルコト能ハスト雖トモ、其ノ區別ノ如何ヲ問ハス、

彼ノ朝憲ヲ憚カラス、党与ヲ募リ兵器ヲ弄シ、官兵ニ抗シ逆意ヲ逞フスル（福岡ノ賊魁越智彦四郎申渡ノ語ヲ借用ス）ニ至リテハ、西郷ト越智ト何等ノ殊異ナキノミナラス、其ノ国家ノ安寧ヲ攪乱シ、官兵ヲ彈丸劍鋌ノ下ニ殲シ、人民ヲ塗炭ニ苦マシムルノ甚タシキ者ニ就テ之ヲ觀レハ、西郷ノ罪ハ固ヨリ福岡ノ賊徒ト同一視スヘキニ非ス、況ンヤ福岡ノ賊カ、叛乱ヲ起シテ官兵ニ抵抗スルニ至リシモ、元來野心ヲ収ムノ一朝一夕ニ在ラサルニ由ルトハ言イ乍ラ、蓋シ亦タ西郷カ薩隅ニ崛起セシヨリ時コソ來レト思ヒ立チ、此ノ變動ヲ生シタルナリト言ハサルヲ得ス、然ラハ則チ之ヲ樹木ニ譬フルニ、鹿兒島ハ根幹ニシテ福岡ハ枝葉ナリ、其ノ枝葉ノ賊徒ヲ処スルニ、敢テ假借スル所ナキヲ以テシ、其ノ無罪ニ歸スル者僅々二十人ニ過キサルヲ見レハ、其ノ鹿兒島ヲ処スルニ何等ノ典刑ヲ以テスヘキカハ、蓋シ其類ヲ以テ之ヲ推知スルニ足ル者アル可シ、

江藤・前原ノ処分ハ暫ラク扱置キ、同時ニ起リタル福岡ノ賊徒ヲ処スルコト此ノ如クニシテ、西郷以下ノ賊徒ヲ処スルニ寛典ヲ以テセラレナハ、ソレコソ依怙偏頗ノ処置ニシテ、独リ福岡賊徒ノ冤ヲ地下ニ訴フルノ悲アルノ

ミナラス、政府ノ公平均一ハ果シテ何クニカアル、故ニ福岡賊徒ノ処分ハ鹿兒島賊徒ノ処分ト全ク關係ヲ有スル者アルヲ知レハ、其ノ西郷以下ヲ処スルニ何等ノ典刑ヲ以テセラル、モ、蓋シ思半ニ過ル所アラン、若シ夫レ歐米諸國ノ政事犯ヲ処スル所以ニ就テ之ヲ觀レハ、大イニ相異ナル者アリト雖トモ（此ノ論題ハ時ヲ俟テ更ニ開陳スル所アルヘシ）、今ヤ世人ノ鹿兒島賊徒ノ処分ヲ喋々スルニ際シ、先ツ其ノ最モ比例トスヘキ福岡賊徒ノ処分ヲ掲ケ、以テ其ノ考案ニ供スルヤ此ノ如シ、然リト雖モ、若シ其ノ福岡ノ賊徒ヲ処スル所以ヲ以テ、之ヲ鹿兒島ニ及ホシ、其ノ權衡平均ヲ失ハサラントセハ、鹿兒島ノ賊徒ニシテ國家ノ典刑ニ罹ル者ハ、幾許人ノ多キニ至ルヘキ乎、想フテ此ニ至レハ、実ニ国法上ノ己ヲ得サル所トハ言イ乍ラ、争テカ慨然トシテ洪嘆ヲ発セサルコトヲ得ヘケンヤ、

四三 緑券沒收論 五月十八日

緑券可沒收、不可沒收ノ両論ハ、初メ横濱・日々ノ問ニ起リ、漸ク各村新聞紙上ニ波及シ、衝突火ヲ生シ筆尖焰

ヲ散ラスニ至レリ、吾輩ハ初メ横濱・日々ノ両新聞ニ戦端ヲ開クニ当テハ、坐視傍観、以テ其ノ理非ヲ判決スルニ足レリトシ、敢テ横撃ヲ其間ニ試ムルヲ欲セザリシト雖モ、今ヤ朝野先ツ横濱ニ連衡シ、報知亦タ横濱ト合従シ、各々非没収説ヲ主張スルニ至ル、彼ノ非没収説ノ如キハ吾輩ト全く所見ヲ異ニスル者ナリ、而シテ其ノ勢燄ヲ振フコト此ノ如キヲ見レハ、一撃以テ之ヲ駁セサルヘカラスト雖モ、(八坂百穂)日報記者カ没収説ヲ主張スルニ当リ、至当ノ境界ヲ超過シテ、酷罰嚴刑ノ域内ニ陥リシモ亦タ甚タシ、故ニ吾輩ハ本旨ノ論点ニ向フニ先タチ、預メ一日ノ忠告ヲ日報記者ニ下サ、ルヲ得ス、

殲ニ厥巢魁ニ脅從罔_レ治、旧染汚俗咸與惟新トハ、日報記者カ西郷ノ処分論ニ就テ曾テ此ニ論及セシ所ナラスヤ、然ラハ則チ日報記者ハ威克厥愛ヲ欲スルモ、酷罰嚴刑ヲ欲スルノ人ニハ非ル可シ、而シテ予ハ十四日ノ社説ニ於テ、家禄ハ金禄公債證書ノ名ヲ変スルモ、其ノ除族以上ノ刑ニ該ル者ハ、我邦從來ノ刑法ニ照シ之ヲ収録シテ妨ナキハ、吾曹既ニ之ヲ論ジタリ云々、吾曹ハ今一步ヲ進メ反党ノ禄券ハ除族以上ノ刑ニ該ル者ニ限ラズ、一切之ヲ没収スルモ不可ナシトマデニ極論セント欲スルナリトハ、

抑々何等ノ極論ゾ、子ガ反党ノ一言ハ、今日西郷ニ從屬シテ敵中ニ在ル者ハ、尽ク之ヲ含有セザルヲ得ス、何トナレハ一切ノ一言以テ其意ヲ確乎タラシムレバナリ、蓋シ西郷ガ足ヲ故山ニ舉ルニ当リテ、其ノ附從スル者一万余人ノ多キニ至レリ、其間豈必ラス尽ク脅從ニ出テサル者ナランヤ、現ニ別府・邊見等ガ所業ヲ見レバ、実ニ其ノ脅從ハ過半ノ多キニ居ルベキヲ信ズ、然ラハ則チ禍亂戡定ノ後チ、之カ典刑ヲ正スニ至リテハ、其ノ無罪ノ処分ヲ蒙ムル者モ、幾許ノ多キニ在ルカヲ知ルヘカラス、已ニ無罪ノ処分ヲ蒙ムレハ、別ニ科スヘキノ罪過ナキニ非スヤ、然ルヲ君ハ假令無罪ノ処分ヲ蒙ムリタレハトテ、

一旦反党ニ加ハリタル者ナレハ、必ラス禄券ヲ没収スル丈ケノ罪ハ及ホスヘシトナス乎、此ノ如ク脅從ヲモ問ハス実情ヲモ顧ミス、唯々之ヲ没収スルモ些ノ不都合ナシト主張スルニ至ラハ、何ノ所ニ依テ善後ノ道ヲ謀ル可キカ、若シ其ノ主義ヲ以テ叛党ヲ処分セハ、薩肥日隅ノ士族ハ大半生計ヲ失ヒ、道路ニ飢餓ヲ訴フルニ至ルヘシ、斯ノ如ンバ威克厥愛而濟ト言フヘキニ非ス、威其愛ニ克ツニ過キテ却テ後害ヲ醸ス者ナシトモ言フヘカラス、日報記者ハ、又タ鹿兒島ノ士族ノ如キ、一県ノ政治ヲ恣

ニシテ、未ダ嘗テ租税ヲ大蔵ニ納レズ、反テ年々足金ヲ受取りシ位ニテ、今度ノ事變ヲ發シタルモ、其ノ器械彈藥ノ準備ハ、皆是レ鹿兒島県内ノ租稅ト、所謂家祿ナル者トノ力ヲ以テシタルナリト説キ、更ニ兵士ノ死傷ヲ嘆シ、戦地近傍ノ人民ノ困苦ヲ歎キ、其ノ租稅收納ノ常ノ如ク収マラザルヲ憤リ、此ノ如キヲ以テおなさけノ仕送りヲ統施セント欲スルモ、得可カラザルコトヲ論シタリ、其ノ嘆息ト憤恚ハ吾輩モ亦タ同情ニシテ、他人モ亦タ左モアラントハ思ハルレトモ、昔日ニ在テ斯ノ如キガ故ニ、此機会ヲ遁サズ、一見以テ賊敵ト認メシ者ハ、燈炬持デモ草履取りデモ、人足デモ脅從テモ何デモ蚊デモ、士族乃チ祿券ヲ与フヘキ者ニシテ、戦地ニ臨ミタル者ハ尽ク祿券ヲ取レト言フ如キニ至リテハ、終ニ昔日ノ遺恨ヲ今日ニ晴サントスルガ如キヲ免カレス、吾輩ヲ以テ之ヲ觀レバ、昔日ノコトハ独り薩人ノ罪ニ非ス、斯ク不逞ヲ謀ルノ士族輩ニ、人民ノ膏血ヨリ絞リ揚ゲタル租稅ヲ以テ、おなさけノ仕送りヲ授与セシ者ハ政府ナリ、故ニ鹿兒島ノ賊徒ヲ責ルニ先タチ、鼓ヲ鳴ラシテ政府ヲ攻メ、他日ノ殷鑑ヲ忠告スヘシト言フ者アルモ、亦タ其ノ理由ナキニ非スト論センノミ、然ルヲ以テ今日トナリテハ、復タ

昔日ノ遺恨ヲ抛棄シ、公平以テ罪ヲ案シ、巨魁ハ之ヲ罰シ脅從ハ之ヲ赦シ、祿券沒收ノ無罪士族ニマデ及フカ如キコトナカランヲ欲シ、濫リニ欧米ノ法律ヲ弄シテ、苛政ノ謗リヲ明治政府ニ招カシムルヲ欲セザルナリ、

祿券ハ素ヨリ吾輩人民ノ關係スル処ニ非ズ、政府ノ士族ニ与フル所ナレバ、寧ろ全国士族ノ祿券ヲ沒收スルモ、吾輩人民ノ為メニハ更ニ痛痒ヲ及ホス所ナク、反テ民間ノ幸福ヲ益スノ道理ナレハ、苟モ之ヲ沒收スヘキノ時機アレハ、独り叛党ニノミ止マラス、一切之ヲ沒取センコトヲ欲スト雖モ、如何セン、華士族ハ一般ニ祿券ヲ頂戴スルノ僥倖ヲ得タルカ故ニ、今度ノ事件ニ就テモ、彼ノ無罪ノ処分ヲ蒙ムル者ニ迄、祿券ヲ沒取スルノ罪ヲ及ホシ、脅從罔治ノ主義ヲ失フテ、威其愛ニ克ツノ甚タシキニ至ランコトヲ欲セス、是レ吾輩ハ固ヨリ日報子ノ沒收説ヲ不可トスルニハ非ザレトモ、余リト言ヘハ、君ノ論旨ハ其ノ適度ヲ超過シテ、極点ニ達スルノ甚タシキ者アルヲ忠告スル所以ナリ、而シテ吾輩ノ本旨ナル、祿券ノ沒收ヲ妨ケサルノ論題ニ於テハ、將ニ之ヲ後号ニ開陳シ、以テ沒收ヲ非トスルノ論者ニ向フ所アラントス、

四四 政治犯ノ財産処分論 五月十九日

今ヤ我輩ハ叛党之禄券宜没収ノ説ヲ下シ、以テ没収ヲ非トスルノ論者ニ向フ所アラント欲スト雖モ、本旨ノ論点ニ臨ムニ先タチ、預メ欧州諸国ト雖モ、彼ノ政事犯ヲ処スルハ罪ノ輕重ト時ノ都合トニ由リ、特別律法ヲ以テ之ヲ処断スルコトアリテ、彼ノ非没収論者ノ説ノ如ク、財産ハ決シテ之ヲ没収セサルヲ必スヘキニモ非ス、又タ必スシモ一定ノ律法ニ準拠スルニモ非サルノ的例ヲ挙テ、以テ其ノ誤謬ヲ弁駁セン、

檄知記者ノ去ル十六日ニ開陳セル法律ハ、固定シテ千歳ニ變更セサル者ニ非ス、世トノ改進ニ從ツテ法律モ亦タ共ニ改進交換スルノ道理ハ、世人ノ大抵熟知スル所ニシテ、現ニ西人モ政事犯ノ裁判ハ自由ノ尺度ナリト説キ、更ニ古昔ニ在テハ、政事犯ノ区域甚タ広博ニシテ、其ノ部類ニ入ルノ事件ハ頗ル衆多ナリシト雖トモ、今日トナリテハ、時勢ノ改進ニ随ツテ法律モ亦タ共ニ交換シ、政事犯ノ部類ハ、大イニ其ノ区域ヲ限縮スルニ至レリト説明セシト雖トモ、其ノ犯人ヲ処分スルニ至リテハ、各国必ラスシモ一定ノ律法ニ固着スルニ非サルカ如シ、乃チ普

國ノ如キハ早ク従前ノ法律ヲ改正シ、凡ソ財産没入ノ刑ハ只犯者カ犯罪ニ使用セシ物品、或ハ犯罪ヨリ得タル物品ニ限ルト定メタリト雖モ、此後普國ノ佛國駐劄全權大使コーント・アルニユム氏カ、大宰相ビスマーク氏ノ加特力宗徒ヲ放逐スルニ当リ、暗ニ政府ノ処置ヲ妨ゲ、其ノ佛國ニ駐在スルヲ時トシテ、加特力宗徒ヲ保庇スルノ論ヲ主張シ、ビスマーク氏ノ処置ニ抵抗セシヲ以テ、犯狀明白ノ後、尽ク其ノ財産ヲ没収セラレタルニ非スヤ、已ニ財産没入ノ刑ハ、只犯者カ犯罪ニ使用セシ物品、或ハ犯罪ニヨリ得タル物品ニ限ルト定メタル後ニ在テ、アルニユム氏ニ於ルカ如キハ、悉皆其ノ財産ヲ没収スルノ処刑ヲ加ヘシヲ見レハ、普國ハ已ニ必スシモ一定ノ律法ニ準拠スルニ非ス、罪ノ輕重ト時ノ都合トニヨリ、特別律法ヲ以テ之ヲ処断スルコトナキニ非サルヲ知ル可シ、

又タ佛國ニ於テマルシャル・バセーヌ氏カ、佛國ノ普國ト兵ヲ構フニ当リ、其ノ争乱ニ乘シテ、陰ニ為ス所アラント欲シ、一方ノ大将トナリ數万ノ大兵ヲ率ヘ、メツスノ堅城ニ籠リナカラ、敵國ト通問シテ、遂ニ普國ニ降リシカ如キハ、佛國ノ刑法ニ拠レハ、其ノ第七十七條ニ掲ケタル、國敵ト共ニ陰謀ヲ企テ又ハ通問シタル者ニ擬ス

ヘキニ似たり、又タ其ノ軍法ニ抛レハ、此ノ如キノ所業ヲ爲セシ者ハ、其職ノ正服ヲ着セテ之ヲ刑場ニ引出シ、兵士ヲシテ其ノ正服ヲ剝カシメ、然ル後銃殺ノ刑ニ擬スルノ規律ナリト、而シテ佛ノ政府ハ、敢テ之ヲ死罪ニ行ハズシテ流刑ノ処分ニ止メタリ、又タ佛國「コンムニヨン」党ノ外務卿ハシカル・グルツセ氏、同激烈党ロシポール氏カ、党与ヲ結ンテ政府ニ背キ、竊ニ陰謀ヲ企テシカ如キハ、刑法第七十七条ニ、所謂佛郎西人民カ國ニ対スル忠誠ノ心ヲ誘惑セシ者ト言ハサルヲ得ス、然ルニ政府ハ猶ホ之ヲ死罪ニ行ハサリシヲ見レハ、政事犯ヲ処スルニ臨ンテハ、其ノ律法ニノミ準拠セス、特別律法ヲ以テ之ヲ処分スルヲ知ル可シ、而シテ是等ノ処置ハ、其ノ律法ト比較スレハ、頗ル寛典ヲ加ヘタル者ナリト雖トモ、其ノ財産ニ至リテハ、バゼーヌ氏ハ勿論、グルツセ、ロシポールノ二氏ニ於テモ、尽ク之ヲ没収シテ更ニ余ス所ナカリシ也、

彼ノ米國政府カ南北戦争ノ時ニ当リ、財産没収ノ法ヲ議定シテ之ヲ公布セシカ如キハ、彼我戦争ノ間ニ発スル者ニシテ、蓋シ敵勢ヲ挫折シ、費用ヲ阻礙セントスルニ在リ、故ニ此ノ例証ノ如キハ、之ヲ戰時ニ語ルヘクシテ、

未タ遽ニ乱後ノ処分ニ引用スヘカラスト雖トモ、前ニ揭示セル普國ノアルニコム氏ヲ処分シ、佛國ノパセース、グルツセ、ロシポールノ三氏ヲ裁決シテ、其ノ財産ヲ没収セシカ如キハ、是レ戰時ノ特例ニ出ル者ニ非スシテ、即チ政事犯ヲ平常ニ処分スル所以ナリ、然ラハ則チ非没収論者カ歐米諸國ノ明文ヲの例トシテ、財産ヲ没取セサルヲ主張スルカ如キハ、徒ニ其ノ律法ニノミ憑拠シテ、其ノ行事ヲ察セサルノ誤謬ヲ免カレサル者ト言ハサルヲ得ス、

然ルニ佛・普ノ諸國カ政事犯ヲ処分スルハ、我邦ト異ニシテ、大率或ハ之ヲ流刑ニ処シ、或ハ之ヲ他國ニ放逐スルニ在リ、而シテ我邦ノ叛党ヲ処スルハ、巨魁或ハ之ニ継ク者トアレハ、必ラス之ヲ死罪ニ処スルヲ以テ、慣例律法トナスニ至リタルカ如シ、夫レ其ノ本犯ヲ断スル所以ニ就テ、其ノ処置ヲ異ニスルヨリハ、財産ヲ処スル所以ニ就テモ、必ラス其法ヲ異ニスヘキノ道理ナレハ、我輩ハ敢テ前ニ引用スル所ノ事實ヲ以テ、今日禄券ヲ没収スルト否トノ的例トナスニ非サレ共、論者カ欧州ニ於テハ、決シテ財産ヲ没収スルコトナシトスルノ誤謬ヲ弁セシカ為ニ、先ツ此説ヲ草シ、禄券宜没収ノ論端ヲ開クヤ

如此、

四五 戦争ノ疲弊ヲ思ヒテ慄然タリ

五月二十三日

戦争ノ疲弊ヲ恢復スルノ論点ニ就テハ、吾輩其稿ヲ重ムルヤ、將ニ十篇ノ多キニ至ラントス（朝野子トノ闕論ヲ合シ）、而シテ尚ホ未タ其ノ結局ノ如何ニ及バサルハ、敢テ論究ヲ欲セザルニ非ズ、費額ノ際涯ヲ見ル能ハザレバナリ、誰カ西南ノ事變戡定ノ日ハ、幾數旬ノ内ニ在リテ、亦タ幾許ノ金額ヲ以テ足レリト言フヤ、吾輩ハ昨今戦地ノ報道ヲ聞知スルニ当リ、矍然トシテ慨嘆ニ堪ヘス、愛國ノ志情ハ腦裏ニ切迫シ、他日吾國ノ実況ハ、如何ナル悲觀ニ沈淪ス可キカヲ推想シ來ル時ハ、全身悚然寒カラスシテ粟ヲ生スルヲ知ラザル也、

或人吾輩ニ言テ曰ク、政府ノ金庫ハ已ニ空乏ニ帰セシガ如シ、何トナレバ、近日政府ヨリ下附セラル、士族ノ家祿・商人ノ納代等ハ、多クハ之ヲ所謂太政官・民部省ノ両金札ヲ以テスルニ至レリ、曾テ政府ガ一億万圓ノ所謂ルベラ札ヲ製造セラル、ニ当テ、彼ノ藩札及ビ此ノ兩

札ハ之ヲ交換シ尽シ、日本全國ノ通用紙幣ニシテ政府ノ發行ニ係ル者ハ尽クベラ札、則チ新紙幣ヲ以テスルノ見込ナリシガ故ニ、已ニ其ノ政府ノ庫中ニ復歸セシ者ハ、都テ之ヲ兩斷シテ煮潰スノ方法ナリシ、然ルニ官庫ハ漸クニ新紙幣ノ尽ルニ垂クトスルヲ以テ、幸ニ曾テ庫中ニ積置キ未ダ煮潰サマル所ノ太政官札・民部省札アルヲ以テ、是等ノ金札ヲ出シテ急時ノ費用ニ給シ、現ニ昨今東京府ヨリ下附セル金祿五十万圓ノ中、金札二十万圓ハ尅朱・式朱ノ小札ヲ用ユルニ至レリ、抑々政府力是等ノ金札ニ就テ其期ヲ延シ、通用ヲ世上ニ許セシハ、已ニ交換ノ令ヲ出スト雖モ、交換ノ遺漏ナキ能ハス、猶ホ人民ノ掌中ニ在ル者少ナカラサルカ為ニシテ、此ノ延期布令ヲ出シ、再ヒ之ヲ使用セントスルカ為メニハ非ルナリ、且ツヤ政府ガ其ノ兩札ヲ使用スルニ、太政官ノ如キハ、其名アリテ其札ヲ使用スト雖モ、民部省ノ如キハ、其名ナキニ其札ヲ使用ス、其レ之ヲ政府ノ失体ト言ハザル可ケンヤト、

論者ノ言或ハ其理ナキニ非ルガ如シト雖トモ、吾輩ハ政府ヲ信ズルノ厚キヲ以テ、決シテ論者ノ言フガ如キ、都合ナル処置ナカルヘシト思フ、最モ政府ヨリ弘ヒ出セ

シ紙幣中、吾輩モ亦タ現ニ民部省札ヲ見サルニ非スト雖トモ、未タ政府ヨリ必ズ其ノ省札ヲ払ヒ出サザルコトヲ布令セシニ非レバ、之ヲ使用スルモ亦タ政府ノ都合ニ在リト言ハサルヲ得ス、然ルヲ以テ、良シヤ政府カ此札ヲ払ヒ出シタレハトテ、一概ニ官庫ノ空乏ヲ推量スルニ足ラザル可シト雖トモ、亦タ以テ官庫ニ充分ノ蓄積余裕アルニ非サルヲ知ルヘシ、見ヨ、政府ハ近世無比ノ大乱ニ際シテ、近世無比ノ巨費ヲ要ス、此時ニ当テ仮令百万會計ノ都合ヲ謀ルトモ、未ダ以テ充分ノ方法ヲ得ザルハ論ヲ俟タズ、仮令主任ノ官吏ガ理財ノ智略ハ千万人ニ卓絶スルモ、争テカ平時ニ画定セシ順序規則ヲ保存スルヲ得ヘケンヤ、然ラハ則チ、政府ガ彼ノ旧紙幣ヲ払ヒ出スモ亦タ已ヨ得ザルノ情況ト言フ可キノミ、

吾輩之ヲ聞ク、「スナイドル」銃ノ一彈包ハ、其価殆ント銀三匁ニ及ブト、而シテ事變破裂ノ前ニ在テハ、總數三千万包余ノ多キニ至リシト雖トモ、數匁ノ間戦地ニ使用セシ者ニ千万包余ニシテ、当時戦地及諸方ノ彈藥製造所ヲ合シテ、僅々一千万包ニ足ラザル可シト、一彈包銀三匁ト言フハチト高価過キタルカ如クニテ、果シテ違算ナキヲ保証シ能ハザレトモ、仮リニ三匁ト定メテ三千万包

ノ總価ヲ算スレハ、金百五拾万匁ナリ、而シテ戦地ノ兵員中「スナイドル」銃ヲ携フル者ハ、僅ニ四分ノ一二過キズト云フ、斯ノ如クナレバ、其他ノ小銃ヲ携帶スル者ガ毎日失費スル所ノ彈丸包ハ、幾千万ナルヲ知ル可カラズ、其ノ初戦以來今日ニ至ルマテニ費セシ所ノ包価ハ、亦タ數百万匁ノ多キニ至ラザルヲ得ザル可シ、且ツ榴彈・散彈等ハ、一發數匁ノ価ヲ要ス可ク、「クルツプ」ノ大砲彈ノ如キハ、一彈三十匁ヲ下ラズト云フ、其レ然リ而シテ、戦地ニ費ヤス所ハ諸製造所ニ於テ之ヲ償ヒ、更ニ減少ヲ生セサラシムルニ非レバ、能ク現今ノ變乱ヲ戡定シ、他日ノ變ニ備フルヲ得ヘカラス、而シテ其ノ製造費ハ、全ク政府則チ大藏省ヨリ出ダスニ非ズシテ、何レノ所ヨリ出金スルヲ得ケンヤ、

嗚呼政府カ費用ノ過多ナルヤ此ノ如シ、此時ニ當テ政府ガ内債ヲ募ラントシ、外債ヲ仰カントシ、旧紙幣ヲ復用セントスルモ亦タ、已ヨ得ザルニ出ル者アル可シ、若シ費額ノ多キヲ嫌ツテ鎮征ノ期ヲ誤ラバ、政府ノ轉變ハ豈ニ紙上ノ論談ニ終ルヘケンヤ、然レトモ曠日弥久シテ、尚ホ賊勢ノ陸梁ヲ逞フスルアラバ、仮令疲弊ヲ恢復セントシテ千思万考スルアルモ、終ニ如何トモスル能ハズ、

外債ノ返弁ハ他国ニ迫ラレ、内債ノ利子ハ消却ノ道絶へ、人民紙幣ヲ懐ヒテ道路ニ哭センノミ、思フテコ、ニ至レハ、安ソノ為ニ悚然タラザルヲ得ンヤ、

四六 紙幣ノ増発ヲ憂慮ス 五月二十五日

紳士アリ、吾輩ニ言テ曰ク、西南ノ乱遷延数月ニ渉ルヲ以テ、政府ノ軍費ニ使用スル所極メテ多シ、今日ニ於テハ総額將ニ千五百万円ニ及ハントス、誰カ之ヲ憂ヘサランヤ、然リト雖モ往々過慮ノ甚タシキモノアリ、政府ハ如何シテ今日ノ疲弊ニ堪へ、人民ハ如何シテ他日ノ幸福ヲ望ム可キカ、速ニ之カ預防ヲ為サ、レバ、大日本国ヲ如何セントマテ極言スル者ナキニ非サレトモ、如此ハ亦杞人ノ憂ト謂ベシ、子モ既ニ之ヲ知ルガ如ク、華族銀行創立ノ挙アレバ、千五百万円ハ容易ク調度シ、太政官・民部省ノ記証アル旧紙幣ヲ復用スレハ、亦若干万円ヲ得ベシ、之レニ加ルニ、準備金ノ存スルアリ、假令三、四千万円ノ巨額ヲ費用スルモ、政府ハ更ニ苦慮スル所ナカル可シ、況ンヤ今度ノ事變ハ、不平士族ヲ全国ニ掃蕩スルノ機会ナレバ、三、四千万円ヲ消費スルモ、敢テ深ク

惜シムニ足ラザルナリ、唯恐ル不平等党与ノ国中ニ多キコトヲト、

成程政府ノ一方ヨリ西南ノ争乱ヲ見ルトキハ、幾千万円ヲ使用スルモ、未タ紙幣ノ価格ニ差シタル影響ヲ生スルニ非レバ、深ク慮ルニ足ラズ、今日ノ恐ル、所ハ、唯不平等党与ノ一辺ニ在ル可ケレトモ、吾輩草莽ノ論者ヨリ之ヲ見レバ、国帑ノ疲弊ニ由テ、更ニ紙幣ヲ発行増加スル等ノコトハ、実ニ熱腸ヲ九廻セシムルモノト謂フベシ、世人請フ、熟考セヨ、吾輩人民ガ夏日ノ酷熱ニ珠汗ヲ漲ラシ、三冬ノ嚴寒ニ冰雪ヲ踏ミ、粒々辛苦以テ收穫スル米粟ノ租税ヲ以テ、到底弁償消却セザル可カラザル所ノ負債ハ、幾千万ノ多キニ至ルヤ、看ヨ、紙幣流通高九千四百七十六万九千七百餘円ニ、内国債四千七十一万四千八百餘円ト、外国債千四百十五万五千餘円ヲ合スルトキハ、一億四千二百二十二万四千六百餘円ナリ、而シテ華士族祿券ノ金額一億三千五百三十万餘円ヲ以テ之ニ合スレバ、二億七千六百五十二万四千六百餘円ノ多キニ至レリ、今之ヲ三千万ノ人口ニ分頭割附スレバ、一人九円二十一錢余ニシテ、老幼ノ別ナクコノ負債ヲ各自ニ有スル者ニシテ、譬ヘバ一家五口アレバ、四十六円五錢余ノ出

金ヲ為スニ非レバ、我日本政府ハ内外毫モ負債ヲ有セズト言フヲ得ズ、更ニ退ヒテ民間ノ情況ヲ視察スレバ、全国ノ疲弊ハ今日ヨリ甚タシキハ莫ク、都鄙所トシテ不融通ヲ嘆息セザルハナキナリ、不融通ハ敢テ政府ノ關係スル所ニ非ズトスルモ、上下ノ情況如此ニシテ、尚ホ此上ニ三、四千万円ノ負債ヲ増加セントス、東洋日本ノ人民ハ何ソ其レ不幸ヲ極ムルノ甚シキヤ、

吾輩之ヲ聞ク、明治維新後大坂ニ造幣寮ヲ建設セシ以来、昨九年十二月ニ至ルマデ、金銀銅ノ三貨幣ヲ鑄造セシコト七千八百一十一万五千四百八十円ニ及ブト、其額少ナキニ非レトモ、顧テ金銀貨幣ノ海外ニ輸出スル者ヲ算スレハ、其ノ之ヲ支ユルニ足ラザルヲ知ル、政府ガ英國ニ募リタル外債ノ、元利毎歳ニ消却ス可キ者、英金三十七万四千八百九十二封度（吾ガ金貨百八十二万九千四百七十二円九十六銭ニ当ル）アリ、欧米各国ニ設置セル吾ガ公使館及ビ留學生等ノ費金等ヲ合シテ、亦タ毎歳輸出スル者七十万円ニ下ラズト云フ、而シテ輸入品ノ多キ輸出物ニ超過スルコト、年ニ少ナキモ八百万円ニ及ヒ、多キハ一千万円ヲ超ユルコトアリ、且ツ外国雇教師ノ給料、彼我貨幣交換ノ差等ニ就テ、其ノ出ルノ夥キヨリ貨幣鑄造

ノ盛ナルモ、終ニ相償フ能ハザルハ必然ノ勢ナリ、斯ノ如クナレバ、真貨ハ蕩然吾國ニ尽キ、独リ紙幣ノ国内ニ留マリテ、僅ニ内國ノ物品ヲ交換スルノ功用ヲ為スノミニ至ルハ、久シキヲ待タザル可シ、是レ豈ニ憂慮セザルヲ得ヘケンヤ、

語ニ曰ク、履霜而堅氷至ト、今日ノ勢ハ正ニ是レ嚴霜ヲ履ムノ秋ニ非スヤ、然ルモ尚ホ未タ堅氷ノ至ルヲ察セザルガ如キ者ハ、共ニ語ルニ足ラザルノ迂人ト言フ可シ、国内漸ク金銀貨幣ノ跡ヲ絶セントスルノ時ニ及ンデ、万一外患ノ一方ニ生ズルアラバ知ラズ、何等ノ金円ヲ以テ船艦銃器ヲ償ヒ、彈丸硝薬ヲ求メントスルヤ、僅マナル器具衣類ヲ鬻テ之ヲ償ヒ、以テ其急ヲ救フノ外決シテ他策ナカルベシ、之ヲ思ヘバ、吾輩ト雖トモ、亦タ某ノ論者ト共ニ、他日吾ガ日本國ヲ如何セント言ヒ、長沙ノ太伝ニ非ルモ痛哭流淚長息セザルヲ得ス、紳士ヨ、君ハ專ラ現今ノ紛擾ニ苦辛セラル、ヲ以テ、他日ヲ慮ルノ暇ナカルベシト雖トモ、請フ、少ク之ヲ察知セヨ、又吾ガ同胞三千五百万ノ諸君ヨ、諸君モ亦今日ハ是レ履霜ノ秋ナルヲ覚知シ、異日堅氷至ニ当テ、勿卒裘ヲ求ルノ醜体ヲ現ハス莫レ、

四七 戦費献金ノ弊害 五月三十日

論者アリ、政府ハ何故ニ人民ヨリ軍資ヲ献セントスルモ之ヲ許可セザルヤヲ疑イ、為ニ喋々ノ弁論ヲ費スニ至レリ、然ルニ其ノ論旨ハ、吾輩ト全ク反対ノ点ニ在ルヲ以テ、聊カ駭撃ヲ下ストコロアラントス、

凡ソ天下ノ事必ズ一利一害アリ、利ノアル所害モ亦タ之ニ従フ、弊ノ生スルニ易ク益ノ収ムルニ難キハ、蓋シ自然ノ勢ナリ、今ヤ西南ノ事變ニ就テ、政府ガ軍資ノ献金ヲ人民ニ許可セザルハ、実ニ一般ノ幸福トモ言フ可キモノニ非ズヤ、想フニ論者ハ、既ニ之ヲ實際ニ見聞セラレシナル可シ、幕府徳川ノ治世ニ於テ、或ハ御冥加金ト言ヒ、或ハ御用金ト称シ、人民ガ定制ノ租税外ニ、政府ヨリ絞り取ラレシ金額ハ実ニ莫大ノコトナリシヲ、斯ノ如キハ民間常ニ余贏ナク、兎年飢歳ニハ妻子四方ニ流離シ、老幼溝壑ニ顛沛スルノ不幸ヲ生ゼシ原因ノ、一部分ニ居ル者ト言フモ決シテ不可ナカルベシ、論者ハ蓋シ言フナル可シ、軍資ノ献金ハ各自ノ深情ニ出ル者ニシテ、敢テ一般ノ人民ニ関係スル所ニ非ズ、何ゾ御冥加金ヤ御用金ト同一視ス可ケンヤト、其レ然リ、然レトモ弊ノ生ズル

ニ易キ政府ガ、軍資ノ献金ヲ許可スルニ至レハ、余勢ノ及フ所、或ハ多少昔日ノ惡弊ヲ今日ニ生スルコトナシトモ必スヘカラス、

所謂御冥加金・御用金等ノ類ハ、何ニ由テ此ノ仮名ヲ下セシ所以ヲ知ラズ、亦タ其ノ何等ノ時代ニ生ゼシヲ明ニセザレトモ、想フニ封建ノ勢ヲ為スニ及ンテ、土地ヲ領スルノ大小名等ガ、一時用度ノ多端ニ際シ、其ノ疲弊ヲ補ハンガ為メニ、郡長ニ頼リ邑長ニ説キ、百方策略ヲ運ラシ、以テ其ノ危急ヲ補綴セシ等ノ事ヨリ、其ノ一弊ヲ後世ニ留存セシニ非レバ、土地ノ金有家ガ武人ノ暴行ヲ忌避シ、献金以テ安全ヲ購ヒ得タルニ出ルナル可シ、何レニセヨ此ノ御冥加金・御用金ノ類ハ、武人政治ノ下ニ於テ、或ハ内乱ヲ起シ、或ハ驕奢ヲ極メシノ時ニ当リテ、コノ惡弊ヲ生セシ者ニテ、良政府ノ下自由政体ノ国ニ在テハ、決シテ有ルマジキ事共ナリ、而シテ論者ハ、今日ニ於テ軍資ノ献金ヲ許可スヘキコトヲ主唱ス、若シ政府ガ之ヲ許可セバ、其弊ヤ終ニ各府県ニ波及シ、或ハ県官ガ自己ノ県下ニ献金ノ多キニ誇ラントシテ、区長ニ頼リ戸長ニ説キ、御用金ト其名ヲ異ニスルモ、其実之ト一般ナル者ヲ生スルモ、区戸長ハ県官ノ企望ニ背カンコトヲ

欲セス、人民モ亦タ已ヲ得ズシテ、区戸長ノ説諭ニ從イ、限リ無キノ軍資ヲ献納セントスルニ至ラバ、独リ国民ノ不幸ニ止マラズ、政府ト雖モ亦タ、容易ナラザル不幸ヲ及ホサル、所ナキヲ期ス可カラザル也、

献金ヲ人民ニ促シ、一国禍乱ノ一原因ヲ生セシコトハ、敢テ東洋ノ諸国ニ止マラス、英国ニ於テモ亦タ其ノ的例アリシヲ見ルヘシ、英帝ジョージハ、戦後疲弊ノ時ニ当テ王位ヲ嗣キ、空乏ノ官庫ニ於テ多端ノ用度ヲ支ヘント欲セシヲ以テ、官吏ヲ四方ニ派遣シ、富商ニ説テ献金ヲ促シ、豪農ニ頼テ冥加金ヲ納メシメントシ、其他種々ノ暴政ヲ施行セシヲ以テ、内国騒然身ハ他国ニ客トナリ、終ニ「マグネカータ」ノ盟約ニ臨ンテ、再ビ人民ニ献金ヲ促ス可カラザルコトヲ、其ノ條款中ニ加ルニ至レリ、畢竟コノ確然不易ノ明文ヲ生セシ者ハ、数諸侯ノ権力ト人民ノ氣力ニ由ルト雖モ、吾国今日ノ人民トテモ、其ノ不服ヲ凝結スルノ極点ニ至レハ、安ソゾ意外ノ氣力ヲ發動スル所ナキヲ知ランヤ、然ラハ則チ、其ノ弊ノ御用金・御冥加金ニ類スルニ至ルモ、計ラレサルノ事件ニ於テハ、必ラズ其ノ萌芽ヲ生セサラシメンコトヲ欲スヘシ、而シテ宜ク其非ヲ鳴ラス可キノ先導者ニシテ、其ノ萌芽ヲ今

日ニ生セシメンコトヲ務ムルカ如キハ、蓋シ亦タ奇ナラスヤ、若シ論者カ望ノ如ク、明治政府ヲシテ、万一ニ献金ヲ許可シテ、軍費ノ若干ヲ補フカ如キノ所置アラシメバ、西南ノ事變ハ近日ニ戡定スルモ、或ハ天下是ヨリ多事ノ原ヲ開クコトナシトモ保証ス可カラズ、

斯ク論シ来ルトキハ、論者或ハ曰ン、何レニセヨ、西南ノ事變ニ就テ費用セシ所ノ金額ハ、人民各自ノ頭上ニ羅リ来ルヲ以テ、有志ノ献金ハ之ヲ許可スルモ何ノ妨ケカ之レアラン、又何ゾ其ノ弊害ヲ生ズルヲ憂慮スルヲ為サシヤト、吾輩ト雖モ其ノ弊害ハ直チニ之ヨリ生スベシト言フニ非ズシテ、弊害ノ波及シ易キヲ恐ル、ニ在リ、論者又タ言フ、政府ハ已ニ負傷者ニ贈物ヲ許ス、何ゾ一歩ヲ進メテ軍資ノ献金ヲ許サマルヤト、吾輩亦タ言ハントス、若シ万一ニダモ更ニ一歩ヲ進メテ、政府ガ献金ヲ促スカ如キノ姿アルニ至ラバ、如何ゾ弊害ヲ生ゼザルヲ得ンヤト、故ニ吾輩ハ到底軍費ノ吾人国民ノ頭上ニ權ルアルモ、献金ニ依テ之ヲ補償センコトヲ欲セズ、独リ之ヲ欲セサルノミナラス、堂々タル明治政府ハ、決シテ武門ヲ抑ノ旧幕時代ニ施行セシ、旧轍ニ類スルカ如キノ弊害ヲ、今日ニ萌生スルコトヲ嫌忌セラル、ノ深キヲ信スル

也、

四八 時勢之轉變起於豪傑之分合 五月三十一日

国土ハ人民ノ集合ニ成ル者ナリ、宜ク人民ヲ以テ其ノ伸縮盛衰ヲ負担セサル可ラス、我輩豈時勢ノ轉變ヲ以テ豪傑ノ分合ニ歸スルニ忍ヒンヤ、而シテ熟々我邦時勢ノ轉變ヲ觀察シ來ル時ハ、其ノ果シテ此ノ如キ者アルヲ如何セン、是レ我輩カ已ヲ得スシテ此ノ論題ヲ掲ケ來レル所以ナリ、

世人往々幕府ノ威權ヲ失滅シテ、政体ヲ戊辰(明治元年)ニ一變セシ

所以ヲ論シテ曰ク、幕府ハ無道ナリ抑圧ナリ、是ヲ以テ

時運已ニ去リ、人心亦離レ、東照ノ余烈モ遂ニ伏水(伏見)ノ砲

煙ト共ニ消滅スルニ至レリト、是レ其一ヲ知りテ未タ其

二ヲ知ラサルノ論ナリ、蓋シ癸丑(嘉永六年)・甲寅(安政元年)ノ事變ヲ現スル

ノ後チ、尊攘ノ議ハ専ラ天下ニ流行シ、戊午(安政五年)ノ後チ一層

ノ勢力ヲ膨脹スルニ至リ、達人識者トナク志士仁人トナ

ク、尽ク勤王復古ノ議論ニ傾斜スルノ時ニ當リテ、幕府

ハ依然旧套ヲ固守シ、更ニ天下ノ豪傑ヲ收攬スルノ挙行

ナキヲ以テ、早晚必ラス覆滅ヲ招カサルヲ得サルノ勢ヲ

凝結セシト雖モ、其ノ忽諸トシテ戊辰ニ顛覆シ、復タ振

フヘカラサルニ及ヒシハ、蓋シ薩・長・土三藩ノ傑士カ、

互ニ同心戮力シテ、鋒銳ヲ幕府ニ差向ケタルカ為メナリ

ト言ハサルヲ得ス、見ヨ、三藩ノ未タ一致セサルニ當リ

テハ、或ハ壬戌(文久二年)・癸亥(文久三年)ノ變アリ、或ハ甲子(元治元年)ノ亂アリ、其他

各所ニ義兵ヲ起スノ徒陸續トシテ斷ヘサルモ、幕府ノ鼎

基ハ猶ホ巍然トシテ動カスヘカラサリシ也、而シテ戊辰

ニ至リテ、其ノ覆滅ニ就クコト彼カ如ク速カナリシハ、久

運ノ變遷一層ノ甚タシキヲ極ムル者アリトハ言イ乍ラ、

抑々三藩ノ豪傑カ同一ノ目的ニ歸着セシ所ノ奏功ニ出ル

者ナリト言フヘシ、是レ則チ時勢ノ轉變ハ、豪傑ノ分合

ニ起ルノ一証ナリ、

復古ノ業已ニ成リ、天下ノ傑士廟堂ニ翱翔セサルニ非サ

レトモ、一世ノ名望ヲ摠攬スル程ノ人物ハ漸ク各所ニ分

離シ、西郷隆盛ハ鹿児島ニ在リ、板垣退助君ハ高知ニ在

リ、而シテ木戸公・大久保公ハ則チ廟堂ノ樞要ニ在リ、

是時ニ當リテヤ、天下ノ政權已ニ朝廷ニ一歸スト雖モ、

兵力ハ以テ全国ヲ統制スルニ足ラス、各藩何レモ兵隊ヲ

備ヘテ其ノ実力ヲ有シ、兵士ハ凡テ藩主ニ尽スヲ知りテ、

朝廷ノ為ニスルヲ知ラサルノ景況ナルヲ以テ、所謂木幹

フシテ末重ク、本以テ末ヲ制スルニ足ラサルカ如キノ勢
ナキニ非ス、陰然トシテ割拠分裂ノ勢ヲ成シ、小藩ハ大
藩ニ依頼シ、大藩ハ縦横論ヲ唱フル者ナキニモ非サリキ、
斯ル危殆ノ形勢ヲ一變シテ郡県ノ政治ヲ確定シ、數百年
間ニ連綿タル封建ノ体裁ヲ一時ニ破却セシモ、藩主ハ一
人トシテ其ノ命令ヲ遵奉セサルハナク、終朝ニシテ藩籍
ヲ奉テ之ヲ朝廷ニ奉還シ、臣民モ亦タ肅然トシテ綏帖シ、
一人トシテ背叛ヲ企ル者ナク、声色ヲ動かサスシテ干載
不拔ノ一大變革ヲ行ヒ、海陸軍ヲ除クノ外、復タ一兵ヲ
弄スルコトヲ得ス、海内ヲ挙テ画一ノ制度ヲ履行セサル
ヘカラサルノ政体ヲ、確定スルコトヲ得タル所以ヲ尋ヌ
レハ、則チ前ニ藩地ニ退キタル西郷・板垣ノ諸民ハ、進
ンテ廟堂ニ列シ、木戸・大久保ノ諸公ト同心戮力シテ、
此ノ變革ヲ行ハントニ一致セシヲ以テナリ、若シ此時
ニ当リテ、薩・長・土三藩ナル諸豪傑ノ一致ヲ得サラシメ
ハ、獨リ廢藩置県ノ變革ヲ發行シ能ハサルノミナラス、
或ハ維新ノ勲績ヲ挙テ之ヲ塵土ニ委シ、割拠分裂ノ慘狀
ヲ演スルニ至リシモ測ルヘカラス、是レ豈時勢ノ轉變ハ、
豪傑ノ分合ニ起ルノ第二証ナリト言ハサルヘケンヤ、
然ルニ癸酉ノ冬ニ至リ、測ラスモ征韓ノ一大議論ヲ廟堂

ニ激動シ、議論ノ相適ハサルヲ以テ、一世ノ名士ハ、冠
ヲ内閣ニ挂テ再ヒ分裂ノ不幸ヲ生スルニ至レリ、豪傑ノ
一タヒ分裂スルヤ、余勢ノ及フ所実ニ各種ノ紛紜ヲ現シ、
発シテ佐賀ノ變亂トナリ、進リテ台灣ノ征役トナリ、溢
レテ支那ノ葛藤トナリ、殆ント國家ヲ挙テ内外ノ變動ニ
陥ラントスルニ至リシト雖モ、幸ニシテ支那ト無事ノ談
判ヲ結了スルノ後チ、豪傑ノ各所ニ分離スルヤ、實ニ國
家ノ幸福ヲ保全スル所以ニ非サルノ議論ハ、専ラ朝野ノ
間ニ行ハレ、遂ニ大坂ノ會盟ヲ遂テ、木戸・板垣ノ二公
ハ再ヒ故職ニ復スルノ挙アリ、當時若シ此ノ合一ヲ見ル
コトナカリセハ、或ハ今日迄ノ安全ト進歩トヲ經營シ能
ハサリシモ知ルヘカラス、而シテ幸イニ前日ニ分離セシ
者ヲ、當日ニ合同スルコトヲ得タルヲ以テ、大イニ天下
ノ人心ヲ綏帖セシノミナラス、遂ニ有名ナル四月十四日
ノ 聖詔ヲ拝觀スルノ幸福ヲ人民ニ及ホサシムルニ至レ
リ、以テ時勢ノ轉變ハ、豪傑ノ分合ニ起ルノ第三証タル
ヲ知ルニ足ル可矣、(以下嗣出)

四九 統時勢之轉變起於豪傑之分合 六月一日

抑々我邦十余年間ノ沿革ニ就テ、其ノ最モ関係ヲ有スル者ヲ尋ヌレハ、戊辰ノ革命ナリ、(明治四年)辛未ノ変革ナリ、(明治六年)乙亥ノ聖詔ナリ、而シテ是等ノ事業ハ、皆ナ薩・長・土ノ豪傑カ協戮合一ノ時機ニ成ルヲ見レハ、豪傑ノ分合ハ、果シテ時勢ノ転変ニ関係ヲ及ホスノ大ナル者アルヲ知ル可シ、然ルニ維新ノ前、薩・長・土ノ三藩合一ノ機ヲ王(文久三年)戌ニ現スレハ、幕府變然トシテ震撼シ、(慶応二年)癸亥ニ分裂スレハ、長ハ退テ国ニ拠リ、七卿亦タ走りテ長ニ就キ、土佐モ之カ為ニ有志ノ士ヲ斬戮スルニ至リ、再ヒ内寅ニ合同スレハ天下ノ勢忽チ一変セシカ如キハ、己ニ嚙苦ノ事ニ属スルヲ以テ、深ク感ヲ与フルニ足ラサル也、而シテ辛(明治四年)未ノ合一ヲ得サレハ、特ニ廢藩置県ノ美績ヲ垂ル、コト能ハサルノミナラス、割拠分裂ノ不幸ヲ生スルノ恐ナキニ非サリシモ、己ニ此ノ偉業ヲ矣シ終リシヲ以テ、是レ亦タ深ク感ヲ与フルニ足ラサル也、独リ彼ノ乙亥ニ合一シテ立憲政体ノ聖詔ヲ現スルニ至リシモ、間モナク内閣再度ノ更迭ヲ生シ、尔来制度文物ハ煥然トシテ明カニ、整然トシテ齊ハサルニ非サルモ、聖詔ノ趣旨ニ至リテハ、独リ其ノ実行ニ係ルヲ見サルノミナラス、地方官會議ノ如キモ、昨年ハ奥羽ノ御巡幸ヲ以テ御見合セトナリ、

本年ハ今日ノ變動ヲ以テ會議トコロカ、地方官ハ一步モ其ノ治所ヲ舉ルコト能ハス、空ク行人ヲシテ当年議場ノ旧跡ヲ經過シテ、坐ロニ慨嘆ヲ生セシムルニ至ル、嗚呼豪傑ノ分合モ亦タ具ノ関係ヲ与フルノ大ナル、一二此ニ至ル乎、

然ルニ乙亥ノ合一ハ再ヒ内閣ノ更迭ニ破レテ、政治ノ方向ニ響影ヲ及ホセシカト思ハル、カ如キハ、猶是レ治体ノ関涉ニ止マルニ過キスト雖モ、今日ノ大乱ヲ西隅ニ発動シ、人命ヲ損害スルコト幾何ナルヲ知ラス、用度ヲ糜スルコト何程ナルヲ計リ難ク、戦地ノ人民ハ流離顛沛ノ苦楚ヲ嘗メ、延テ全国ニ及フ迄、恟々トシテ其生ヲ安ンセサルノミナラス、文治ノ事業ハ一朝ニ阻滯シテ、大イニ国家ノ進歩ヲ障害スルニ至リシモ、固ヨリ西郷隆盛カ無名ノ師ヲ起シテ、一己ノ憤鬱ヲ齎サントスルヨリ生シタルコトトハ言イ乍ラ、深ク其ノ原因ヲ推究スレハ、是レ亦タ隆盛カ当時政府ノ棟梁トモ特ムヘキ豪傑ト、分裂ヲ生スルノ極点ニ達シタルヨリ起リタル者ニシテ、是等ノ理由ハ敢テ之ヲ明弁スルヲ要セス、世人ハ自ら默識意会スル所アル可シ、

夫レ時勢ノ転変ハ、豪傑ノ分合ニ起ルコト此ノ如シ、而

シテ是等ノ豪傑カ、一世ノ勢力ヲ保有シ、其ノ進退挙動ニ由リテ、忽チ天下ヲ転変スルノ關係ヲ生スルニ至ル所ヲ論究スレハ、封建ノ遺物之ヲシテ然ラシムルナリト言ハサルヲ得ス、何トナレハ、薩・長・上ニ在テ、其ノ党首ニ列スル程ノ人物ハ、固ヨリ一世ノ豪傑タルニ相違ナシト雖モ、天下此ノ如ク其レ広ク、人物此ノ如ク其レ多シ、若シ公平ニ其才力ヲ比較セハ、安ソソ薩・長・土ニ在テ、党首ニ列スルノ人物ニ勝ルトモ劣ラサルノ豪傑ナキヲ必スヘケンヤ、而シテ自余ノ人物ハ、薩・長・土ノ人物ト対等ノ勢ヲ保ツコトヲ得ス、常ニ薩・長・土ノ人物ヲシテ、時勢ノ転変ヲ恣ニスルコトヲ得セシムルハ、武力ノ三藩ニ加フル者ナクシテ、維新ノ勲績ヲ專有セシメタルカ為メナルヲ知ルヘシ、維新ノ勲績ハ則チ其ノ藩力ヲ以テ之ヲ取リシ也、而シテ其ノ勲績ハ、今日ノ勢力ヲ有スルノ原因トナリシヨ見レハ、安ソソ封建ノ遺物之ヲシテ然ラシムルナリト言ハサルヲ得ンヤ、

唯其レ藩力ヲ以テ此ノ勢力ヲ有スルニ至リシ者ナルカ故ニ、士族ノ名望ヲ得ルノ盛ナル者ハ、其ノ勢力モ亦タ随テ大ナラサルヲ得ス、是レ西郷ノ一タヒ叛乱ヲ起スニ及ンテハ、連戦百有余日ニ至ルモ未タ其ノ平定ヲ期スハ

カラサル所以ナリ、彼ノ長ノ如キハ党首タルノ人物夙ニ政府ニ奉職シテ、足ヲ故山ニ拳シカ故ニ、士族ノ合一ハ復タ薩ノ如クナラス、土ニ至リテハ其ノ党首ノ政府ニ列セスシテ、士族ヲ各社ニ團結スルヲ以テ、未タ旧時ノ藩力ヲ瓦解セシムルニ至ラスト雖モ、薩ニシテ苟モ撲滅ニ就クニ至ラハ、是レ天下ノ大勢大ニ定ルノ時ニシテ、封建ノ余毒ハ全ク此ニ消滅スルニ至ル可シ、想フニ、藩力ヲ以テ勢力ヲ有セル豪傑ノ分合ヲ以テ、時勢ヲ転変セシヤ已ニ久シ、此ノ如キハ実ニ国家ノ為ニ賀スヘキニ非ス、而シテ今若シ薩ヲ撲滅シ終レハ、全ク藩力ノ余毒ヲ消除スルニ足ル可シ、此時ニ際シテ、更ニ政治ノ方向ヲ一變スルノ美筭アリテ、即チ乙亥ニ發出セシ 聖詔ノ趣旨ヲ実行スルニ至ラハ、漸々ニ豪傑ノ分合ヲ以テ、時勢ノ転變ニ關係ヲ及ホスカ如キノ不幸ヲ見ルニ至ラサル可シト信ス、然ラハ則チ今日ノ改進黨者流ニシテ、争テカ深く薩ノ速ニ平定ニ帰スルヲ冀ハサルヲ得ヘケンヤ、

五〇 招募士族ノ処置 六月二十六日

我輩カ戦後之凶勢応生如何之影響ノ論題ヲ掲ケ出シテ、

之ヲ昨日ノ曙新聞ニ登録セシハ、敢テ故ナキニ此ノ杞憂ヲ生シ来リシニ非サル也、看者若シ其ノ現形ヲ推テ影響ノ及フ所ヲ深察セハ、我輩ノ杞憂ハ果シテ故ナキノ杞憂ニ非ス、極メテ故アルノ杞憂ナルヲ知ルニ足ラン、苟モ看者ヲシテ我輩ト同一ノ感覺ヲ有セシメン乎、我輩モ亦タ昨日ニ開陳スル所ヲ以テ足レリトシ、更ニ一陣ヲ開イテ、此ノ戰爭ヨリ他日ノ影響ヲ生セシムルカ如キコトナカラシムルノ論点ニ向ハンコトヲ望マサルニ非スト雖モ、世人ノ感覺ハ兎モアレ角モアレ、我輩ハ猶ホ、未タ所見ヲ昨日ノ紙上ニ詳明シ能ハサル者アリト覺ユルニヨリ、今又タ其説ヲ拡メテ、所謂故アルノ杞憂ヲシテ、愈々故ナキノ杞憂ニ属セサラシメント欲スル也、

試ミニ今日政府ノ招募ニ応シテ壯兵トナリ、巡查トナル者ノ心情如何ヲ觀察セヨ、外面ヨリ之ヲ評スレハ、扱々感服ナル次第ナリ、国家ノ騷乱斯ノ如キヲ望ンテ、身ヲモ愛セス命ヲモ惜マス、進ンテ其徵集ニ就キ、飛彈雨集、噴煙闇黒ノ間ニ赴キ、以テ此ノ兇賊ヲ平定スルコトヲ謀ラントハ、志士仁人トモ言フヘケレ、勇者節士トモ言フヘケレト、贊嘆セサルヲ得サレトモ、深ク其ノ心情ニ入リテ之ヲ揣摩スレハ、実ニ品評ヲ下スニ忍ヒサルコト乍

ラ、恐クハ尽ク志士仁人ナリ、勇者節士ナリト、概観シ能ハサル者ナキニモ非サル可シ、我輩情々方今士族ノ状態ヲ察スルニ、其ノ識力ヲ負ヒ才幹ヲ具スル者ノ如キハ、敢テ然リトスルニ非サレトモ、未タ尋常ノ地位ニ列スルヲ免カレサルノ流屯ニ在テハ、大抵封建ノ殘夢ヲ醒覺シ得サル者ト言ツテ可ナルヘシ、若シ此ノ觀察ヲシテ太過ナカラシメハ、今日壯兵ノ招募ニ応シ巡查ノ徵集ニ就ク者ノ如キモ、時勢ノ變換ハ其ノ變換ニ任ス、士族ノ士族タル所ハ誓ツテ之ヲ失ハサルヘシト期シ、宝刀ノ光ヲ匣中ニ収ムルヲ見テ、武權ノ湮滅ニ歸スルヲ慨シ、時コソアラハ蹴起シテ、其ノ腕力ヲ試ミ、今日ノ沈淪ヲ他日ニ發達セント冀図スルノ壯士ニ非レハ、漸ク其ノ生産ヲ失ヒ、嗚呼吾已矣、謀ル所為ス所尽ク其意ノ如クナルヲ得ス、飢餓ヲ前途ニ訴ヘンヨリハ、寧ロ慣用ノ武力ヲ万死一生ノ間ニ試ミ、以テ將來ノ發達ヲ求メンカト、大息スルカ如キノ流屯ナル可シト想像セラル、若シ其ノ招募ニ就ク者ハ、果シテ斯ノ如キノ流屯ナラシメン乎、是等ノ徒ヲ使用シテ戡定ノ功ヲ迅速ナラシムルハ、安寧上ヨリ之ヲ觀レハ、大イニ賀スヘキ者ナキニ非スト雖モ、其ノ戰歟ヲ奏スルノ愈々大ナルヤ、他日ノ影響モ亦タ益々大

ナラサルヲ得サル可シ、

戦乱已ニ戡定ニ歸スルニ至ラハ、政府ハ蓋シ今日ニ徵集セシ壯兵巡查ヲ、悉皆陸軍ニ警備ニ使用スルコトヲ要セサルヘシ、仮令之ヲ使用センコトヲ要スルモ、經費ノ支ヘサルヲ如何セン、然ラハ則チ、已ニ一時ノ徵集兵ヲ要セサルニ至ルノ日ハ、無論ニ相当ノ報酬ヲ与ヘテ、之ヲ解散セラルヘシト思フ、条理上ヨリ之ヲ論スレハ、此ノ壯兵巡查ヲ徵集セシハ、已ヲ得サルノ使用ヲ要スルニ出テシ者ナルカ故ニ、已ニ戦乱ヲ戡定シテ、復タ之ヲ使用スル所ナキニ至レハ、之ヲ解散シテ其処ニ就カシムルヤ、固ヨリ当ル矣、況ンヤ其ノ之ヲ解散スルモ、是迄ハ誠ニ御苦勞千万ナリシカトモ、最早不用ナレハ歸リ呉レヨト、一言ノ挨拶ニ終ルノミニハ非スシテ、相当ノ報酬ヲ給スルヨリハ、士族輩ノ身トシテ、別ニ彼是ト不平ヲ唱フルノ理由アルヘキ筈ナシト雖モ、其ノ実情ヨリ之ヲ觀レハ、前ニモ言フカ如ク、各県士族ノ一身ヲ劍鋌ニ委シ、性命ヲ彈丸ニ捨ルヲ覺悟シテ、此ノ徵集ニ応セシハ、特ニ各自ノ義務ト認ルヨリ起リシノミニハ非ス、抑々別ニ期待スル所アルカ為メナリトスレハ、若シ其ノ冀望ニ適ハサルニ及ンテハ、安ソソ謂レナキ紛紜ヲ、後來ニ結糾スル

コトナキヲ保証スヘケンヤ、

若シ我輩ノ觀察ヲシテ誤謬ニ係ラシメ、士族輩ノ招募ニ応セシハ、全ク國家ニ尽スノ義務ト認ムルヨリ出テ、戡定ノ後チ、政府ニ対シテ薄恩ヲ怨ムカ如キコトナカラシメハ、實ニ意外ノ大幸ナリト雖モ、此ノ如キハ我輩ノ未タ信認シ能ハサル所ナリ、苟モ我輩カ今日ニ憂慮スル所ヲシテ、將來ニ徵スヘカラシメ、再ヒ封建ノ遺物ナル士族ノ憂患ヲ貽スニ至レハ、此ノ戦争ヨリ、他日ノ影響ヲ生シ來ル者ナリト言ハサルヲ得ス、若シ將タ其ノ紛紜ヲ畏レテ、充分ノ満足ヲ与フルノ処置アルニ及ヘハ、是レ亦タ今度ノ戦争ヲ以テ武権ヲ今日ニ挽回シ來ルナリ、然ラハ則チ我輩ノ杞憂モ、果シテ故ナキノ杞憂ニ非サルヲ知ルヘキ也、

五一 降伏人ノ多キハ軍情沮喪ノ徵候

七月十日

降伏ヲ軍中ニ生スルノ多キハ、是レ軍情沮喪ノ徵候ヲ表スルノ時ニシテ、其ノ撲滅ニ就クモ亦タ久シキニ涉ラサルヲ知ルヘシ、今日ノ戦争ニ於テ、官兵カ賊背ヲ衝テハ

代口ニ臨ミシヨリ、稍降賊アルヲ見サルニ非サリシカト

モ、其ノ降続トシテ軍門ニ降ル者アルニ至リシハ、実ニ

(破損欠字)マレリ、初メ伊藤四郎左衛門カ出水ノ士族ヲ率

ヘテ、川路少将ノ手ニ降伏セシハ、先月(六月)十六日頃ニ在

リシ也、此ノ降伏ハ則チ賊勢ノ沮喪ヲ知ルヘキノ時ニシ

テ、其後未タ久シカラサルニ、鹿兒島ノ官軍ハ二回ノ進

撃(廿二日、廿四日)ヲ以テ周洲ノ賊兵ヲ追払ヒ、川路

少将ノ手モ亦タ、宮ノ城ヨリ進ンテ鹿兒島ニ連絡ヲ通ス

ルニ至レリ、已ニ周洲ノ賊ヲ払フテ、迅速ノ攻進ニ出ル

ニ及ンテヤ、賊兵ノ降ヲ告ル者ハ、更ニ陸統トシテ跡ヲ

継キ、去ル二日ノ夜ニハ、攻撃隊二百余名加治木ニ於テ

第四旅団ニ降り、又タ三十余名ハ、(熊本出)忌田ニ於テ迫田少佐

ノ手ニ降り、又タ三百余名ハ同シク加治木ニ於テ降伏ヲ

乞ヒシト云フ(未タ其ノ時日ヲ詳ニセス、或ハ攻撃隊ト

同物ナルカモ測ラレス)、其他猶ホ此ノ如キ者アランモ

知ルヘカラスト雖モ、我輩カ先ツ電報ニ拠テ、読者ト共

ニ之ヲ詳知シ得タル者ハ、則チ前ニ掲クル者ノ如シ、夫

レ此ノ降伏人ヲ賊中ニ生スルニ至リシハ、則チ賊勢沮喪

ノ徴候ナリ、

戊辰ノ戦ハ往年ノ事ニ係ル矣、然レトモ我輩ハ此間ニ就

テ、此ノ如ク降伏人ヲ生スルノ多キニ至レハ、復タ為ス

ヘカサルノ事機ナルヲ実視スル者アルニ由リ、聊カ之

ヲ陳述シ、以テ看者ノ參観ニ供スル所アラントス、戊辰

ノ戦争ニ於テ、官兵カ警城ニ上陸シテ平城ヲ陥レ、更ニ

進ンテ湯本・湯長谷ヲ取り、一手ハ進ンテ相馬ニ臨ミ、

一手ハ白川口ノ官兵ト合シテ三春ヲ略シ、二本松ニ兇チ、

以テ會津・仙台ノ連絡ヲ截断セシハ、恰モ先ニ官兵カ宇

上ニ上陸シテ賊背ヲ衝突セシ時ノ如シ、而シテ今度鹿兒

島ト連絡ヲ通シ、大イニ戦況ヲ一変セシメシハ、是レ亦

タ北越ノ戦ニ於テ、官兵カ汽船ヲ松ヶ崎ニ廻シ、新潟ヲ

取り新発田ヲ略シ、(新潟縣)與板・長岡・出雲崎ノ官兵ト連絡シ

テ、越後ノ全部ヲ占有セシカ如キ者アリ、去レハ(破損欠字)ヲ戊

辰ノ役ト今日ノ戦ト比較スレハ、大イニ地勢ヲモ異ニシ、

戦況ヲモ殊ニスルカ故ニ、我輩ハ固ヨリ此ノ旧跡ヲ以テ、

今ノ現状ト同一視スルニハ非サレトモ、勝敗ノ大勢ハ自

ラ相參觀スヘキ者ナキニ非ス、夫レ官兵カ未タ警城ニ上

陸セサルニ当リテハ、賊兵正ニ白川ノ險ヲ扼シ、容易ニ

挫折ノ色ヲ露ハサ、リシト雖モ、一旦平城ヲ攻陥セラレ

テ背後ノ畏ヲ生スルニ及ンテハ、俄然トシテ戦況ヲ變シ、

軍氣漸ク沮喪スルニ至レリ、想フニ今回ノ戦ニ於テ、官

兵カ八代ヨリ熊本ト連絡セシ時ハ、賊勢ノ挫折モ果シテ此ノ如キ者アリシナルヘシ、然ルニ此時ニ於テ、未タ多数ノ降伏人ヲ出サ、リシハ、猶未タ敗衄ノ甚タシキニ及ハサルカ為メニシテ、即チ戊辰ノ役ニ在テ、磐城・平ノ一挙ヲ以テ、未タ奥羽ヲ瓦解セシムルニ至ラサルカ如クナリト雖モ、今日鹿兒島ト連絡ヲ通シテ、愈々迅速ノ攻進ニ出ルニ及ンテハ、恰モ松ヶ崎ノ戦捷ヲ以テ全越ヲ略取セシ時ノ如シ、

全越ノ地ヲ挙テ尽ク官兵ノ手ニ帰スルヤ、時ヲ俸シクニ本松口ノ官兵モ、猪苗代ヲ破リテ會津ニ迫リシハ、戦狀コソ異ナレ、正ニ鹿兒島ノ官兵カ、周囲ノ賊ヲ掃フニ際シテ、川路少將ノ手ハ入來ヨリ進入セシカ如シ、而シテ賊勢ノ沮喪ハ、戊辰モ今日モ略ホ同一ナルヘシト信ス、遙カニ戊辰ノ事ヲ追思スルニ、一タヒ此ノ大敗ヲ取ルニ当リテハ、軍情ノ沮喪実ニ名状スヘカラスシテ、鼓セトモ奮ハス打テトモ起キス、米澤ハ首トシテ降ヲ官軍ニ納レ、仙台モ亦タ之ニ継キ、福島ニ山形ニ上山ニ、何レモ靡然トシテ旗ヲ倒サ、ルハナシ、今日賊徒ノ陸統トシテ降ヲ乞フヲ見レハ、軍情ノ沮喪モ亦タ豈此ノ如キニ非サルナキヲ得ンヤ、此ノ沮喪ヲ生スルニ至レハ、其ノ復タ

能ク為ス所ナキヤ知ルヘキノミ、

雖然今日ノ賊ハ、独リ戊辰ノ賊ト其類ヲ異ニスルノミナラス、強弱モ亦タ大ニ隔絶スル者アリ、而シテ會津ノ如キハ、列藩尽ク降ルノ後ニ於テ、猶ホ孤城ニ苦戦シ、三十日間ヲ維持スルコトヲ得タリ、況ンヤ慄慄ナル薩賊ノ如キハ、縱令軍情沮喪シテ降ヲ告ル者ノ多キニ至ルモ、残余ノ死賊ハ猶ホ最後ノ奮闘ヲ試ミ、以テ官兵ヲ悩サンコトヲ謀ルハ、言スシテ知ルヘシト雖モ、勢イ己ニ此ニ至レハ、特ニ兵士ヲ損害スルノ虞アルニ過キス、其ノ大勢ニ於テハ復タ深ク憂フルニ足ラサルヘキ也、

五二 戦勝後政府ハ民権自由ヲ伸張セヨ

七月十四日

張承業ハ唐ノ忠臣ナリ、朱全忠ノ唐室ヲ滅ボシテ天下ヲ奪フニ方リ、苦心焦慮、再ビ李氏ノ社稷ヲ恢復センヲ謀リ、晋王李存勗ヲ輔翼シテ其帷幄ニ參謀シ、終ニ能ク汴京ノ勢威ヲ挫衄シテ唐業ヲ興起セシニ、存勗カ李氏ノ正統ヲ奉セズシテ、自ラ帝位ニ即クニ及ヒ、其為メニ傳ヲル、ヲ悔ヒ慙憤シテ死スルニ至レリ、丹羽長秀ハ織田氏

ノ忠臣ナリ、秀吉ノ光秀ヲ討滅シテ旧君ノ讎ヲ復スルニ方リ、長秀深ク其忠義ノ志厚フシテ功業ノ偉大ナルヲ敬心シ、心ヲ傾ケテ之ヲ輔佐セシニ、其雄圖漸ク著ハレ、復タ織田氏ヲ顧ミズ、却テ其遺孤ヲ窘ムルヲ見ルニ追ビ、始テ其不臣ノ意アルヲ悟リ、其為ニ心力ヲ尽セシヲ悔恨シ、終ニ屠腹シテ死ニ就ケリ、嗚呼二氏ノ如キハ、固ヨリ稀世ノ英雄豪傑ニアラズト雖トモ、亦鉄中ノ錚々タルモノナリ、然ルニ其先見ノ明ナク、徒ニ姦雄ノ駆使スル所ト為リ、其自ラ認テ忠貞報國ノ事業ト為スモノハ、偶々以テ姦雄カ不臣ノ愆ヲ逞フスルノ具ト為ルニ過キズ、終ニ恨ヲ吞テ死ニ就キ、笑ヲ後世ニ貽スニ至リシハ、豈ニ悲シムベキノ大ナルモノニアラズヤ、然リト雖トモ、結葉^(愚)ハ期スル所ニ背キ、成蹟ハ図ル所ノ如クナラズ、人間万事与心違ハ蓋シ浮世ノ常ナリ、人ノ自ラ以テ良善ノ事業ト為スモノニシテ、却テ不測ノ惡業ヲ生ジ、噤臍ノ悔ヲ他日ニ生スルモノ、固ヨリ数フルニ暇アラズ、何ソ独り承業・長秀ノミナランヤ、然ラバ則、苟モ身ヲ委シカヲ尽シ、一業ニ従事シテ、其守ル所ノ主義ヲ貫徹セント欲スルモノハ、必ズ先ツ其理非如何ヲ弁明シ、詳カニ其結果ノ可否ヲ推測シ、丁寧反覆ノ考察ヲ下

シテ、然ル後ニ其業ニ臨マザル可ラズ、世ノ論者ガ、自家ノ識見ヲ定メテ、其論說ヲ吐露スルガ如キモ亦然リ、ルーソーガ佛國人民ノ志氣衰頽、品行腐敗、國運ノ日ニ陵夷スルヲ憤フリ、社会合約說ヲ唱ヘテ、以テ民心ヲ鼓動スルニ方テヤ、蓋シ其志慷慨國ヲ憂フルニ在リ、豈ニ他年ニ於テ其所論ノ大ニ民心ヲ激動シ、終ニ全国ノ禍乱ヲ釀成スルニ至ランコトヲ予知センヤ、如此ハ亦其結果ノ期スル所ニ背戾セシモノ也、

薩賊ノ兵ヲ鹿兒島ニ舉テ熊本県下ニ乱入スルニ方テヤ、我政府ハ速カニ西征ノ師ヲ下シテ之ヲ討ズ、而シテ余輩操觚者ハ賊徒ガ国典ヲ紊乱シ、民安ヲ妨害スルヲ論ジ、之ヲ国家ノ乱賊人民ノ公敵ト認メ、或ハ其兵ノ無名ニシテ残暴ナルヲ陳ベ、或ハ之ヲ討平殲滅スベキノ策ヲ論ジ、筆ヲ秃ニシ舌ヲ爛ラシ、以テ之ヲ誅責セザルハナシ、蓋シ是レ其封豕長蛇志ヲ上國ニ逞フシ、万一ニモ我明治政府ヲ顛覆スルコトアラバ、其必ズ封建ノ陋習ヲ恢復シ、压制ノ苛法ヲ施行シ、武断政治ヲ以テ我良民ヲ殘害シ、漸ク萌生セシ所ノ民權自由ハ、一朝ニシテ其蹂躪スル所トナランコトヲ恐ル、ニ由ルモノ多キニ居ルナリ、夫レ其ノ賊徒ガ、行事ヲ非難スルノ急且ツ敵ナルヨリ、論勢

自ラ政府ノ為メニ尽力シ、隠然其謀猷ヲ贊襄セント欲スルカ如キニ至リシモ、全ク武權ノ為メニ、良民ノ權利自由ヲ圧搾セラレンコトヲ恐ル、ニ由ルトスレバ、今日賊勢ノ漸ク撲滅ニ就カントスルヲ見テ、安ゾ一大白ヲ泛ヘテ以テ我政府ノ戦捷ヲ賀シ、併セテ民權自由ノ武權ノ犧牲ト為ラズシテ、能ク伸暢発達スルヲ得ヘキヲ歡喜期望セザランヤ、

然レトモ結果ハ期スル所ニ背キ、成績ハ凶ル所ノ如クナラズ、人間万事与心違ハ前ニ陳述スルガ如シ、若シ万一ニモ、凱歌ノ歡声ハ政府カ自滿ノ氣ヲ生シ、其從來嫌疑スル所ノ敵手ヲ滅ボシ、天下復タ憚ルベキ者ナキヲ以テ、肆然トシテ自ラ驕慢ニ居リ、復タ人民ノ權利自由ヲ暢達スルヲ務メズ、今日ノ政凶ニ反シテ、抑圧ノ所為ニ出ルガ如キコトアラシメバ、独リ余輩論者ガ承業・長秀ヲ今日ニ嘲リテ、自ラ其尤ニ坐スルノミナラズ、賊徒ノ刑死スル者モ、九泉ノ下余輩ヲ嗤笑シテ曰ハントス、見ヨ見ヨ、汝ノ政府ガ、民權自由ヲ伸張スルノ真似シテ、議院ヲ開クト云ヒ、會議ヲ設クト云ヒ、租税ヲ減ジ節儉ヲ行フモ、皆ナ是レ我党ヲ恐ル、ニ由ルモノニシテ、其本意ニアラズ、今ヤ我党既ニ死シテ彼レ其志ヲ逞フセントス、

汝輩我党ノ事ヲ起スニ方テハ、筆舌ノ力ヲ尽シテ我党ヲ誅責シ、以テ汝ガ政府ヲ翼賛シ、却テ汝ガ政府ノ為メニ全ク瞞着サル、ヲ知ラズ、何ソ其愚ナルノ甚タシキヤト、夫レ此ノ如キヲ以テ、余輩ハ賊徒戡定ニ歸スルノ後ハ、政府カ一層ニモ二層ニモ、人民ノ權利自由ヲ暢達センコトヲ務メラル、ヲ、冀望スルニ切ナラサルヲ得サル也、

五三 今次戦争ハ西郷ニ起リ今日ハ西郷ノ戦ニ

非ズ 八月十日

敗余ノ残賊ハ日向ノ北隅ニ窘蹙セラレテ、復タ事ノ為スヘキナク、其ノ戡定ニ歸シテ余燼ヲ留メサルモ、將ニ久シキヲ出テサラントスルノ戦況ヲ現スルニ及ンテヤ、世人ノ眼目ハ、偏ヘニ西郷・桐野等カ、如何ナル最後ヲ遂ルヤノ一点ニ止マリ、挙テ其ノ終局ヲ喋々スルカ如シ、実ニモ一タヒ足ヲ鹿兒島ニ挙テ、數万ノ兵士ヲ數日ノ間ニ雲集シ、天下ノ大兵ト折衝シテ半年ノ久シキヲ支ヘ、逆賊トハ言ヒナカラ、武勇ニ取リテハ海ノ内外ヲ震動シタル西郷・桐野等カ、將ニ終焉ヲ遂ケントスルノ場合ナレハ、偏ヘニ其ノ最後ノ如何ヲ望ムモ、極メテ人情ノ然

ル所ナリトコソ申スヘケレ、

熊本ノ敗北以後、賊兵ハ荏苒トシテ衰頹ノ色ヲ露ハセシモ、官軍カ鹿兒島ト連絡ヲ通スルノ前ニ在リテハ、猶ホ頑梗ニモ官軍ヲ支柱シテ、逆賊ナカラモ、流石ハ勇武ノ聞ヘアル薩兵ノ所為ナリト申スヘキ所モアリシナレ、已ニ鹿兒島ニ敗ル、ノ後ハ、兵氣頓ニ挫折シテ、初メノ勢イニ似モヤラス、都ノ城コソハ大兵ヲ駐屯シテ支給スヘキノ要所ナリト聞キ及ヒヌレハ、賊兵ハ力ヲ極メテ此処ヲ守リナン、去レハ流石ノ官兵モ、随分骨ヤ折レヌラント思ヒツルニ、何ノ苦モナク打败ラレ、高岡ト言ヒ、高城ト言ヒ、賊ノ為ニハ特ムヘキノ場処ナリト言ヒ触セシカ、此処ニモ溜リ得ス、去川ハ日向第一等ノ大河ナル由ナレトモ、難ナク官兵ニ打渡ラレ、飢肥ニ佐土原ニ高鍋ニ、何レモ一拒キハスヘケレト思ヒツルニ、浮足ノ癖ナルカ脆クモ敗レテ保チ得ス、天地広シト雖モ、最早臼杵郡ノ半郡ノ外ニハ、身ヲ容ルヘキ所モナキ程ノ、宥贖ヲ極ムルニ至リシトハ、之ヲ植木・田原ノ初戦ニ比較スレハ、其強弱ノ反対セル、実ニ天地癸壤ノ懸隔モ亦タ啻ナラスシテ、殆ント怪ムヘキ程ノコトニソアル、世ニ西郷トモ言ハル、程ノ者カ、斯ク連戦連敗シテ一步ミト遂

巡スルモ、潔ク勝敗ヲ決スルコトモセス、又タ割腹自尽ニ就クコトモセス、徒ニ騒乱ヲ弥久シテ、人民ヲ倒懸ノ苦ニ陥シ入ル、トハ、実ニ沙汰ノ限リナルカ如クナレトモ、コレニハ段々ノ事情アランモ測ルヘカラス、

久シク世上ニ伝道セル熊本敗北ノ時ニ当リテ、西郷ハ復タ事ノ成ラサルヲ謀リ、割腹シテ衆ヲ救ハント決心セシモ、桐野ニ諫メ止メラレテ遂ニ其事ヲ果サ、リシトノ一説ハ、蓋シ虚談ニ非サルカ如シ、ゲニモ熊本ノ一局ハ、恰モ慶長ノ関ヶ原、戊辰ノ伏見・下鳥羽ニ於ル程ノ關係ヲ有セシカ故ニ、西郷程ノ者ニ在リテハ、此ノ一局ニ仕損シタルヨリハ、最早我事モ是迄ナリトノ覚悟ハ立チシナラン、其ノ覚悟ハ立チナカラ、桐野ノ諫メニ思ヒ止マリ、遂ニハ鹿兒島迄モ兵燹ニ罹ラシメントハ、項藉カ江東ノ父老ヲ見ルヲ恥ルノ心情ニダモ劣ルカ如クナレトモ、西郷カ人情ニ厚キ、我レアツテコソ衆人モ此ノ如クニハ決心シツレ、今日ニ至リ衆人ハ猶ホ此戦ヲ思ヒ止ラサルニ、我ニシテ自殺スレバソレ迄ニテ、無情ノ恨ハ免カレマシ、ヨシ〜我ハ事ノ成ラサルヲ覚悟スレハ、最早戦事ニ務メサルモ、責テハ衆ト始終ヲ共ニセント思ヒ返セシモ側ラレス、其ノ熊本ノ敗北以後、西郷ハ絶テ軍事ニ

関カラスシテ、何事モ桐野ニ任セ置キ、自分ハ平生ノ樂ヲ改メス、犬ヲ牽テ山野ニ遊獵スルト云フモ、或ハスル事情ヨリ生セシナランカ、如何アルヘキヤ、他日ニ至ラハ、自ラ之ヲ明カニスルノ期アルヘシ、

若シ前ニ述ルカ如キノ都合ナラハ、今回ノ戦争ハ西郷ニ起リタルモ、今日トナリテハ、其実西郷ノ軍サニ非スシテ桐野ノ軍サナリ、桐野ノ豪勇ナル、実ニ鬼神ノ觀ヲ世人ニ与ヘシト雖トモ、何分ニモ官兵ノ軍略ト節制ニハ敵シ得ズ、遂ニ今日ノ窘蹙ニ迫リシハ、固ヨリ其力ノ足ラサルニ相違ナケレトモ、西郷・桐野ノ輩ニ在リテハ必ラス言ハン、嗚呼我等ハ死ストモ復タ遺憾ナシ、両三名ノ巨魁ニシテ是程ノ大事ヲ思ヒ立チ、一朝ニ数万ノ兵士ヲ雲合シ、天下ノ兵ヲ引受テ半年余ヲ支ヘシハ、我邦ニ於テ古來復タ誰カアラン、其ノ成ラサルハ則チ天ナリト、而シテ世人モ亦タ、凡テ彼等カ叛罪ヲ恕セサルモ、其ノ本邦未曾有ノ事件ヲ起シタル人物ナリト認ムルニ至リテハ、蓋シ之ヲ非トスル者ナカルヘシ、唯其レ最後ノ終局ハ、応ニ如何ナル挙動ニ出ツヘキ乎、想フニ更ニ一層ノ切迫ヲ極ムルニ及ヒ、頭ヲ並ヘテ自殺スルニ非サレハ、鋒ヲ集メテ最後ノ一戦ヲ試ミ、潔ク陣頭ニ殪レテ、逆賊

ナカラモ薩摩武士タルノ氣象ヲ失ハス、長ク西郷・桐野カ最後ノ戰場ヲ日向ノ北隅ニ貽スニ至ルヘシト思フ、此ノ觀察ノ当ルト当ラサルモ、応ニ久シカラサルノ間ニ徹スルコトヲ得ヘキ也、

五四 国事犯罪律制定ヲ望ム 八月十三日

国事犯罪ノ問題ハ久シク輿論ノ唱道スル所トナリ、其ノ刑律ヲ設置スヘキト否トノ論点ニ就テハ、我輩偏ヘニ之ヲ設置スルヲ可トスルノ論者アルヲ見テ、未タ之ヲ非トスルノ異議アルヲ見サル也、輿論ノ一致ニ帰スルハ則チ斯ノ如シト雖トモ、未タ其ノ刑律ノ明文ニ掲出セラル、ヲ見ルニ至ラス、夫レ其ノ未タ設置アルニ及ハサルハ、抑々政府ノ深議ニ係ル者アルヘシト雖トモ、倩々時勢ノ進動ト輿論ノ轉換トヲ觀察スレハ、此ノ問題ハ、蓋シ之ヲ等閑ニ附スヘカラサル者アルニ似タリ、我輩請フ、維新以後ノ背叛者ヲ略叙シ、併セテ世論ノ時勢ト共ニ進動スル所ヲ挙ケ、以テ此ノ問題ノ兪諸シ視ルヘカラサル所以ヲ開陳セン、

維新以後僅二十年ノ星霜ヲ経ルニ過キスト雖トモ、其ノ

叛逆ノ罪ヲ犯シ以テ國家ノ典刑ニ罹リシ者マタ少ナキニ非ス、彼ノ前後ニ発動セシ百姓一揆ナル者モ、其變ノ大ナルニ至リテハ、随分ノ騒擾ヲ起サ、ルニ非サレトモ、コレハ一身ノ苦厄ヲ免カレント欲シテ能ハサルヨリ、已ヲ得サルノ暴挙ヲ竹槍席旗ニ訴フルニ過キスシテ、本来轉變ヲ政治上ニ及ホサントスル者ニ非サルニヨリ、暫ク之ヲ省視スルヲ必要トセス、専ラ其ノ目的ヲ國變ニ注キ、事成ラスシテ逆賊トナリシ者ノ処分ニ就テ、世論ノ轉變如何ヲ徵セン、彼ノ或ハ大村^(益次郎)兵部大輔ヲ刺シ、或ハ横井^(参与、横井小柳)參議ヲ殺シ、或ハ岩倉右大臣ヲ傷ケ、其他不逞ノ志ヲ当路ノ大臣ニ抱ヒテ、陰ニ謀ル所アリシ者ノ如キハ、何レモ當時ノ政治ニ満足セス、幾許カ國變ニ目的ヲ注クノ關係ヲ有セシニ相違ナシト雖トモ、是等ハ其ノ党類モ至ツテ少ナク、其ノ事變モ亦タ重大ニ渉ラサルカ故ニ、猶ホ且ツ之ヲ緊要トセス、或ハ暴挙ヲ一方ニ発シ、或ハ未タ其端ヲ開カサルモ、随分ノ党与ヲ集メテ随分ノ大事ヲ思ヒ立チシ者ヲ拳ニ、大樂源太郎・富永有隣等カ脱隊ヲ率ヒテ山口ニ叛セシハ、其因ヲ該藩兵制ノ改革ニ発シタルカ如クナレトモ、亦タ政府ノ失錯ヲ責メテ國變ヲ謀ラシコトヲ主義トセリ、雲井龍雄カ財ヲ散シテ士ニ交ハリ、

己カ非望ヲ遂シコトヲ企テシハ、憤懣ノ遣ル方ナキヨリ、徳川政府ヲ回復スルヲ口実トシタル也、外山光輔・愛宕通旭等ガ丸山作樂等ト通シ、岡崎狂介・古松簡二等ト影庇シテ不軌ヲ謀リシヤ、或ハ攘夷ヲ主トシ、或ハ除奸ヲ要トスルノ異同ナキニ非サリシカトモ、其ノ國變ヲ謀リシハ則チ一ナリ、渡邊悌輔・月岡帶刀等カ、同類ヲ結合シテ新瀛ニ起リシカ如キハ、蓋シ窮迫ヨリ生シタル者ナルヘケレトモ、猶ホ徳川ノ回復ヲ主義トシ、以テ一方ヲ動揺スルニ至レリ、

右ニ叙述スル所ノ叛党ハ、或ハ既発ニ係リ、或ハ未発ニ係リ、又タ其ノ輕重大小ノ殊異ナキニ非スト雖トモ、何レモ叛逆ヲ犯スノ罪人タリ、而シテ當時ニ在リテハ、絶テ世論ノ力為ニ発動スル所ナク、政府力之ヲ寬ニスルモ其ノ之ヲ寬ニスル所以ヲ問ハス、其ノ之ヲ嚴ニスルモ之ヲ嚴ニスル所以ヲ察セス、全ク政府ノ処分ニ任セテ、更ニ顧視スル所ナカリシヨ見レハ、実ニ時勢ノ曖昧ヲ距ルコト、猶ホ未タ遠カラサリシヲ知ルヘシ、然ルニ氣運ノ進動ハ改進ノ政治ト共ニ隨行シ、輿論ノ轉換モ、氣運ノ進動ト共ニ滯礙セサルヲ以テ、未タ久シカラサルニ、大イニ其ノ世論ヲ改メ、江藤新平・島義勇等カ刑戮ニ就

クノ後ニ於テ、漸ク国事犯ノ論題ヲ文壇詞林ニ現出スルニ至レリ、是レ豈ニ時勢上達シ人智進歩スルノ致ス所ナリト言ハサルヘケンヤ、

加陽榮太・上野堅吾等カ熊本ニ反シ、今村百一郎・藍田静方等カ秋月ニ起リ、前原一誠・横山俊彦等カ山口ニ叛クニ当リテ、世上ノ論者カ其ノ処分ヲ議スルハ、或ハ寛典ニ出シコトヲ望ミ、或ハ江藤等ト其ノ処分ヲ同フセンコトヲ冀フノ異同ナキニ非サリシト雖トモ、其ノ国事犯律ノ設置ヲ希フニ至リテハ、更ニ一層ノ甚タシキヲ加フルニ至レリ、夫レ世論ノ向フ所已ニ斯ノ如シ、然ラハ則チ政府トテモ、無論ニ撰定ノ詮議ナキニ非サリシナルヘシト雖トモ、未タ其ノ発行ニ係ラサルニ際シテ、又タ西南ノ変動ヲ現シ、再ヒ其ノ叛党ヲ処スルニ、明文ナキノ処刑ヲ以テスルニ至ラントス、斯ノ如キハ政府ノ内機ニ関渉スル所ニシテ、我輩論者ノ漫リニ之ヲ可否シ能ハサル所ナリト雖トモ、苟モ世論ノ此ニ至ルヲ見レハ、政府モ亦タ安ソ深ク思フ此ニ留メサルヘケンヤ、

五五 国事犯律制定ナキ所以 八月十七日

国事犯人ヲ処スルハ国事犯律ニ拠ラサルヘカラサルノ議論タルヤ、氣運ノ進動ト人智ノ上達ヨリ生シ来リシハ、我輩カ之ヲ去ル十三日ノ紙上ニ開陳セシ者ノ如シ、然ルニ我邦百般ノ法律ハ日月ニ進歩シテ、殆ント阻滯スル所ナキノ時ニ当リ、未タ国事犯律ノ設ケアルニ至ラサルハ何ソヤ、斯ノ如キハ必ラス其ノ因由スル所アリテ然ル者ナルヘシト信スル也、

我輩カ曾テ聞ク所ニ拠レハ、刑部省カ勅ヲ奉シテ、新律綱領ヲ明治三年ニ撰定スルニ当リ、故ラニ叛逆律ノ一項ヲ除キシハ、極メテ深意アルコトニシテ、其詮議タルヤ蓋シ謂フ、我カ皇統ハ万世一系ニシテ、天壤ト共ニ朽ルコトナク、其ノ之ヲ覬覦スヘカラサルハ、猶ホ日月ノ侵スヘカラサルカ如シ、我カ臣民ニシテ誰カ天位ヲ窺フ者アルヘケンヤ、然ルカ故ニ、叛逆律ノ如キハ、我カ刑法中ニ設置スルヲ要セスシテ可ナリト、是レ其ノ叛逆律ヲ新律綱領ニ置カサリシ所以ニシテ、改定律例ノ修撰アルニ至リテモ、亦タ依然トシテ旧ニ遵ヒシ者ナルヘシ、実ニ當時ノ議ノ如ク、我邦ニ在テハ、千万世ニ渉ルモ、決して天位ヲ覬覦スルカ如キノ不逞徒アルコトナカルヘシト雖トモ、其ノ国安ヲ攪乱スルノ逆賊ヲ生スルハ、万々

免カレサル所ニシテ、維新以後已ニ珍ラシカラサル程ノ
 頻煩ヲ重ヌルニ至レリ、想フニ曩ニ新律綱領ヲ撰定セラ
 レタル時ニ当リ、我邦ニハ是等ノ乱賊ヲモ生セサルヘシ
 ト予想セラレシ乎、將タ又タ此種ノ騒乱ハ、決シテ免カ
 レサル所ナルモ、天子ニ背ク者トハ云フヘカラスト議定
 セラレシ乎、此ノ二頃ハ国事犯律ノ問題ニ就テ、殊ニ推
 考ヲ要セサルヘカラサル者アルカ如シ、

若シ明治政府ハ、我カ 天皇陛下ノ親ク臨御シ玉フ所ナ
 ルカ故ニ、決シテ乱賊ヲ生スルコトナシト予想セラレシ
 ナラン乎、乱賊ノ跡ヲ繼テ起ルコト此ノ如ク多キヲ見レ
 ハ、独リ當時ノ予想ニ異ナルノミナラス、我邦ノ末運ト
 モ言フヘキコトニテ、実ニ嘆スルニ余リアル所ナレトモ、
 想フニ當時政府ノ見込トテモ、明治政府ノ治下ニハ、必
 ラス背叛者アルコトナシト期セラレシニハ非サルヘシ、
 已ニ背叛者ナキヲ期セラレサルヨリハ、仮令国安ヲ妨害
 スルノ乱賊アルトモ、天位ヲ窺フカ如キノ不逞徒ヲ生ス
 ルコトハヨモアラシ、去レハ叛逆律ヲ置クニハ及ハサル
 ナリト、議定セラレタルナリト想像セサルヲ得ス、然ラ
 ハ則チ新律綱領ニ叛逆律ヲ置カレサリシモ、猶ホ得テ解
 スヘキ所アリト雖トモ、彼ノ叛逆ナル者ハ、独リ天子ニ

背ク者ヲ指称スルニ止マリテ、国家ニ叛ク者ハ其ノ部類
 ニ列セサルヘキ乎、是レ亦タ我輩カ一畝ノ疑点ヲ抱クヲ
 免カレサル所ナリ、

叛逆ニモ種々ノ事類アリテ、或ハ外国ニ通シテ自国ヲ攪
 乱センコトヲ謀ル者アリ、又ハ皇帝ニ対シテ陰謀暴行ヲ
 企ツル者アリ、又ハ政府ニ叛ヒテ顛覆ヲ謀ル者アリ、我
 邦ニ於テハ、未タ法律ノ明文ナキカ故ニ、政府力是等ノ
 覚類ヲ見ルノ何如ヲ知ラサレトモ、各国普通ノ法律ニ於
 テハ、此ノ如キノ叛党ヲ目スルニ、叛逆人ヲ以テスルニ
 非サルハナシ、而シテ我邦ニ起レル前後ノ叛党、即チ江
 藤・前原・西郷ノ如キモ、其ノ心情ヲ尋ヌレハ、蓋シ至
 尊ニ敵抗セシニハ非ス、世人モ亦タ其ノ天位ヲ覬覦セシ
 者タラサルヲ公認スト雖トモ、未タ以テ叛逆ヲ犯シタル
 者ニ非ストスルノ論者アルヲ聞カス、然ラハ則チ新律綱
 領ヲ明治ノ初年ニ撰定セラレタル時ニ当リテ、我邦ニハ
 決シテ天子ニ背ク者アルヘカラルカ故ニ、叛逆律ヲ設
 クルニ及ハスト議定セラレシモ其理ナキニ非サルカ如ク
 ナレトモ、若シ此ノ詮議ヲ永遠ニ確守シテ遷ラサル時ハ、
 国事犯人ヲ処スルニ国事犯律ヲ以テスルノ時期ナキニ似
 タリ、

若シ將タ陛下ハ万機ヲ總轄シ玉フカ故ニ、其ノ政事上ニ於テ背叛ヲ起セシ者ハ、即チ天子ニ背キタル者ナリトセハ、實ニ新律綱領撰定ノ時ノ予想トハ反對ノ形チニ至リタル者ナルカ故ニ、猶更以テ其律ヲ定ムルニ如カサルハシト思フ、然ルニ佛國ノ如キモ、皇帝及ヒ皇族ニ対シタル暴行及ヒ陰謀ヲ以テ、國ノ内部ノ安寧ヲ害スル者トシ、重罪中ニ置カサルニハ非サレトモ、其ノ條款ハ大率皇帝ノ一身ニ止マル者ニシテ、國家ノ安危一般ノ和平ニ關係スルノ叛逆ハ、蓋シ皇帝ノ身上ト其ノ区域ヲ異ニスルカ如シ、而シテ我邦ニ於テハ、未タ国事犯罪ノ完全タル者ナキモ、已ニ大審院ノ章程ニ於テ、国事犯ヲ処分スルノ明文ヲ掲ケラレタリ、其ノ法律ナクシテ其ノ犯人ヲ処分セントスレハ、其罪ノ輕重ヲ法官ノ見込ニ決セサルヲ得ス、是レ豈ニ我カ明治政府ノ欲スル所ナランヤ、然ラハ則チ国事犯罪ノ撰定モ、最早其ノ時機ニ際会セシト言フヘキ也、

五六 祿券ハ華士族ノ私有地 八月十八日

叛党ノ祿券ヲ没収スルト没収セサルトハ、政府カ乱後ノ

処分ニ就テ至大ノ關係ヲ有スル者アルニ由リ、夙ニ文壇詞上ノ一大問題トハナリシ也、而シテ政府ハ第五十八号ノ布告ニ於テ、明治九年八月第八号布告ヲ以テ祿制廢セラレ候ニ付テハ、明治十年一月以降律例中、収祿並ニ功俸賞祿追奪ノ儀ハ、總テ廢セラレタル者トスル旨ヲ、一昨十六日ニ明示セラレタリ、此ノ布告ノ一タヒ出ルニ及ンテヤ、特ニ乱後ノ処分ノ一部ヲ斯ニ結了セシノミナラス、祿券ハ華士族カ純粹ノ私有品ナルヲ明瞭ナラシメタリト云フヘシ、

論者或ハ、祿券ハ何モ今回ノ布告ヲ以テ、初メテ華士族カ紛レナキ私有ノ財産タルヲ明瞭ナラシメシニハ非ス、昨年八月ニ於テ、家祿ヲ改メテ祿券トセラレタルヨリハ、當時ニ在テ、已ニ相違ナキ華士族ノ私有物トナリシナリトセン乎、我輩ハ未タ斯ノ如クニハ看過シ能ハサリシ也、何トナレハ已ニ私有品トナリシ者ニシテ、所有主ハ猶ホ勝手ニ之ヲ取扱フノ權利ナカルヘキヤ、苟モ私有品トアレハ、決シテ他人ノ鉗制ヲ蒙ルルノ道理ナカルヘシ、夫レ彼ノ祿券ノ如キハ、已ニ政府ヨリ一時ニ之ヲ給与スル旨ヲ布告セラレシモ、未タ其手ニ渡ラサルノミナラス、売買書入質入等ヲ禁セラレタルヲ見レハ、之ヲ純粹ノ私